

## II. 調查結果

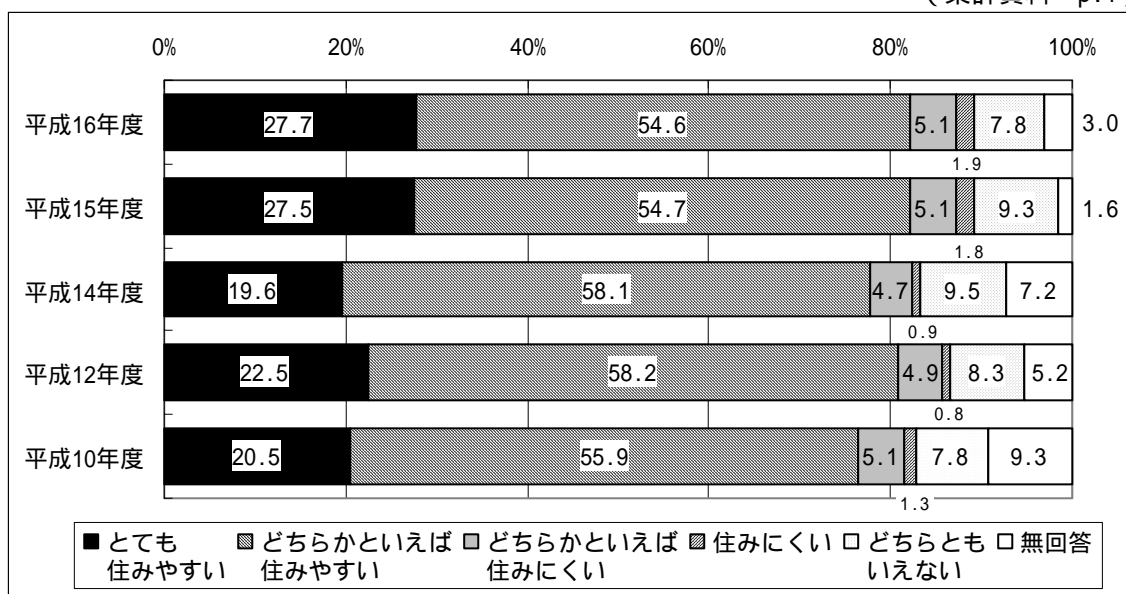
## (集計編)

### 1. 三重県の住みやすさについての評価及び今後の定住意向

問1-1 あなたにとって、三重県は住みやすい県ですか。( は1つ)

全 体

(集計資料 p.1)



#### 平成16年度

全体では、27.7%の人が「とても住みやすい」と答えており、これに「どちらかといえば住みやすい」(54.6%)を合わせると、“住みやすい”と答えた人の割合は約8割(82.3%)となり、平成10年度の調査開始以来、8割前後で推移している。

一方、「住みにくい」(1.9%)や「どちらかといえば住みにくい」(5.1%)と答えた“住みにくい”と感じている人は、約1割(7.0%)となっている。

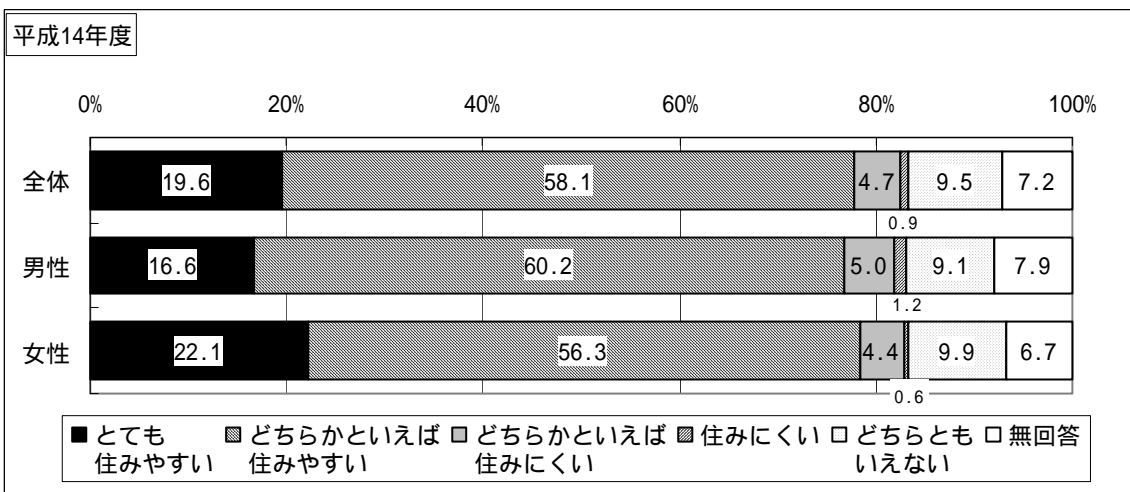
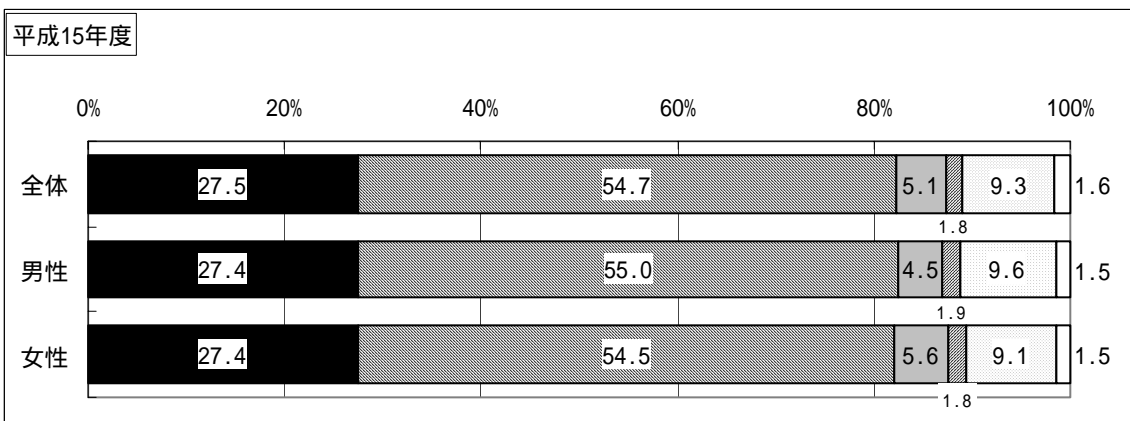
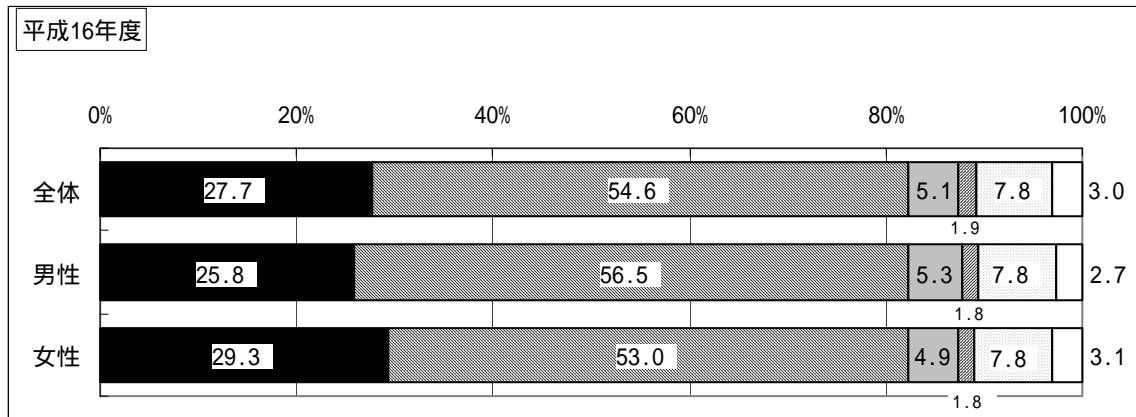
#### 平成14年度、平成15年度との比較

全体では、「とても住みやすい」と答えた人の割合は、14年度から15年度にかけて7.9ポイント増加したものの、16年度では0.2ポイント増と微増にとどまっている。また、“住みやすい”と答えた人の割合についても、14年度から15年度にかけては4.5ポイント増加していたものの、16年度ではほぼ横ばい状態で推移している。

一方、“住みにくい”と感じている人には、大きな変化はみられない。

# 性別

(集計資料 p.1)



#### 平成 16 年度

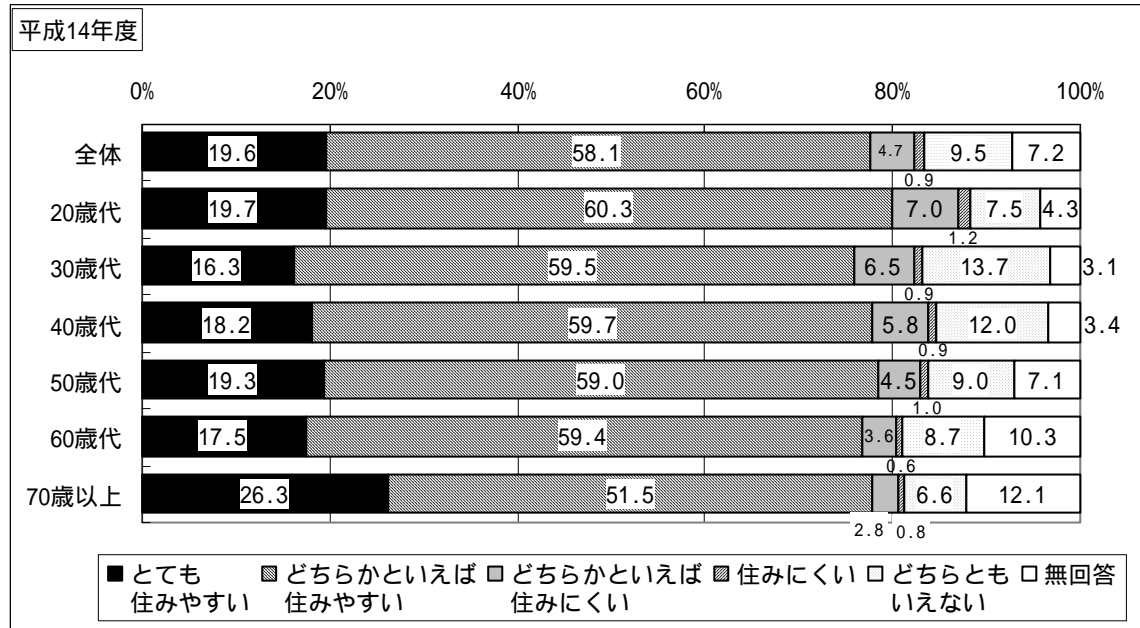
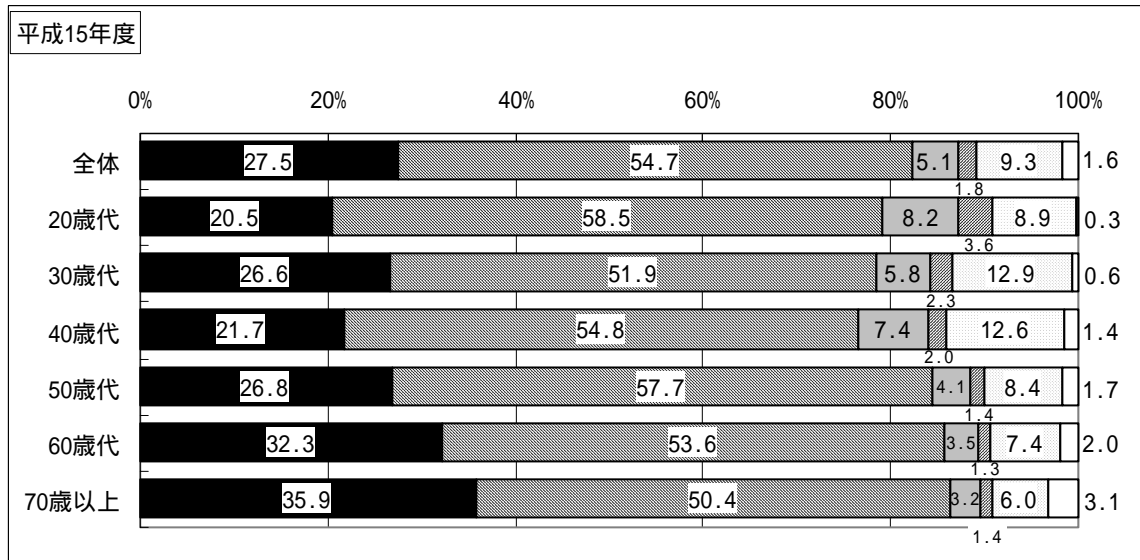
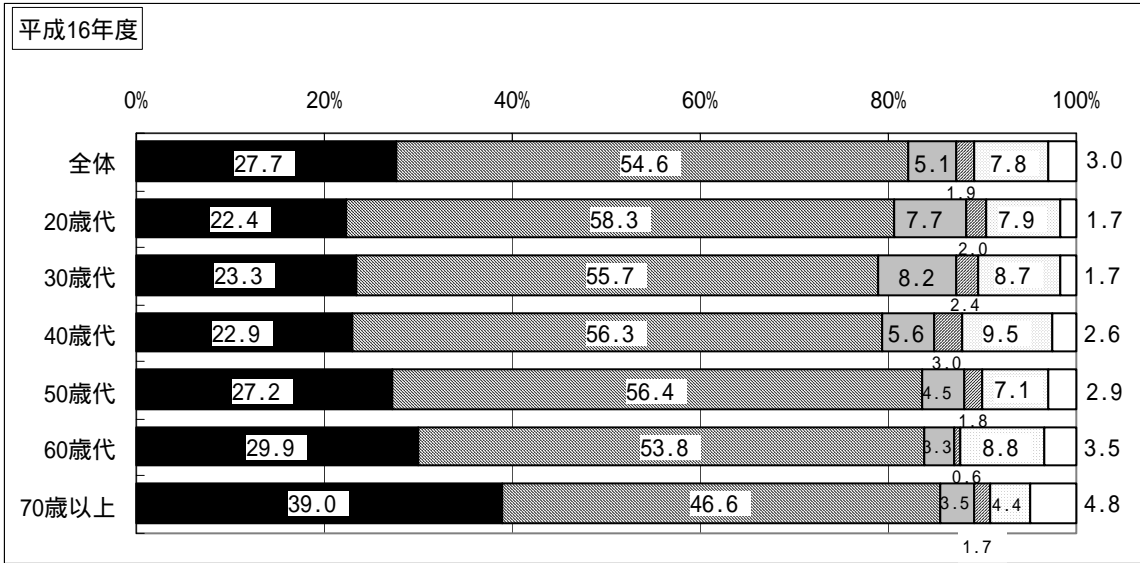
「とても住みやすい」と答えた人の割合は、女性（29.3%）が男性（25.8%）を 3.5 ポイント上回っている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、男女に差はみられず、男女ともに 8 割を超えている。

#### 平成 14 年度、平成 15 年度との比較

性別では、男性の「とても住みやすい」と答えた人の割合は 16 年度で 1.6 ポイント減少したのに対し、女性では 1.9 ポイント増加している。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、平成 14 年度から 15 年度にかけては男性では 5.6 ポイント、女性では 3.5 ポイント増加したものの、16 年度ではほぼ横ばい状態にある。

# 年齢層別

(集計資料 p.1)



#### 平成 16 年度

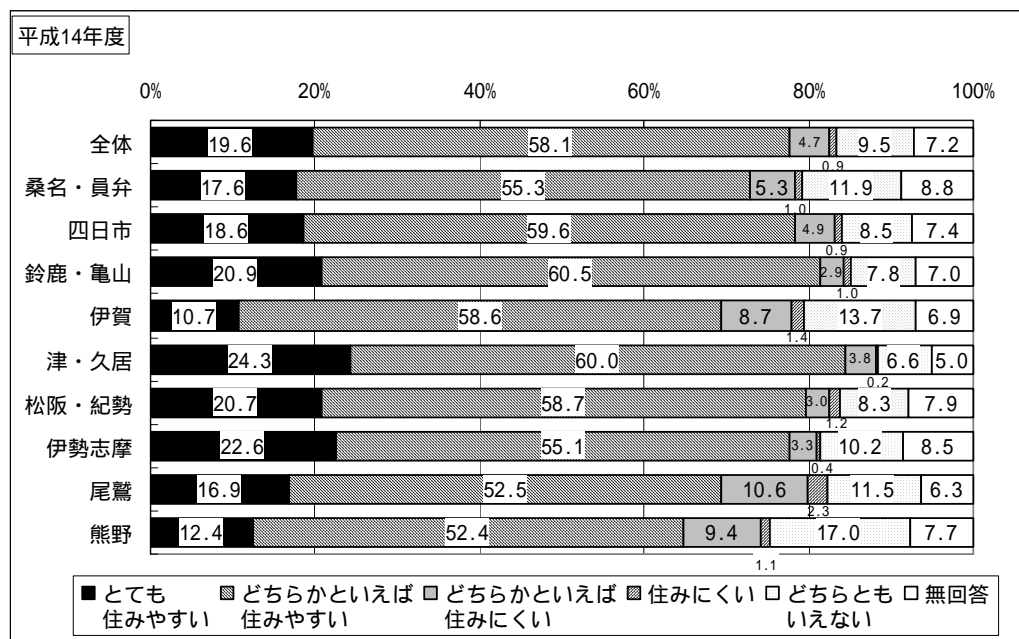
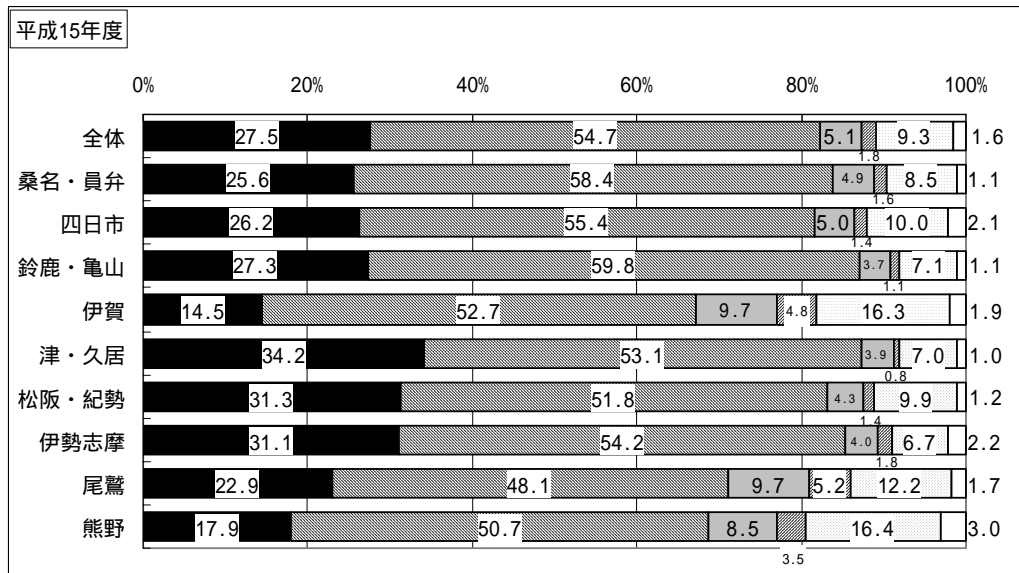
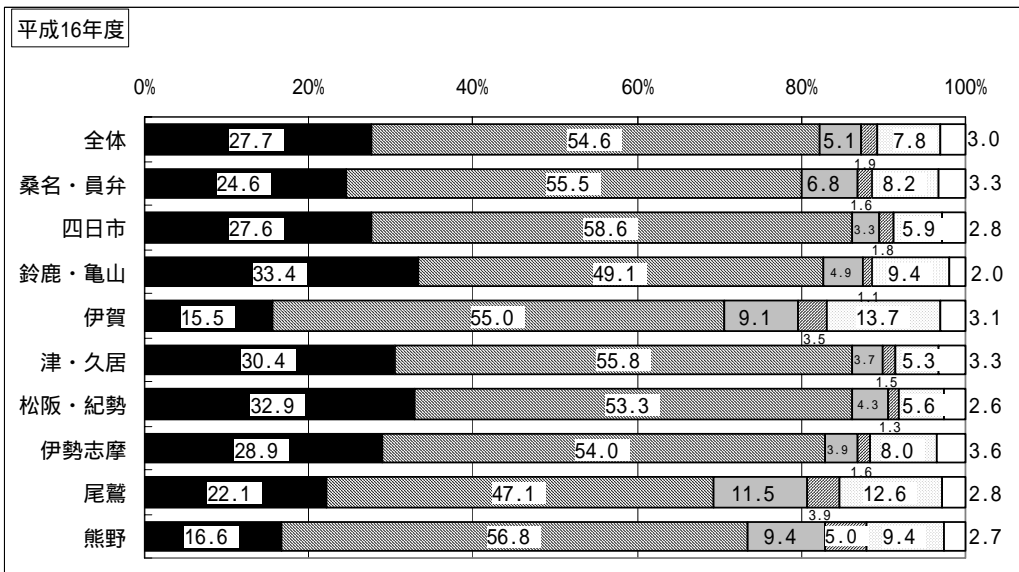
「とても住みやすい」と答えた人の割合は 50 歳代以上で約 3 割を占めている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、20 歳代、50 歳代以上で 8 割を超えている。

#### 平成 14 年度、平成 15 年度との比較

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、14 年度から 15 年度にかけて 30 歳代（10.3 ポイント）、50 歳代（7.5 ポイント）、60 歳代（14.8 ポイント）、70 歳以上（9.6 ポイント）などでは著しく増加しているのに対し、16 年度では特に大きな増減はみられない。また、“住みやすい”と答えた人の割合も同様にあまり変化はみられず 8 割前後で推移している。

# 生活創造圏別

(集計資料 p.1)



#### 平成 16 年度

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、鈴鹿・亀山（33.4%）、松阪・紀勢（32.9%）、津・久居（30.4%）などでは3割を超えて高くなっている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、四日市（86.2%）、津・久居（86.2%）、松阪・紀勢（86.2%）などで高くなっている。

一方、伊賀（70.5%）、尾鷲（69.2%）、熊野（73.4%）では、“住みやすい”と答えた人の割合が7割前後と、県全体と比較して低くなっている。

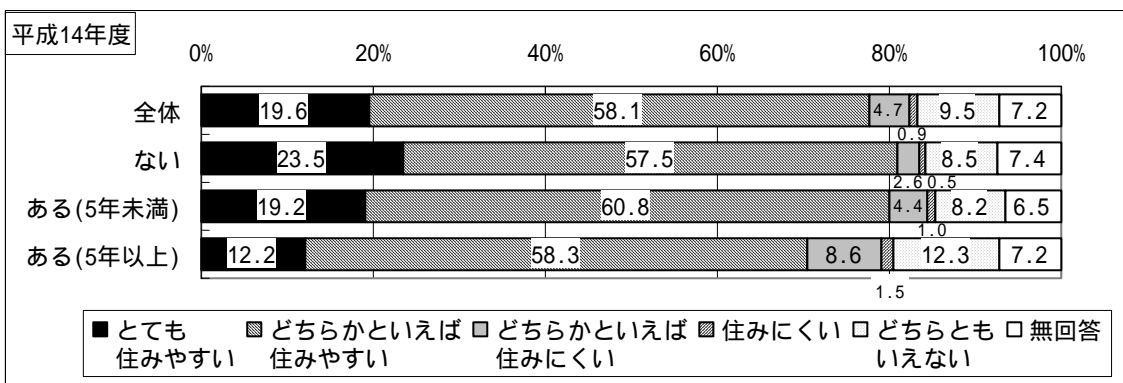
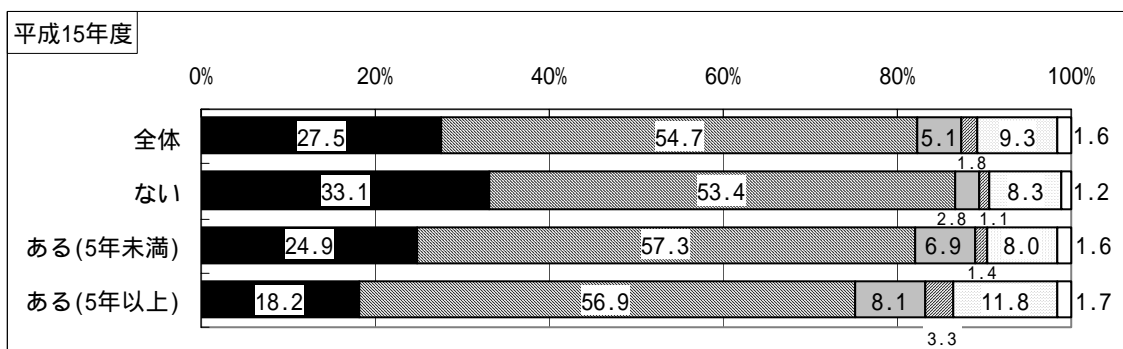
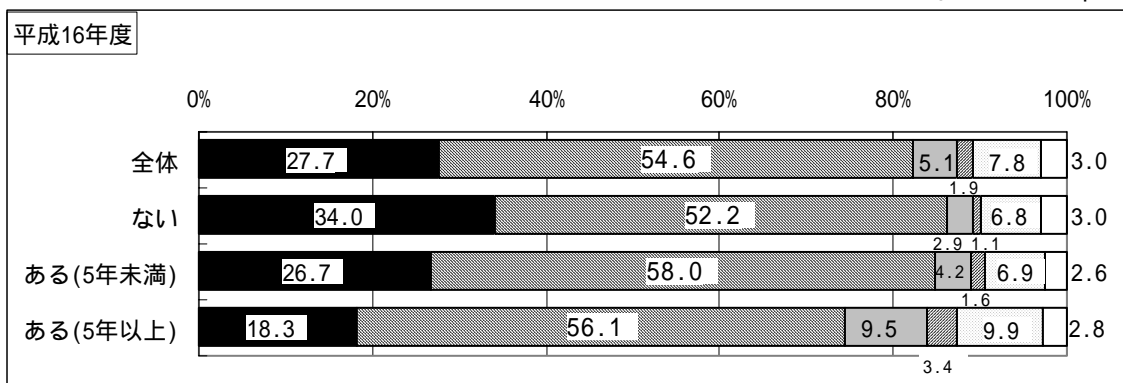
#### 平成 14 年度、平成 15 年度との比較

“住みやすい”と答えた人の割合は、14年度、15年度ともに、伊賀、尾鷲、熊野では県全体と比較して低く推移している。また、15年度と比較し、16年度では熊野（4.8ポイント）、四日市（4.6ポイント）、伊賀（3.3ポイント）、松阪・紀勢（3.1ポイント）などで増加しているのに対し、鈴鹿・亀山（4.6ポイント）、桑名・員弁（3.9ポイント）、伊勢志摩（2.4ポイント）、尾鷲（1.8ポイント）、津・久居（1.2ポイント）などで減少している。



## 県外在住の経験別

(集計資料 p.1)



### 平成16年度

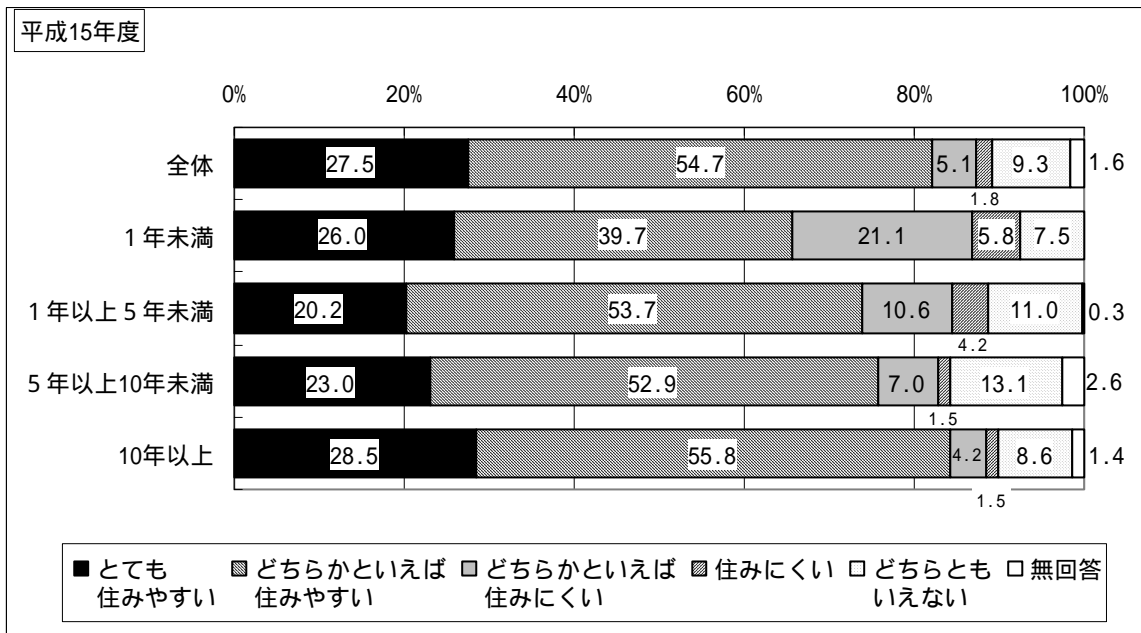
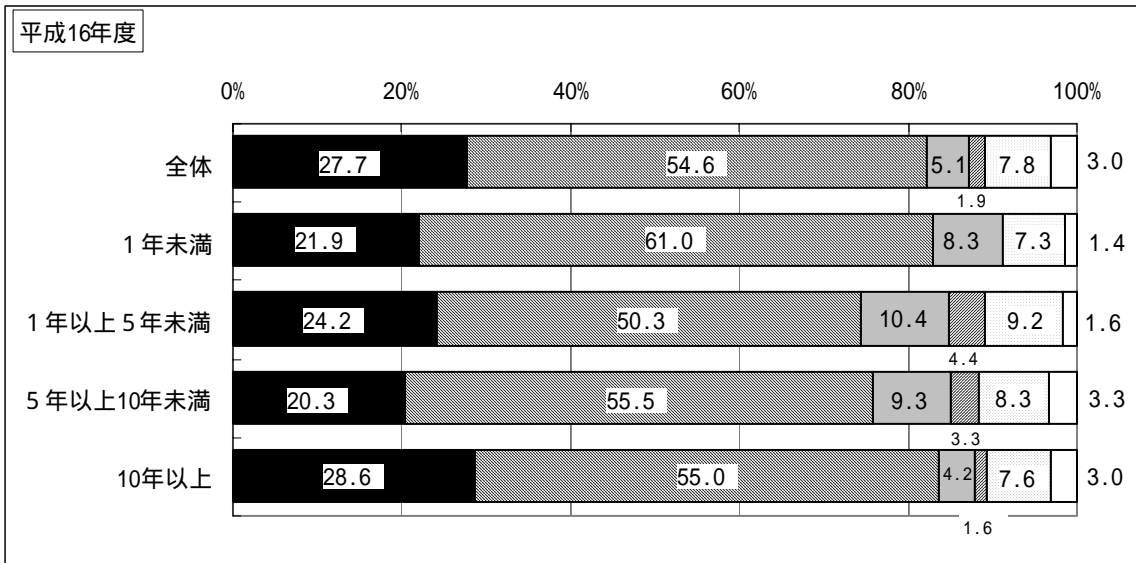
「とても住みやすい」と答えた人の割合は、県外在住の経験が「ない人」(34.0%)が「ある人」(5年未満が26.7%、5年以上が18.3%)を上回っており、県外在住経験年数が高いほど“住みやすい”と感じている人は減少している。

### 平成14年度、平成15年度との比較

“住みやすい”と答えた人の割合は、15年度と16年度では特に大きな変化はみられないものの、いずれの階層においても平成14年度の水準より増加している。

# 居住年数

(集計資料 p.1)



## 平成16年度

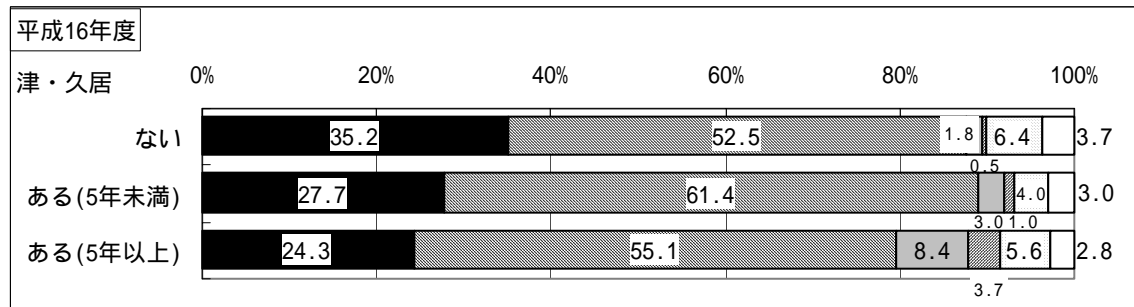
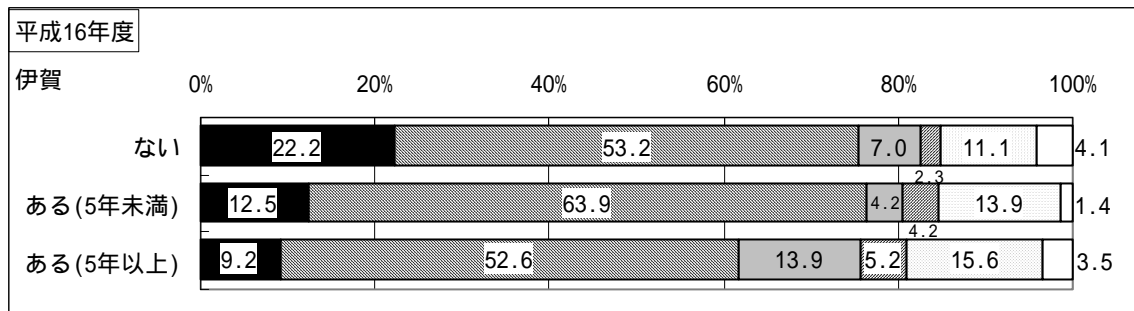
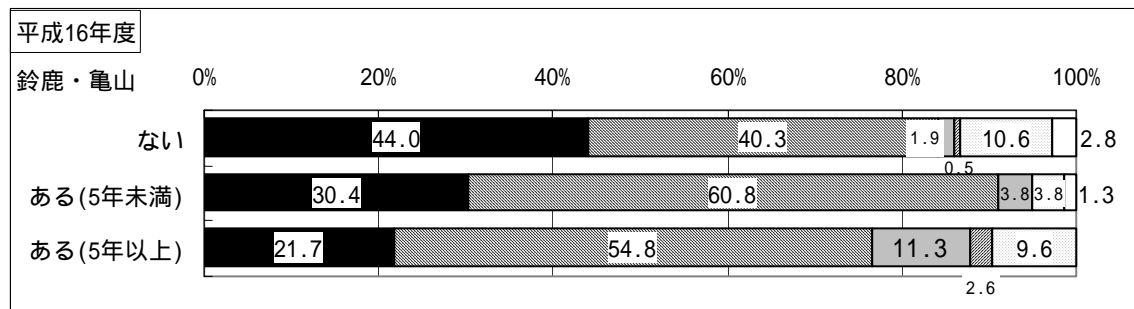
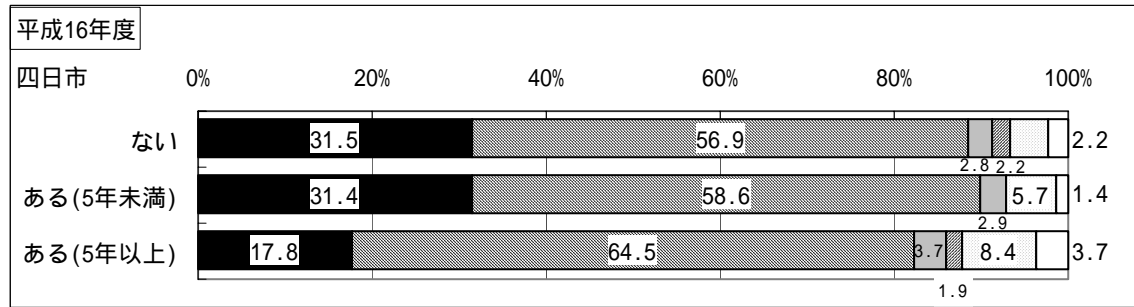
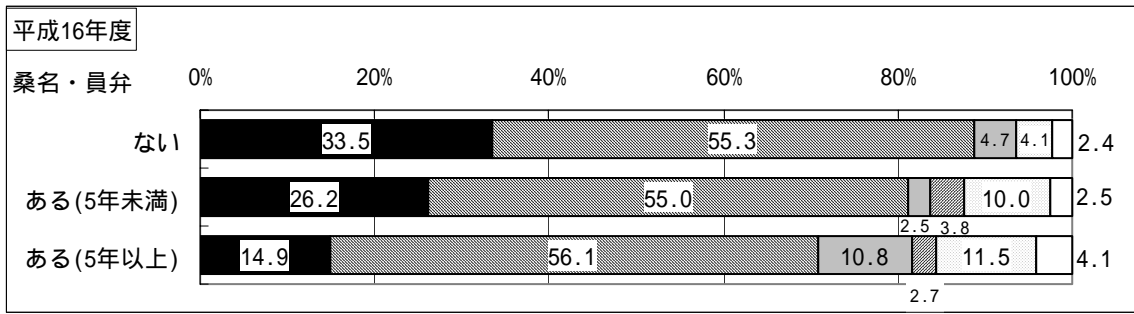
居住年数別では、“住みやすい”と答えた人の割合は、1年未満の人では8割を超え高くなっている。また、居住年数が1年以上の人では居住年数が長くなるにつれ高くなっており、10年以上の人では8割を超えている。

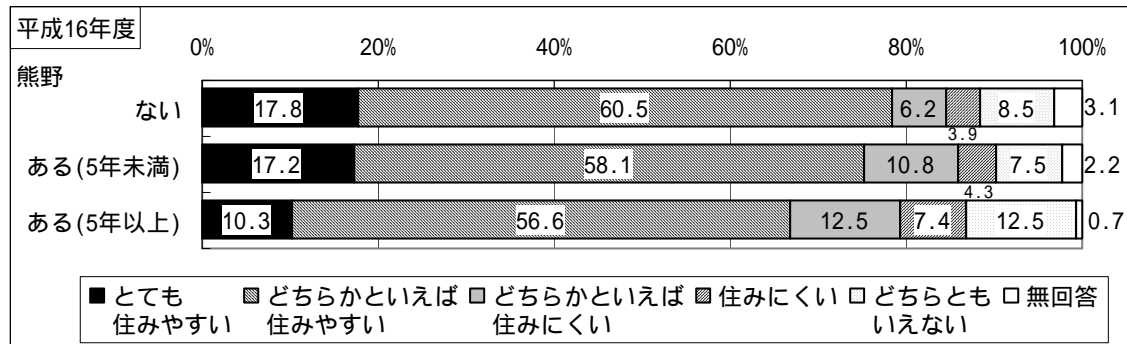
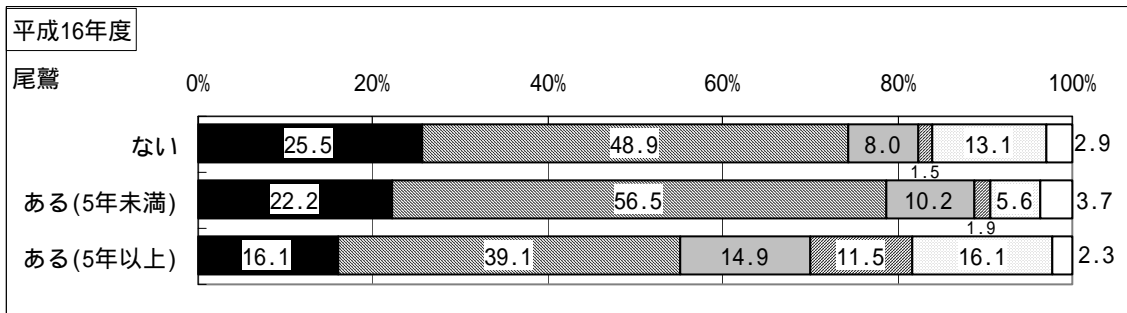
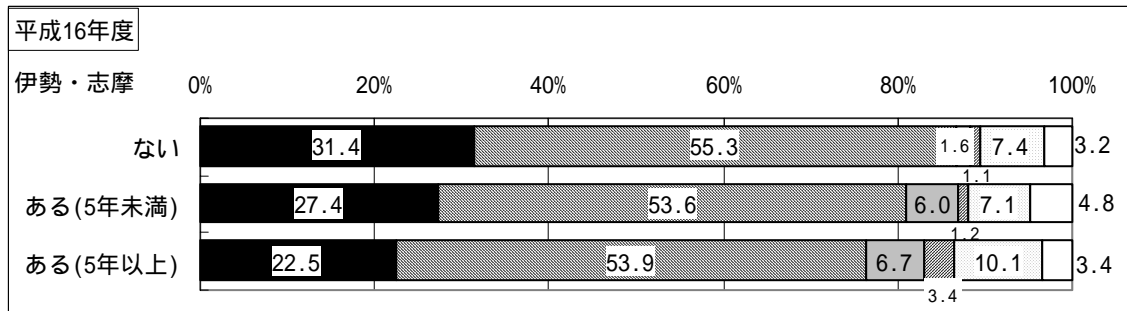
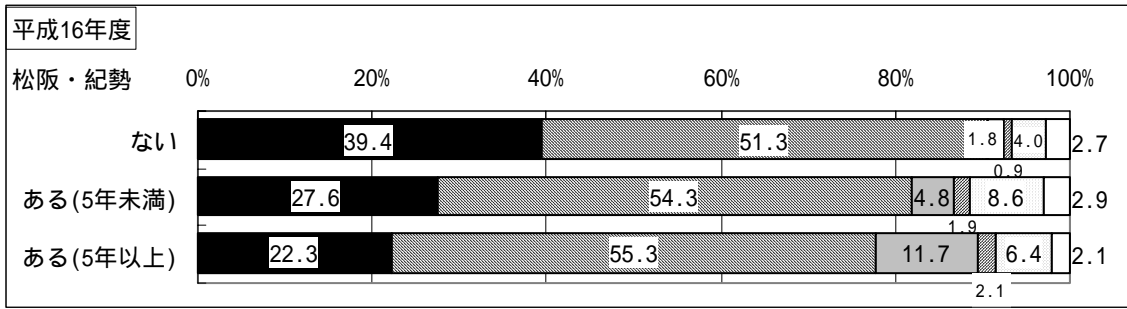
## 平成15年度との比較

“住みやすい”と答えた人の割合は、居住年数が1年以上の人では大きな変化はみられないものの、1年未満の人では15年度に比べて17.2ポイント増加し約8割(82.9%)を占めている。

生活創造圏・県外在住経験別

(集計資料 p.2)





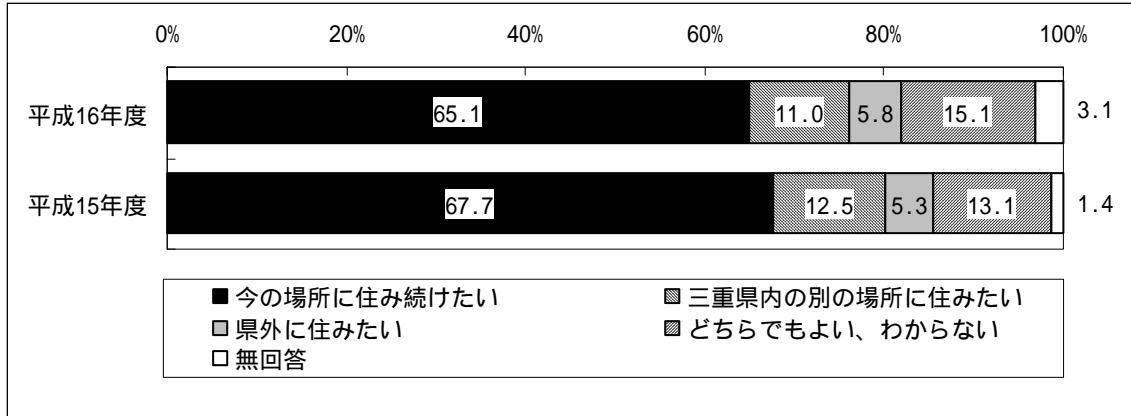
平成16年度

「とても住みやすい」の回答率が県全体より低い桑名・員弁、四日市、伊賀、尾鷲、熊野について県外在住経験との関連をみると、桑名・員弁、伊賀では、県外在住経験が「ない人」に比べて県外在住経験が「ある人」の「とても住みやすい」の回答率が顕著に低くなっている。また、四日市、尾鷲、熊野では、県外在住経験が「ない人」と「ある人(5年未満)」で「とても住みやすい」の回答率がほぼ同様となっている。

問 1 - 2 あなたは今後も三重県に住みたいと思いますか。( は 1 つ )

全 体

(集計資料 p.3)



平成 16 年度

全体では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合が 65.1%となっており、これに「三重県内の別の場所に住みたい」(11.0%)を合わせた“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合は約 8 割 (76.1%) を占めている。

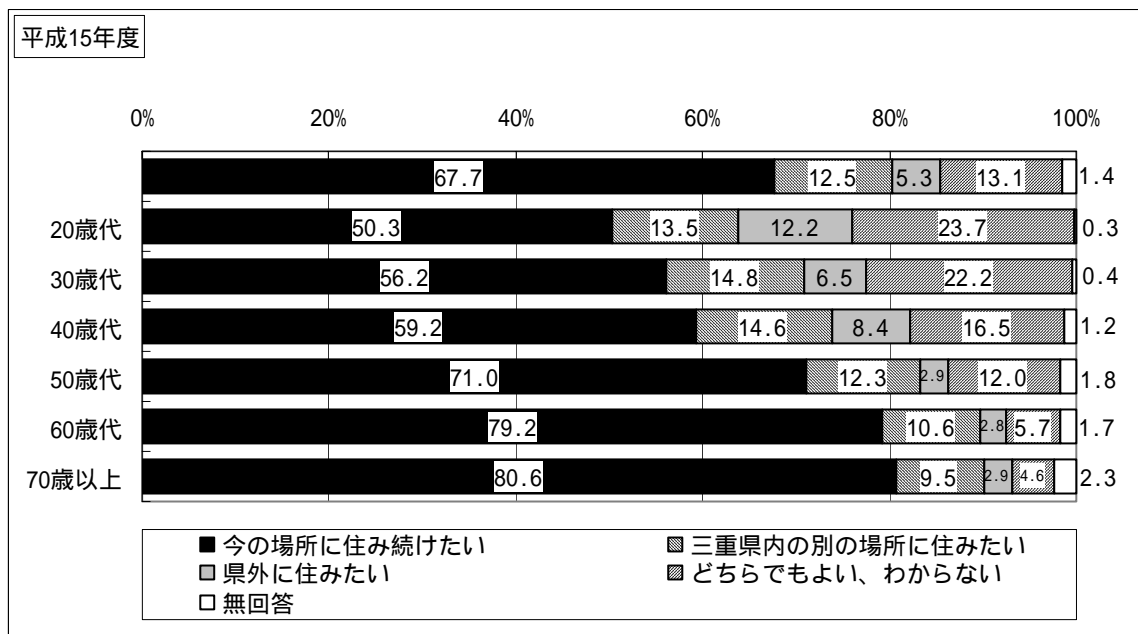
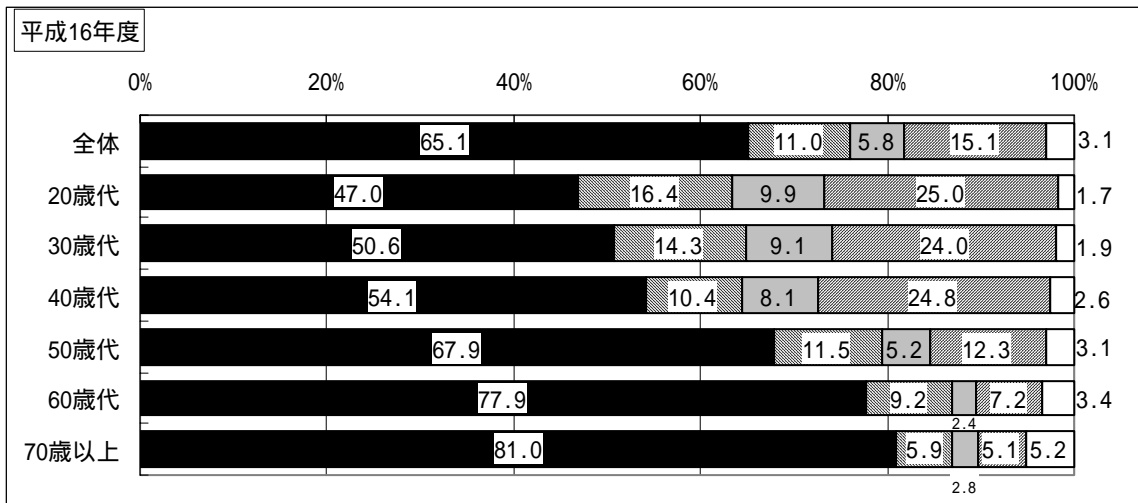
平成 15 年度との比較

「今の場所に住み続けたい」人、「三重県内の別の場所に住みたい」人ともに若干減少し、“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合は平成 15 年度(80.2%)より 4.1 ポイント減少している。

なお、問 1 - 2 は平成 15 年度からの調査項目である。

## 年齢層別

(集計資料 p.3)



### 平成16年度

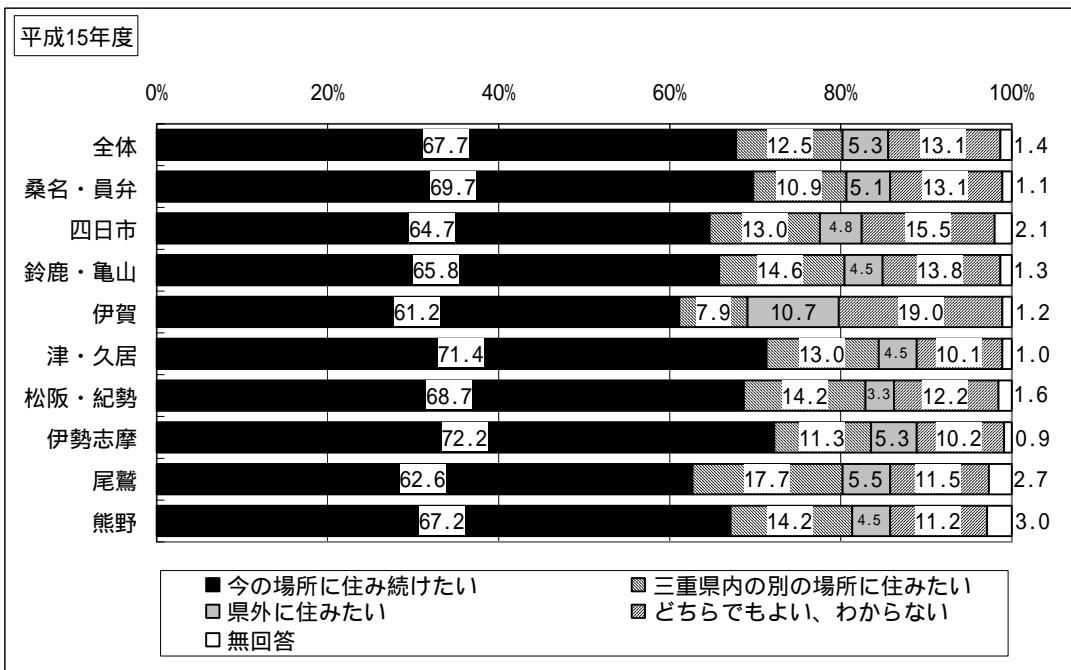
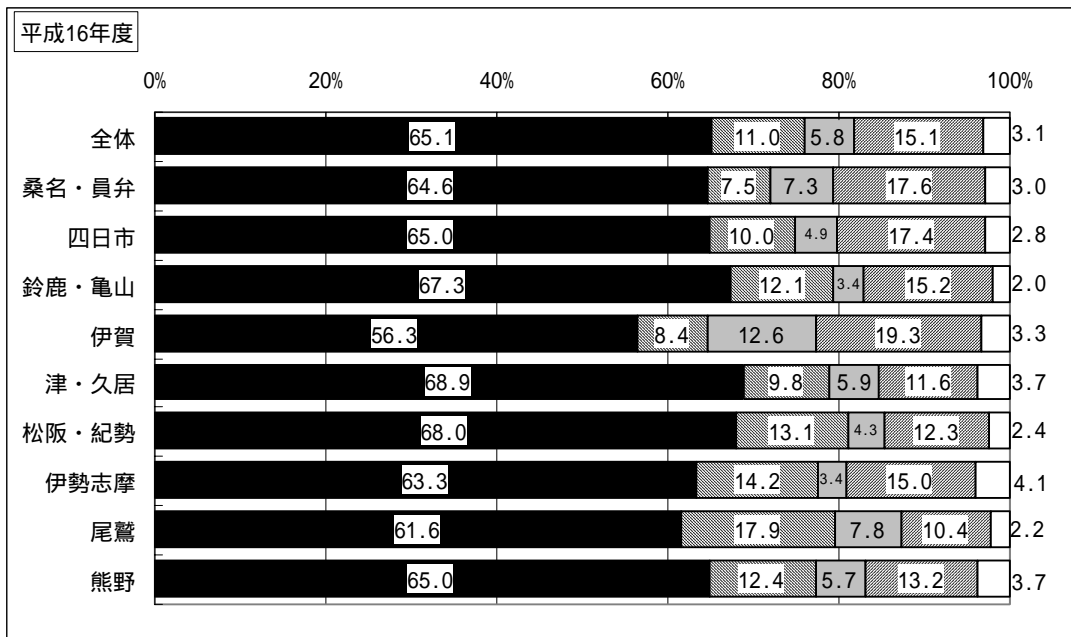
年齢層別では、「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、20歳代を除いた年齢層において半数以上を占めており、定住意向は高くなっている。また、年齢とともに定住意向は高くなる傾向にあり、60歳以上では約8割を占めている。

### 平成15年度との比較

「今の場所に住み続けたい」と答えた人の割合は、70歳以上を除いたすべての年齢層で15年度に比べて減少しており、中でも30歳代(5.6ポイント)や40歳代(5.1ポイント)の減少が大きくなっている。

# 生活創造圏別

(集計資料 p.3)



## 平成16年度

生活創造圏別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、いずれの生活創造圏においても5割を超えており、定住意向は高くなっている。

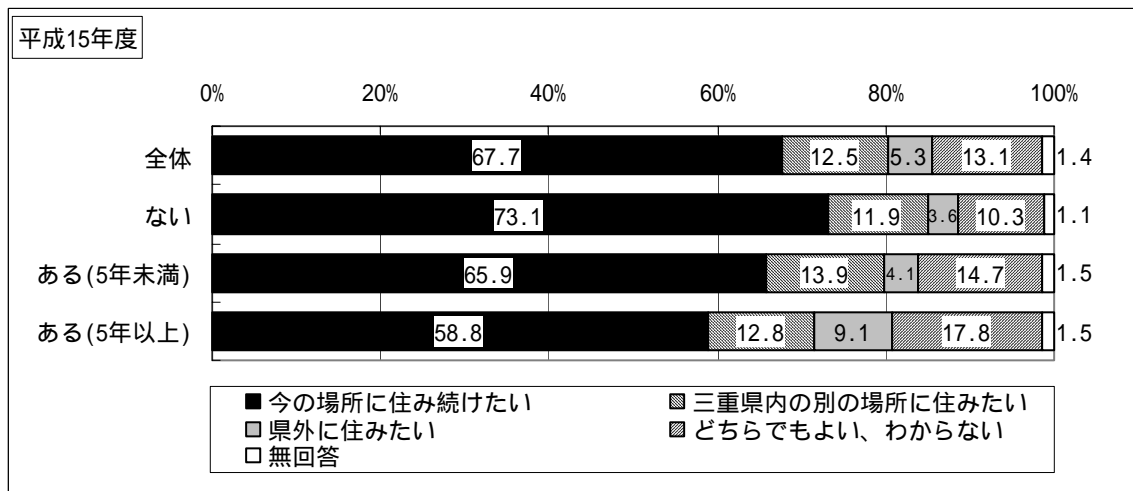
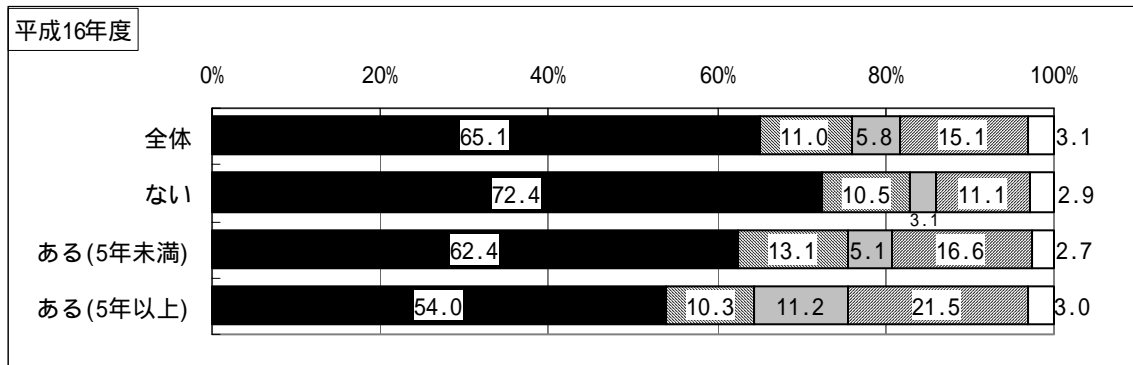
伊賀圏域では“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合が64.7%と、その他の圏域と比べて低くなっている。

## 平成15年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、四日市、鈴鹿・亀山を除くその他の圏域では15年度に比べて減少しており、特に伊勢志摩(8.9ポイント)、桑名・員弁(5.1ポイント)、伊賀(4.9ポイント)では減少が大きくなっている。

## 県外在住の経験別

(集計資料 p.3)



### 平成16年度

県外在住経験別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、県外在住経験が「ある人」に比べ県外在住経験が「ない人」の方が高くなっている。

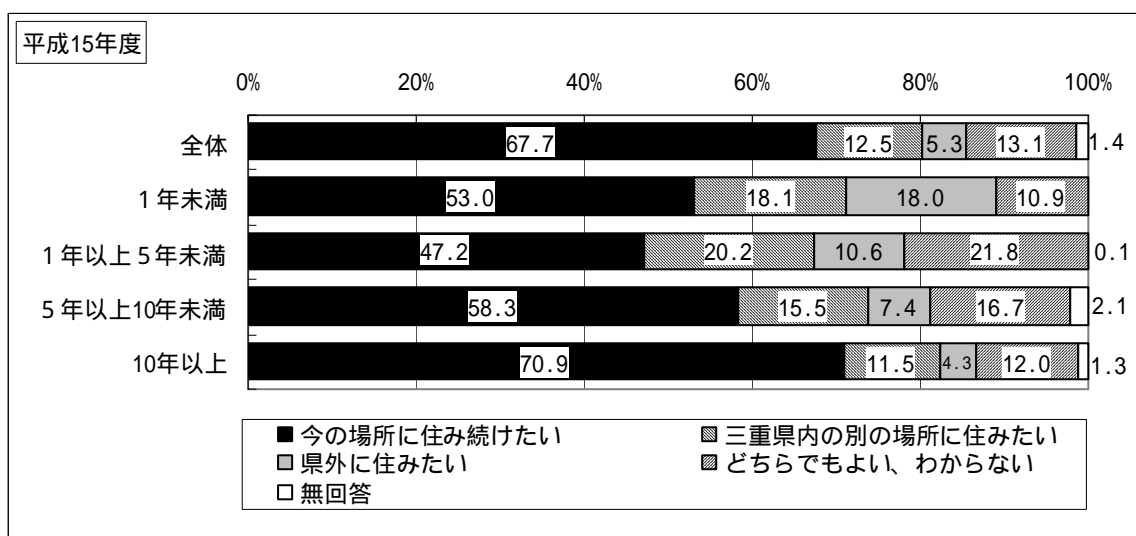
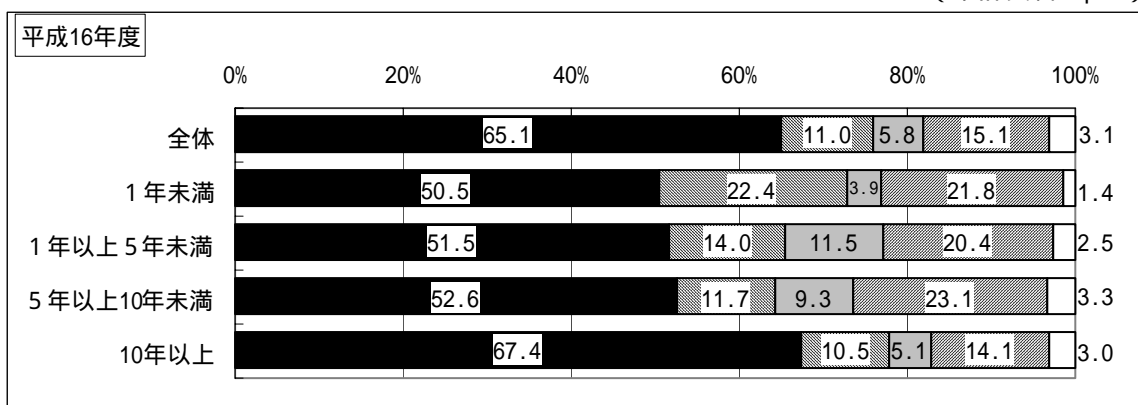
### 平成15年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、いずれの階層においても15年度の水準より減少している。



## 居住期間

(集計資料 p.3)



### 平成16年度

居住年数別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、居住年数が長くなるにつれ高くなっており、居住年数が10年以上の人では約7割（67.4%）を占めている。

### 平成15年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、居住年数が5年以上10年未満では15年度に比べて5.7ポイント減少している。

## 2. 県行政の各分野の取組についての重要意識・満足意識・認知意識

問2 以下に掲げたそれぞれの項目は、三重県が目指すべき社会の状態を表しています。  
あなたは、これらのことをどのくらい重要と感じますか。  
また、こうした社会を目指すにあたっての現在の行政の取組に対してどのくらい満足されていますか。  
さらに、そうした行政の具体的な取組をどの程度ご存知ですか。

県行政の44項目の取組について、重要意識と満足意識、認知意識を調査した。また、重要意識と満足意識については、前回調査（平成15年度）との比較を行った。

### 重要意識の選択肢

重要 どちらかといえば重要でない	どちらかといえば重要 重要でない	どちらともいえない わからない
---------------------	---------------------	--------------------

### 満足意識の選択肢

満足 どちらかといえば不満	どちらかといえば満足 不満	どちらともいえない わからない
------------------	------------------	--------------------

### 認知意識の選択肢

取組の内容を知っている あまり知らない	取り組んでいることは知っている 知らない
------------------------	-------------------------

各項目について県民の意識を測定するため、重要意識、満足意識と不滿意識、認知意識を用いる。

「重要意識」＝「重要」と「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計  
「満足意識」＝「満足」と「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計  
「不滿意識」＝「不満」と「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計  
「認知意識」＝「取組の内容を知っている」と「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計

### < 今回の調査の変更点について >

本調査は、平成10年度から継続的に行っており、県行政の各分野における取組に関する県民の重要意識、満足意識等について、時系列的な分析を行ってきた。前回までのアンケート調査では、設問が抽象的、専門的であり、県民にとってわかりにくいなどの問題があったので、今回は、回答者にとってわかりやすい調査票をめざし、その分野における県行政の取組をイメージできる表現とする等の改善を図った。

その結果、平成 15 年度調査との比較では多くの項目で「どちらともいえない」「わからない」の合計が減少し、重要意識や満足意識が増加した。

例えば「生涯学習」では次表のとおり重要意識、満足意識ともに 10 ポイント以上の増減がみられた。

		平成 15 年度	平成 16 年度	増減
重要意識	「どちらともいえない」「わからない」の合計	24.8%	12.0%	12.8 ポイント
	「重要」「どちらかといえば重要」の合計	66.5%	81.4%	14.9 ポイント
満足意識	「どちらともいえない」「わからない」の合計	61.3%	40.3%	21.0 ポイント
	「満足」「どちらかといえば満足」の合計	15.6%	34.7%	19.1 ポイント

前回までの設問…………… 「生涯学習の場と機会の提供」

今回調査の設問…………… 「誰もが興味や必要に応じて、図書館や博物館、講座などで学ぶことができる環境が整っていること」

その他「人権尊重」「市民活動」「子育て環境」「医療体制」「きれいな空気」「農林水産業の振興」等の項目も同様の傾向がみられる。

また、総合計画の政策体系が変更されても継続的な分析できるように分野の見直しを行い、前年度に比べ 4 減 1 増の 44 項目とした。

前回までの設問	今回調査の設問	
保健・福祉サービス 福祉に携わる人材の確保	統合	高齢者・障害者の介護、在宅支援などの福祉サービスが利用しやすいこと。
自然環境の保全 自然に親しむ場の整備	統合	身近に触れあうことのできる豊かな自然環境があること。
情報ネットワークの整備 情報教育の推進	統合	ケーブルテレビ網やインターネットなどを利用して様々な情報を得ることができること。
国際的な環境保全への協力	廃止	-
-	新規	温暖化の原因となる二酸化炭素などのガスについて、企業や家庭からの排出が抑えられたり、森林による吸収が高められていること。

以上のことから、前回までとの比較を行うときには、調査票の表現の変更の影響があることに留意する必要がある。

< 各項目と「県民しあわせプラン」の政策展開の基本方向〔五つの柱〕との分類について >

今回の調査では、県行政の各分野における 44 項目の取組について、各項目を「県民しあわせプラン」の政策展開の基本方向〔五つの柱〕に分類して表示している。

政策展開の基本方向	項目
一人ひとりの思いを支える社会環境の創造と人づくり	01.人権尊重 02.生涯学習 03.学校教育 04.青少年の健全育成 05.高等教育機関 07.文化・芸術 08.歴史・文化遺産 09.スポーツ・レクリエーション
安心を支える雇用・就業環境づくりと元気な産業づくり	14.食の安全 26.農林水産業の振興 27.産業振興 28.観光 29.技術開発 30.地域商工業 31.雇用 32.職業能力開発
安全な暮らしの確保と安心できる生活環境の創造	10.地域での防災の取組 11.災害対策 12.交通安全 13.防犯 14.食の安全(再掲) 15.高齢者、障害者の社会参加 16.保健予防体制 17.子育て環境 18.医療体制 19.福祉サービス 40.快適なまちづくり
持続可能な循環型社会の創造	20.自然環境との共生 21.希少な生物 22.ごみの減量 23.きれいな空気 24.川や海の水質 25.地球温暖化防止 43.エネルギー 44.飲料水の供給
人と地域の絆づくりと魅力あふれるふるさと創造	06.市民活動 33.国際化 34.広域交流・連携 35.情報ネットワーク 36.高速交通網 37.道路の整備 38.公共交通機関 39.港の整備 40.快適なまちづくり(再掲) 41.農山漁村づくり 42.過疎地域等の振興

< 分野別重要・満足意識一覧表 >

平成16年度 項目名	平成15年度 調査票での表現 平成16年度 項目の内容(目指すべき社会の状態)	重要意識		満足意識	
		「重要」+「どちらか といえば重要」	「どちらともいえない」+「わからない」	「満足」+「どちらか といえば満足」	「どちらともいえない」+「わからない」
		平成15年度	平成15年度	平成15年度	平成15年度
		平成16年度	平成16年度	平成16年度	平成16年度
01.人権尊重	人権侵害や差別をなくすための取組	68.0	20.6	13.7	64.9
	性別、出身地、障害の有無などによる差別がなく、一人ひとりの人権が尊重され、個性や能力が十分発揮できること。	88.5	6.7	31.4	47.6
02.生涯学習	生涯学習の場と機会の提供	66.5	24.8	15.6	61.3
	誰もが興味や必要に応じて、図書館や博物館、講座などで学ぶことができる環境が整っていること。	81.4	12.0	34.7	40.3
03.学校教育	学校教育への取組	88.2	8.0	13.5	46.8
	児童生徒一人ひとりに基礎・基本の学力が定着し、自ら学び、考え、判断する力が身に付いていること。	88.4	7.4	16.7	49.7
04.青少年の健全育成	青少年の健全育成	86.6	9.3	7.6	51.8
	青少年が犯罪や非行に走ることなく、自立性や社会性を身につけ健全に育っていること。	90.3	5.2	12.2	43.8
05.高等教育機関	大学などの高等教育機関の充実	61.4	27.8	10.0	61.0
	県内の大学など高等教育機関において、魅力ある教育や研究が行われていること。	72.3	20.3	12.0	65.3
06.市民活動	職場へのボランティア休暇の導入など、住民が市民活動に参加しやすい条件の整備	52.0	35.9	5.7	65.8
	NPOやボランティアなどの活動、自治会やPTA等の地域活動など、様々な社会活動に参加しやすいこと。	65.6	25.7	17.9	61.7
07.文化・芸術	芸術文化にふれあう機会の提供	51.7	35.2	12.7	59.8
	音楽、美術などの様々な芸術や文化と直接触れ親しめる機会が多いこと。	62.7	26.4	18.8	52.6
08.歴史・文化遺産	文化遺産、史跡、天然記念物などの保存	73.0	19.2	23.6	59.3
	文化財や伝統行事などの様々な文化遺産が守られ、地域づくり等に積極的に活用されていること。	70.9	21.0	29.1	53.9
09.スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設の整備	63.8	25.9	21.3	47.9
	スポーツやレクリエーションを楽しむための機会や施設が充実していること。	72.8	19.1	26.4	41.6
10.地域での防災の取組	防災対策への取組	93.6	3.6	15.2	48.4
	地震・津波、風水害などの自然災害に対して地域での自主的な備えができてきていること。	91.0	4.8	17.1	46.4
11.災害対策	洪水や高潮、土砂災害などへの対策	91.5	5.1	12.9	55.3
	洪水や高潮、土砂災害などに備える堤防や砂防ダムなどの施設が整備され、自然災害による被害を最少限におさえられること。	90.5	5.3	18.9	53.1
12.交通安全	交通安全対策の推進	90.0	6.1	17.5	47.9
	交通ルールが守られ、誰もが安全にかつ安心して道路を通行できる環境になっていること。	91.7	4.1	21.8	31.7
13.防犯	防犯活動の強化	91.2	5.8	8.7	48.4
	犯罪などに対する不安を感じることなく、安心して生活ができること。	93.8	2.6	16.8	36.4
14.食の安全	食品の安全性確保のための衛生管理指導体制の整備	86.0	9.9	12.1	58.3
	安心して食べられる食品が安定的に供給されていること。	90.9	5.1	34.1	41.0
15.高齢者、障害者の社会参加	高齢者や障害者の就労条件などの整備	75.0	18.7	7.3	53.5
	高齢者や障害者が就労や趣味の集いなど、様々な社会参加ができること。	80.8	11.9	19.5	58.2
16.保健予防体制	生活習慣病や感染症の予防など保健予防体制の確保	82.4	12.6	12.0	62.0
	感染症の発生、まん延や生活習慣病の不安を感じることなく生活できること。	87.2	7.3	26.6	54.5
17.子育て環境	母子保健対策、保育サービスなど子育て環境の整備	75.4	18.1	11.1	59.5
	子どもを安心して産み育てられる環境が充実していること。	85.9	8.1	22.6	47.1
18.医療体制	病状に応じて、適切な医療が受けられる患者本位の医療体制の確保	87.9	7.9	9.5	44.5
	病状に応じて、身近なところで適切な医療が受けられること。	92.6	2.3	35.1	28.5
19.福祉サービス	訪問介護など保健・福祉サービスの提供	84.2	10.5	14.5	55.1
	看護職員、福祉ボラテニア等の保健・医療・福祉や地域福祉活動に携わる人材の確保	82.8	12.2	9.5	58.7
	高齢者・障害者の介護、在宅支援などの福祉サービスが利用しやすいこと。(平成16年度は上記2項目を統合している)	87.5	6.6	24.6	48.5
20.自然環境との共生	自然環境の保全	78.0	16.3	11.5	58.1
	自然に親しむ場の整備	64.6	25.1	14.7	58.5
	身近に触れあうことのできる豊かな自然環境があること。(平成16年度は上記2項目を統合している)	82.8	9.9	40.5	39.0
21.希少な生物	希少な野生生物の保護	58.8	29.9	6.7	73.3
	希少な野生動物や植物が保護されていること。	67.9	22.2	13.8	68.2
22.ごみの減量	ごみの減量化	90.3	5.5	20.1	40.2
	職場や家庭から出るゴミが少ないこと。	86.8	7.4	23.4	42.1

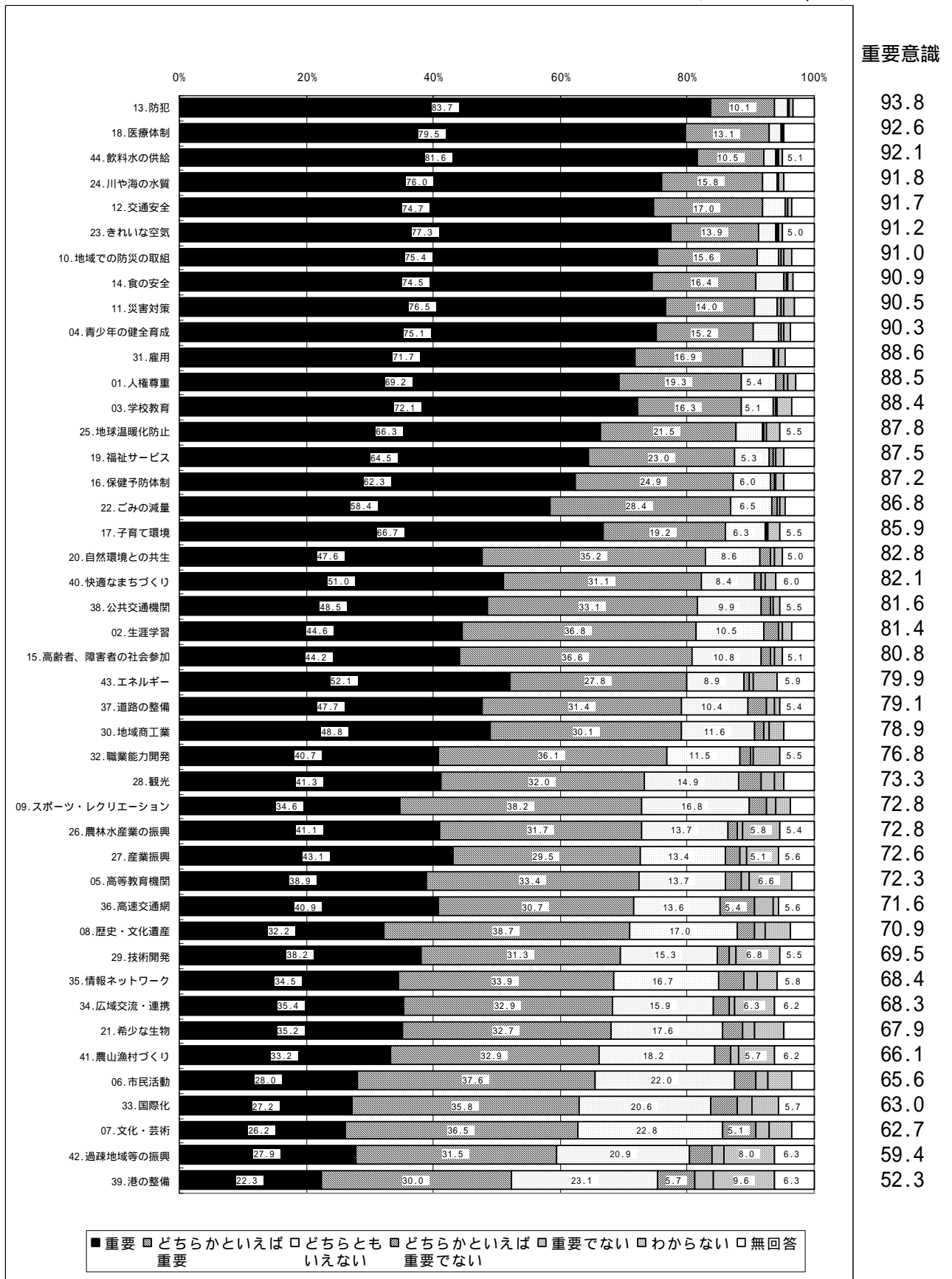
平成16年度 項目名	平成15年度 調査票での表現 平成16年度 項目の内容(目指すべき社会の状態)	重要意識		満足意識	
		「重要」+「どちらか といえば重要」	「どちらともいえない」+「わからない」	「満足」+「どちらか といえば満足」	「どちらともいえない」+「わからない」
		平成15年度	平成15年度	平成15年度	平成15年度
		平成16年度	平成16年度	平成16年度	平成16年度
23.きれいな 空気	大気汚染防止対策の強化	85.5	9.4	10.2	54.4
	空気が汚染されておらず、きれいであること。	91.2	3.4	34.5	36.7
24.川や海の 水質	川や海の水質浄化	89.6	6.1	9.7	48.1
	川や海などの水が汚染されておらず、きれいであること。	91.8	3.2	19.9	36.5
25.地球 温暖化防止	温暖化の原因となる二酸化炭素などのガスについて、企業や家庭からの排出が抑えられたり、森林による吸収が高められていること。	-	-	-	-
26.農林水産業 の振興	農林水産業の活発化	59.8	32.0	5.9	67.4
	農林水産業の担い手が育ち、産業として活発であること。	72.8	19.5	7.5	63.3
27.産業振興	新しい分野の産業の育成や先端的企業の誘致	56.0	32.6	8.2	65.3
	新しい分野の産業や企業の育成、先端企業の誘致などにより県内産業が活性化していること。	72.6	18.5	14.3	56.9
28.観光	三重県を訪れる人が増加するような観光施設や地域づくり	62.3	24.2	10.4	55.9
	地域の名勝や特産品などの観光資源に魅力を感じてたくさんの方が三重県を訪れること。	73.3	16.3	20.8	52.2
29.技術開発	科学技術の振興	45.1	42.5	4.7	78.3
	県内産業の発展のため、様々な分野での研究開発が進んでいること。	69.5	22.1	8.2	69.7
30.地域商工業	中小企業の支援や商店街づくりなど地域商工業の活発化	76.1	17.5	4.3	49.2
	地域の中小企業や商店街が活気に満ちていること。	78.9	13.9	6.2	38.9
31.雇用	働く場の確保と勤労者福祉の向上	87.1	8.9	4.2	44.2
	働く意欲のある人にいきいきと働ける場が確保されていること。	88.6	5.9	7.5	33.9
32.職業能力 開発	社会の変化に対応した職業能力の開発訓練体制の充実	66.8	25.5	4.1	65.6
	社会の変化に対応した職業能力を身につける機会が確保されていること。	76.8	15.6	7.8	58.6
33.国際化	海外の学校との提携校の拡大など国際化社会に対応できる人材の育成	49.8	35.7	4.4	76.9
	様々な国の人々と互いに理解し合いながら、交流、共生できること。	63.0	24.7	7.9	69.6
34.広域交流・ 連携	県境を越えた児童生徒の受入れの弾力化など、他府県との共同事業の推進	38.2	45.6	2.9	81.3
	環境や防災など近隣府県等と共同で取り組むことが効果的な分野において、県境を越えた様々な交流・連携が行われていること。	68.3	22.2	8.6	71.5
35.情報 ネットワーク	ケーブルテレビの普及など情報ネットワークの整備	53.8	33.0	24.6	56.3
	インターネットなどの新しい情報手段に対応できるような情報教育の推進	61.8	28.4	13.4	65.6
	ケーブルテレビ網やインターネットなどを利用して様々な情報を得ることができること。(平成16年度は上記2項目を統合している)	68.4	20.0	28.2	54.2
36.高速交通網	空港、新幹線、高速道路など高速交通機関までおおむね30分程度で到達できる地域の拡大	45.6	29.9	10.8	55.7
	空港、新幹線、高速道路などの高速交通機関が利用しやすくなり、遠くの地域へ短時間で移動できること。	71.6	14.5	27.6	35.8
37.道路の整備	国道や県道の改良・整備	67.7	20.1	17.8	41.4
	道路が整備され、快適に移動できること。	79.1	11.2	29.2	33.0
38.公共交通 機関	鉄道やバスなど公共交通機関の整備	67.5	21.8	14.9	44.1
	バス、鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと。	81.6	10.8	22.2	30.1
39.港の整備	港湾の整備	39.3	45.5	7.4	76.2
	港が整備され、多くの船や人々が利用していること。	52.3	32.7	10.0	71.4
40.快適な まちづくり	公園や歩道、段差のない公共的施設など快適なまちづくり	78.1	14.8	12.2	45.7
	段差のない公共的施設、公園や歩道など、快適で暮らしやすいまちづくりが行われていること。	82.1	10.2	16.9	42.3
41.農山漁村 づくり	道路、生活排水処理施設の整備など若者が定住する農山漁村づくり	69.9	22.4	7.3	56.7
	農山漁村の生活基盤が整備され、住民や訪れた人々にとって魅力がある地域になっていること。	66.1	23.9	8.4	63.3
42.過疎地域等 の振興	過疎地域や離島、半島地域の活性化	45.7	41.3	3.4	72.8
	過疎地域や離島等が活性化や地域おこしの取組を通じて魅力のある地域になっていること。	59.4	28.9	5.4	68.3
43.エネルギー	省エネルギー対策の推進、太陽光発電の普及など地球に優しいエネルギー対策	79.6	15.0	6.9	58.5
	省エネルギーの意識や、太陽光発電の普及など地球にやさしいエネルギー対策が進んでいること。	79.9	12.7	10.3	58.7
44.飲料水の 供給	安心して飲める水の安定確保	93.9	3.2	32.9	36.2
	安心して飲める水が安定的に供給されること。	92.1	2.6	51.1	26.7
	国際的な環境保全への協力	45.6	42.2	4.5	81.6
		-	-	-	-
	平成15年度(47項目)の平均	70.4	21.1	11.3	57.8
	平成16年度(44項目)の平均	79.3	13.2	20.0	49.4

網掛け部分は、対前年度比で10ポイント以上の増減を示す。ただし、「19.福祉サービス」「20.自然環境との共生」「35.情報ネットワーク」は前年度の2項目の平均値に対して10ポイント以上の増減としている。

(1) 重要意識に関する結果の概要

(重要意識は「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)

(集計資料 p.4)



<平成 16 年度>

- ・44 項目すべての項目で重要意識が 50%以上で、そのうち 23 項目が 80%を上回っており、重要性に対する認識は全体として高い。
- ・44 項目の中で重要意識が最も高いのは、「防犯」(93.8%)で、以下「医療体制」(92.6%)、「飲料水の供給」(92.1%)、「川や海の水質」(91.8%)、「交通安全」(91.7%)などの項目が上位としてあげられている。
- ・重要意識が最も低いのは、「港の整備」(52.3%)で、次いで「過疎地域等の振興」(59.4%)、「文化・芸術」(62.7%)、「国際化」(63.0%)、「市民活動」(65.6%)の順となっている。
- ・しあわせプランの五つの柱別にみると、「安全なくらしの確保と安心できる生活環境の創造」「持続可能な循環型社会の創造」に関する取組が上位を占め、「人と地域の絆づくりと魅力あふれるふるさと創造」に関する取組の重要意識が低くなっている。

<平成 15 年度との比較>

- ・上位 10 項目を比較してみると、「ごみの減量」「学校教育」「雇用」が上位 10 項目から消え、「きれいな空気」「食の安全」「青少年の健全育成」が新たに上位 10 項目にあがっている。
- ・下位 10 項目を比較してみると、「高速交通網」は下位 10 項目から消え、「希少な生物」「農山漁村づくり」が新たに下位 10 項目にあがっている。

重要意識上位 10 項目

順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	重要意識	項目	重要意識
第 1 位	防犯	93.8%	飲料水の供給	93.9%
第 2 位	医療体制	92.6%	地域での防災の取組	93.6%
第 3 位	飲料水の供給	92.1%	災害対策	91.5%
第 4 位	川や海の水質	91.8%	防犯	91.2%
第 5 位	交通安全	91.7%	ごみの減量	90.3%
第 6 位	きれいな空気	91.2%	交通安全	90.0%
第 7 位	地域での防災の取組	91.0%	川や海の水質	89.6%
第 8 位	食の安全	90.9%	学校教育	88.2%
第 9 位	災害対策	90.5%	医療体制	87.9%
第 10 位	青少年の健全育成	90.3%	雇用	87.1%

重要意識下位 10 項目

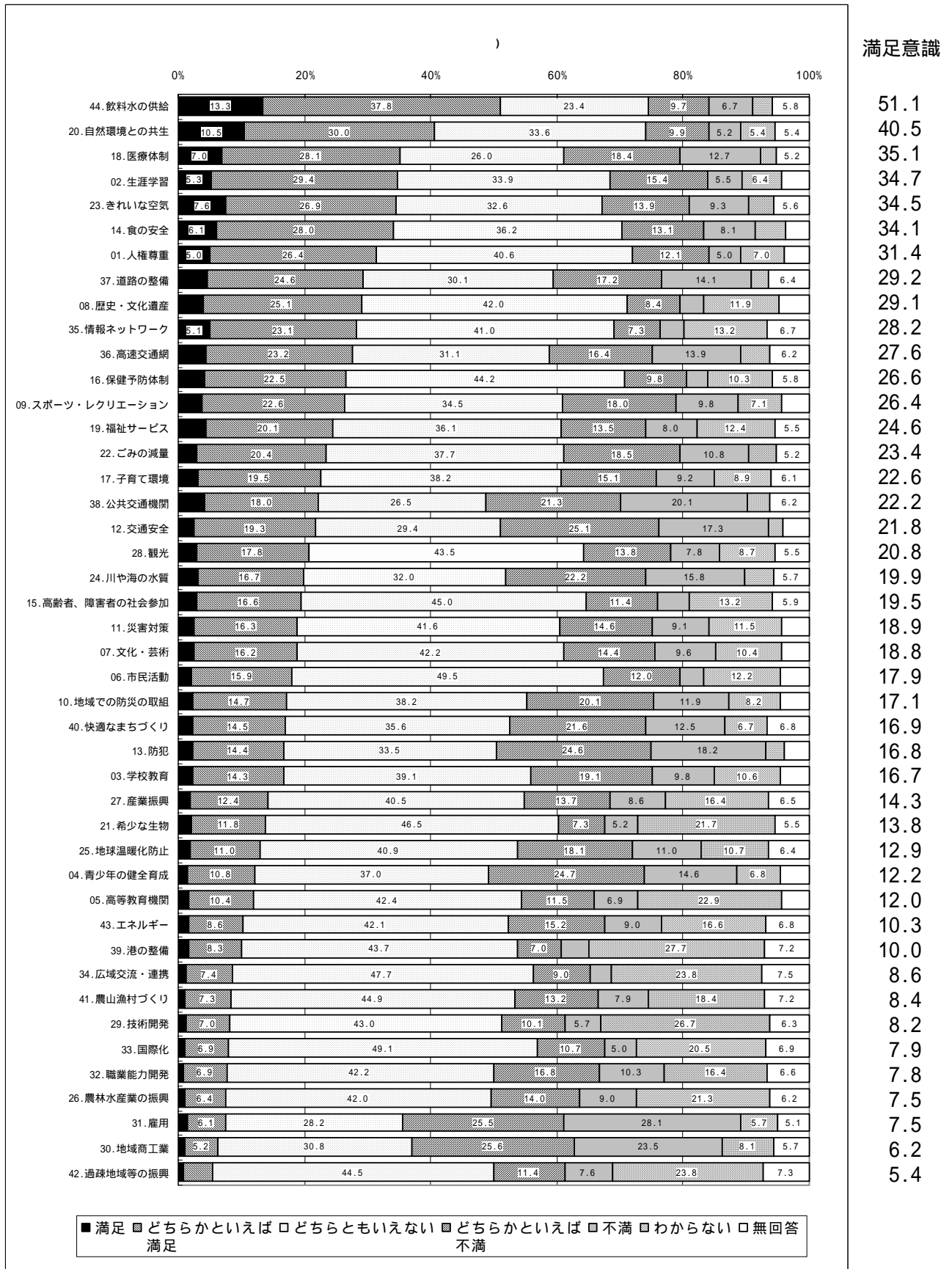
順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	重要意識	項目	重要意識
第 1 位	港の整備	52.3%	広域交流・連携	38.2%
第 2 位	過疎地域等の振興	59.4%	港の整備	39.3%
第 3 位	文化・芸術	62.7%	技術開発	45.1%
第 4 位	国際化	63.0%	高速交通網	45.6%
第 5 位	市民活動	65.6%	国際的な環境保全への協力	45.6%
第 6 位	農山漁村づくり	66.1%	過疎地域等の振興	45.7%
第 7 位	希少な生物	67.9%	国際化	49.8%
第 8 位	広域交流・連携	68.3%	文化・芸術	51.7%
第 9 位	情報ネットワーク	68.4%	市民活動	52.0%
第 10 位	技術開発	69.5%	情報ネットワーク	53.8%



(2) 満足意識・不満足意識に関する結果の概要

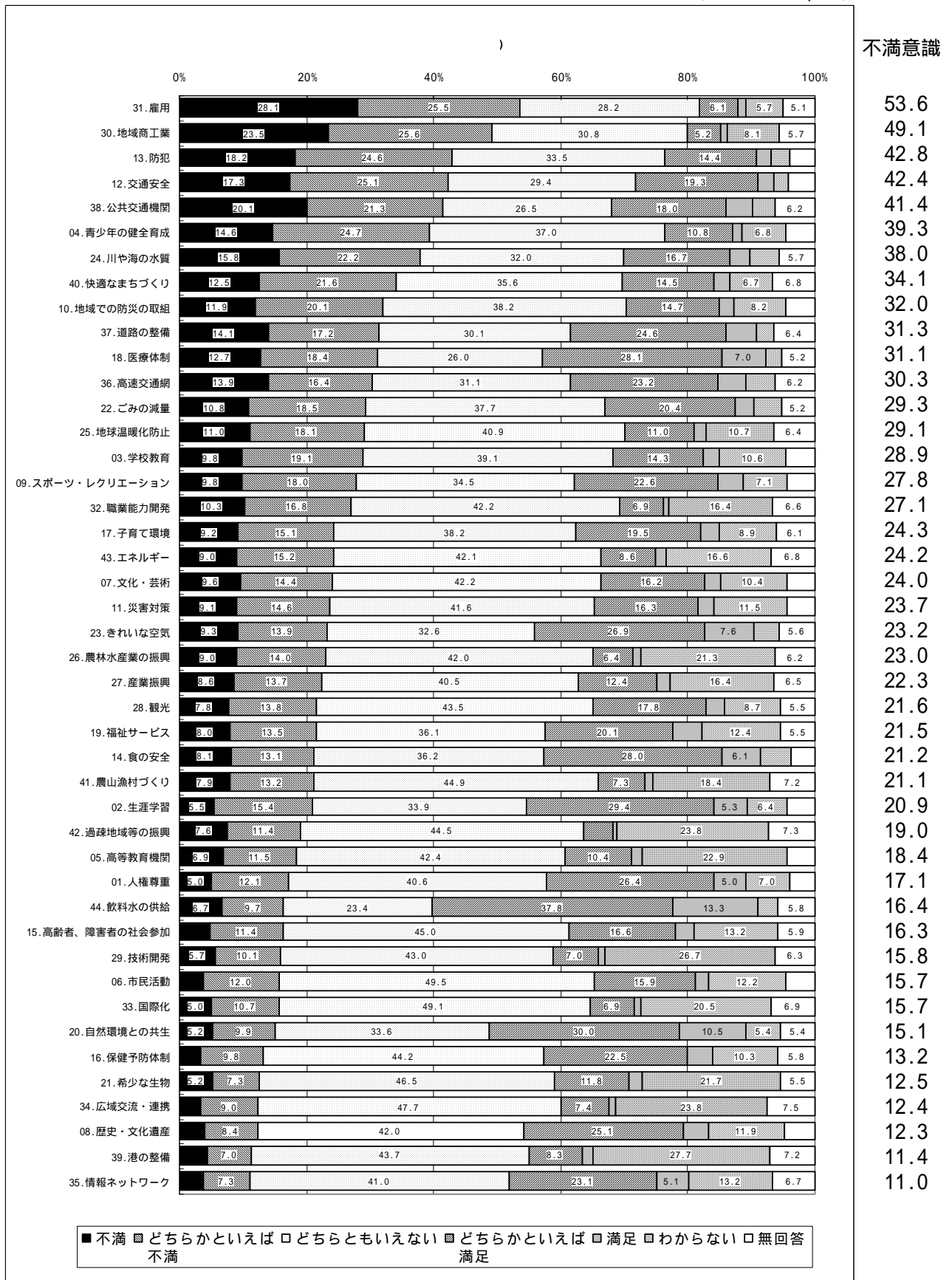
(満足意識は「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)

(集計資料 p.5)



( 不満足は「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計 )

( 集計資料 p.5 )



<平成 16 年度>

- ・満足意識と不満意識を比べると、全体的に不満意識の方が高くなっている。
- ・満足意識については、「飲料水の供給」が 51.1%で最も高く、44 項目の中で唯一 50%を上回っている。以下、「自然環境との共生」(40.5%)、「医療体制」(35.1%)、「生涯学習」(34.7%)、「きれいな空気」(34.5%)、「食の安全」(34.1%)、「人権尊重」(31.4%)の順と続き、30%以上の項目はここにあげた 7 項目となっている。
- ・満足意識の高い項目について、しあわせプランの五つの柱別にみると「安心を支える雇用・就業環境づくりと元気な産業づくり」「人と地域の絆づくりと魅力あふれるふるさと創造」に関する取組の満足意識が低くなっている。
- ・不満意識については、「雇用」が 53.6%で最も高く、「地域商工業」(49.1%)についても半数近くの人不満と感じている。以下「防犯」(42.8%)、「交通安全」(42.4%)、「公共交通機関」(41.4%)の順となっており、不満意識が 30%を上回った項目は 12 項目となっている。
- ・不満意識の高い項目について、しあわせプランの五つの柱別にみると「安心なくらしの確保と安心できる生活環境の創造」に関する取組に対する不満意識が高く、「人と地域の絆づくりと魅力あふれるふるさと創造」に関する取組の不満意識が低くなっている。

<平成 15 年度との比較>

- ・満足意識について、「スポーツ・レクリエーション」「ごみの減量」「交通安全」「地域での防災の取組」「公共交通機関」が上位 10 項目から消え、「自然環境との共生(平成 15 年度は「自然に親しむ場の整備」「自然環境保全)」「医療体制」「きれいな空気」「食の安全」「人権尊重」が新たに上位 10 項目にあがっている。
- ・不満意識について、「医療体制」「学校教育」が上位 10 項目から消え、「交通安全」「地域での防災の取組」が新たに上位 10 項目にあがっている。

満足意識上位 10 項目

順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	満足意識	項目	満足意識
第 1 位	飲料水の供給	51.1%	飲料水の供給	32.9%
第 2 位	自然環境との共生	40.5%	情報ネットワーク	24.6%
第 3 位	医療体制	35.1%	歴史・文化遺産	23.6%
第 4 位	生涯学習	34.7%	スポーツ・レクリエーション	21.3%
第 5 位	きれいな空気	34.5%	ごみの減量	20.1%
第 6 位	食の安全	34.1%	道路の整備	17.8%
第 7 位	人権尊重	31.4%	交通安全	17.5%
第 8 位	道路の整備	29.2%	生涯学習	15.6%
第 9 位	歴史・文化遺産	29.1%	地域での防災の取組	15.2%
第 10 位	情報ネットワーク	28.2%	公共交通機関	14.9%

満足意識下位 10 項目

順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	満足意識	項目	満足意識
第 1 位	過疎地域等の振興	5.4%	広域交流・連携	2.9%
第 2 位	地域商工業	6.2%	過疎地域等の振興	3.4%
第 3 位	雇用	7.5%	職業能力開発	4.1%
第 4 位	農林水産業の振興	7.5%	雇用	4.2%
第 5 位	職業能力開発	7.8%	地域商工業	4.3%
第 6 位	国際化	7.9%	国際化	4.4%
第 7 位	技術開発	8.2%	国際的な環境保全への協力	4.5%
第 8 位	農山漁村づくり	8.4%	技術開発	4.7%
第 9 位	広域交流・連携	8.6%	市民活動	5.7%
第 10 位	港の整備	10.0%	農林水産業の振興	5.9%

不満足意識上位 10 項目

順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	不満足意識	項目	不満足意識
第 1 位	雇用	53.6%	雇用	47.8%
第 2 位	地域商工業	49.1%	地域商工業	42.8%
第 3 位	防犯	42.8%	医療体制	41.2%
第 4 位	交通安全	42.4%	防犯	39.1%
第 5 位	公共交通機関	41.4%	快適なまちづくり	37.6%
第 6 位	青少年の健全育成	39.3%	川や海の水質	37.4%
第 7 位	川や海の水質	38.0%	青少年の健全育成	36.7%
第 8 位	快適なまちづくり	34.1%	公共交通機関	36.6%
第 9 位	地域での防災の取組	32.0%	道路の整備	36.4%
第 10 位	道路の整備	31.3%	学校教育	36.1%

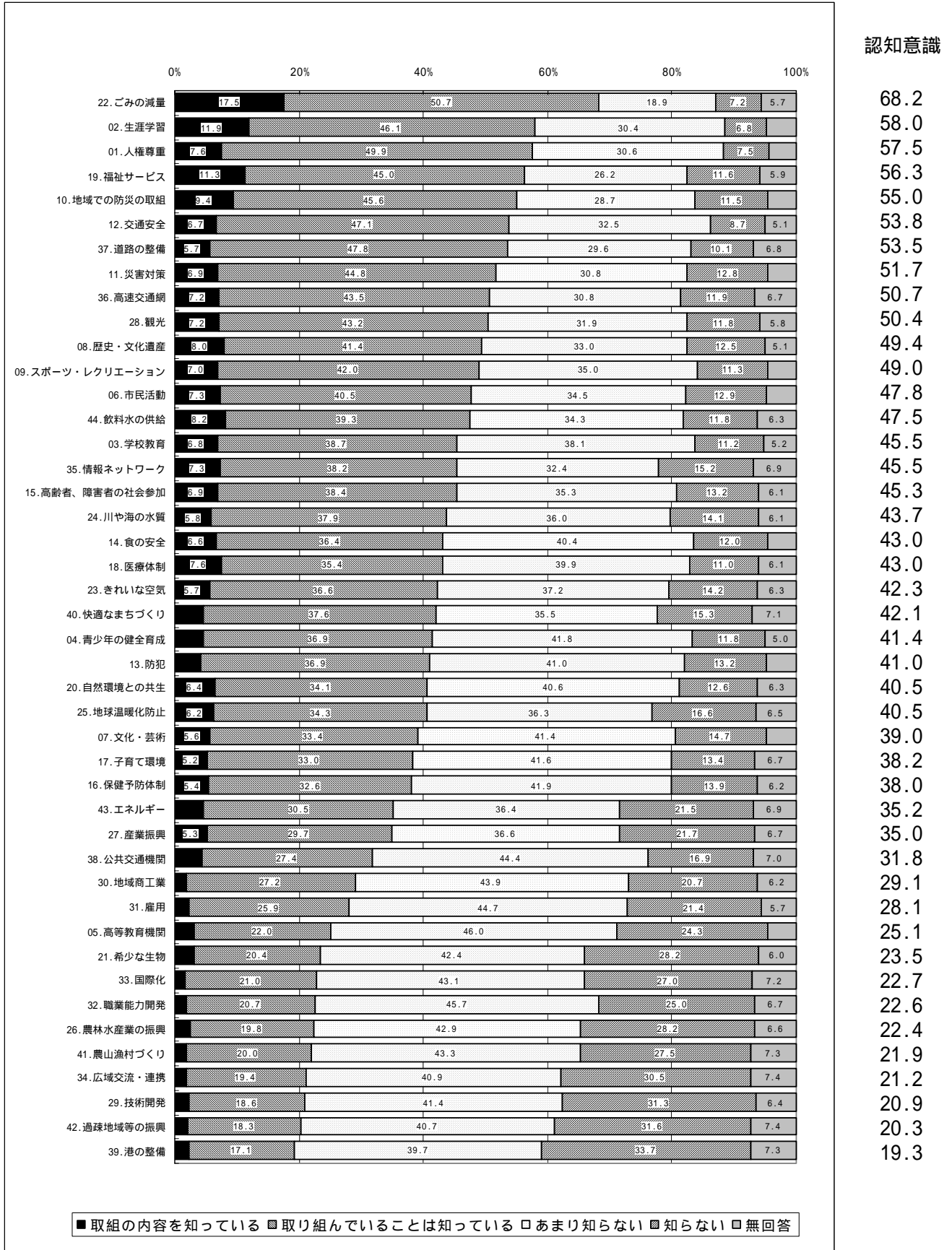
不満足意識下位 10 項目

順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	不満足意識	項目	不満足意識
第 1 位	情報ネットワーク	11.0%	国際的な環境保全への協力	8.8%
第 2 位	港の整備	11.4%	広域交流・連携	10.9%
第 3 位	歴史・文化遺産	12.3%	港の整備	11.9%
第 4 位	広域交流・連携	12.4%	技術開発	12.2%
第 5 位	希少な生物	12.5%	歴史・文化遺産	13.1%
第 6 位	保健予防体制	13.2%	国際化	14.2%
第 7 位	自然環境との共生	15.1%	情報ネットワーク	14.9%
第 8 位	国際化	15.7%	希少な生物	15.3%
第 9 位	市民活動	15.7%	情報教育の推進	16.4%
第 10 位	技術開発	15.8%	人権尊重	18.0%

### (3) 認知意識に関する結果の概要

(認知意識は「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計)

(集計資料 p.6)



<平成 16 年度>

- ・認知意識が 50%を上回った項目数は 10 項目となっており、認知意識が 30%を下回った項目数は 12 項目となっている。
- ・44 項目の中で認知意識が最も高いのは、「ごみの減量」(68.2%)で、2 位と約 10 ポイントの差をつけ群を抜いて高い。以下「生涯学習」(58.0%)「人権尊重」(57.5%)「福祉サービス」(56.3%)「地域での防災への取組」(55.0%)の順となっている。
- ・認知意識が最も低いのは、「港の整備」(19.3%)で、次いで「過疎地域等の振興」(20.3%)「技術開発」(20.9%)「広域交流・連携」(21.2%)「農山漁村づくり」(21.9%)の順となっている。

<平成 15 年度との比較>

- ・上位 10 項目について、「学校教育」「情報ネットワーク(平成 15 年度の「情報ネットワークの整備」)」が上位 10 項目から消え、「高速交通網」「観光」が新たに上位 10 項目にあがっている。
- ・下位 10 項目について、「農山漁村づくり」が新たにあがっており、「国際的な環境保全への協力」は今回廃止されているが、その他の項目については順位に変動はあるものの、全て下位 10 項目中に含まれている。

認知意識上位 10 項目

順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	認知意識	項目	認知意識
第 1 位	ごみの減量	68.2%	ごみの減量	68.6%
第 2 位	生涯学習	58.0%	人権尊重	59.9%
第 3 位	人権尊重	57.5%	地域での防災の取組	58.4%
第 4 位	福祉サービス	56.3%	交通安全	57.6%
第 5 位	地域での防災の取組	55.0%	福祉サービス	56.1%
第 6 位	交通安全	53.8%	生涯学習	50.1%
第 7 位	道路の整備	53.5%	学校教育	49.7%
第 8 位	災害対策	51.7%	情報ネットワーク	49.1%
第 9 位	高速交通網	50.7%	道路の整備	48.9%
第 10 位	観光	50.4%	災害対策	47.8%

認知意識下位 10 項目

順位	平成 16 年度		平成 15 年度	
	項目	認知意識	項目	認知意識
第 1 位	港の整備	19.3%	広域交流・連携	11.3%
第 2 位	過疎地域等の振興	20.3%	技術開発	12.3%
第 3 位	技術開発	20.9%	国際的な環境保全への協力	13.4%
第 4 位	広域交流・連携	21.2%	過疎地域等の振興	15.6%
第 5 位	農山漁村づくり	21.9%	国際化	16.7%
第 6 位	農林水産業の振興	22.4%	港の整備	19.9%
第 7 位	職業能力開発	22.6%	希少な生物	20.8%
第 8 位	国際化	22.7%	職業能力開発	21.1%
第 9 位	希少な生物	23.5%	農林水産業の振興	21.9%
第 10 位	高等教育機関	25.1%	高等教育機関	24.1%

(4) 生活創造圏別の重要意識・満足意識・認知意識の概要

圏域別重要意識上位5項目

<平成16年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	13. 防犯 93.8	18. 医療体制 92.6	44. 飲料水の供給 92.1	24. 川や海の水質 91.8	12. 交通安全 91.7
桑名・員弁	13. 防犯 94.4	44. 飲料水の供給 92.1	14. 食の安全 91.5	12. 交通安全 91.3	01. 人権尊重 90.6
四日市	13. 防犯 93.3	44. 飲料水の供給 92.9	24. 川や海の水質 92.9	12. 交通安全 92.6	18. 医療体制 92.3
鈴鹿・亀山	13. 防犯 93.0	12. 交通安全 92.8	44. 飲料水の供給 92.4	23. きれいな空気 92.4	14. 食の安全 92.1
伊賀	18. 医療体制 94.5	13. 防犯 92.7	24. 川や海の水質 92.4	44. 飲料水の供給 91.4	12. 交通安全 91.3
津・久居	13. 防犯 93.8	18. 医療体制 92.5	11. 災害対策 91.5	24. 川や海の水質 90.8	44. 飲料水の供給 90.8
松阪・紀勢	13. 防犯 94.7	18. 医療体制 93.8	24. 川や海の水質 92.5	12. 交通安全 92.5	23. きれいな空気 92.3
伊勢志摩	13. 防犯 95.6	44. 飲料水の供給 94.1	18. 医療体制 94.0	10. 地域での防災の取組 93.6	24. 川や海の水質 93.2
尾鷲	13. 防犯 90.5	18. 医療体制 90.5	04. 青少年の健全育成 89.4	44. 飲料水の供給 89.1	24. 川や海の水質 88.8
熊野	24. 川や海の水質 92.3	18. 医療体制 92.0	44. 飲料水の供給 91.0	23. きれいな空気 90.3	13. 防犯 89.6

下段の数字は重要意識(「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)

<平成16年度>

- ・「防犯」が伊賀や熊野を除いた全圏域で第1位となっている。
- ・全体の上位5項目では、「防犯」が全圏域で、「飲料水の供給」が8圏域で、「医療体制」「川や海の水質」が7圏域で、「交通安全」が5圏域で、「きれいな空気」が3圏域で、「食の安全」が2圏域で、それぞれ上位5位までに入っている。
- ・上記以外の項目では、「人権尊重」が桑名・員弁で第5位に、「災害対策」が津・久居で第3位に、「地域での防災の取組」が伊勢志摩で第4位に、「青少年の健全育成」が尾鷲で第3位に入っている。

<平成14年度・平成15年度との比較>

- ・14年度はすべての圏域で「飲料水の供給」が1位であったが、16年度はすべての圏域で1位から落ちている。
- ・「防犯」の重要意識は年々上昇してきている。
- ・14年度、15年度にいくつかの圏域で上位にあげられていた「ごみの減量」は、16年度には全ての圏域で上位5項目から落ちている。

<平成15年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	44.飲料水の供給 93.9	10.地域での防災の取組 93.6	11.災害対策 91.5	13.防犯 91.2	22.ごみの減量 90.3
桑名・員弁	44.飲料水の供給 94.5	10.地域での防災の取組 94.0	11.災害対策 91.5	13.防犯 91.1	22.ごみの減量 89.8
四日市	44.飲料水の供給 94.8	10.地域での防災の取組 92.0	13.防犯 91.5	11.災害対策 91.1	12.交通安全 90.9
鈴鹿・亀山	10.地域での防災の取組 94.8	44.飲料水の供給 94.6	13.防犯 93.0	11.災害対策 92.4	12.交通安全 89.5
伊賀	10.地域での防災の取組 92.7	13.防犯 92.0	44.飲料水の供給 91.5	22.ごみの減量 91.3	24.川や海の水質 90.1
津・久居	10.地域での防災の取組 95.2	44.飲料水の供給 95.0	11.災害対策 93.2	22.ごみの減量 92.1	24.川や海の水質 91.2
松阪・紀勢	44.飲料水の供給 94.1	10.地域での防災の取組 94.0	13.防犯 91.9	11.災害対策 91.8	12.交通安全 91.1
伊勢志摩	44.飲料水の供給 93.1	10.地域での防災の取組 92.5	22.ごみの減量 91.3	11.災害対策 91.1	24.川や海の水質 90.9
尾鷲	11.災害対策 94.5	10.地域での防災の取組 94.3	44.飲料水の供給 92.8	24.川や海の水質 91.0	12.交通安全 13.防犯 89.1
熊野	11.災害対策 94.0	10.地域での防災の取組 93.0	31.雇用 91.3	44.飲料水の供給 90.6	24.川や海の水質 89.6

下段の数字は重要意識(「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)

<平成14年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	44.飲料水の供給 93.8	22.ごみの減量 91.0	24.川や海の水質 90.5	10.地域での防災の取組 90.3	18.医療体制 89.1
桑名・員弁	44.飲料水の供給 93.2	22.ごみの減量 92.0	18.医療体制 90.8	24.川や海の水質 90.3	10.地域での防災の取組 90.1
四日市	44.飲料水の供給 95.8	10.地域での防災の取組 92.8	22.ごみの減量 92.8	13.防犯 90.4	4.青少年の健全育成 89.9
鈴鹿・亀山	44.飲料水の供給 93.5	12.交通安全 91.4	13.防犯 90.4	10.地域での防災の取組 89.8	24.川や海の水質 89.5
伊賀	44.飲料水の供給 93.8	22.ごみの減量 92.3	24.川や海の水質 91.9	18.医療体制 90.8	10.地域での防災の取組 90.7
津・久居	44.飲料水の供給 94.8	25.川や海の水質浄化 90.7	22.ごみの減量 90.1	12.交通安全 89.3	10.地域での防災の取組 89.1
松阪・紀勢	44.飲料水の供給 93.1	25.川や海の水質浄化 91.7	13.防犯 91.3	22.ごみの減量 91.2	10.地域での防災の取組 90.0
伊勢志摩	44.飲料水の供給 92.0	25.川や海の水質浄化 90.7	22.ごみの減量 89.6	11.災害対策 89.3	10.地域での防災の取組 88.9
尾鷲	44.飲料水の供給 93.5	11.災害対策 91.2	24.川や海の水質 91.2	18.医療体制 91.0	31.雇用 91.0
熊野	44.飲料水の供給 90.6	11.災害対策 89.7	18.医療体制 89.7	10.地域での防災の取組 88.6	31.雇用 87.9

下段の数字は重要意識(「重要」「どちらかといえば重要」と答えた人の率の計)



圏域別重要意識一覧

項目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	90.6	87.8	88.8	86.7	90.6	85.8	90.4	87.4	81.2
02. 生涯学習	85.1	80.6	83.1	76.1	82.9	82.4	81.4	76.2	75.4
03. 学校教育	89.2	87.9	89.9	88.5	87.9	86.6	89.7	85.7	83.6
04. 青少年の健全育成	90.1	91.6	91.9	88.5	90.4	88.6	91.2	89.4	87.3
05. 高等教育機関	71.5	73.1	72.4	66.3	75.7	70.6	73.6	70.9	74.7
06. 市民活動	60.9	66.8	67.1	65.0	67.6	64.1	65.6	67.5	65.0
07. 文化・芸術	62.5	62.5	63.7	57.0	67.8	62.0	61.2	63.3	61.8
08. 歴史・文化遺産	68.2	72.6	68.4	68.7	75.1	68.8	70.5	72.6	74.5
09. スポーツ・レクリエーション	73.8	71.6	75.1	72.5	71.5	70.8	75.7	69.7	71.2
10. 地域での防災の取組	90.4	92.1	90.6	89.1	90.5	91.0	93.6	88.5	87.9
11. 災害対策	89.5	91.8	90.3	89.1	91.5	89.5	92.0	86.0	88.8
12. 交通安全	91.3	92.6	92.8	91.3	90.1	92.5	93.1	86.2	88.1
13. 防犯	94.4	93.3	93.0	92.7	93.8	94.7	95.6	90.5	89.6
14. 食の安全	91.5	91.3	92.1	89.2	90.8	89.0	92.7	86.5	89.5
15. 高齢者・障害者の社会参加	79.4	78.3	79.1	84.5	83.6	83.7	78.6	78.5	79.4
16. 保健予防体制	81.5	86.7	87.9	86.9	88.4	88.8	89.4	87.6	86.4
17. 子育て環境	84.0	83.7	86.8	88.5	85.8	86.7	87.9	84.3	84.7
18. 医療体制	90.2	92.3	92.0	94.5	92.5	93.8	94.0	90.5	92.0
19. 福祉サービス	83.4	88.2	85.7	90.0	87.5	87.5	89.9	85.1	89.0
20. 自然環境との共生	81.5	83.1	81.2	83.1	82.5	82.8	85.2	79.8	82.2
21. 希少な生物	68.8	67.0	68.2	70.3	71.5	63.7	66.4	67.0	61.8
22. ごみの減量	87.5	89.0	85.9	84.7	86.8	86.0	87.4	82.6	86.8
23. きれいな空気	89.0	91.5	92.4	90.2	90.4	92.3	93.0	88.5	90.3
24. 川や海の水質	89.0	92.9	91.3	92.4	90.8	92.5	93.2	88.8	92.3
25. 地球温暖化防止	85.5	89.2	89.7	86.7	86.2	87.3	90.0	83.7	87.1
26. 農林水産業の振興	69.3	71.1	72.2	69.1	73.1	75.3	77.5	78.1	76.2
27. 産業振興	72.1	69.0	73.1	70.8	72.2	73.3	78.3	73.9	74.2
28. 観光	64.6	69.3	74.6	71.0	75.5	75.0	80.9	74.3	81.4
29. 技術開発	66.7	69.3	70.8	67.0	71.1	69.7	70.3	67.5	70.7
30. 地域商工業	74.7	79.7	80.7	76.1	79.5	78.9	80.9	80.1	82.7
31. 雇用	87.3	88.8	89.0	88.9	87.1	89.7	90.7	87.4	87.6
32. 職業能力開発	77.3	76.7	77.1	76.7	76.6	74.8	78.3	75.6	75.7
33. 国際化	60.9	63.0	68.2	61.2	65.7	59.0	63.3	58.5	57.1
34. 広域交流・連携	66.8	68.3	69.5	66.8	67.0	66.2	71.9	70.3	74.5
35. 情報ネットワーク	68.4	67.0	68.2	67.4	70.3	69.4	67.2	67.2	71.0
36. 高速交通網	70.3	72.1	71.3	67.9	72.7	69.4	72.4	80.4	83.3
37. 道路の整備	74.5	80.3	79.6	77.2	79.9	78.7	79.8	81.8	87.4
38. 公共交通機関	81.7	84.7	81.8	81.4	81.6	78.5	81.4	76.7	81.7
39. 港の整備	48.2	59.8	48.2	45.4	54.7	46.9	55.3	59.4	55.1
40. 快適なまちづくり	80.3	83.4	83.6	80.5	81.6	81.9	82.9	79.0	81.4
41. 農山漁村づくり	61.6	62.2	63.5	64.3	68.7	68.0	71.6	72.6	72.9
42. 過疎地域等の振興	55.8	55.2	56.1	54.1	63.5	58.9	66.7	70.0	73.4
43. エネルギー	79.4	81.1	79.2	76.1	80.5	78.7	84.0	76.4	77.7
44. 飲料水の供給	92.1	92.9	92.4	91.4	90.8	91.6	94.1	89.1	91.0

網掛け部分は、各圏域別の上位5項目を示す

圏域別満足意識上位5項目

<平成16年度>

(単位:%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	44.飲料水の供給 51.1	20.自然環境との共生 40.5	18.医療体制 35.1	02.生涯学習 34.7	23.きれいな空気 34.5
桑名・員弁	44.飲料水の供給 51.5	20.自然環境との共生 39.3	02.生涯学習 36.5	14.食の安全 35.3	37.道路の整備 35.1
四日市	44.飲料水の供給 55.2	18.医療体制 39.7	20.自然環境との共生 39.4	01.人権尊重 33.8	36.高速交通網 33.7
鈴鹿・亀山	44.飲料水の供給 47.6	20.自然環境との共生 37.2	02.生涯学習 34.3	14.食の安全 33.0	23.きれいな空気 32.3
伊賀	20.自然環境との共生 47.9	44.飲料水の供給 46.6	23.きれいな空気 42.2	14.食の安全 30.8	01.人権尊重 30.2
津・久居	44.飲料水の供給 46.6	02.生涯学習 46.3	18.医療体制 37.2	14.食の安全 36.2	20.自然環境との共生 35.3
松阪・紀勢	44.飲料水の供給 53.8	18.医療体制 43.3	20.自然環境との共生 41.1	23.きれいな空気 39.2	14.食の安全 38.1
伊勢志摩	44.飲料水の供給 54.0	20.自然環境との共生 44.2	23.きれいな空気 38.8	02.生涯学習 34.4	18.医療体制 34.1
尾鷲	44.飲料水の供給 55.5	20.自然環境との共生 44.9	23.きれいな空気 44.3	14.食の安全 36.4	01.人権尊重 33.4
熊野	44.飲料水の供給 53.8	20.自然環境との共生 50.6	23.きれいな空気 49.8	14.食の安全 35.2	19.福祉サービス 32.5

下段の数字は満足意識(「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)

<平成16年度>

- ・「飲料水の供給」が伊賀を除いた全圏域で第1位となっている。
- ・全体の上位5項目では、「飲料水の供給」「自然環境との共生」が全圏域で、「食の安全」が7圏域で、「きれいな空気」が6圏域で、「医療体制」「生涯学習」が4圏域で、「人権尊重」が3圏域で、それぞれ上位5位までに入っている。
- ・上記以外の項目では、「道路の整備」が桑名・員弁で、「高速交通網」が四日市で、「福祉サービス」が熊野で、それぞれ第5位に入っている。

<平成14年度、平成15年度との比較>

- ・16年度は全ての圏域で新たに「自然環境との共生」が上位5項目に入っている。
- ・全ての圏域で、「飲料水の供給」以外の項目の変動が激しい。

< 平成15年度 >

( 単位 : % )

生活創造圏	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
県全体	44. 飲料水の供給 32.9	情報ネットワークの整備 24.6	8. 歴史・文化遺産 23.6	9. スポーツ・レクリエーション 21.3	22. ごみの減量 20.1
桑名・員弁	44. 飲料水の供給 31.8	8. 歴史・文化遺産 22.0	9. スポーツ・レクリエーション 21.9	情報ネットワークの整備 21.8	22. ごみの減量 21.6
四日市	44. 飲料水の供給 35.5	情報ネットワークの整備 26.6	22. ごみの減量 18.7	8. 歴史・文化遺産 17.4	9. スポーツ・レクリエーション 17.4
鈴鹿・亀山	44. 飲料水の供給 32.7	9. スポーツ・レクリエーション 31.8	8. 歴史・文化遺産 24.5	22. ごみの減量 22.8	情報ネットワークの整備 20.6
伊賀	44. 飲料水の供給 29.2	情報ネットワークの整備 27.5	8. 歴史・文化遺産 26.8	22. ごみの減量 20.9	9. スポーツ・レクリエーション 19.0
津・久居	44. 飲料水の供給 31.9	情報ネットワークの整備 22.0	8. 歴史・文化遺産 21.8	9. スポーツ・レクリエーション 19.1	37. 道路の整備 18.4
松阪・紀勢	44. 飲料水の供給 31.0	8. 歴史・文化遺産 30.1	情報ネットワークの整備 28.7	9. スポーツ・レクリエーション 21.3	37. 道路の整備 21.1
伊勢志摩	44. 飲料水の供給 35.6	情報ネットワークの整備 25.5	8. 歴史・文化遺産 24.4	22. ごみの減量 22.6	9. スポーツ・レクリエーション 21.4
尾鷲	44. 飲料水の供給 35.4	8. 歴史・文化遺産 30.7	保健福祉サービス 25.1	22. ごみの減量 24.4	情報ネットワークの整備 22.2
熊野	44. 飲料水の供給 36.3	8. 歴史・文化遺産 29.6	9. スポーツ・レクリエーション 26.4	22. ごみの減量 26.1	情報ネットワークの整備 23.4

下段の数字は満足意識(「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)

< 平成 14 年度 >

( 単位 : % )

生活創造圏	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
県全体	44. 飲料水の供給 30.6	8. 歴史・文化遺産 26.5	9. スポーツ・レクリエーション 23.2	情報ネットワークの整備 21.6	37. 道路の整備 19.5
桑名・員弁	44. 飲料水の供給 31.8	37. 道路の整備 22.6	9. スポーツ・レクリエーション 22.6	8. 歴史・文化遺産 21.7	22. ごみの減量 20.3
四日市	44. 飲料水の供給 31.7	8. 歴史・文化遺産 23.1	自然に親しむ場の整備 23.1	情報ネットワークの整備 22.9	9. スポーツ・レクリエーション 21.3
鈴鹿・亀山	9. スポーツ・レクリエーション 30.2	44. 飲料水の供給 29.5	8. 歴史・文化遺産 25.4	情報ネットワークの整備 20.9	37. 道路の整備 20.6
伊賀	8. 歴史・文化遺産 33.5	44. 飲料水の供給 26.6	9. スポーツ・レクリエーション 24.6	情報ネットワークの整備 23.4	1. 人権尊重 23.4
津・久居	44. 飲料水の供給 30.3	8. 歴史・文化遺産 24.3	情報ネットワークの整備 23.1	2. 生涯学習 20.5	9. スポーツ・レクリエーション 20.1
松阪・紀勢	8. 歴史・文化遺産 35.0	44. 飲料水の供給 32.9	9. スポーツ・レクリエーション 23.4	情報ネットワークの整備 22.6	12. 交通安全 20.1
伊勢志摩	44. 飲料水の供給 29.3	8. 歴史・文化遺産 25.0	2. 生涯学習 24.1	9. スポーツ・レクリエーション 23.7	37. 道路の整備 19.3
尾鷲	44. 飲料水の供給 34.0	8. 歴史・文化遺産 27.7	保健福祉サービス 25.2	16. 保健予防体制 23.0	情報ネットワークの整備 21.4
熊野	44. 飲料水の供給 34.8	8. 歴史・文化遺産 29.1	情報ネットワークの整備 27.9	9. スポーツ・レクリエーション 25.5	保健福祉サービス 24.0

下段の数字は満足意識(「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)

「保健福祉サービス」「福祉に関わる人材の確保」については、平成15年度はそれぞれ独立の項目であったが、平成16年度は統合し「19.福祉サービス」という新項目になっている。

「自然に親しむ場の整備」については、平成10年度～平成15年度まで独立の項目であったが、平成16年度「自然環境の保全」と統合し「自然環境との共生」という新項目になっている。

「情報ネットワークの整備」については、平成10年度～平成15年度まで独立の項目であったが、平成16年度は「情報教育」と統合し「35.情報ネットワーク」という新項目になっている。

## 圏域別満足意識一覧

項目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	31.9	33.8	29.9	30.2	31.0	30.7	31.5	33.4	30.3
02. 生涯学習	36.5	29.9	34.3	27.5	46.3	32.9	34.4	28.0	23.1
03. 学校教育	15.2	17.9	16.6	12.0	20.1	17.0	15.3	19.1	18.1
04. 青少年の健全育成	10.7	12.8	11.4	11.1	13.1	11.4	13.4	13.7	14.4
05. 高等教育機関	10.5	13.3	12.4	8.6	13.4	12.9	11.6	9.8	10.7
06. 市民活動	17.4	19.2	18.4	19.3	18.2	14.6	17.5	19.0	19.6
07. 文化・芸術	13.3	19.4	19.8	12.7	27.1	18.0	18.1	15.1	14.7
08. 歴史・文化遺産	26.0	29.7	28.9	28.1	28.6	32.2	28.7	33.0	29.8
09. スポーツ・レクリエーション	25.3	26.6	31.7	18.7	26.2	27.6	28.2	16.5	27.3
10. 地域での防災の取組	19.2	19.7	15.7	14.7	17.3	15.4	15.0	23.8	19.3
11. 災害対策	24.8	20.7	16.4	17.6	19.0	19.5	14.0	20.7	18.3
12. 交通安全	24.9	22.0	20.1	19.6	22.3	22.2	19.9	22.4	25.8
13. 防犯	15.2	14.6	12.8	18.4	16.4	18.2	19.9	28.5	23.4
14. 食の安全	35.3	30.7	33.0	30.8	36.2	38.1	33.8	36.4	35.2
15. 高齢者、障害者の社会参加	19.4	20.0	18.6	20.8	19.5	20.9	17.3	19.9	21.8
16. 保健予防体制	26.2	28.9	23.7	21.1	25.4	29.5	28.7	32.8	26.3
17. 子育て環境	23.4	23.8	20.0	18.9	21.5	24.5	26.1	22.4	17.8
18. 医療体制	32.8	39.7	31.8	29.0	37.2	43.3	34.1	17.1	22.9
19. 福祉サービス	25.3	22.8	18.8	25.5	25.4	27.6	25.1	31.9	32.5
20. 自然環境との共生	39.3	39.4	37.2	47.9	35.3	41.1	44.2	44.9	50.6
21. 希少な生物	12.9	15.9	13.9	15.5	13.1	14.0	11.1	14.2	12.4
22. ごみの減量	20.4	21.7	23.5	21.5	23.0	27.5	24.8	24.3	30.3
23. きれいな空気	32.3	24.1	32.3	42.2	33.7	39.2	38.8	44.3	49.8
24. 川や海の水質	20.4	18.2	18.6	19.1	17.5	21.7	21.9	24.7	31.3
25. 地球温暖化防止	13.8	10.2	13.5	13.7	12.9	15.1	11.4	14.0	16.9
26. 農林水産業の振興	6.8	6.9	11.2	4.9	7.5	8.3	6.7	6.4	6.4
27. 産業振興	15.2	16.8	18.8	9.3	13.4	16.7	11.4	5.9	5.7
28. 観光	20.4	19.9	25.6	20.7	20.8	25.1	14.7	13.7	18.8
29. 技術開発	7.2	9.9	10.0	5.3	7.0	10.5	7.5	4.2	5.9
30. 地域商工業	7.7	6.6	9.6	5.7	4.8	4.9	5.4	2.8	4.5
31. 雇用	8.9	10.0	10.7	6.4	5.5	7.4	4.9	1.9	3.0
32. 職業能力開発	6.1	9.2	10.1	4.8	8.3	8.6	7.3	2.3	6.0
33. 国際化	5.4	8.7	9.4	6.8	10.1	8.8	5.2	5.4	4.2
34. 広域交流・連携	8.9	11.0	8.7	8.5	7.4	9.9	6.4	7.0	6.7
35. 情報ネットワーク	27.7	30.7	29.4	28.2	25.6	30.3	27.7	22.1	20.4
36. 高速交通網	34.7	33.7	24.4	21.9	30.6	30.1	21.5	10.6	7.0
37. 道路の整備	35.1	32.0	28.0	23.9	30.5	32.9	26.1	15.4	13.1
38. 公共交通機関	27.8	27.6	18.9	17.5	26.2	18.9	18.9	9.5	10.7
39. 港の整備	8.2	18.4	8.1	7.1	8.6	8.0	9.6	8.9	6.9
40. 快適なまちづくり	18.2	17.7	17.7	12.2	16.9	19.4	16.8	9.5	13.9
41. 農山漁村づくり	7.5	9.0	9.6	7.6	7.2	10.3	8.3	5.3	7.2
42. 過疎地域等の振興	6.3	5.9	4.7	4.2	4.6	7.1	5.4	4.2	3.9
43. エネルギー	7.3	11.0	11.4	8.5	15.1	9.9	8.0	6.2	6.2
44. 飲料水の供給	51.5	55.2	47.6	46.6	46.6	53.8	54.0	55.5	53.8

網掛け部分は、各圏域別の上位5項目を示す

圏域別不満意識上位5項目

<平成16年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	31.雇用 53.6	30.地域商工業 49.1	13.防犯 42.8	12.交通安全 42.4	38.公共交通機関 41.4
桑名・員弁	13.防犯 47.1	31.雇用 43.1	4.青少年の健全育成 37.7	12.交通安全 37.7	38.公共交通機関 35.6
四日市	30.地域商工業 51.1	31.雇用 49.6	13.防犯 47.5	12.交通安全 44.2	25.川や海の水質 42.9
鈴鹿・亀山	13.防犯 48.7	31.雇用 47.5	38.公共交通機関 45.5	30.地域商工業 45.3	12.交通安全 43.3
伊賀	31.雇用 57.2	30.地域商工業 47.6	38.公共交通機関 45.4	12.交通安全 44.4	18.医療体制 42.6
津・久居	31.雇用 53.9	30.地域商工業 51.8	12.交通安全 41.8	13.防犯 39.9	38.公共交通機関 38.3
松阪・紀勢	31.雇用 55.4	30.地域商工業 48.1	12.交通安全 45.8	38.公共交通機関 44.3	13.防犯 41.8
伊勢志摩	31.雇用 64.3	30.地域商工業 57.6	38.公共交通機関 44.7	4.青少年の健全育成 43.2	12.交通安全 42.2
尾鷲	31.雇用 65.3	30.地域商工業 61.9	36.高速交通網 59.1	38.公共交通機関 55.2	18.医療体制 53.2
熊野	36.高速交通網 70.0	31.雇用 66.5	37.道路の整備 63.1	30.地域商工業 56.1	38.公共交通機関 55.3

下段の数字は不満意識(「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計)

<平成16年度>

- ・「雇用」が全圏域で上位2位までに入っており、5圏域で第1位となっている。その他では、「地域商工業」「公共交通機関」が8圏域で、「交通安全」が7圏域で、「防犯」が5圏域で、「高速交通網」「医療体制」「青少年の健全育成」が2圏域で、それぞれ第5位までに入っている。
- ・上記以外の項目では、「川や海の水質」が四日市で第5位に、「道路の整備」が熊野で第3位に入っている。
- ・圏域別でみると、尾鷲や熊野では「高速交通網」がそれぞれ第3位、第1位と不満項目の上位としてあげられており、不満意識が他圏域に比べ高くなっている。
- ・尾鷲や熊野では、不満意識が50%を超えているものがそれぞれ6項目あり、他の圏域に比べ不満意識は高くなっている。

<平成14年度・平成15年度との比較>

- ・桑名・員弁、四日市、鈴鹿・亀山の県北部で、「防犯」の順位があがってきている。
- ・伊勢志摩、尾鷲では3年連続「雇用」が1位を占めている。
- ・熊野では3年連続「高速交通網」が1位となっており、「道路整備」についても常に上位を占めている。
- ・桑名・員弁では「青少年の健全育成」の順位があがってきている。

< 平成15年度 >

( 単位 : % )

生活創造圏	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
県全体	31. 雇用 47.8	30. 地域商工業 42.8	18. 医療体制 41.2	13. 防犯 39.1	40. 快適なまちづくり 37.6
桑名・員弁	31. 雇用 40.7	13. 防犯 40.7	18. 医療体制 37.4	30. 地域商工業 35.9	4. 青少年の健全育成 35.6
四日市	30. 地域商工業 47.7	31. 雇用 46.9	40. 快適なまちづくり 44.4	13. 防犯 41.7	18. 医療体制 41.7
鈴鹿・亀山	31. 雇用 45.6	18. 医療体制 43.2	13. 防犯 40.2	40. 快適なまちづくり 38.7	30. 地域商工業 37.8
伊賀	18. 医療体制 46.5	38. 公共交通機関 46.1	31. 雇用 44.8	37. 道路の整備 40.3	3. 学校教育 38.3
津・久居	31. 雇用 46.9	30. 地域商工業 43.2	13. 防犯 38.5	22. ごみの減量 38.2	24. 川や海の水質 37.8
松阪・紀勢	31. 雇用 51.6	30. 地域商工業 44.3	18. 医療体制 42.5	13. 防犯 40.4	40. 快適なまちづくり 24. 川や海の水質 40.2
伊勢志摩	31. 雇用 53.3	30. 地域商工業 46.9	24. 川や海の水質 41.7	18. 医療体制 40.0	22. ごみの減量 28. 観光 38.6
尾鷲	31. 雇用 58.1	30. 地域商工業 51.6	41. 農山漁村づくり 50.9	36. 高速交通網 47.6	37. 道路の整備 44.8
熊野	36. 高速交通網 59.7	37. 道路の整備 57.2	31. 雇用 56.9	38. 公共交通機関 51.3	41. 農山漁村づくり 50.0

下段の数字は満足意識(「満足」「どちらかといえば満足」と答えた人の率の計)

< 平成 14 年度 >

( 単位 : % )

生活創造圏	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
県全体	31. 雇用 47.2	24. 川や海の水質 46.1	40. 快適なまちづくり 44.3	18. 医療体制 43.1	30. 地域商工業 43.0
桑名・員弁	24. 川や海の水質 45.3	31. 雇用 44.7	30. 地域商工業 43.6	38. 公共交通機関 42.8	40. 快適なまちづくり 42.4
四日市	40. 快適なまちづくり 45.5	22. ごみの減量 44.7	18. 医療体制 44.7	31. 雇用 44.6	24. 川や海の水質 44.2
鈴鹿・亀山	31. 雇用 46.8	18. 医療体制 46.8	24. 川や海の水質 45.5	13. 防犯 43.6	40. 快適なまちづくり 42.2
伊賀	31. 雇用 49.2	40. 快適なまちづくり 46.7	18. 医療体制 43.2	38. 公共交通機関 43.0	24. 川や海の水質 42.4
津・久居	40. 快適なまちづくり 49.0	24. 川や海の水質 48.8	31. 雇用 46.8	22. ごみの減量 46.2	30. 地域商工業 46.0
松阪・紀勢	24. 川や海の水質 50.6	31. 雇用 47.6	40. 快適なまちづくり 42.5	41. 農山漁村づくり 40.7	22. ごみの減量 40.1
伊勢志摩	31. 雇用 49.0	30. 地域商工業 49.0	24. 川や海の水質 46.0	41. 農山漁村づくり 44.9	28. 観光 43.6
尾鷲	31. 雇用 55.2	41. 農山漁村づくり 54.8	18. 医療体制 52.5	24. 川や海の水質 49.0	36. 高速交通網 45.5
熊野	36. 高速交通網 61.2	37. 道路の整備 57.5	31. 雇用 55.4	41. 農山漁村づくり 52.8	42. 過疎地域等の振興 48.9

下段の数字は不満足意識(「不満」「どちらかといえば不満」と答えた人の率の計)

## 圏域別不満意識一覧

項目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	16.6	16.9	14.3	17.6	17.3	16.6	19.9	18.4	18.4
02. 生涯学習	23.0	22.0	18.1	24.4	14.0	20.5	24.3	25.2	30.0
03. 学校教育	26.2	30.4	28.3	32.3	28.4	27.7	29.5	26.9	29.6
04. 青少年の健全育成	37.7	39.3	41.3	40.2	37.9	37.6	43.2	37.8	31.7
05. 高等教育機関	17.8	19.7	15.7	20.6	18.6	16.3	17.1	25.2	24.1
06. 市民活動	17.1	15.9	11.2	15.8	16.4	15.2	18.9	14.8	15.9
07. 文化・芸術	29.7	22.0	22.2	27.1	19.0	22.8	25.9	33.6	33.5
08. 歴史・文化遺産	13.8	11.0	10.3	9.5	14.3	12.7	13.2	14.0	15.7
09. スポーツ・レクリエーション	28.1	27.7	21.5	32.4	27.6	27.8	29.0	38.3	26.3
10. 地域での防災の取組	29.0	28.9	30.1	31.2	33.7	32.5	38.3	30.5	34.5
11. 災害対策	17.8	23.0	20.7	22.6	23.8	23.0	31.0	31.6	32.3
12. 交通安全	37.7	44.2	43.3	44.4	41.8	45.8	42.2	31.1	36.5
13. 防犯	47.1	47.5	48.7	40.0	39.9	41.8	39.8	25.2	30.6
14. 食の安全	20.6	23.2	21.0	21.3	19.4	21.7	22.2	16.3	18.6
15. 高齢者・障害者の社会参加	15.7	17.6	14.8	17.1	14.6	18.0	16.3	15.7	17.1
16. 保健予防体制	12.2	15.1	11.9	13.5	12.5	14.0	12.9	11.8	14.9
17. 子育て環境	23.2	23.0	24.9	27.5	23.0	23.6	25.9	24.0	25.8
18. 医療体制	28.8	25.1	28.9	42.6	27.4	28.6	33.9	53.2	51.7
19. 福祉サービス	15.7	21.2	22.1	22.9	24.1	21.7	22.0	15.7	22.3
20. 自然環境との共生	12.2	17.9	16.4	11.0	16.4	16.1	14.4	14.3	9.4
21. 希少な生物	10.5	12.6	9.4	11.5	14.0	14.2	14.4	14.0	10.7
22. ごみの減量	28.3	32.2	26.5	29.9	29.1	31.4	29.2	22.4	21.3
23. きれいな空気	23.2	35.6	23.5	18.0	18.8	21.9	20.2	15.1	14.4
24. 川や海の水質	32.7	42.9	38.1	35.0	37.6	38.7	38.5	38.9	32.5
25. 地球温暖化防止	27.4	34.6	29.8	26.1	25.2	30.5	30.0	29.4	21.9
26. 農林水産業の振興	15.2	19.2	18.8	27.5	23.2	26.8	26.4	39.5	33.0
27. 産業振興	16.4	20.5	15.9	23.5	22.7	20.4	30.2	42.0	38.2
28. 観光	12.6	21.7	17.5	15.1	24.1	17.6	37.0	25.2	27.6
29. 技術開発	11.9	14.3	13.4	16.2	17.3	14.4	19.6	23.3	24.8
30. 地域商工業	35.1	51.1	45.3	47.6	51.8	48.1	57.6	61.9	56.1
31. 雇用	43.1	49.6	47.5	57.2	53.9	55.4	64.3	65.3	66.5
32. 職業能力開発	23.4	26.4	22.9	31.0	25.6	26.5	31.8	35.5	35.0
33. 国際化	15.0	17.1	16.0	16.4	16.0	14.9	13.7	15.9	15.7
34. 広域交流・連携	12.4	12.8	9.2	14.4	13.8	9.9	12.4	15.7	18.7
35. 情報ネットワーク	9.8	10.2	10.8	10.6	10.9	10.3	12.2	17.1	16.6
36. 高速交通網	24.6	25.8	30.9	33.5	24.7	28.8	35.1	59.1	70.0
37. 道路の整備	23.6	29.7	30.3	32.4	31.3	30.8	32.1	50.4	63.1
38. 公共交通機関	35.6	35.0	45.5	45.4	38.3	44.3	44.7	55.2	55.3
39. 港の整備	8.7	7.9	9.8	6.2	13.6	15.5	14.2	23.5	18.3
40. 快適なまちづくり	32.1	29.7	34.9	35.2	34.6	34.9	37.2	40.9	36.5
41. 農山漁村づくり	15.4	15.4	15.9	19.3	23.4	23.9	28.1	40.6	37.2
42. 過疎地域等の振興	14.5	12.3	13.9	17.3	22.6	20.4	24.1	44.6	41.4
43. エネルギー	20.8	23.2	22.9	20.0	22.9	24.3	31.8	30.2	33.0
44. 飲料水の供給	15.5	14.8	16.8	18.2	18.2	16.2	16.3	13.4	14.4

網掛け部分は、各圏域別の上位5項目を示す

圏域別認知意識上位5項目

<平成16年度>

(単位：%)

生活創造圏	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	22.ごみの減量 68.2	02.生涯学習 58.0	01.人権尊重 57.5	19.福祉サービス 56.3	10.地域での防災の取組 55.0
桑名・員弁	22.ごみの減量 72.2	01.人権尊重 61.6	02.生涯学習 59.2	10.地域での防災の取組 57.8	11.災害対策 56.4
四日市	22.ごみの減量 66.5	38.公共交通機関 60.3	37.道路の整備 60.1	19.福祉サービス 57.6	10.地域での防災の取組 57.3
鈴鹿・亀山	22.ごみの減量 64.1	02.生涯学習 57.1	12.交通安全 52.5	29.技術開発 52.5	38.公共交通機関 09.スポーツ・レクリエーション 51.6
伊賀	22.ごみの減量 67.4	01.人権尊重 61.5	19.福祉サービス 59.0	12.交通安全 54.1	29.技術開発 52.7
津・久居	22.ごみの減量 68.7	02.生涯学習 67.6	01.人権尊重 60.6	19.福祉サービス 57.1	12.交通安全 57.1
松阪・紀勢	22.ごみの減量 69.7	01.人権尊重 60.0	02.生涯学習 57.4	08.歴史・文化遺産 56.8	19.福祉サービス 56.5
伊勢志摩	22.ごみの減量 70.0	10.地域での防災の取組 62.8	02.生涯学習 61.5	19.福祉サービス 56.6	11.災害対策 56.6
尾鷲	10.地域での防災の取組 72.5	19.福祉サービス 67.5	11.災害対策 66.9	22.ごみの減量 66.3	37.道路の整備 60.8
熊野	22.ごみの減量 71.0	19.福祉サービス 67.8	10.地域での防災の取組 64.0	11.災害対策 60.3	08.歴史・文化遺産 09.スポーツ・レクリエーション 57.8

下段の数字は認知意識（「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計）

<平成16年度>

- ・尾鷲以外の圏域で「ごみの減量化」が第1位となっており、尾鷲では「地域での防災の取組」が第1位としてあげられている。
- ・全体の上位5項目では、「ごみの減量化」が全圏域で、「福祉サービス」が7圏域で、「生涯学習」「地域での防災の取組」が5圏域で、「人権尊重」「災害対策」が4圏域で、「交通安全」が3圏域で、「道路の整備」「技術開発」「スポーツ・レクリエーション」「公共交通機関」「歴史・文化遺産」が2圏域で、それぞれ上位5位までに入っている。

<平成15年度との比較>

- ・桑名・員弁、鈴鹿・亀山、津・久居、松阪・紀勢で新たに「生涯学習」が上位にあがってきている。
- ・四日市では「交通安全」「人権尊重」が消え、代わりに「公共交通機関」「道路の整備」があがってきている。
- ・鈴鹿・亀山、伊賀で、「技術開発」が上位にあがってきている。



< 平成15年度 >

( 単位 : % )

生活創造圏	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
県全体	22.ごみの減量 68.6	1.人権尊重 59.9	10.地域での防災の取組 58.4	12.交通安全 57.6	保健福祉サービス 56.1
桑名・員弁	22.ごみの減量 68.1	1.人権尊重 59.5	10.地域での防災の取組 55.7	12.交通安全 54.7	保健福祉サービス 54.3
四日市	22.ごみの減量 64.5	12.交通安全 53.8	10.地域での防災の取組 53.5	1.人権尊重 52.4	保健福祉サービス 51.5
鈴鹿・亀山	22.ごみの減量 70.1	10.地域での防災の取組 61.1	12.交通安全 61.1	37.道路の整備 56.3	1.人権尊重 53.4
伊賀	22.ごみの減量 67.9	1.人権尊重 64.7	12.交通安全 59.7	保健福祉サービス 56.5	情報ネットワークの整備 54.4
津・久居	1.人権尊重 64.8	22.ごみの減量 64.0	10.地域での防災の取組 61.5	12.交通安全 59.1	3.学校教育 55.4
松阪・紀勢	22.ごみの減量 71.4	1.人権尊重 68.9	保健福祉サービス 61.2	12.交通安全 60.4	10.地域での防災の取組 57.1
伊勢志摩	23.ごみの減量化 76.4	10.地域での防災の取組 62.9	1.人権尊重 60.9	保健福祉サービス 59.6	2.生涯学習 57.8
尾鷲	22.ごみの減量 75.1	10.地域での防災の取組 72.1	11.災害対策 65.1	保健福祉サービス 62.8	8.歴史・文化遺産 59.6
熊野	22.ごみの減量 68.4	保健福祉サービス 65.1	10.地域での防災の取組 64.1	11.災害対策 62.4	9.スポーツ・レクリエーション 57.8

下段の数字は認知意識（「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と答えた人の率の計）

「保健福祉サービス」については、平成15年度では独立の項目であったが、平成16年度は「福祉に関わる人材の確保」と統合し「19.福祉サービス」という新項目になっている。  
 「情報ネットワークの整備」については、平成10年度～平成15年度まで独立の項目であったが、平成16年度は「情報教育」統合し「35.情報ネットワーク」という新項目になっている。

## 圏域別認知意識一覧

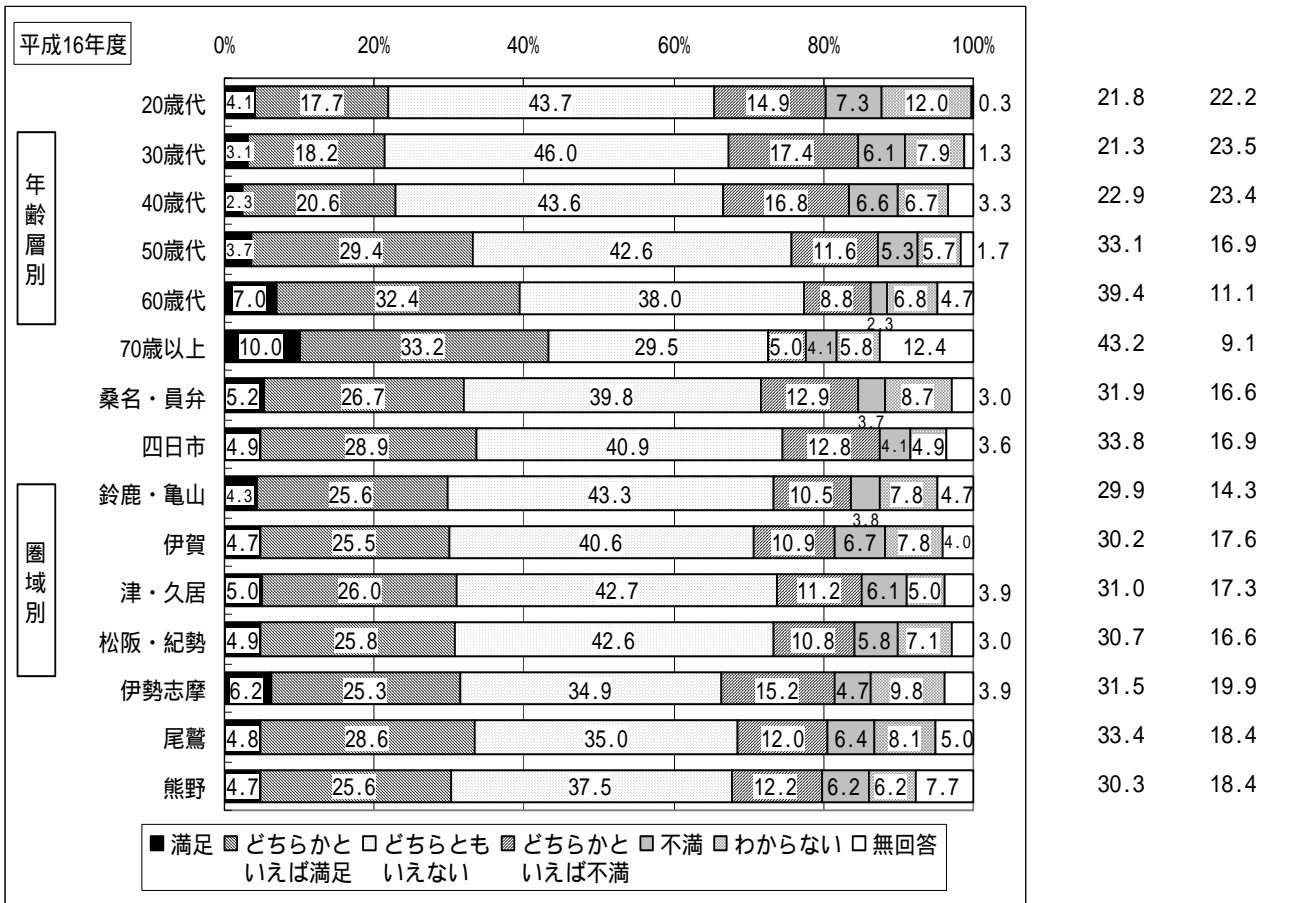
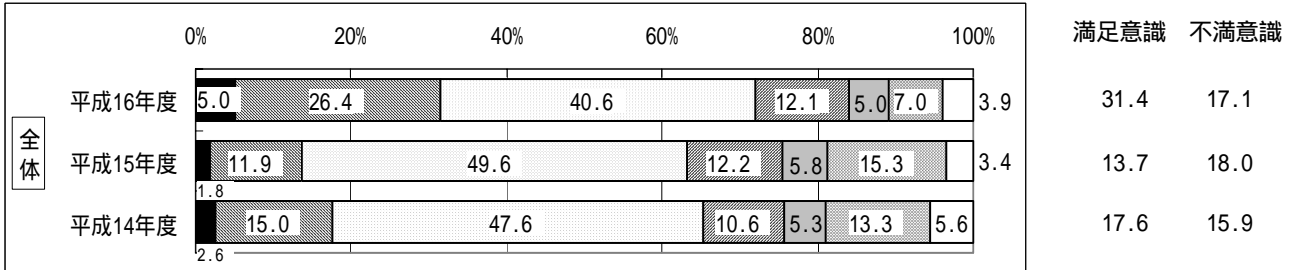
項目	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	伊賀	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	尾鷲	熊野
01. 人権尊重	61.6	56.8	51.2	61.5	60.6	60.0	53.3	56.9	50.3
02. 生涯学習	59.2	51.2	57.1	51.7	67.6	57.4	61.5	56.0	49.6
03. 学校教育	44.0	45.5	46.4	45.0	48.1	44.5	44.2	47.9	41.6
04. 青少年の健全育成	42.8	40.7	40.1	42.8	40.1	40.9	41.9	46.0	45.7
05. 高等教育機関	25.3	26.6	25.6	24.2	27.1	26.5	21.4	19.0	19.4
06. 市民活動	46.6	48.3	47.4	49.2	47.3	45.4	49.1	48.8	54.6
07. 文化・芸術	35.9	43.5	37.9	37.9	44.0	39.6	31.5	34.2	36.5
08. 歴史・文化遺産	44.0	47.1	45.9	51.2	51.0	56.8	46.8	59.4	57.8
09. スポーツ・レクリエーション	46.3	49.6	51.6	46.3	49.3	47.8	51.1	37.6	57.8
10. 地域での防災の取組	57.8	57.3	49.5	45.9	55.6	48.8	62.8	72.5	64.0
11. 災害対策	56.4	51.9	47.1	46.2	48.8	51.4	56.6	66.9	60.3
12. 交通安全	52.3	53.9	52.5	54.1	57.1	54.6	50.7	54.3	53.4
13. 防犯	40.3	41.7	38.8	41.3	40.1	42.6	41.3	44.8	42.7
14. 食の安全	37.7	43.0	41.7	39.7	45.0	46.1	45.5	46.2	43.1
15. 高齢者、障害者の社会参加	45.2	45.5	41.7	49.7	45.3	43.9	45.2	51.3	49.1
16. 保健予防体制	37.5	41.7	36.1	33.7	36.8	40.7	35.9	45.1	40.5
17. 子育て環境	36.3	41.4	37.0	38.6	36.7	40.0	37.4	38.1	33.2
18. 医療体制	38.2	47.4	40.4	42.8	44.0	44.5	43.4	35.6	40.4
19. 福祉サービス	55.3	57.6	47.6	59.0	57.1	56.5	56.6	67.5	67.8
20. 自然環境との共生	40.7	42.7	35.2	41.7	35.5	46.6	40.8	45.1	47.7
21. 希少な生物	22.2	23.8	22.2	25.7	23.6	24.5	20.9	29.7	25.1
22. ごみの減量	72.2	66.5	64.1	67.4	68.7	69.7	70.0	66.3	71.0
23. きれいな空気	37.2	48.6	39.0	38.8	43.5	42.8	42.4	43.1	41.9
24. 川や海の水質	40.0	43.7	37.0	43.3	44.4	43.2	52.7	49.3	42.9
25. 地球温暖化防止	44.5	52.5	41.5	45.2	47.7	50.6	48.4	47.6	46.9
26. 農林水産業の振興	38.0	41.7	39.3	42.2	41.1	41.5	39.3	42.9	40.4
27. 産業振興	16.9	22.5	20.6	20.7	23.0	26.0	22.5	32.8	31.7
28. 観光	28.6	39.7	37.0	28.2	36.1	38.5	35.4	32.5	25.5
29. 技術開発	43.3	48.3	52.5	52.7	49.0	53.8	52.9	54.7	53.8
30. 地域商工業	14.3	26.6	18.8	18.0	20.1	22.2	24.0	18.2	17.4
31. 雇用	24.6	29.4	30.5	27.2	32.7	29.3	30.0	24.1	24.8
32. 職業能力開発	23.7	31.2	26.5	25.5	28.2	33.8	27.4	23.8	27.5
33. 国際化	18.2	27.1	26.9	18.2	21.2	24.1	21.7	17.4	16.6
34. 広域交流・連携	16.6	24.3	24.0	22.6	26.3	22.6	21.9	21.6	15.6
35. 情報ネットワーク	18.5	23.3	21.6	20.8	22.1	21.1	18.9	21.8	24.5
36. 高速交通網	43.8	47.6	43.7	46.8	46.8	42.6	46.2	43.4	44.9
37. 道路の整備	49.9	60.1	43.1	39.2	56.0	49.9	46.3	60.8	55.6
38. 公共交通機関	52.2	60.3	51.6	48.8	55.4	56.4	45.3	55.2	56.8
39. 港の整備	38.9	35.6	28.4	26.8	35.1	29.5	26.1	25.8	33.8
40. 快適なまちづくり	14.0	27.3	12.6	11.8	25.8	17.9	18.6	21.0	16.3
41. 農山漁村づくり	42.1	44.3	35.4	38.4	42.9	48.6	42.4	39.3	39.7
42. 過疎地域等の振興	19.2	18.2	18.6	20.2	24.9	27.8	22.7	25.2	28.8
43. エネルギー	18.1	14.5	18.1	17.8	23.7	28.0	19.4	28.0	30.0
44. 飲料水の供給	30.9	33.8	35.2	35.7	42.2	36.8	31.5	28.9	30.0

網掛け部分は、各圏域別の上位5項目を示す

(5) 個別項目ごとの満足意識 (年齢層別、生活創造圏別)

1) 人権尊重

平成 15 年度までの表現	人権侵害や差別をなくすための取組
平成 16 年度の表現	性別、出身地、障害の有無などによる差別がなく、一人ひとりの人権が尊重され、個性や能力が十分発揮できること。



<平成 16 年度>

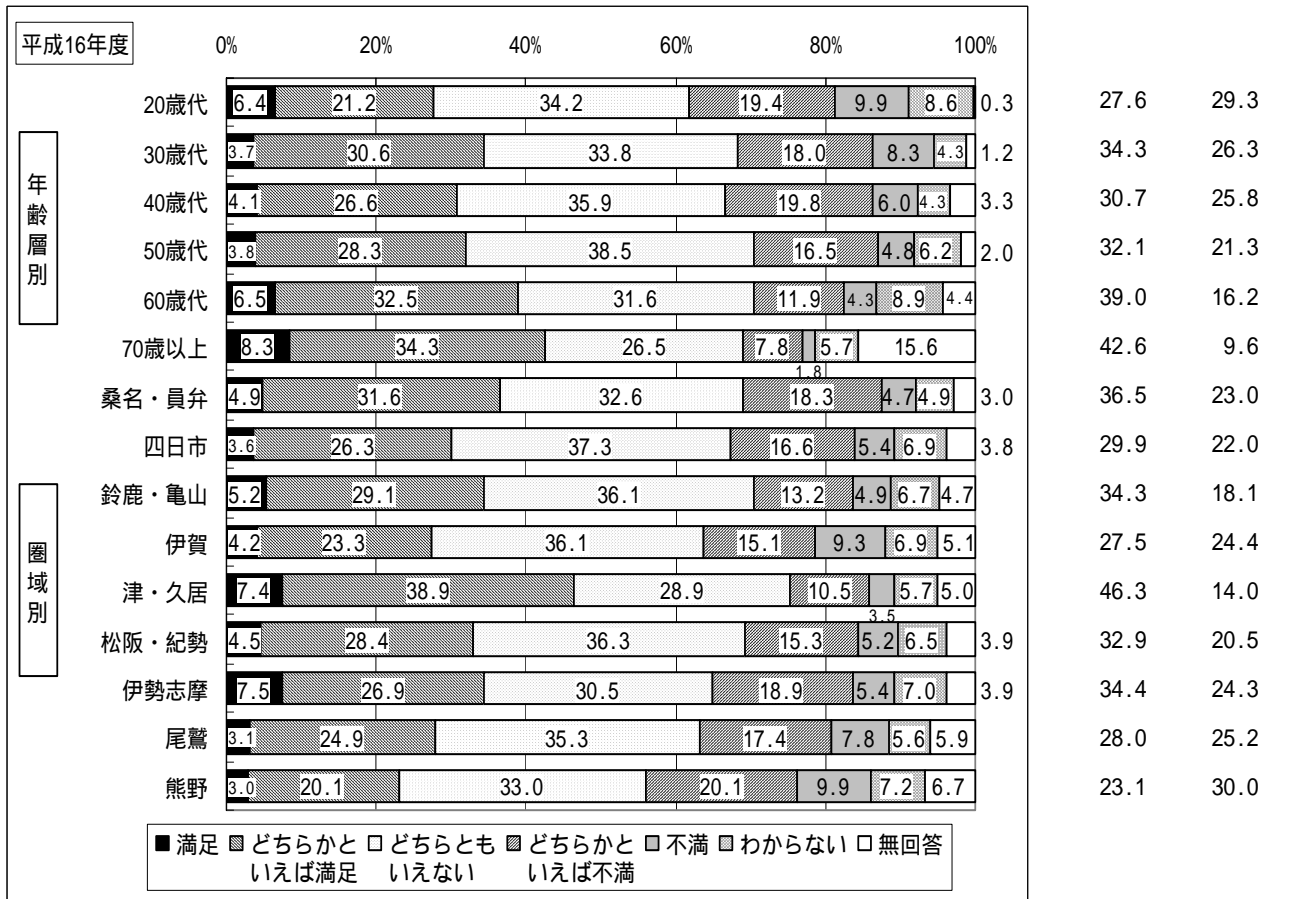
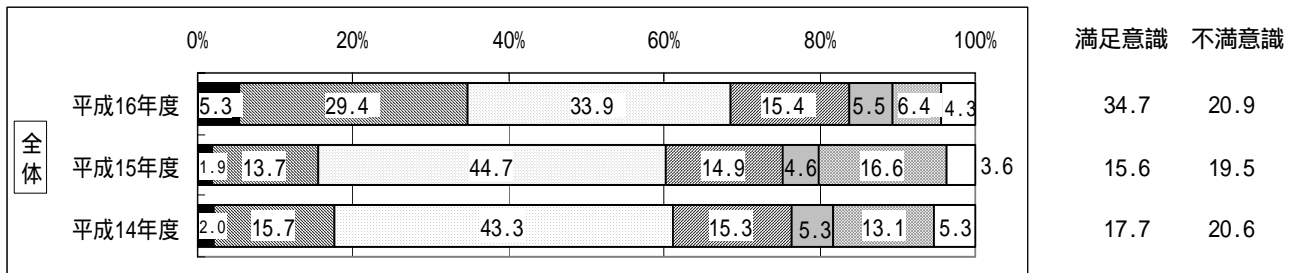
- ・ 年齢層別の不満意識は、30 歳代が 23.5%と最も高く、70 歳以上が 9.1%と最も低くなっている。また、年齢が上がるに従って満足意識が高くなる傾向がみられる。
- ・ 圏域別による満足意識、不満意識の大きな意識の差はみられない。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 13.8 ポイント、15 年度と比べて 17.7 ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、性別、出身地、障害の有無など具体的な内容としたことで、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

## 2) 生涯学習

平成 15 年度までの表現	生涯学習の場と機会の提供
平成 16 年度の表現	誰もが興味や必要に応じて、図書館や博物館、講座などで学ぶことができる環境が整っていること。



### < 平成 16 年度 >

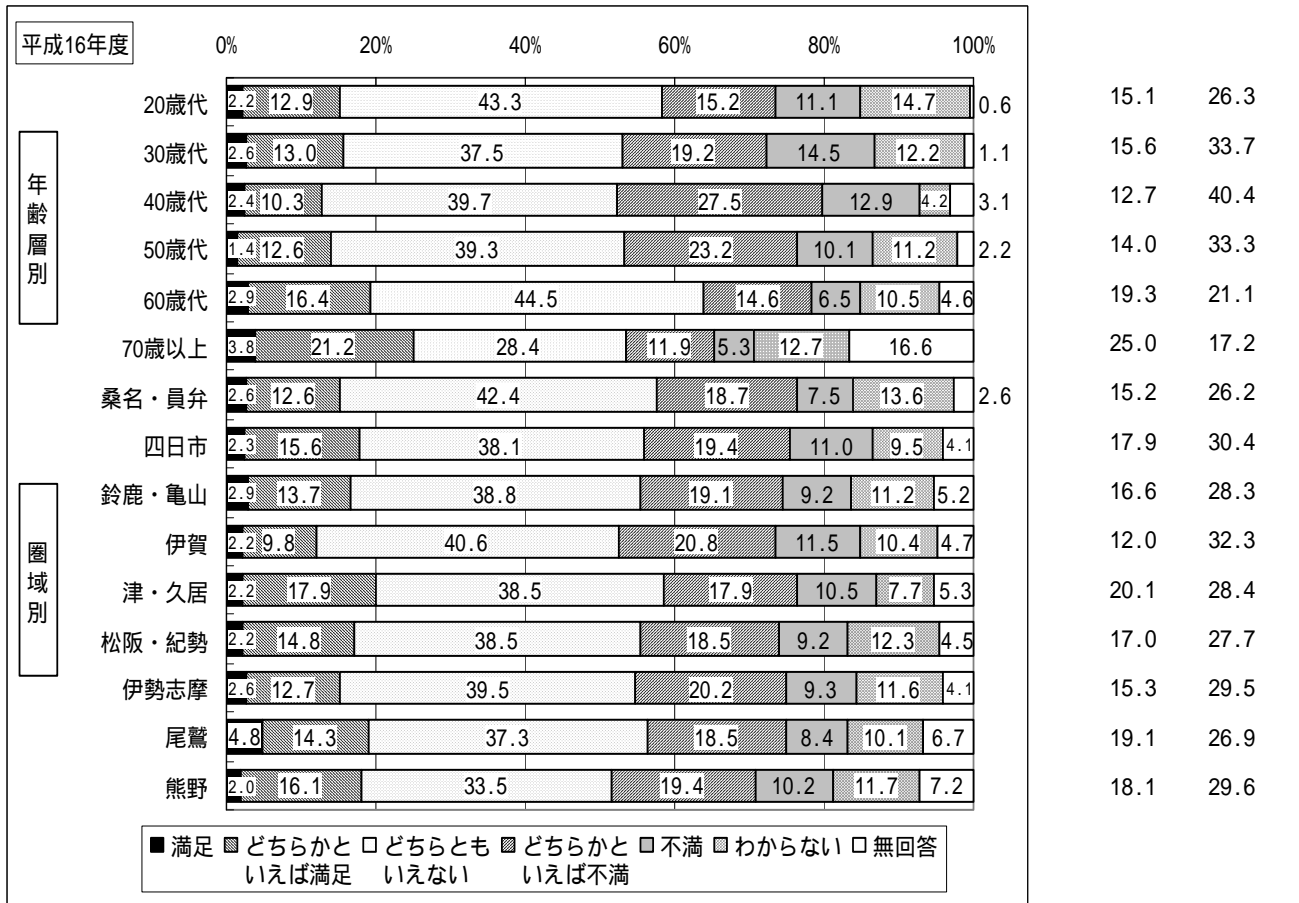
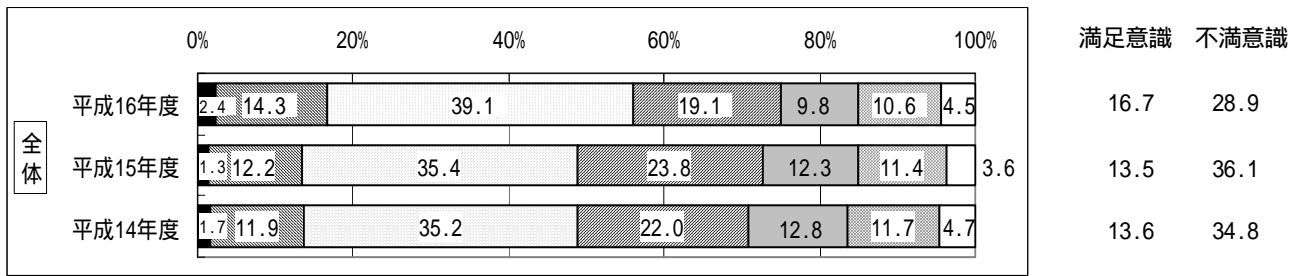
- ・ 年齢層別の不満意識は、20歳代が29.3%と最も高く、年齢が上がるに従って低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野（30.0%）が最も高く、次いで尾鷲（25.2%）、伊賀（24.4%）の順となっている。

### < 平成 14 年度・平成 15 年度との比較 >

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて17.0ポイント、15年度と比べて19.1ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、生涯学習という言葉をやめ、図書館、博物館などの具体的な言葉としたことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

### 3) 学校教育

平成 15 年度までの表現	学校教育への取組
平成 16 年度の表現	児童生徒一人ひとりに基礎・基本の学力が定着し、自ら学び、考え、判断する力が身に付いていること。



#### <平成 16 年度>

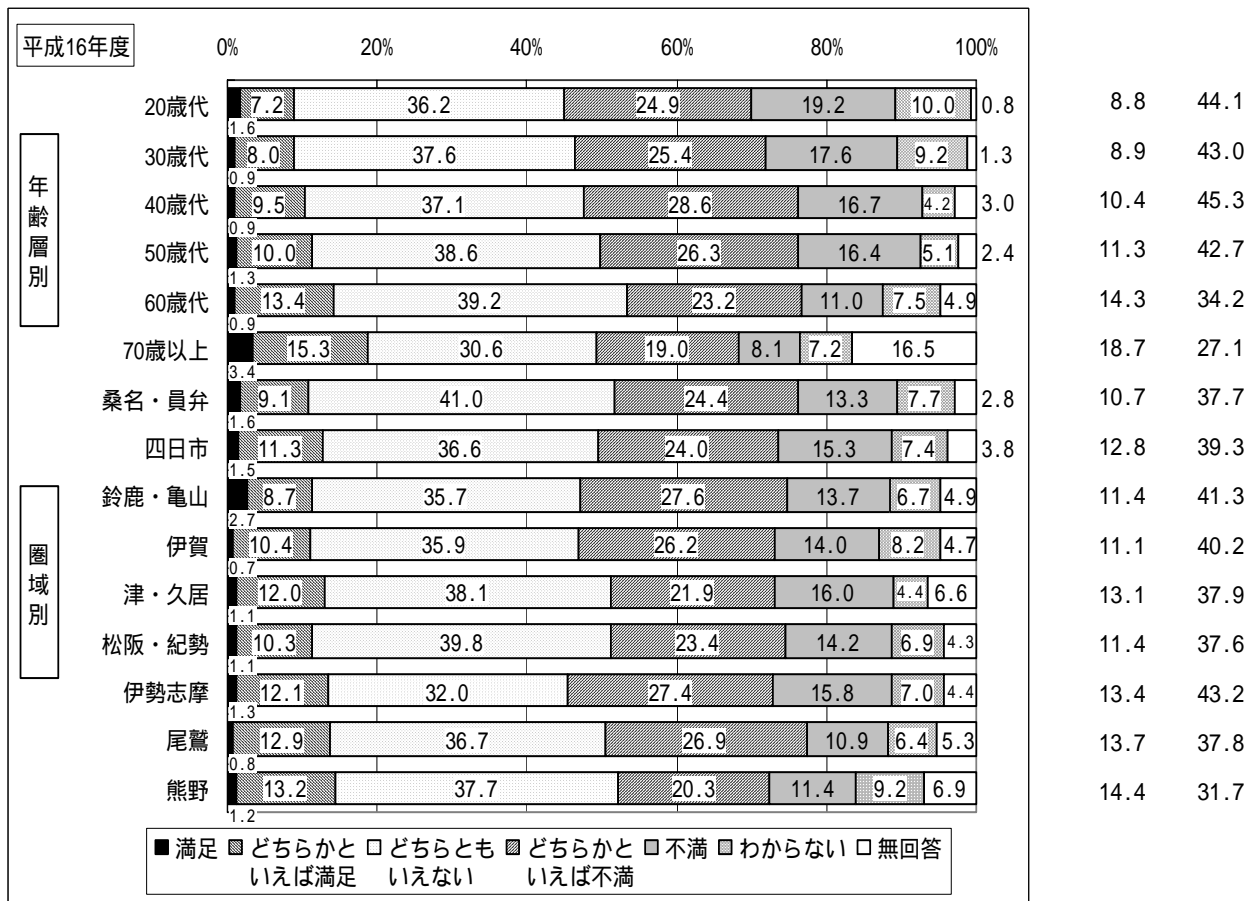
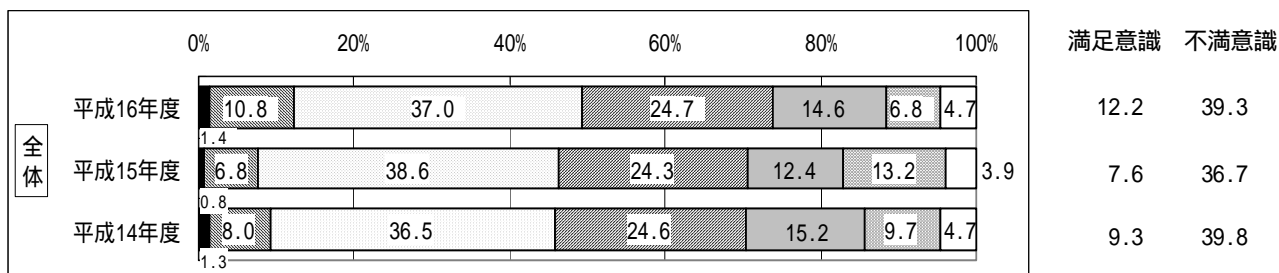
- ・ 年齢層別の不満意識は、40歳代で4割を超え最も高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、伊賀(32.3%)が最も高く、桑名・員弁(26.2%)が最も低くなっている。

#### <平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて3.1ポイント、15年度と比べて3.2ポイント増加している。また、「わからない」は14年度、15年度より減少している。

#### 4) 青少年の健全育成

平成 15 年度までの表現	青少年の健全育成
平成 16 年度の表現	青少年が犯罪や非行に走ることなく、自立性や社会性を身につけ健全に育っていること。



#### <平成 16 年度>

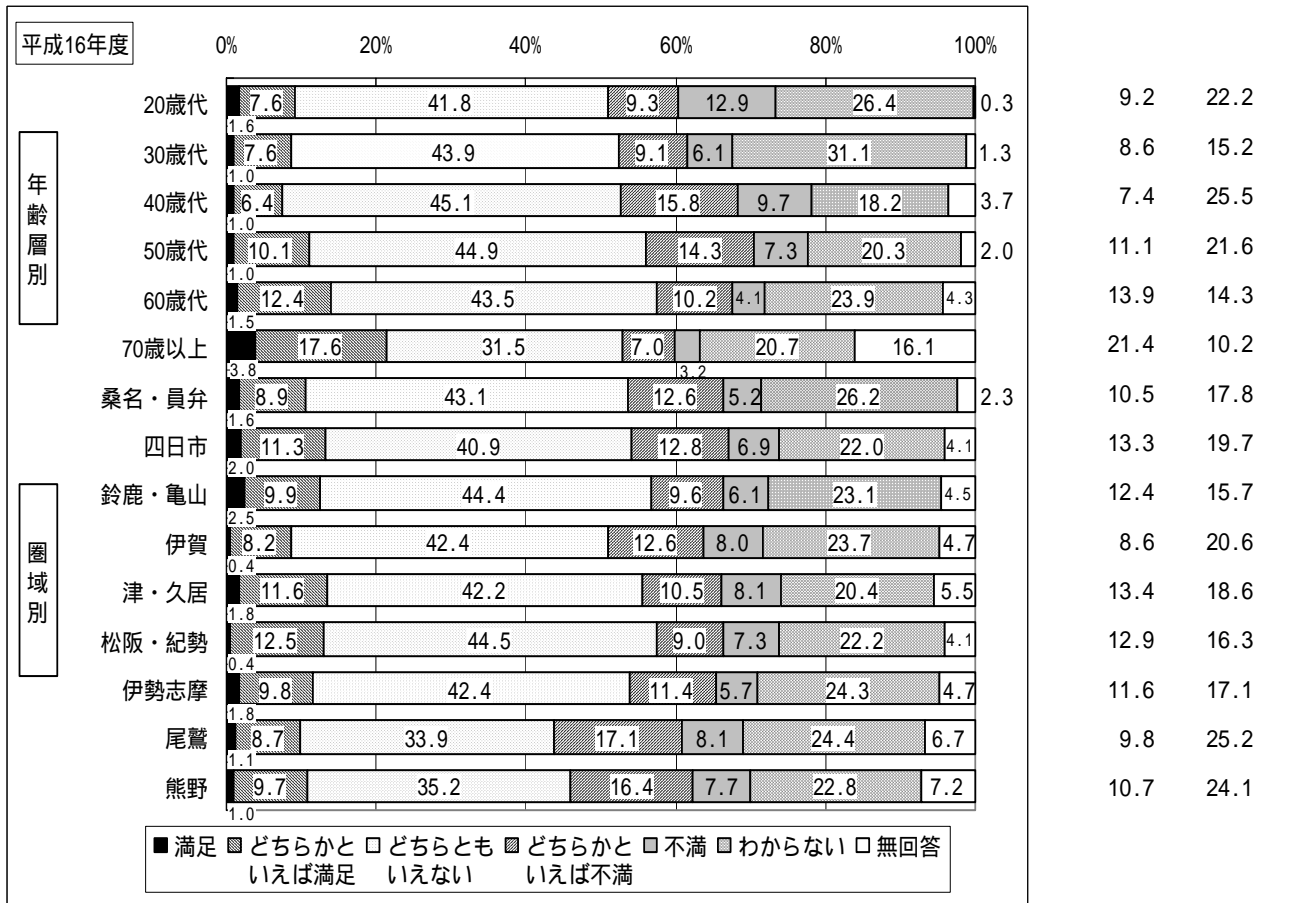
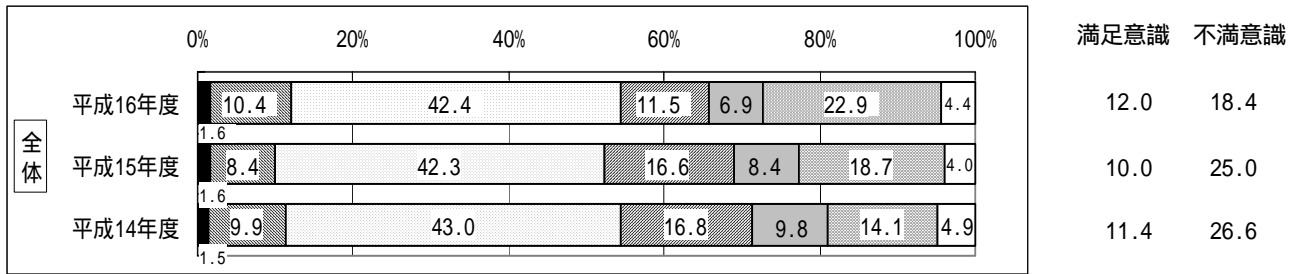
- ・ 年齢層別の不満意識は、50 歳代以下で 4 割を超え高くなっている。
- ・ 圏域別の満足意識に大きな差はみられないが、不満意識では、伊勢志摩が 43.2% で最も高く、熊野が 31.7% で最も低くなっている。

#### <平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 2.9 ポイント、15 年度と比べて 4.6 ポイント増加している。また、「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

5) 高等教育機関

平成 15 年度までの表現	大学などの高等教育機関の充実
平成 16 年度の表現	県内の大学など高等教育機関において、魅力ある教育や研究が行われていること。



<平成 16 年度>

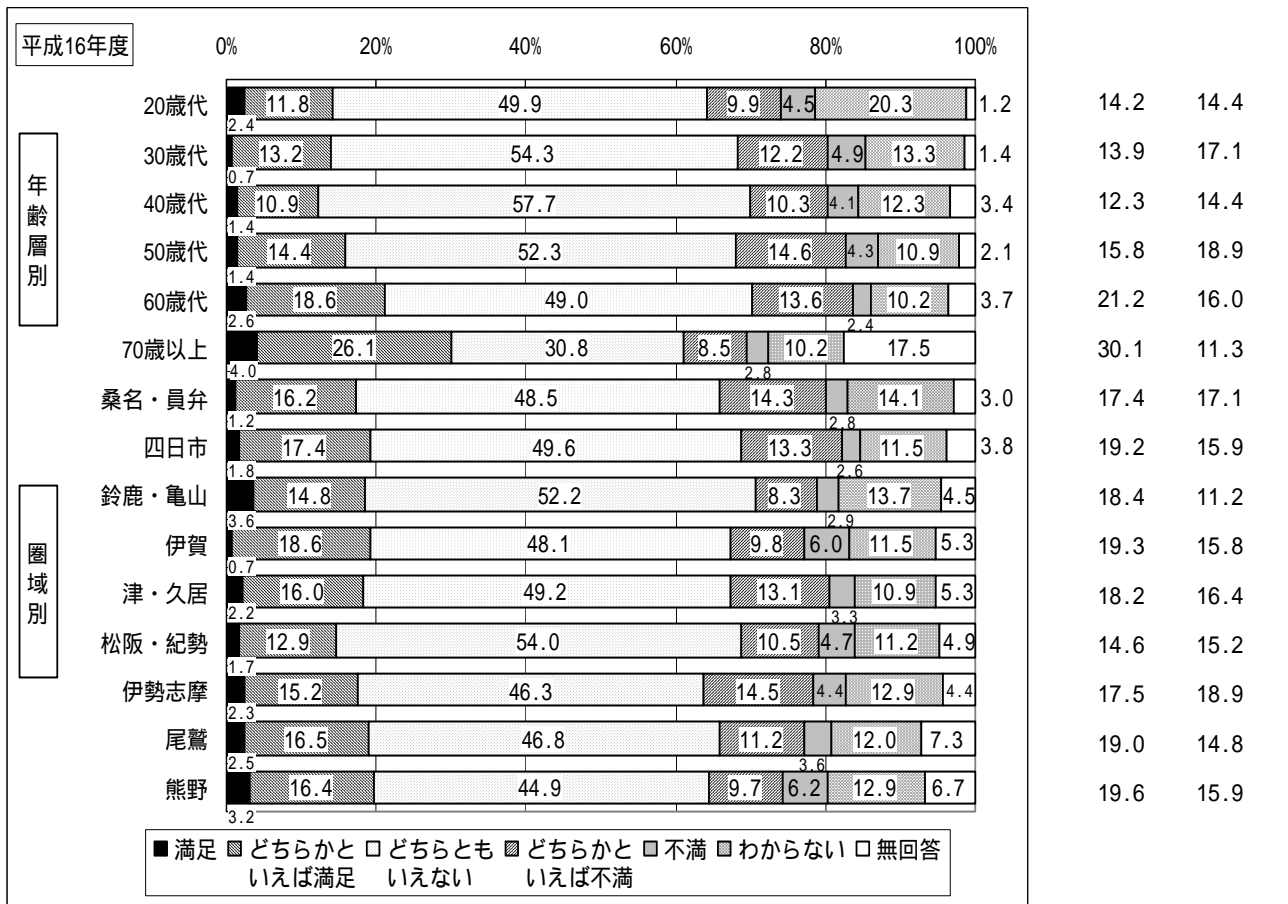
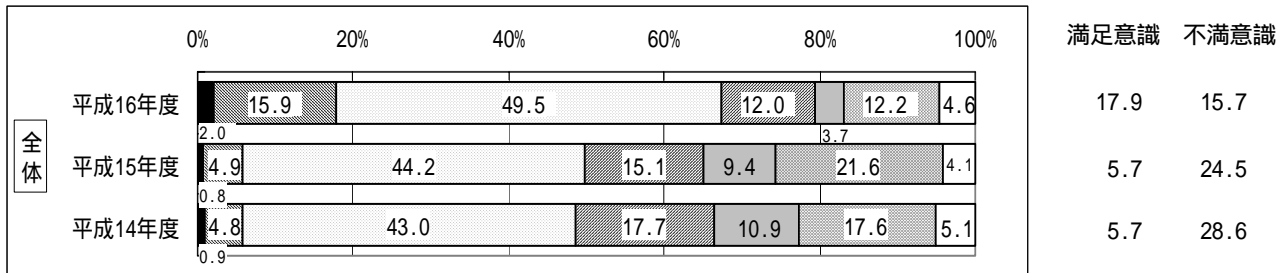
- ・ 年齢層別の不満意識は、40 歳代（25.5%）が最も高く、70 歳以上（10.2%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲（25.2%）が最も高く、鈴鹿・亀山（15.7%）が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 0.6 ポイント、15 年度と比べて 2.0 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より増加している。

6) 市民活動

平成 15 年度までの表現	職場へのボランティア休暇の導入など、住民が市民活動に参加しやすい条件の整備
平成 16 年度の表現	NPOやボランティアなどの活動、自治会やPTA等の地域活動など、様々な社会活動に参加しやすいこと。



<平成 16 年度>

- ・ 年齢層別の不満意識は、50 歳代 (18.9%) が最も高く、70 歳以上 (11.3%) が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、伊勢志摩 (18.9%) が最も高く、鈴鹿・亀山 (11.2%) が最も低くなっている。

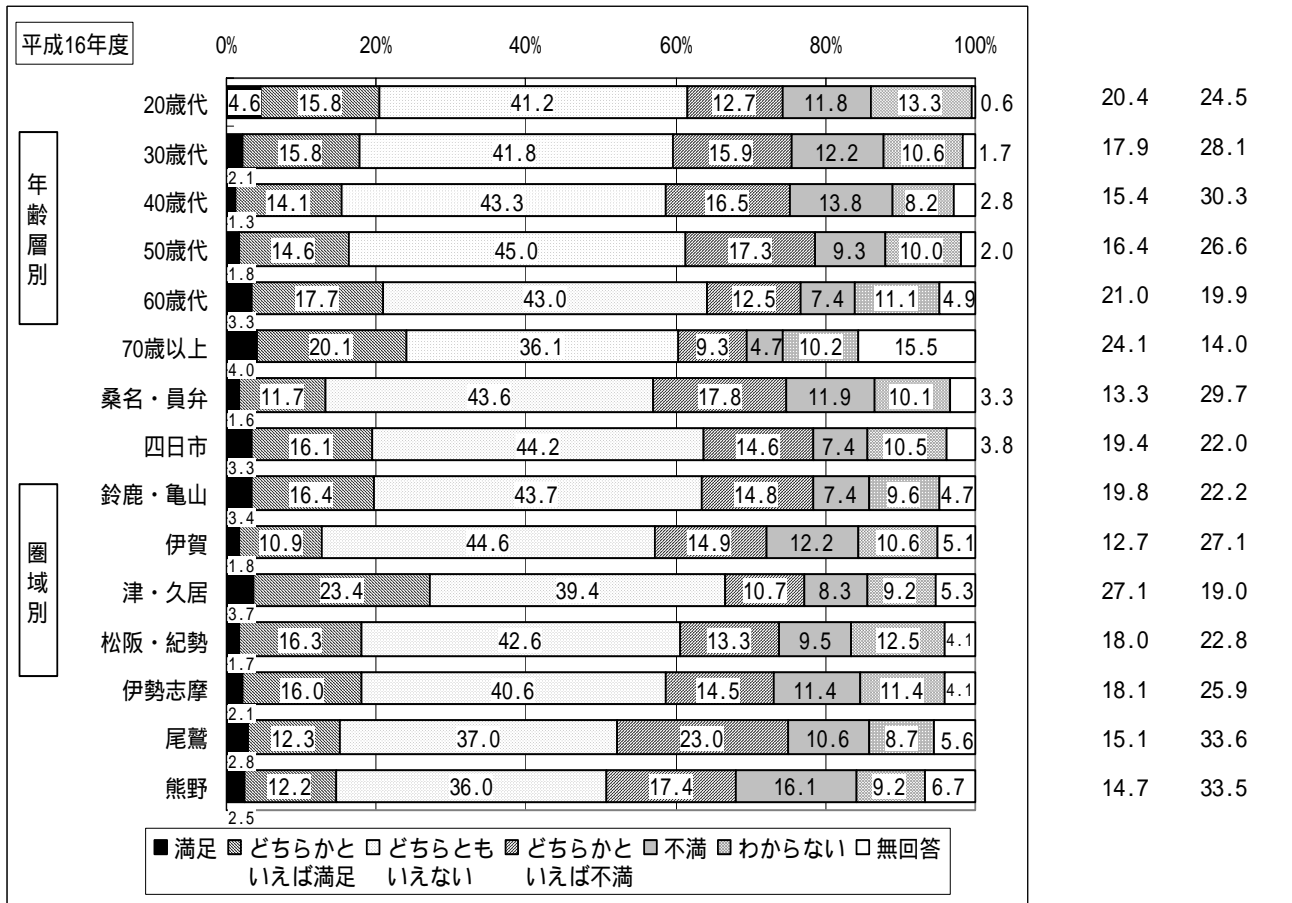
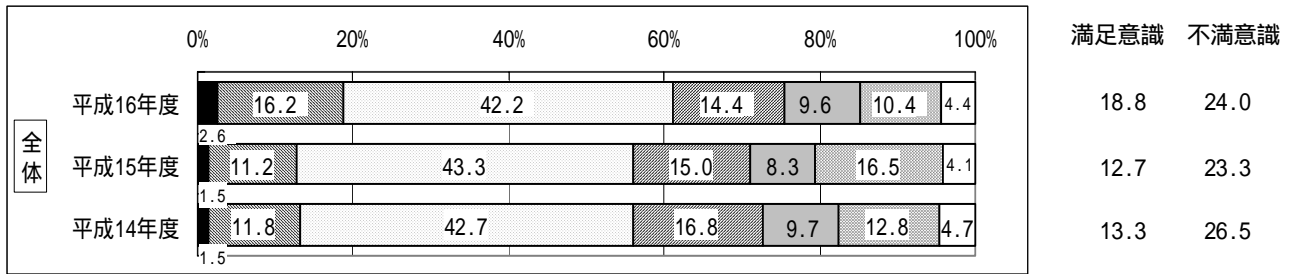
<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度、15 年度と比べて、それぞれ 12.2 ポイントと大きく増加している。また、「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、昨年まで設問中に例示していた「ボランティア休暇の導入」は就業者のみが回答しやすい例示であったが、今年自治会、PTA 等も含めた幅広い活動を例示したことにより、就業者以外にも身近な問題としてとらえやすくなったことが考えられる。



7) 文化・芸術

平成 15 年度までの表現	芸術文化にふれあう機会の提供
平成 16 年度の表現	音楽、美術などの様々な芸術や文化と直接触れ親しめる機会が多いこと。



<平成 16 年度>

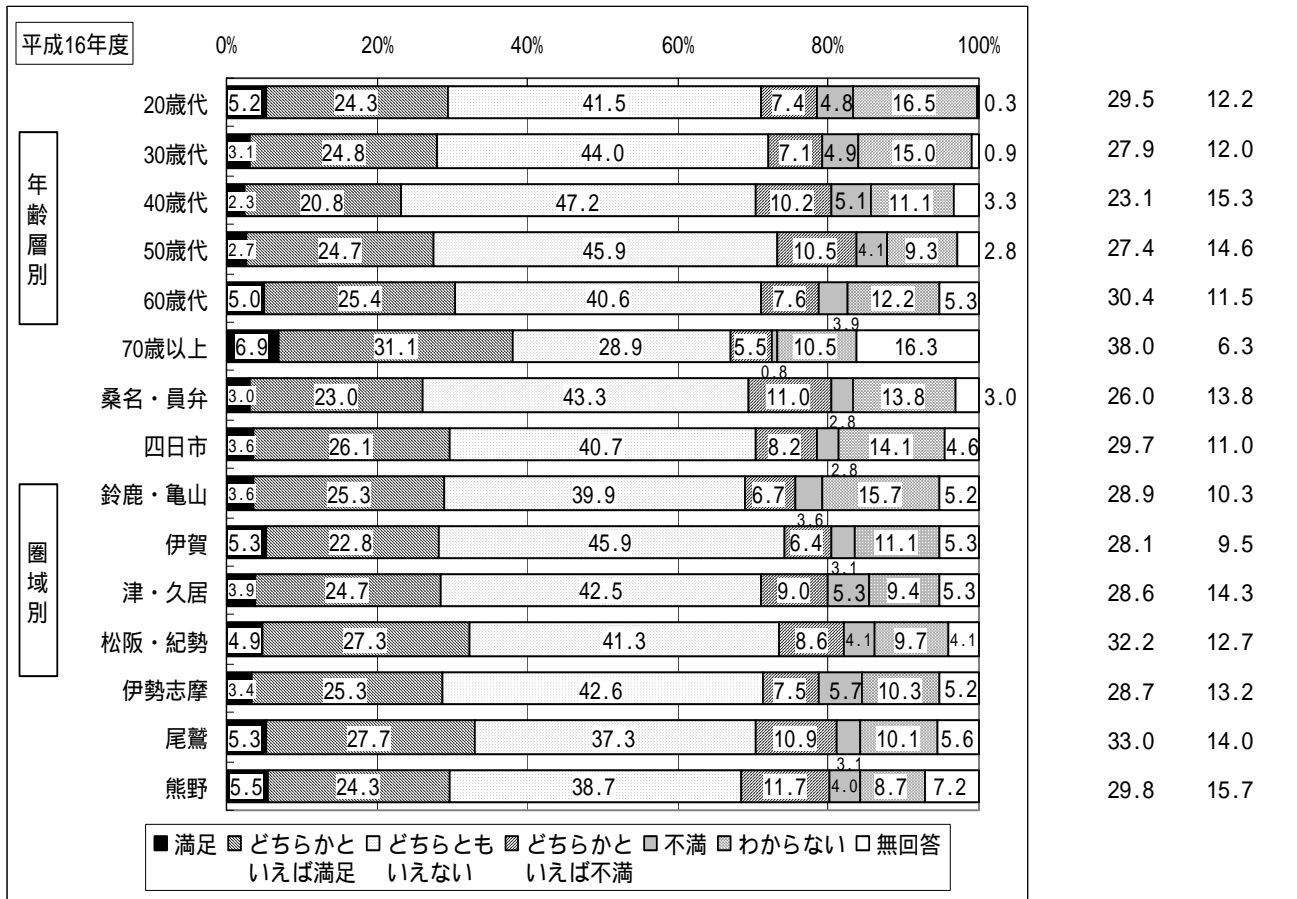
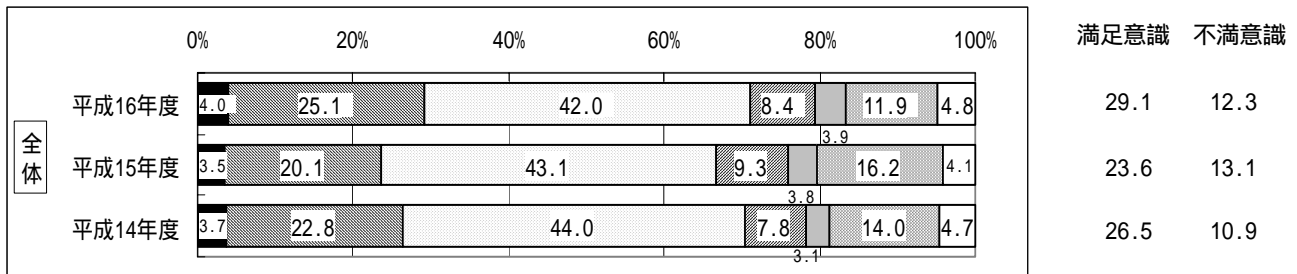
- ・ 年齢層別では、40 歳代の満足意識 (15.4%) が最も低く、不満意識 (30.3%) は最も高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲 (33.6%) が最も高く、次いで熊野 (33.5%)、桑名・員弁 (29.7%) の順となっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 5.5 ポイント、15 年度と比べて 6.1 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、芸術を音楽、美術などと例示したため、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

8) 歴史・文化遺産

平成 15 年度までの表現	文化遺産、史跡、天然記念物などの保存
平成 16 年度の表現	文化財や伝統行事などの様々な文化遺産が守られ、地域づくり等に積極的に活用されていること。



<平成 16 年度>

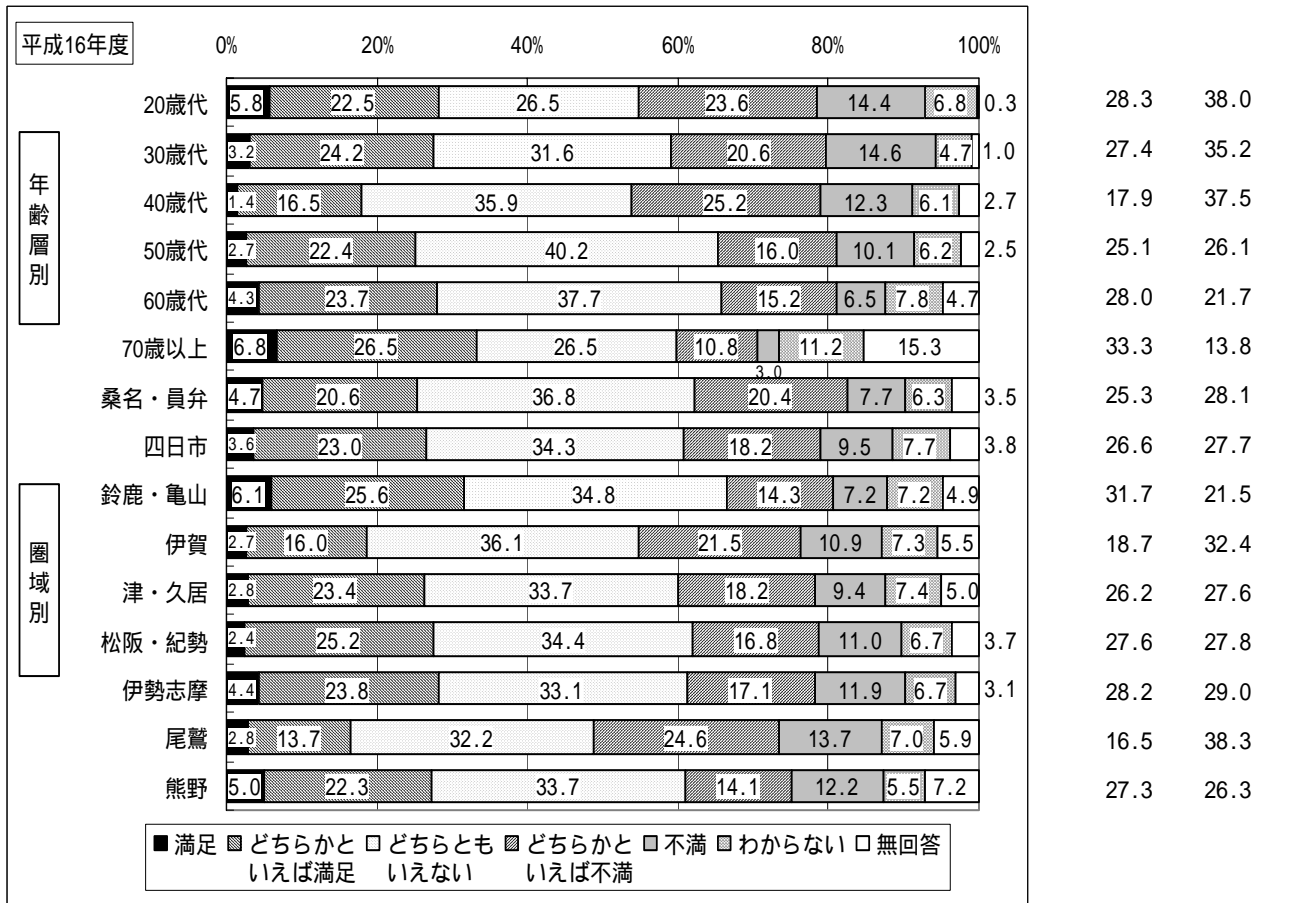
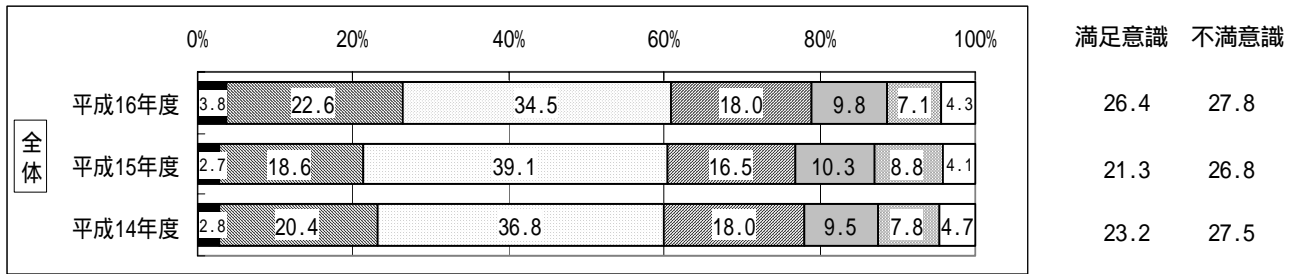
- すべての年齢層及び圏域で満足意識が不満意識を上回っている。また、年齢層別では、70歳以上の満足意識が高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- 全体の満足意識は、14年度と比べて2.6ポイント、15年度と比べて5.5ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は14年度、15年度より減少している。

9) スポーツ・レクリエーション

平成 15 年度までの表現	スポーツ・レクリエーション施設の整備
平成 16 年度の表現	スポーツやレクリエーションを楽しむための機会や施設が充実していること。



<平成 16 年度>

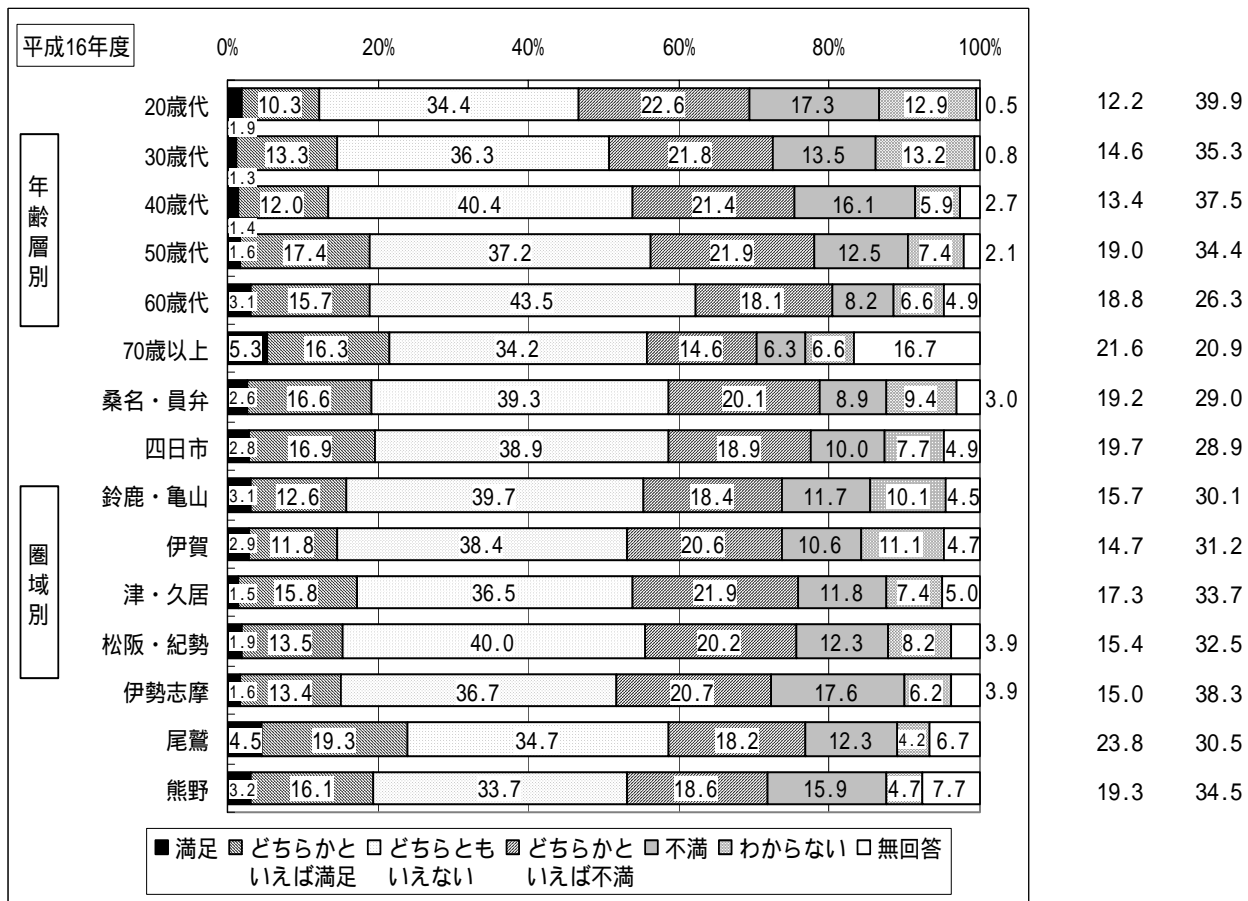
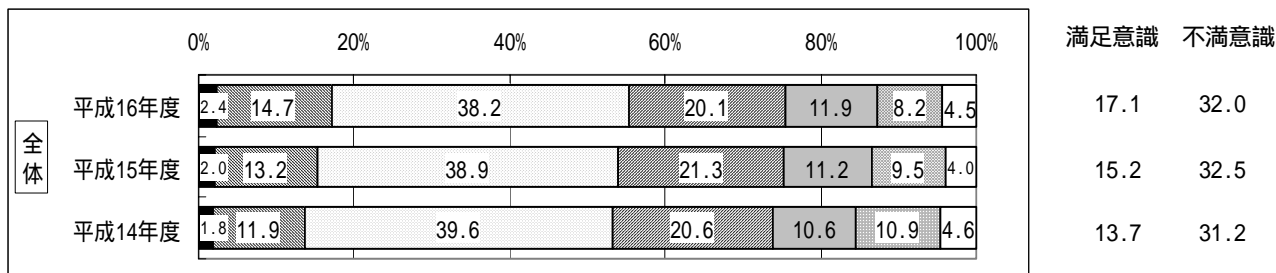
- ・ 年齢層別では、50 歳代以下では不満意識の方が満足意識より高く、60 歳以上では満足意識の方が不満意識より高くなっている。
- ・ 圏域別では、満足意識は鈴鹿・亀山が 31.7%と最も高く、不満意識は尾鷲が 38.3%と最も高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 3.2 ポイント、15 年度と比べて 5.1 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

10) 地域での防災の取組

平成 15 年度までの表現	防災対策への取組
平成 16 年度の表現	地震・津波、風水害などの自然災害に対して地域での自主的な備えができてきていること。



<平成 16 年度>

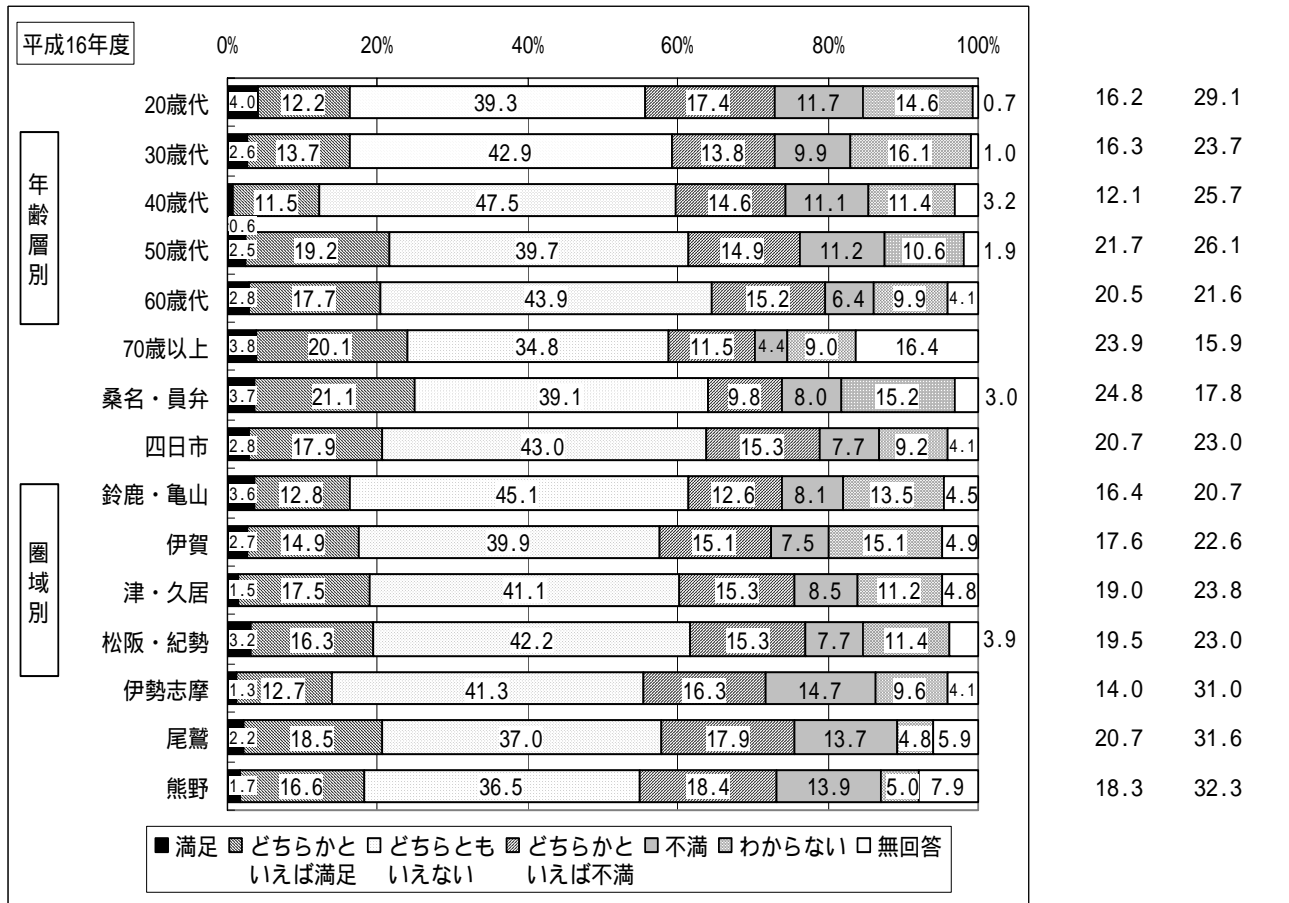
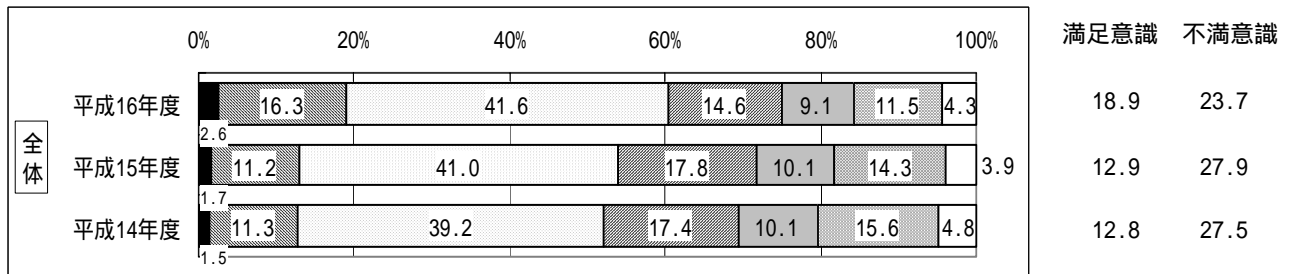
- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代（39.9%）が最も高く、70 歳以上（20.9%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、伊勢志摩（38.3%）が最も高く、四日市（28.9%）が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 3.4 ポイント、15 年度と比べて 1.9 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

11) 災害対策

平成 15 年度までの表現	洪水や高潮、土砂災害などへの対策
平成 16 年度の表現	洪水や高潮、土砂災害などに備える堤防や砂防ダムなどの施設が整備され、自然災害による被害を最小限におさえられること。



<平成 16 年度>

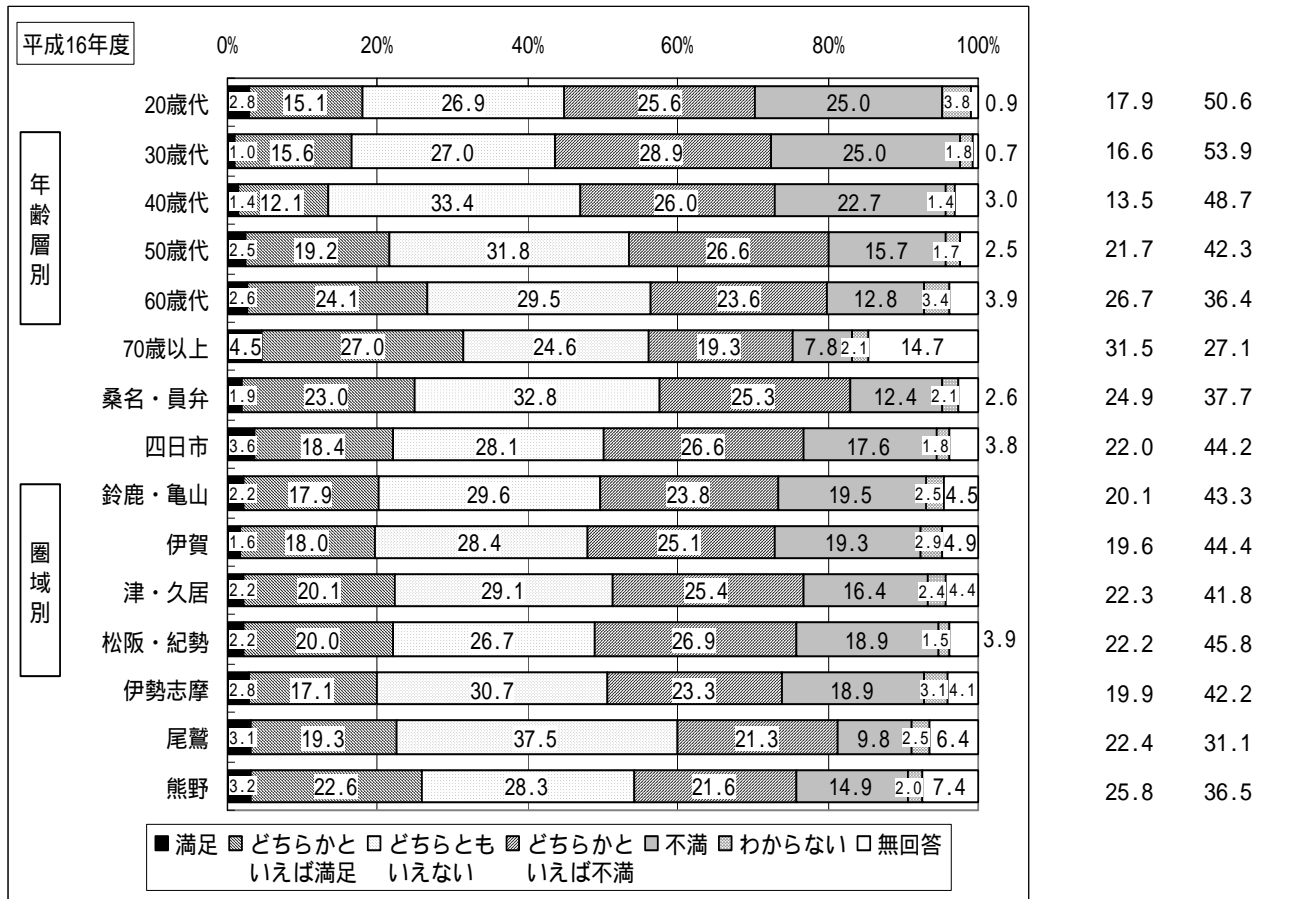
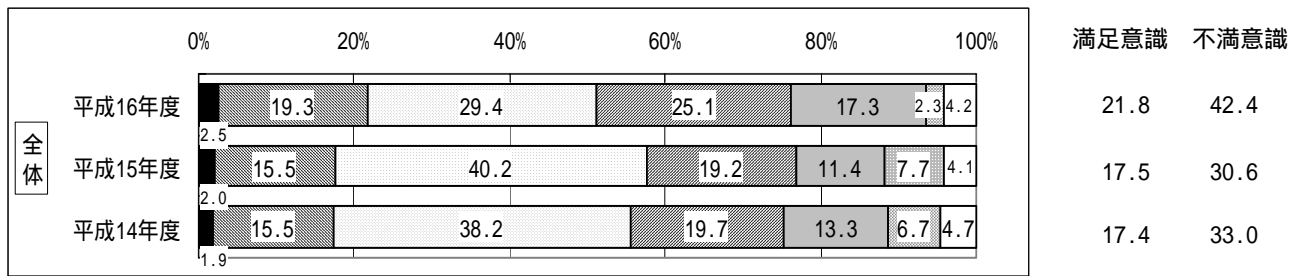
- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代 (29.1%) が最も高く、70 歳以上 (15.9%) が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野 (32.3%) が最も高く、次いで尾鷲(31.6%)、伊勢志摩 (31.0%) の順となっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 6.1 ポイント、15 年度と比べて 6.0 ポイント増加している。また、「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

12) 交通安全

平成 15 年度までの表現	交通安全対策の推進
平成 16 年度の表現	交通ルールが守られ、誰もが安全にかつ安心して道路を通行できる環境になっていること。



<平成 16 年度>

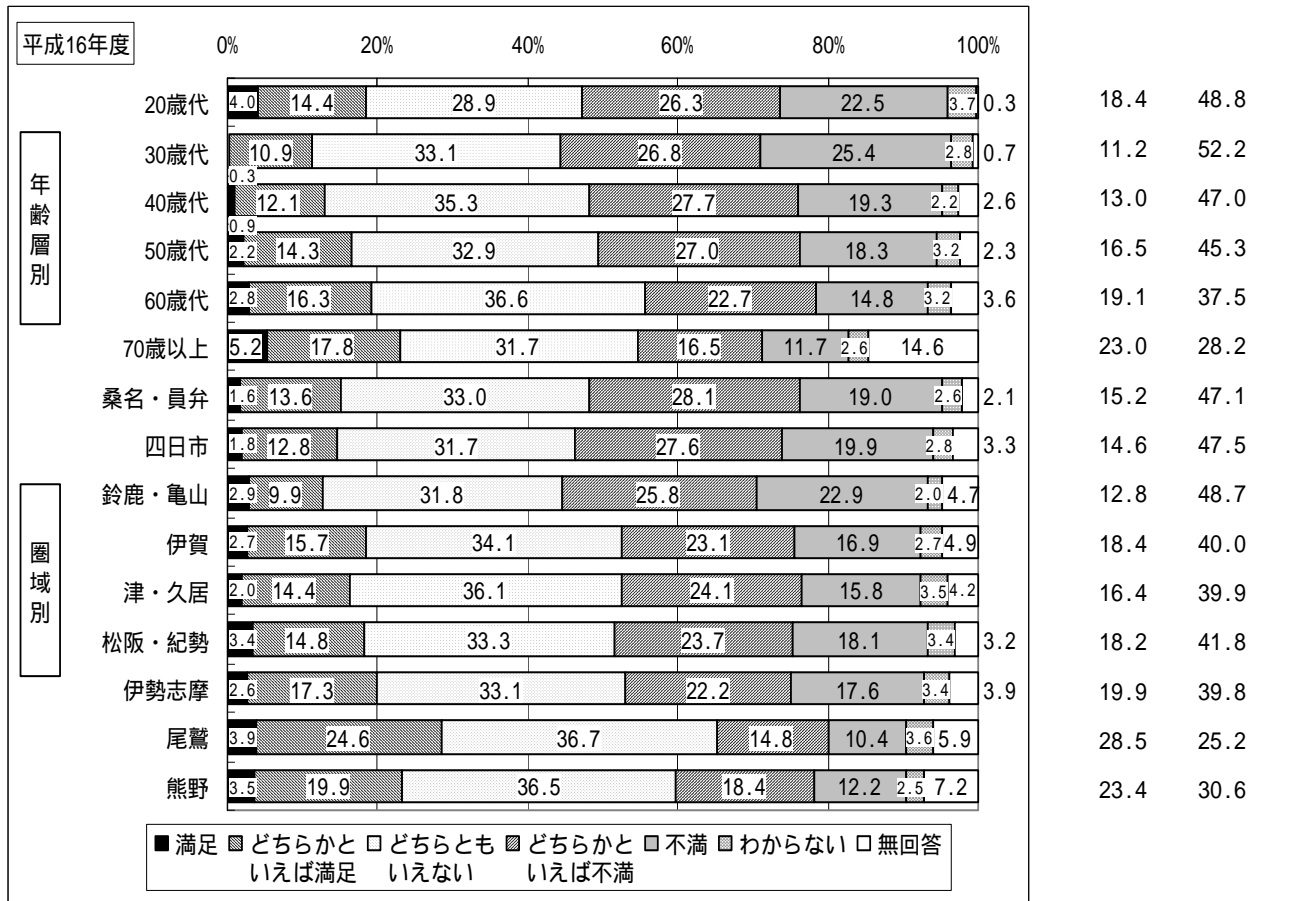
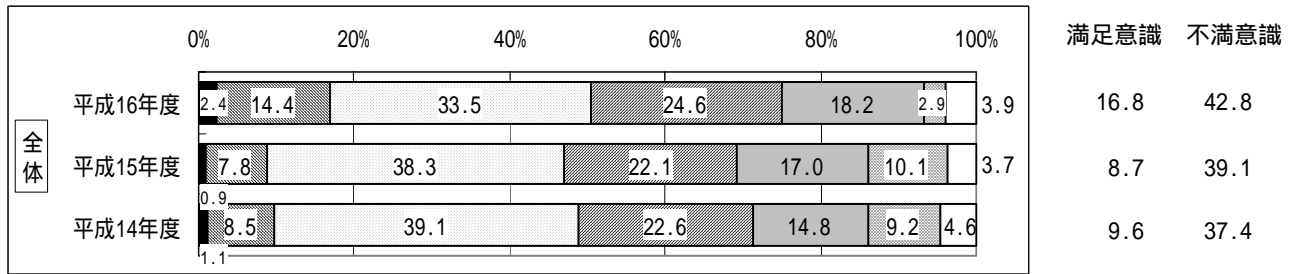
- ・ 年齢層別の不満意識は、30 歳代（53.9%）、20 歳代（50.6%）が高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、松阪・紀勢（45.8%）が最も高く、尾鷲（31.1%）が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 4.4 ポイント、15 年度と比べて 4.3 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

13) 防犯

平成 15 年度までの表現	防犯活動の強化
平成 16 年度の表現	犯罪などに対する不安を感じることなく、安心して生活ができること。



<平成 16 年度>

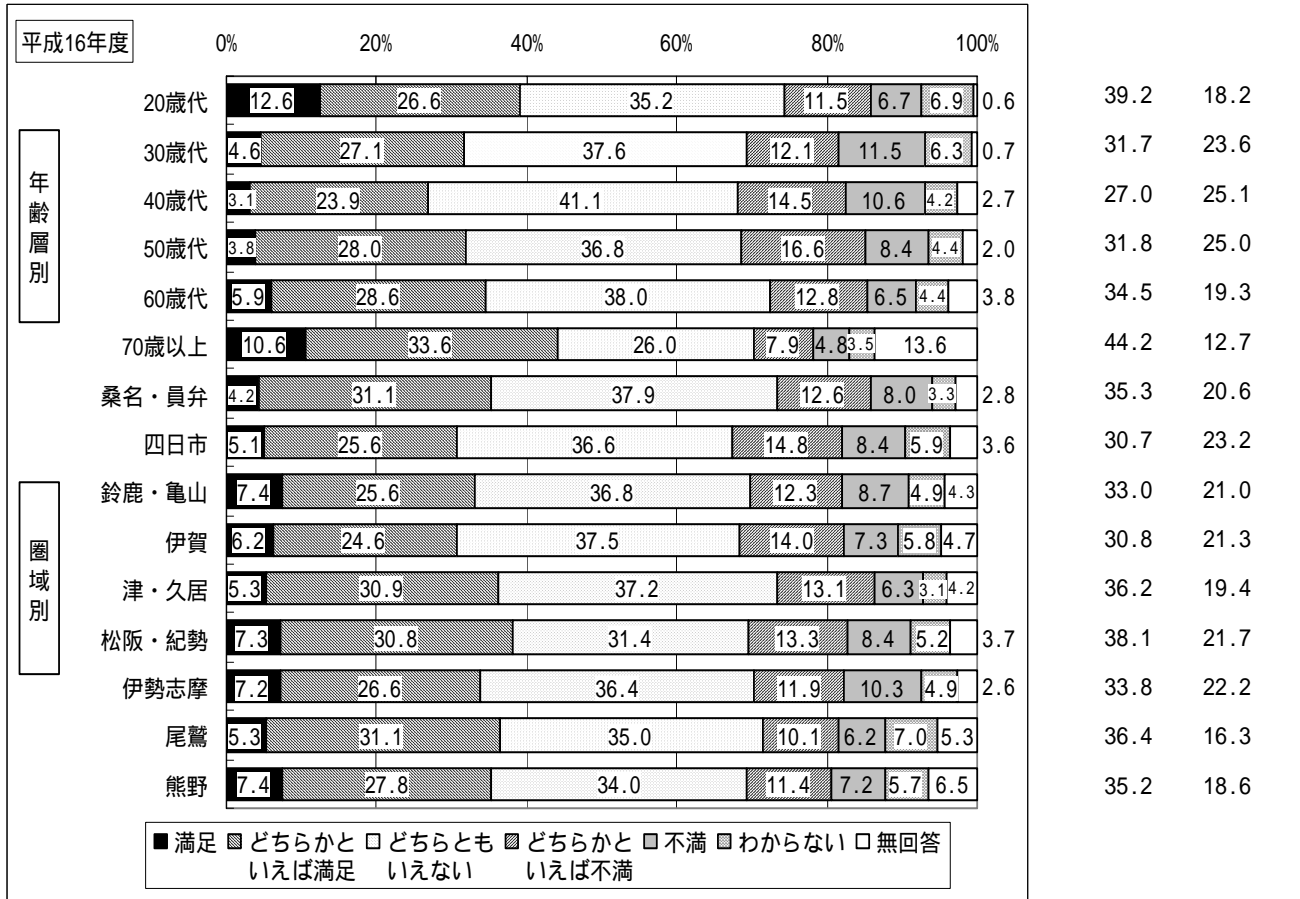
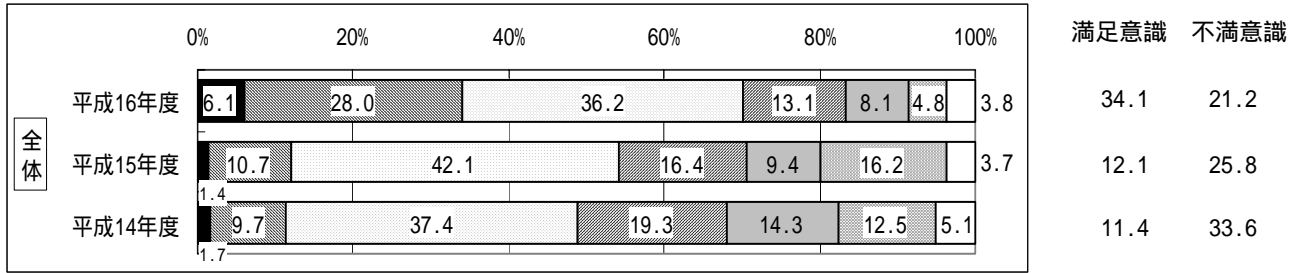
- ・ 全体では、不満意識が 42.8%（第 3 位）と高くなっている。
- ・ 年齢層別の不満意識は、30 歳代（52.2%）が最も高く、70 歳以上（28.2%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、鈴鹿・亀山（48.7%）が最も高く、尾鷲（25.2%）が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 7.2 ポイント、15 年度と比べて 8.1 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

14) 食の安全

平成 15 年度までの表現	食品の安全性確保のための衛生管理指導體制の整備
平成 16 年度の表現	安心して食べられる食品が安定的に供給されていること。



<平成 16 年度>

- すべての年齢層及び圏域で満足意識の方が不満意識を上回っている。また、年齢層別では、70歳以上の満足意識が高くなっている。

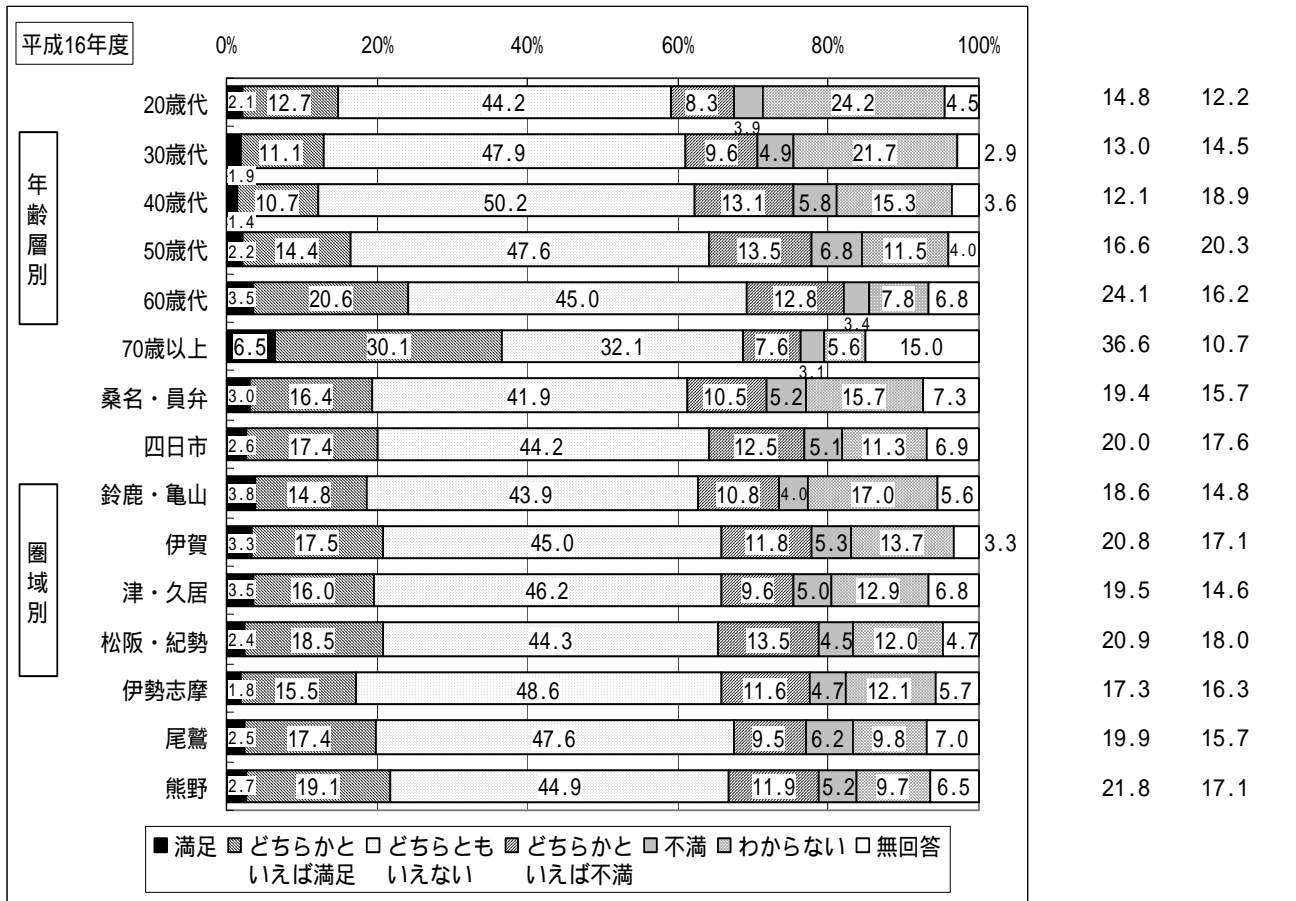
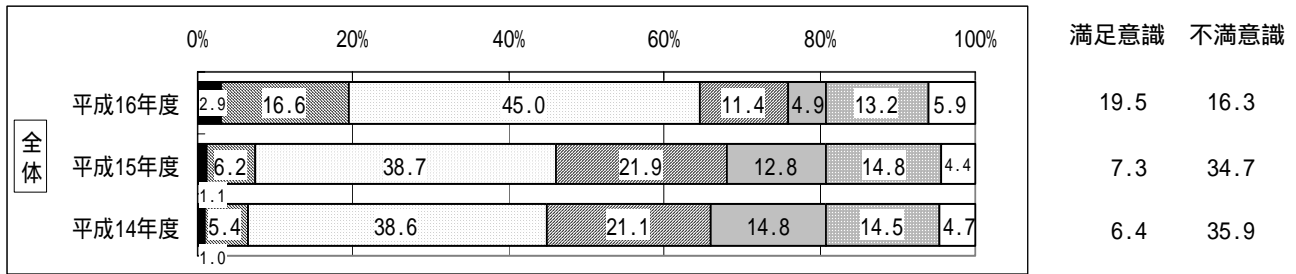
<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- 全体の満足意識は、14年度と比べて22.7ポイント、15年度と比べて22.0ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、専門的な用語をやめ、行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。



15) 高齢者、障害者の社会参加

平成 15 年度までの表現	高齢者や障害者の就労条件などの整備
平成 16 年度の表現	高齢者や障害者が就労や趣味の集いなど、様々な社会参加ができること。



<平成 16 年度>

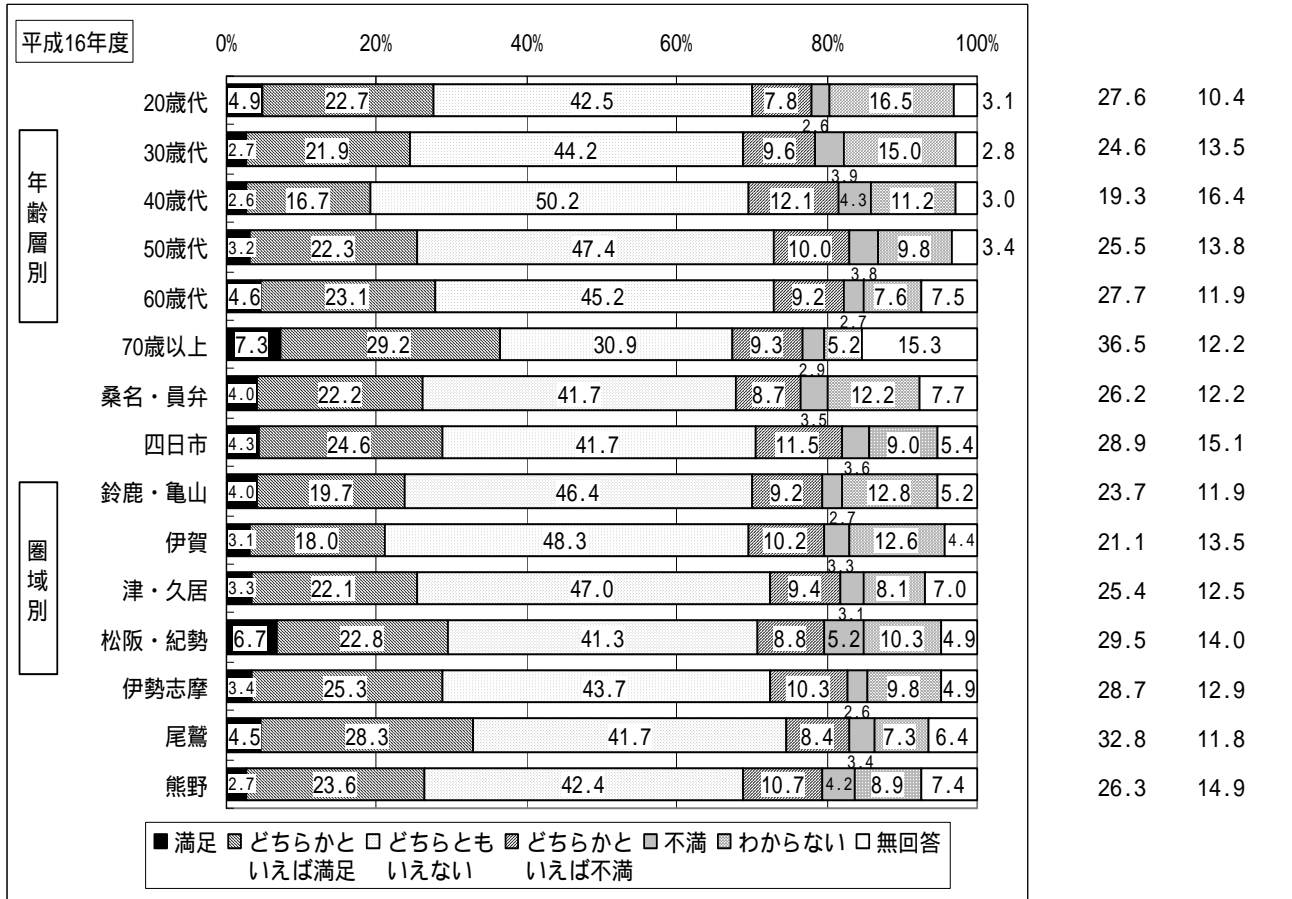
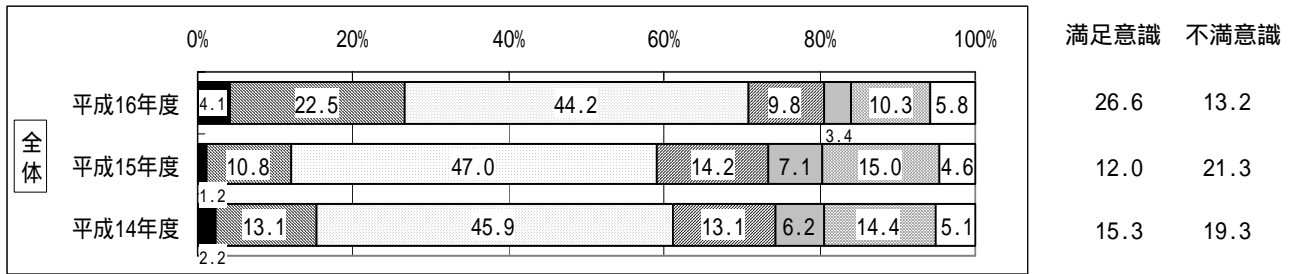
- ・ 年齢層別の不満意識は、50 歳代（20.3%）が最も高く、70 歳以上（10.7%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別では、すべての圏域で満足意識の方が不満意識を上回っている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 13.1 ポイント、15 年度と比べて 12.2 ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」は 14 年度、15 年度より増加している。その要因として、従来は就労条件に限定されていた調査票の表現を変更し、「趣味の集いなど様々な社会参加」としたことで、就業者以外にも身近な問題としてとらえやすくなったことが考えられる。

16) 保健予防体制

平成 15 年度までの表現	生活習慣病や感染症の予防など保健予防体制の確保
平成 16 年度の表現	感染症の発生、まん延や生活習慣病の不安を感じることなく生活できること。



<平成 16 年度>

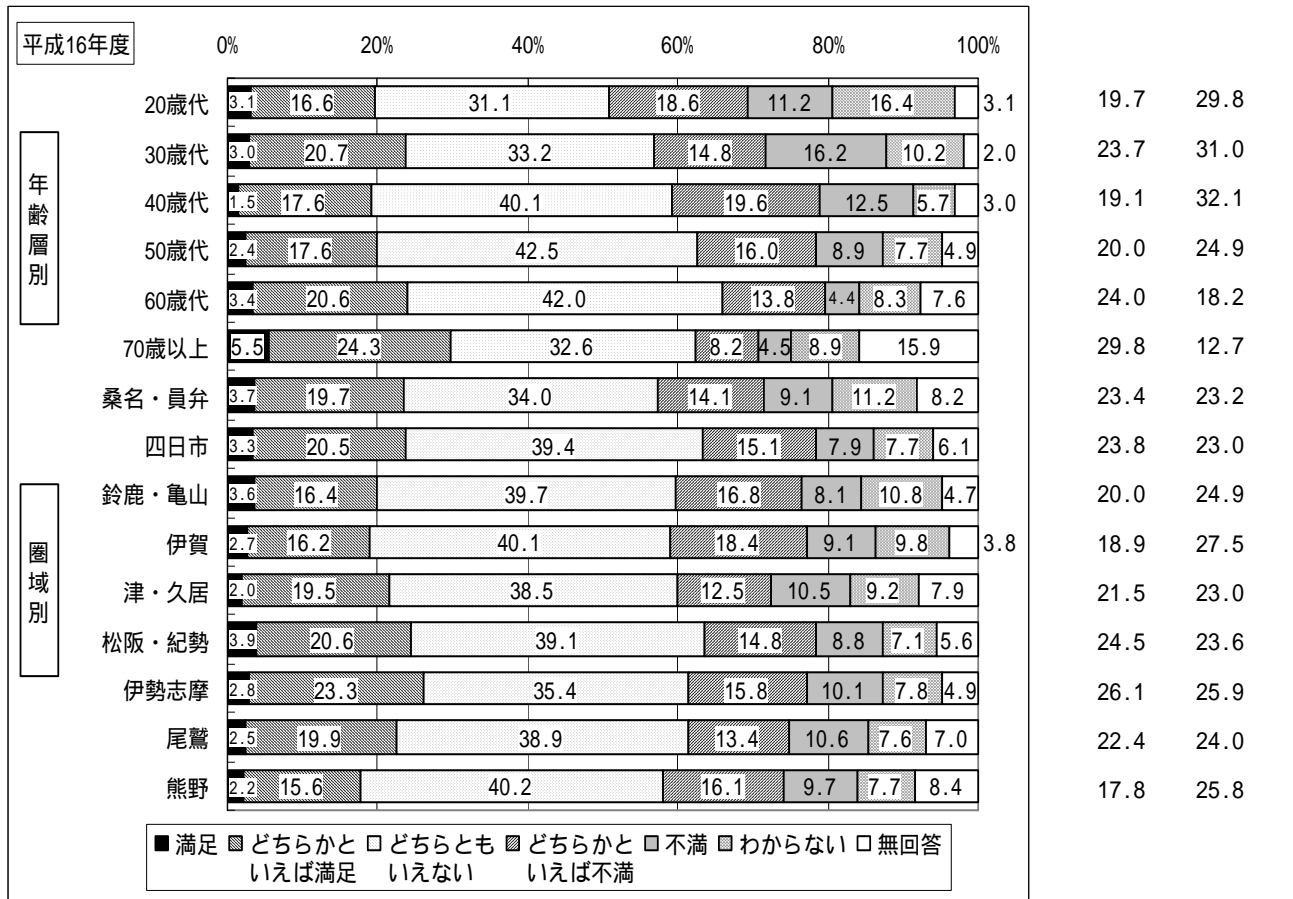
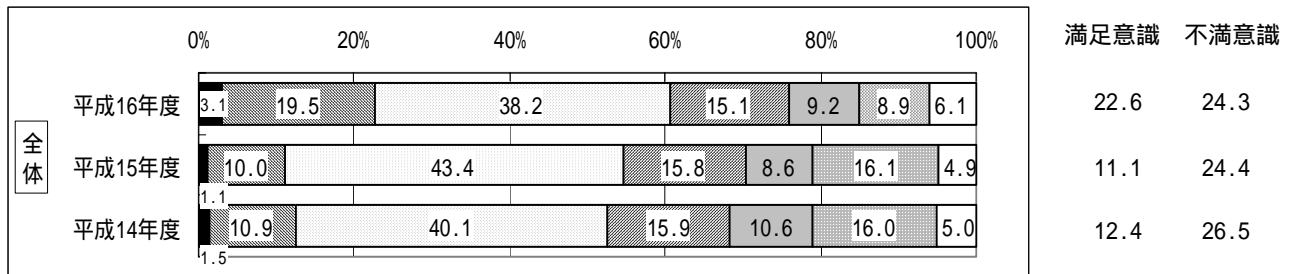
- すべての年齢層及び圏域で満足意識の方が不満意識を上回っている。また、年齢層別では、70歳以上の満足意識が高くなっている。圏域別では、尾鷲の満足意識が高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- 全体の満足意識は、14年度と比べて11.3ポイント、15年度と比べて14.6ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、専門的な用語をやめ、行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

17) 子育て環境

平成 15 年度までの表現	母子保健対策、保育サービスなど子育て環境の整備
平成 16 年度の表現	子どもを安心して産み育てられる環境が充実していること。



<平成 16 年度>

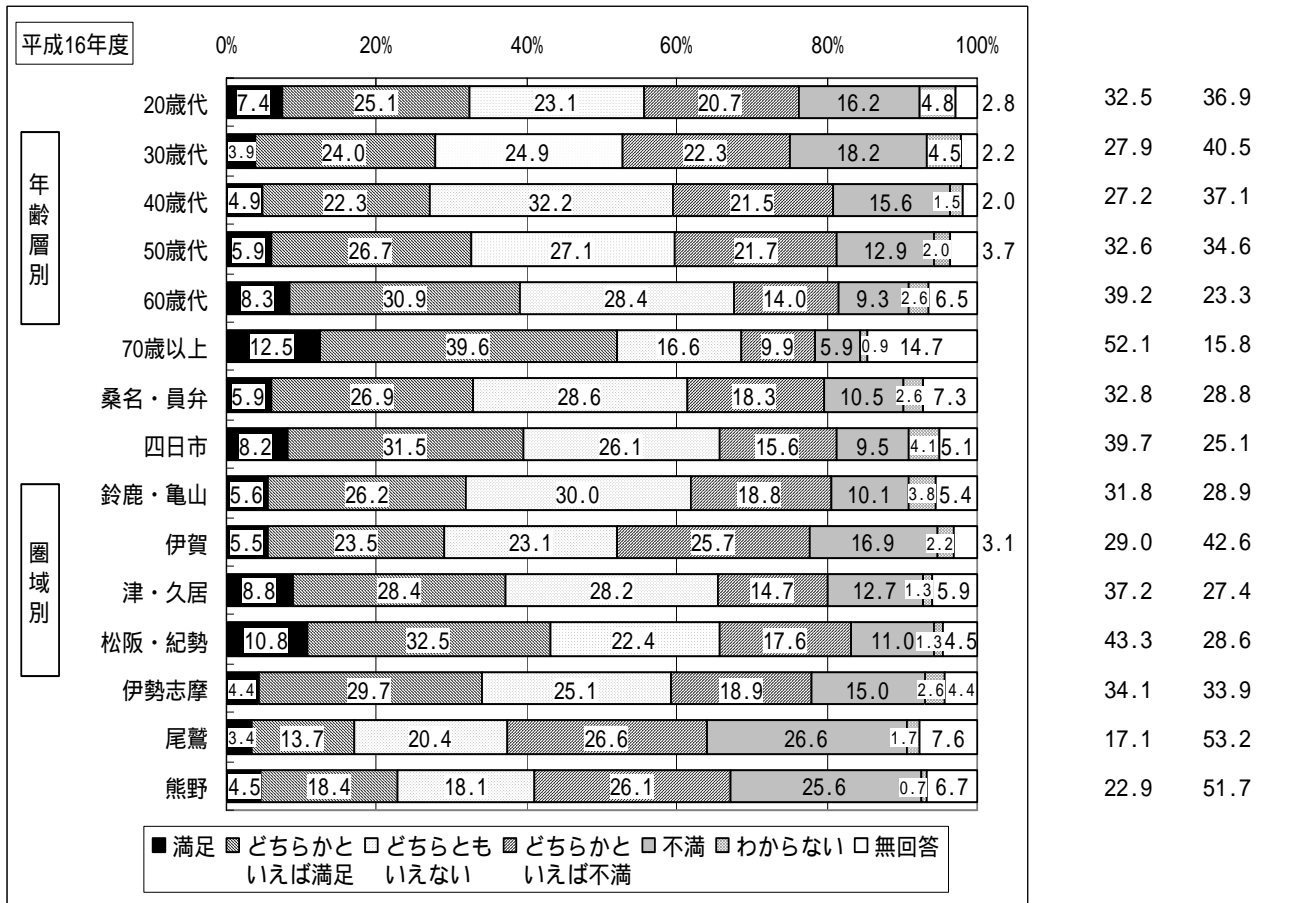
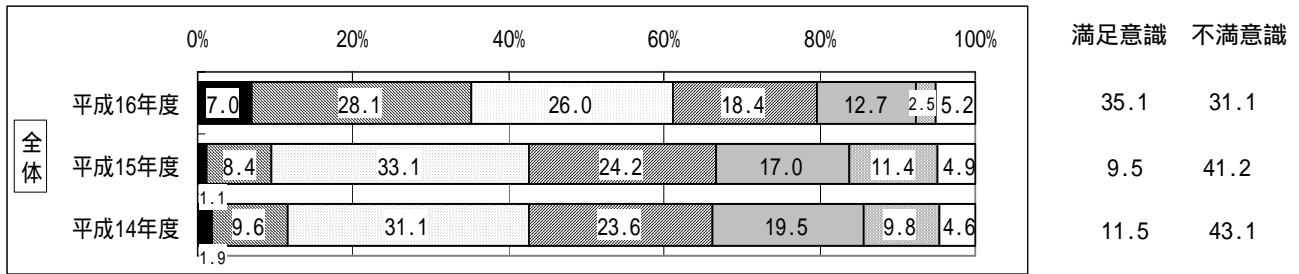
- ・ 年齢層別では、40歳代をピークに年齢が上がるに従って不満意識が減少している。
- ・ 圏域別の不満意識は、伊賀（27.5%）が最も高く、次いで伊勢志摩（25.9%）の順となっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて10.2ポイント、15年度と比べて11.5ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、専門的な用語をやめ、行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

18) 医療体制

平成 15 年度までの表現	病状に応じて、適切な医療が受けられる患者本位の医療体制の確保
平成 16 年度の表現	病状に応じて、身近なところで適切な医療が受けられること。



<平成 16 年度>

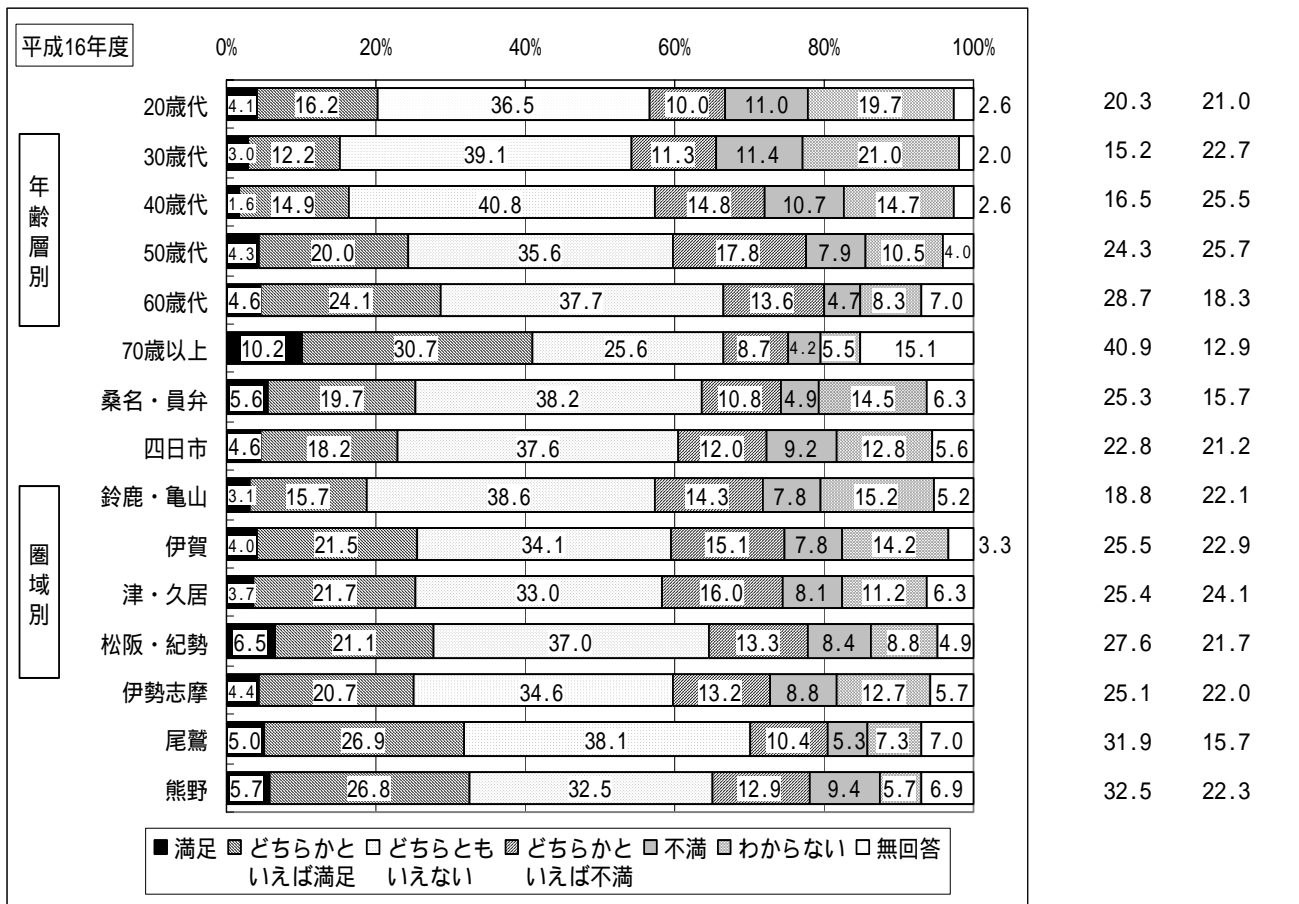
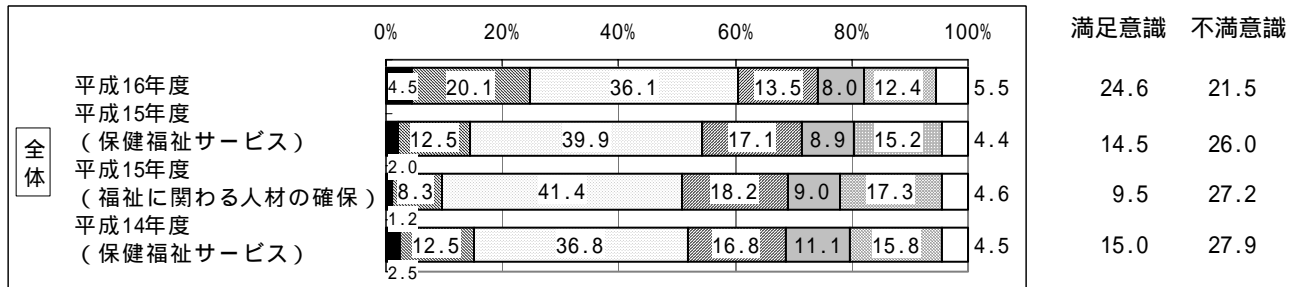
- ・ 全体では、満足意識が 35.1%（第 3 位）と高くなっている。
- ・ 年齢層別の不満意識は、30 歳代（40.5%）が最も高く、70 歳以上（15.8%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲（53.2%）と熊野（51.7%）が特に高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 23.6 ポイント、15 年度と比べて 25.6 ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

19) 福祉サービス

平成 15 年度までの表現	訪問介護など保健・福祉サービスの提供
	看護職員、福祉ボランティア等の保健・医療・福祉や地域福祉活動に携わる人材の確保
平成 16 年度の表現 ( 統合 )	高齢者・障害者の介護、在宅支援などの福祉サービスが利用しやすいこと。



<平成 16 年度>

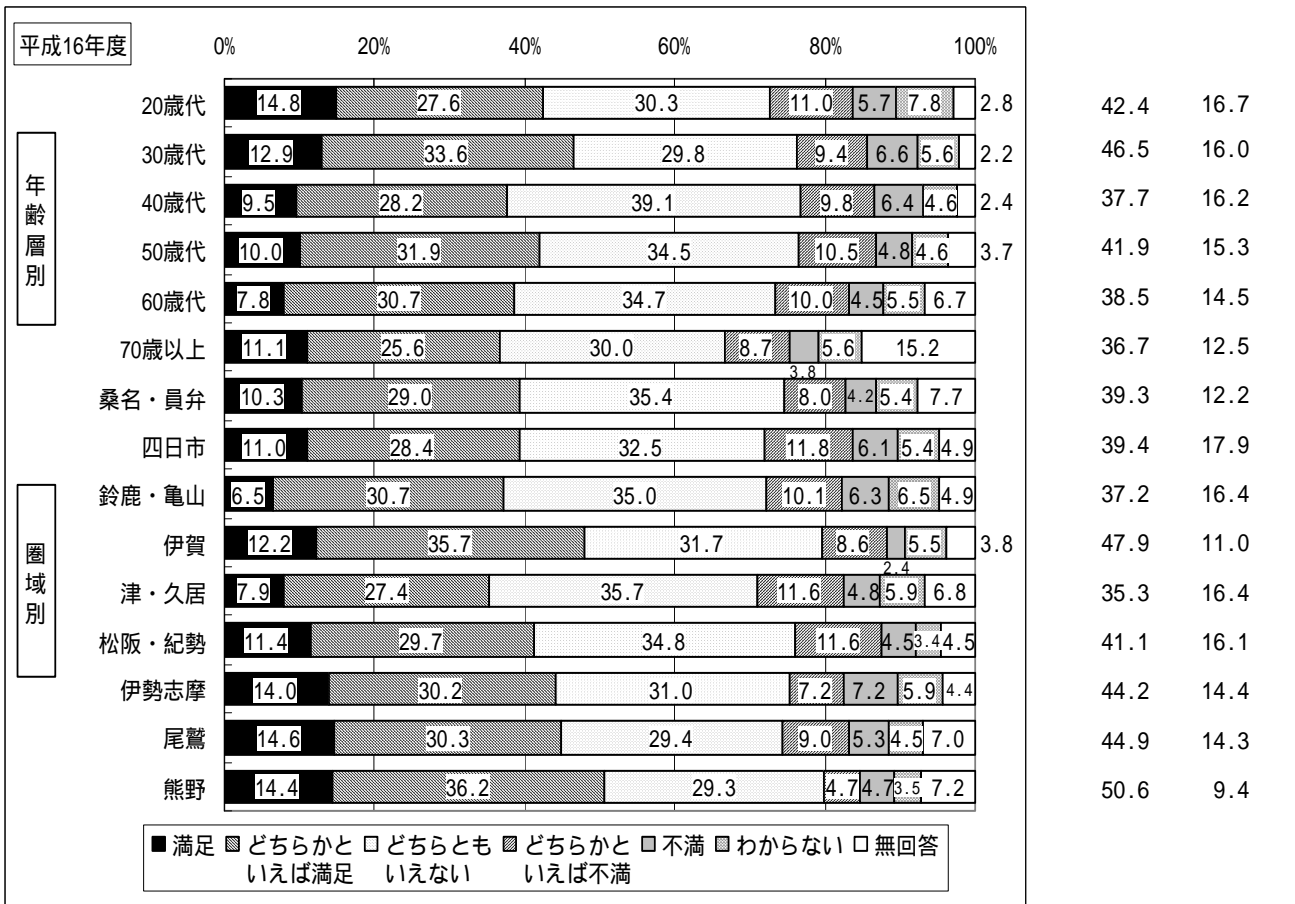
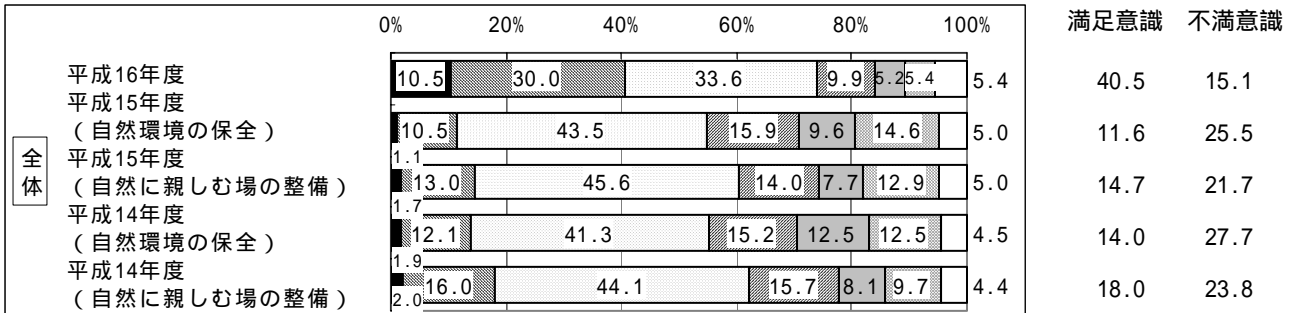
- ・ 年齢層別の不満意識は、50 歳代 ( 25.7% ) が最も高く、70 歳以上 ( 12.9% ) が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、桑名・員弁、尾鷲 ( 15.7% ) が他の圏域と比べて低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 9.6 ポイント、15 年度の「保健福祉サービス」と比べて 10.1 ポイント、「福祉に関わる人材の確保」と比べて 15.1 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

20) 自然環境との共生

平成 15 年度までの表現	自然環境の保全
	自然に親しむ場の整備
平成 16 年度の表現( 統合 )	身近に触れあうことのできる豊かな自然環境があること。



<平成 16 年度>

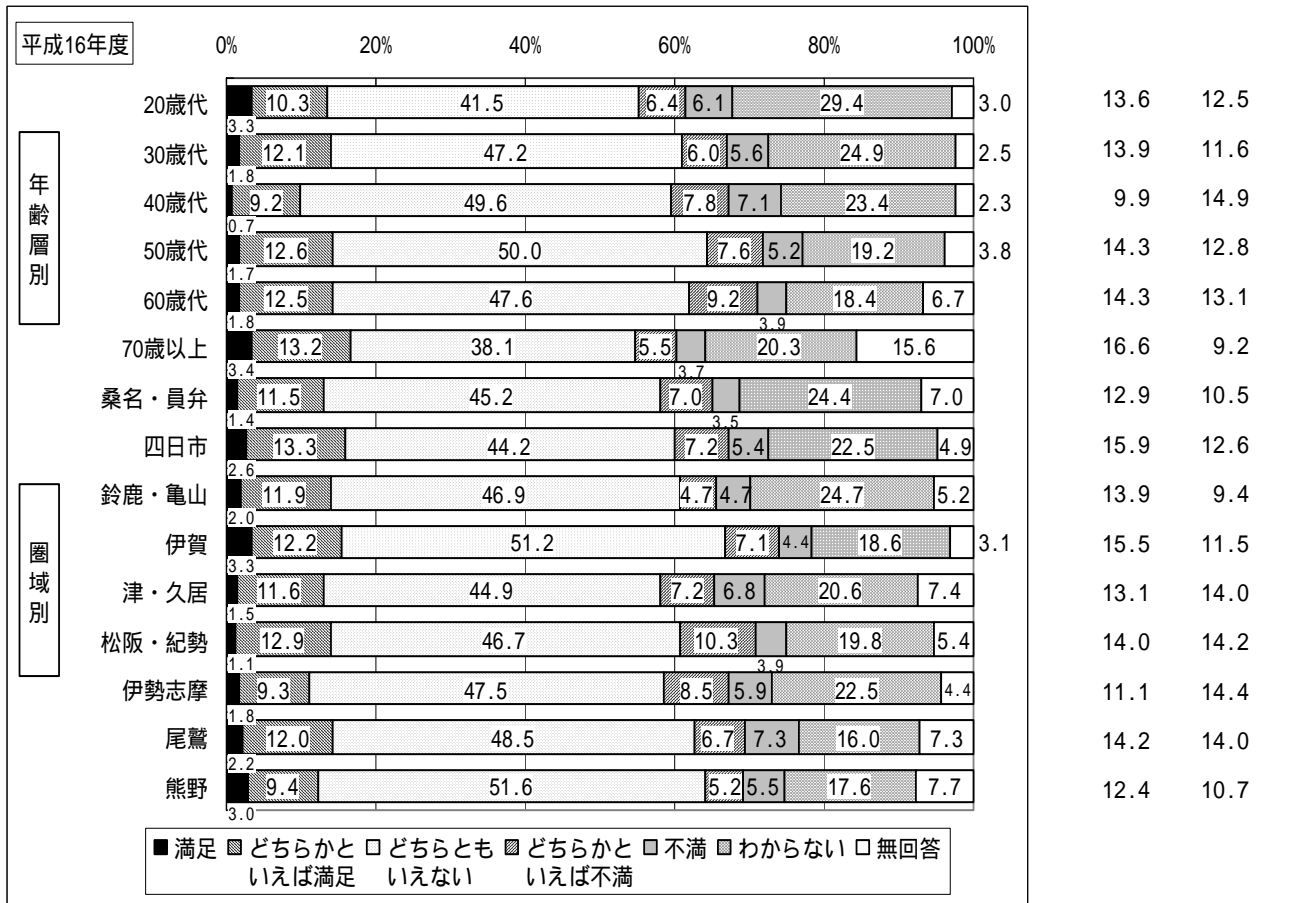
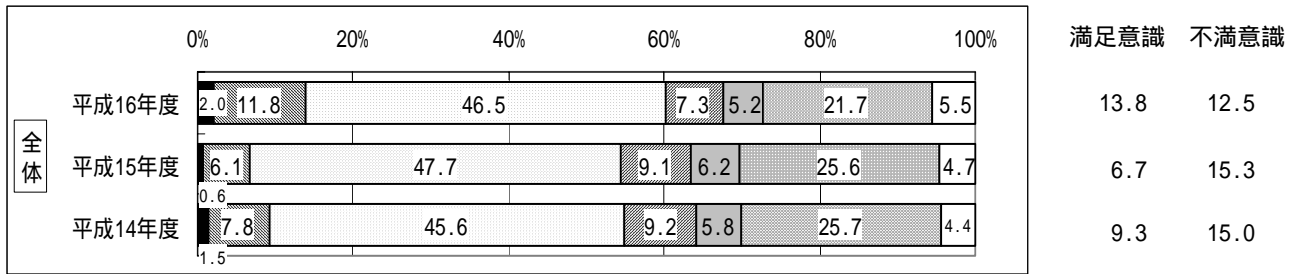
- ・ 全体では、満足意識が 40.5% (第 2 位) と高くなっている。
- ・ 年齢層別による不満意識の大きな意識の差はみられない。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野 (9.4%) が他の圏域と比べて低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度の「自然環境の保全」と比べて 26.5 ポイント、「自然に親しむ場の整備」と比べて 22.5 ポイント、15 年度の「自然環境の保全」と比べて 28.9 ポイント、「自然に親しむ場の整備」と比べて 25.8 ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、設問を変更して二つの項目を統合し、行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

21) 希少な生物

平成 15 年度までの表現	希少な野生生物の保護
平成 16 年度の表現	希少な野生動物や植物が保護されていること。



<平成 16 年度>

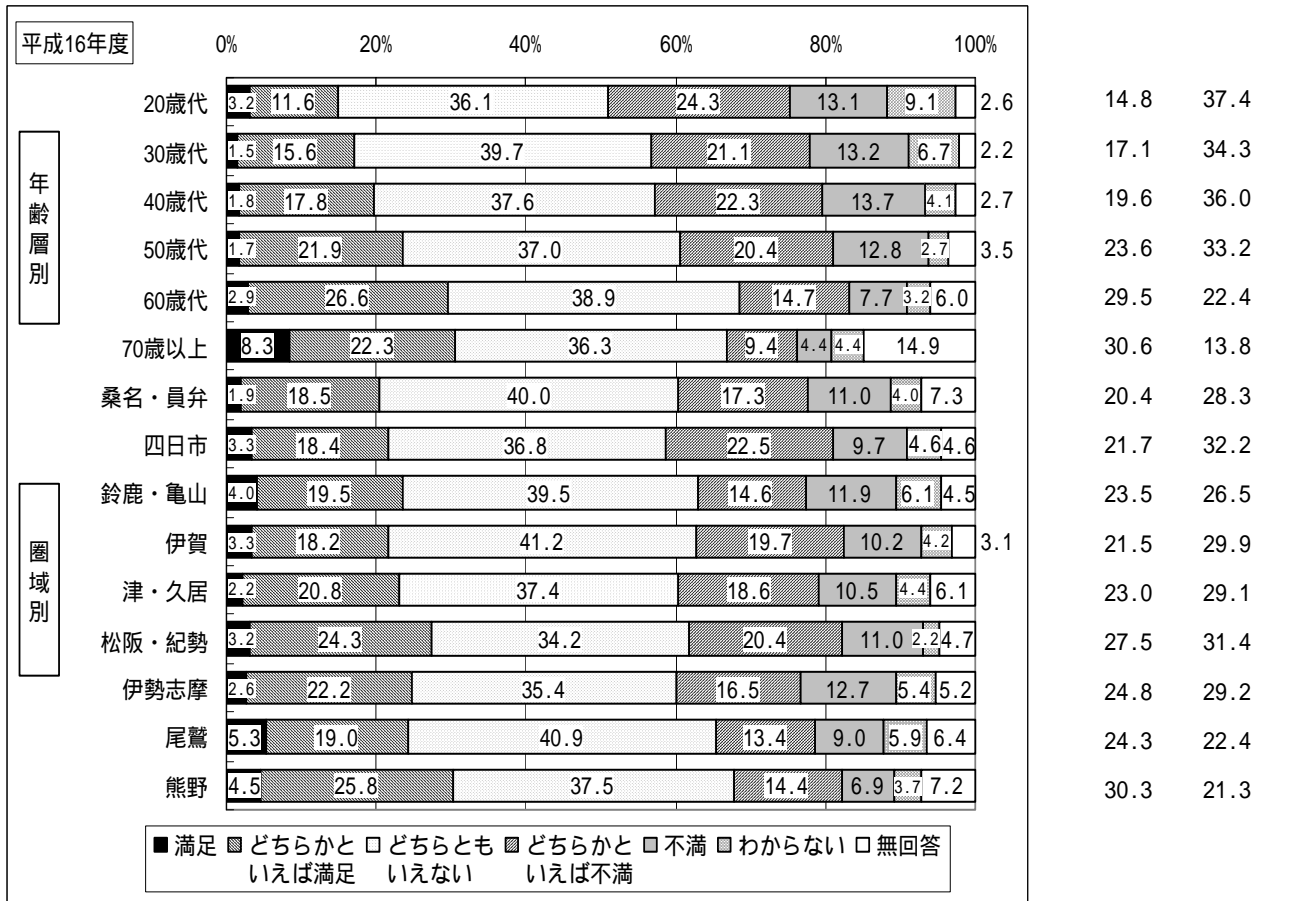
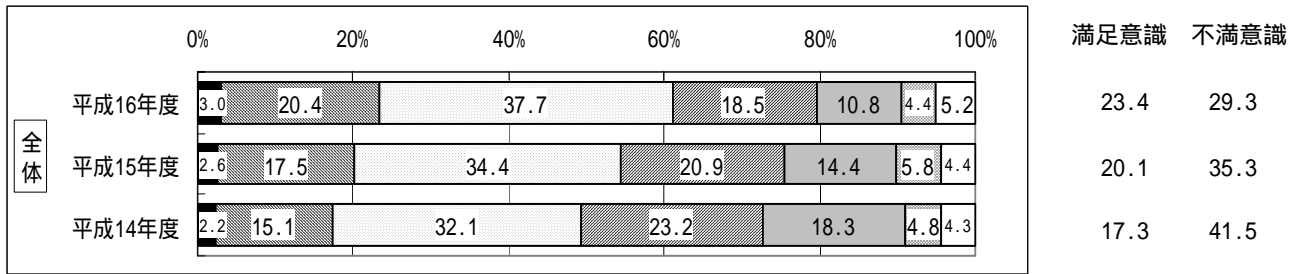
- ・ 年齢層別では、40 歳代の満足意識 (9.9%) が最も低く、不満意識 (14.9%) は最も高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、伊勢志摩 (14.4%) が最も高く、鈴鹿・亀山 (9.4%) が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 4.5 ポイント、15 年度と比べて 7.1 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 15 年度より減少しており、その要因として、昨年まで調査票の表現中で例示していた野生生物を、今年は野生動物と植物とにわけて例示したことにより、イメージしやすくなったと考えられる。

22) ごみの減量

平成 15 年度までの表現	ごみの減量化
平成 16 年度の表現	職場や家庭から出るゴミが少ないこと。



<平成 16 年度>

- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代（37.4%）が最も高く、70 歳以上（13.8%）が最も低くなっている。また、満足意識は年齢が上がるに従って高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、四日市（32.2%）が最も高く、熊野（21.3%）が最も低くなっている。

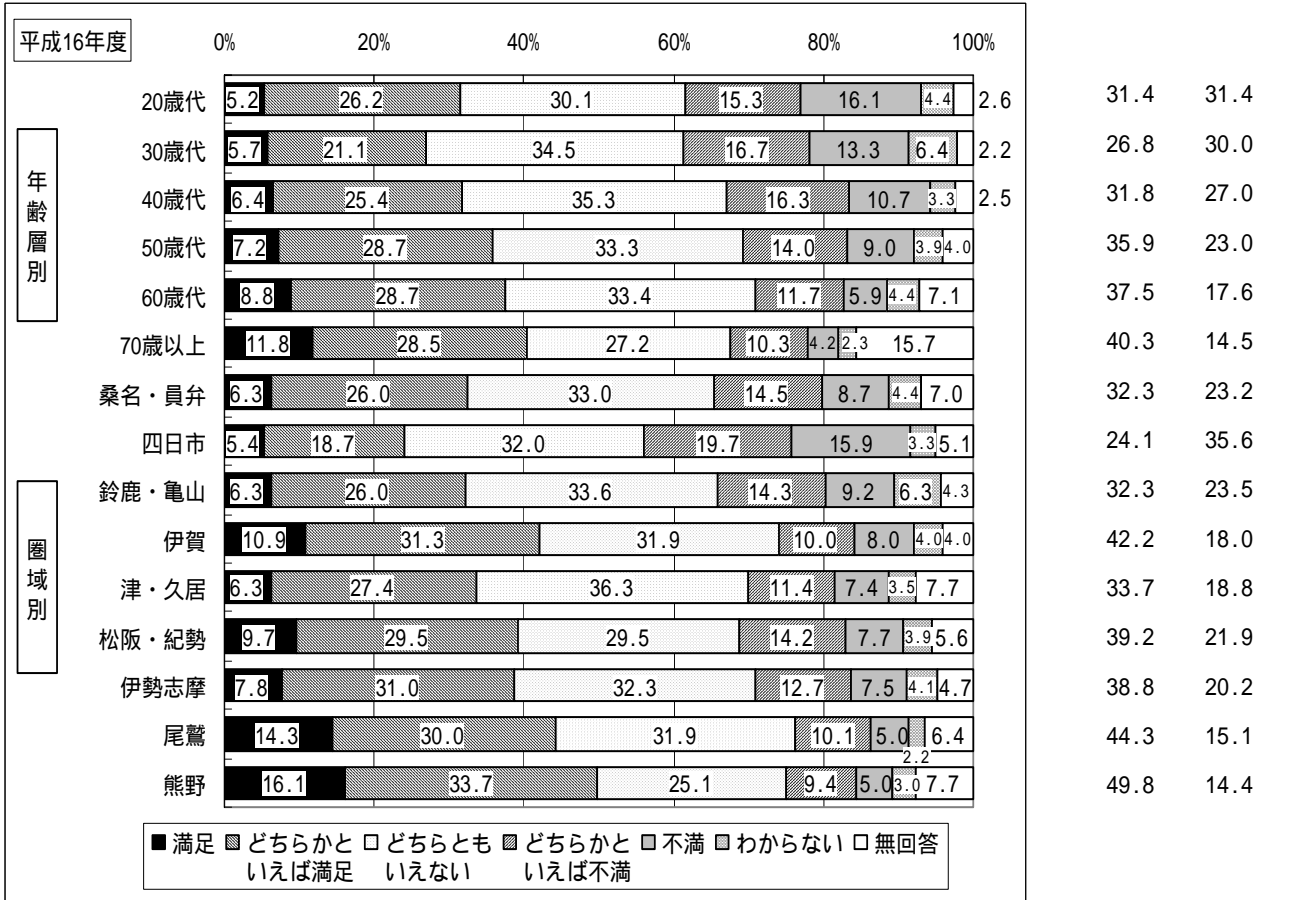
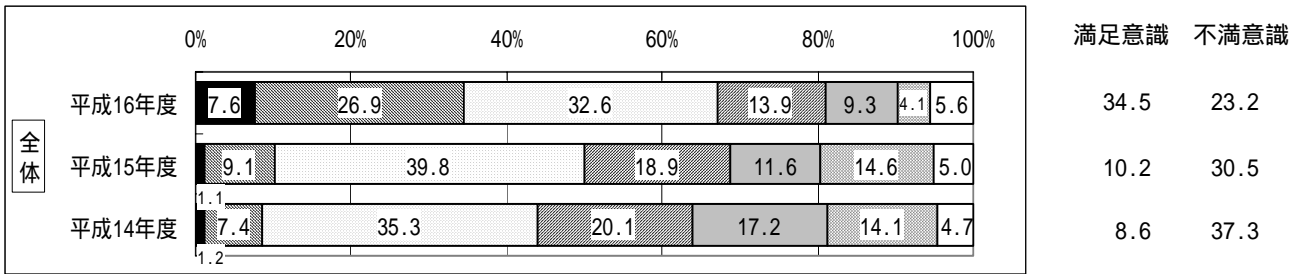
<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 6.1 ポイント、15 年度と比べて 3.3 ポイント増加している。また、不満意識は 14 年度と比べて 12.2 ポイント、15 年度と比べて 6.0 ポイント減少している。



23) きれいな空気

平成 15 年度までの表現	大気汚染防止対策の強化
平成 16 年度の表現	空気が汚染されておらず、きれいであること。



<平成 16 年度>

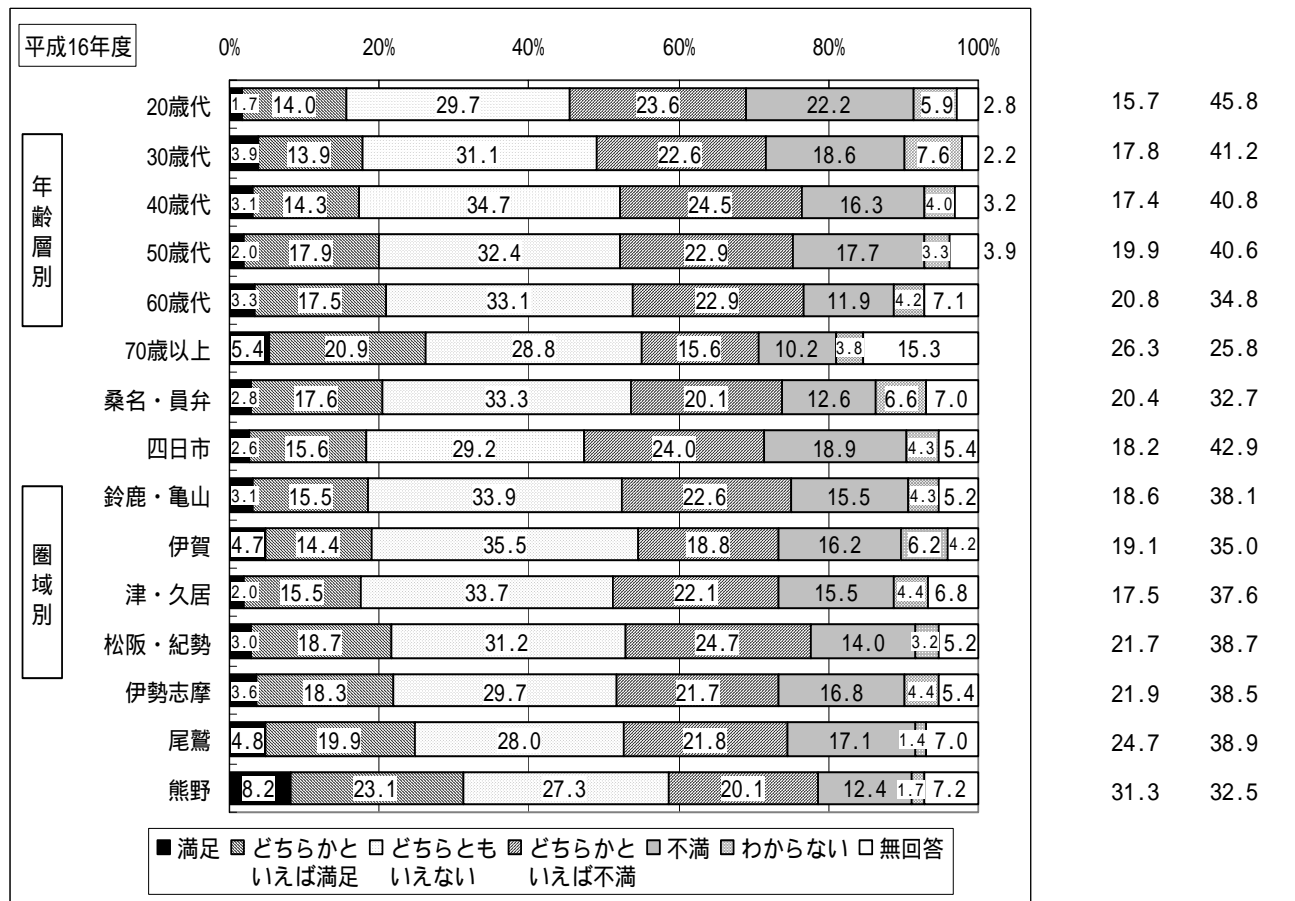
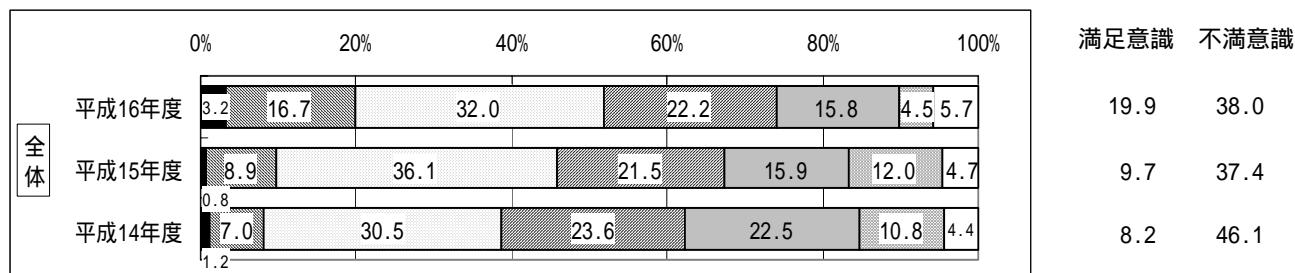
- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代 (31.4%) が最も高く、年齢が上がるに従って低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、四日市 (35.6%) が最も高く、熊野 (14.4%) が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 25.9 ポイント、15 年度と比べて 24.3 ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、専門的な用語をやめ、行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

24) 川や海の水質

平成 15 年度までの表現	川や海の水質浄化
平成 16 年度の表現	川や海などの水が汚染されておらず、きれいであること。



<平成 16 年度>

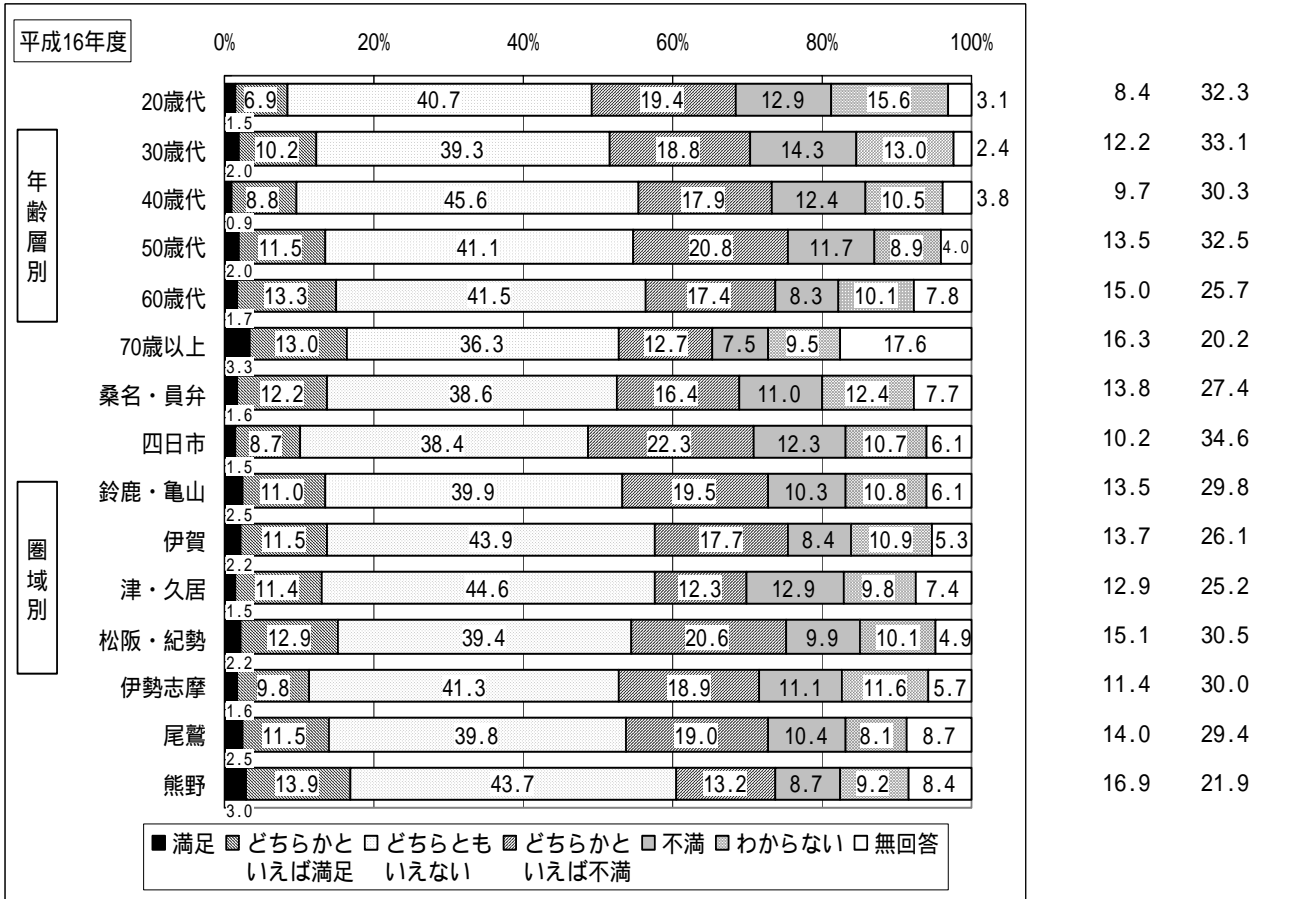
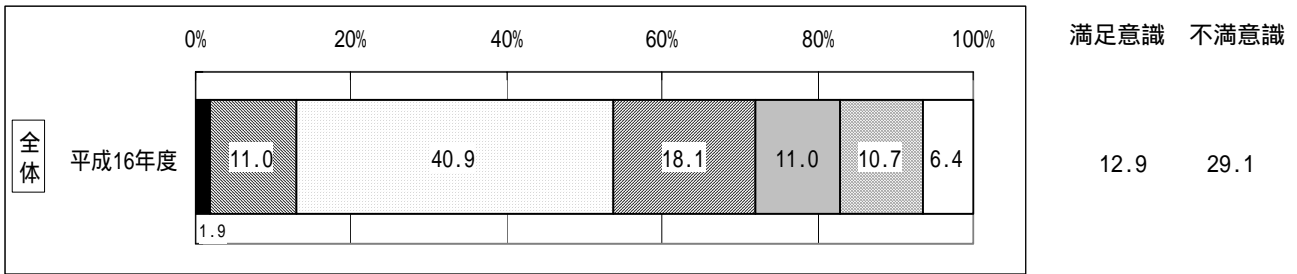
- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代（45.8%）が最も高く、年齢が上がるに従って低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、四日市（42.9%）が最も高く、熊野（32.5%）が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 11.7 ポイント、15 年度と比べて 10.2 ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更し、専門的な用語をやめ、行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

25) 地球温暖化防止

平成 16 年度の表現 (新規) 温暖化の原因となる二酸化炭素などのガスについて、企業や家庭からの排出が抑えられたり、森林による吸収が高められていること。

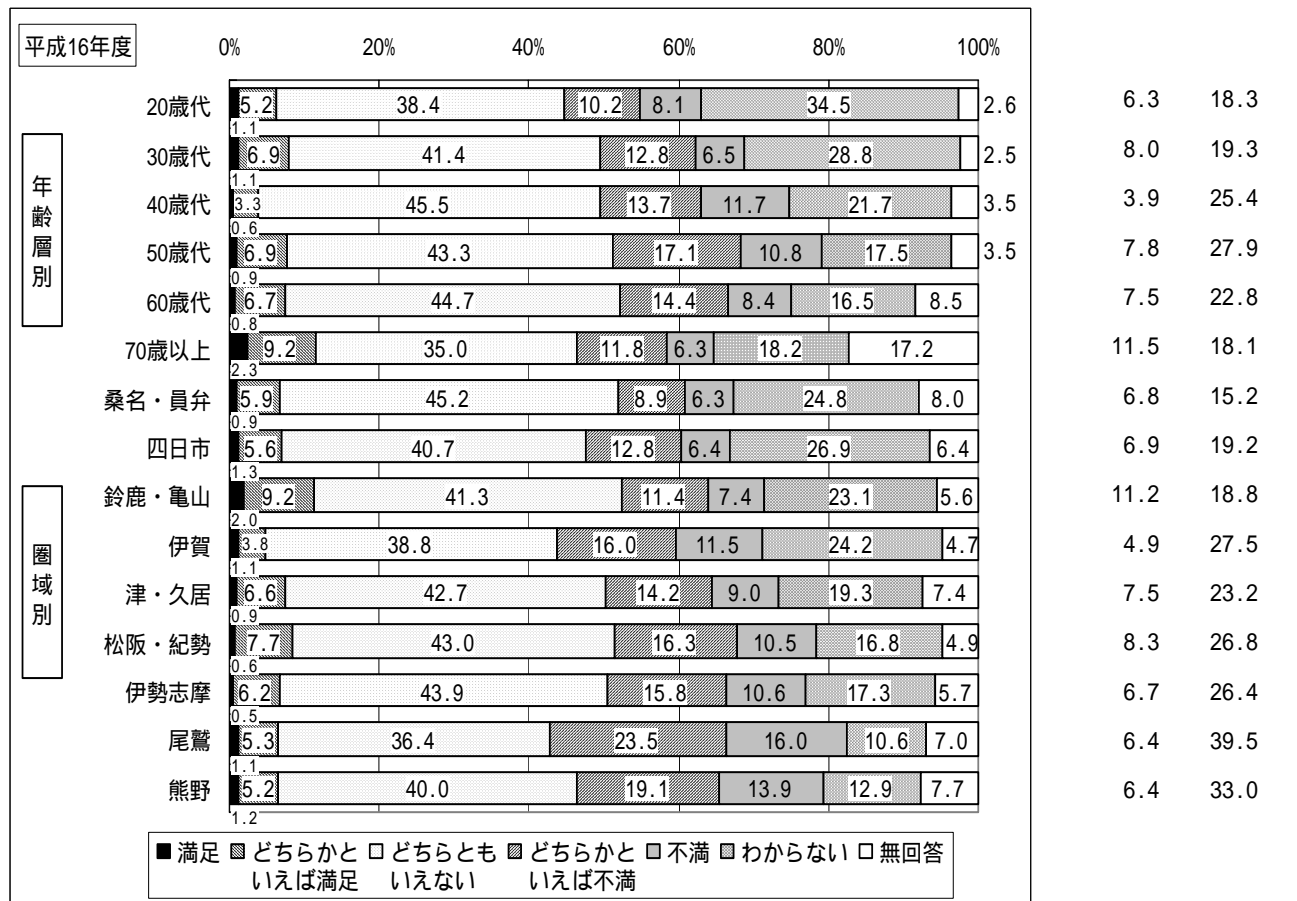
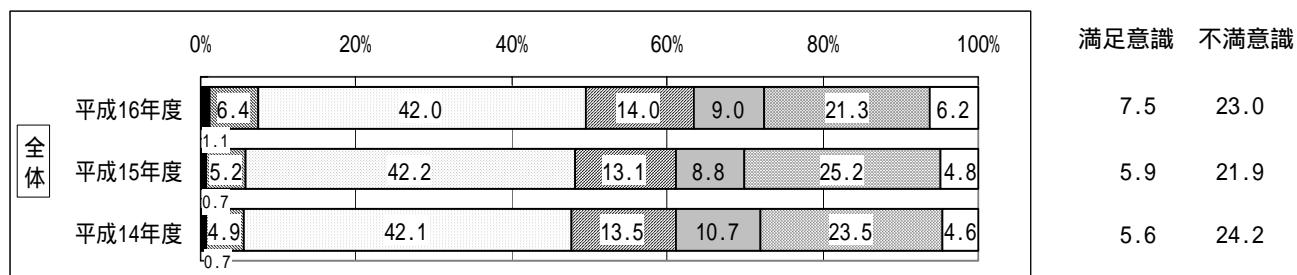


<平成 16 年度>

- ・ 年齢層別の不満意識は、30 歳代 (33.1%) が最も高く、70 歳以上 (20.2%) が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、四日市 (34.6%) が最も高く、熊野 (21.9%) が最も低くなっている。

26) 農林水産業の振興

平成 15 年度までの表現	農林水産業の活発化
平成 16 年度の表現	農林水産業の担い手が育ち、産業として活発であること。



<平成 16 年度>

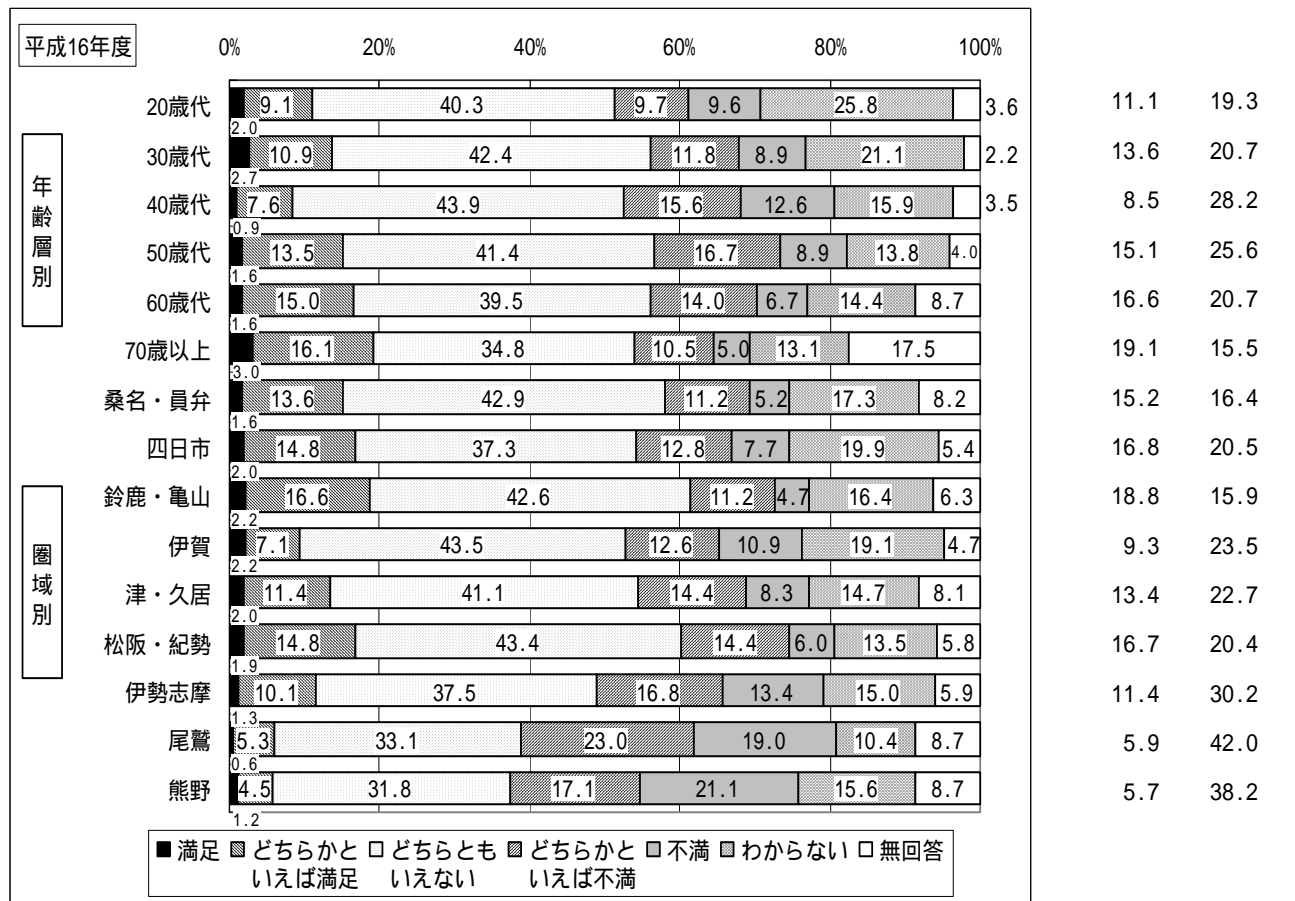
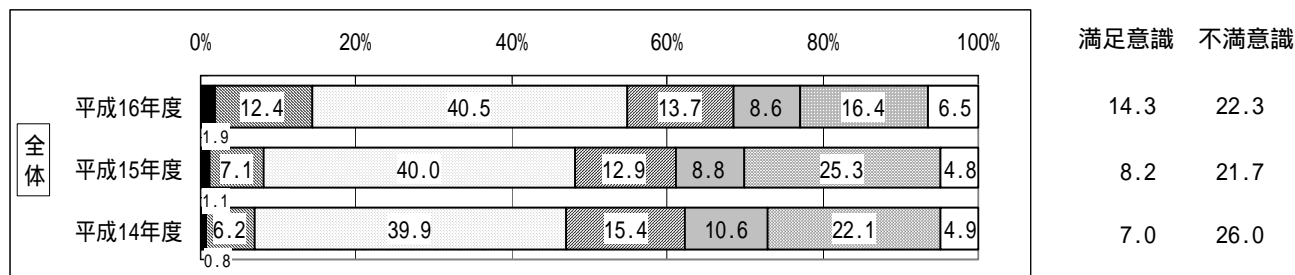
- ・ 年齢層別の不満意識は、50 歳代 (27.9%) が最も高く、70 歳以上 (18.1%) が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲 (39.5%) が最も高く、桑名・員弁 (15.2%) が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 1.9 ポイント、15 年度と比べて 1.6 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より若干減少している。

27) 産業振興

平成 15 年度までの表現	新しい分野の産業の育成や先端的企業の誘致
平成 16 年度の表現	新しい分野の産業や企業の育成、先端企業の誘致などにより県内産業が活性化していること。



<平成 16 年度>

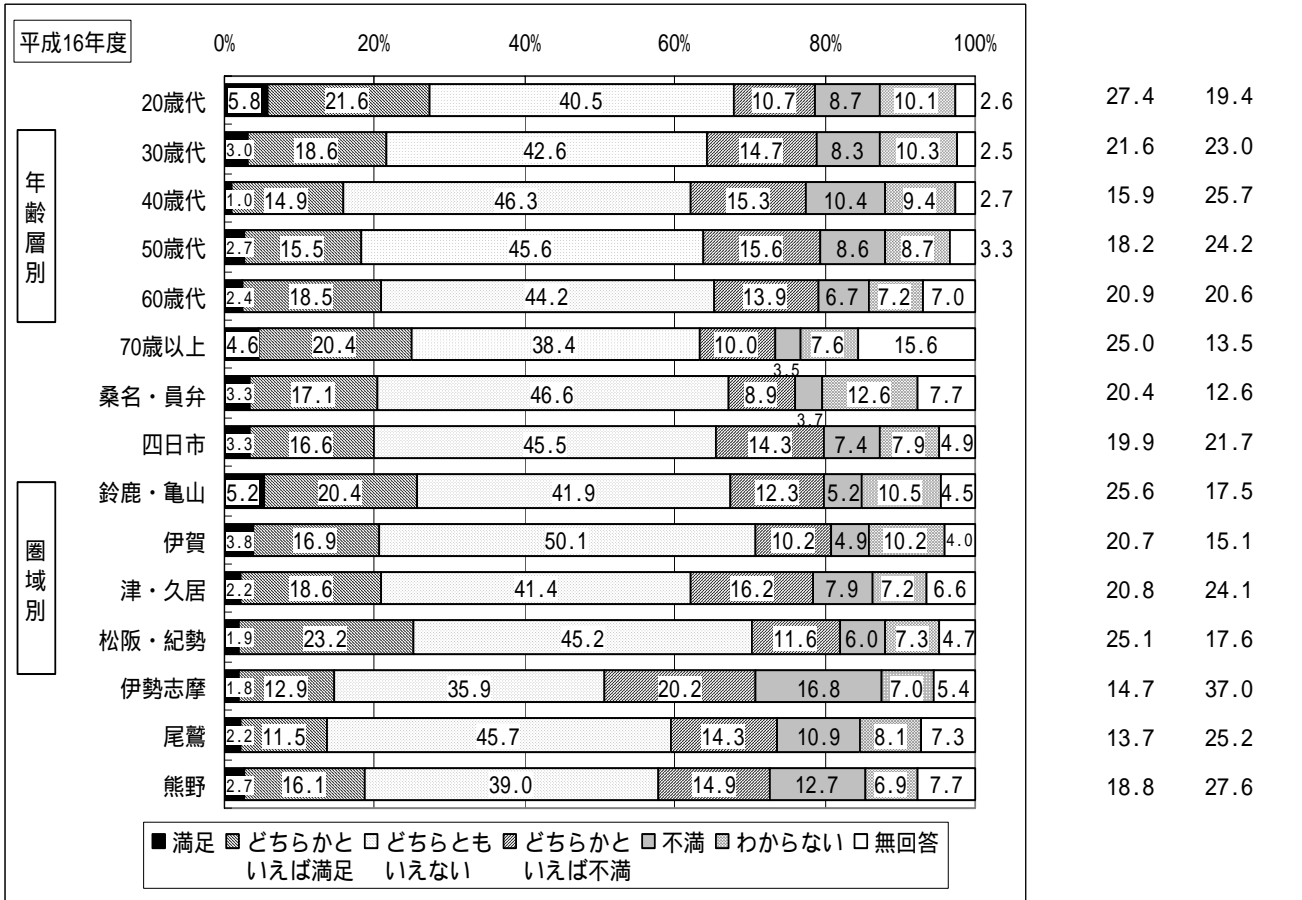
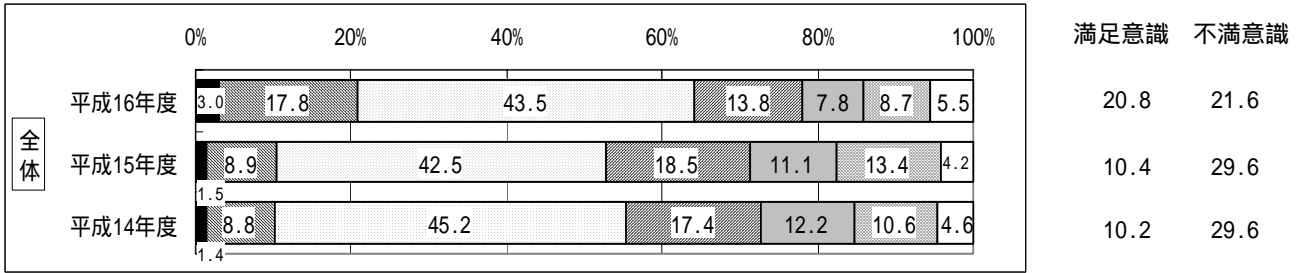
- ・ 年齢層別の不満意識は、40歳代（28.2%）が最も高く、70歳以上（15.5%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲（42.0%）が最も高く、鈴鹿・亀山（15.9%）が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて7.3ポイント、15年度と比べて6.1ポイント増加している。また、「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

28) 観光

平成 15 年度までの表現	三重県を訪れる人が増加するような観光施設や地域づくり
平成 16 年度の表現	地域の名勝や特産品などの観光資源に魅力を感じてたくさんの方が三重県を訪れること。



<平成 16 年度>

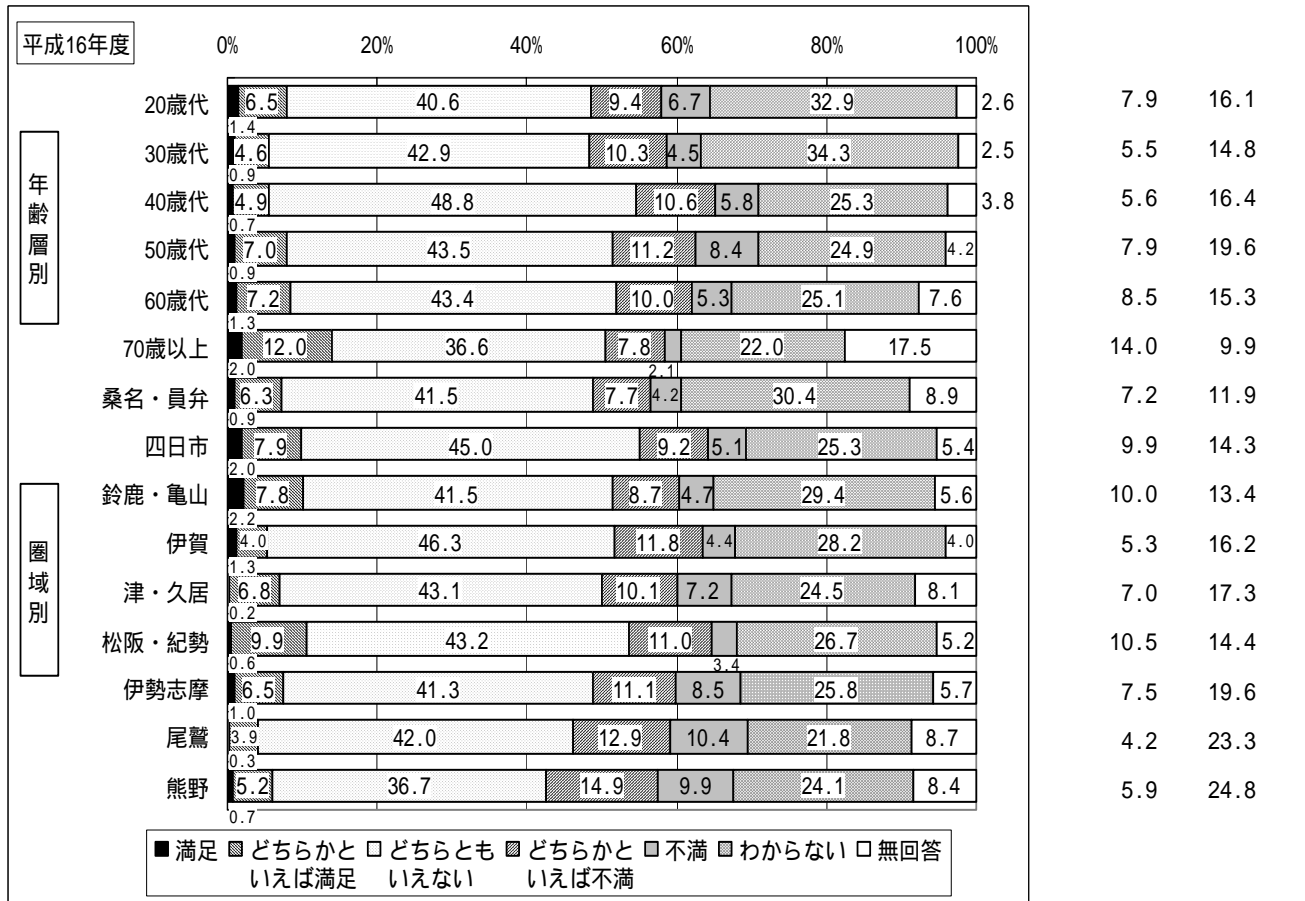
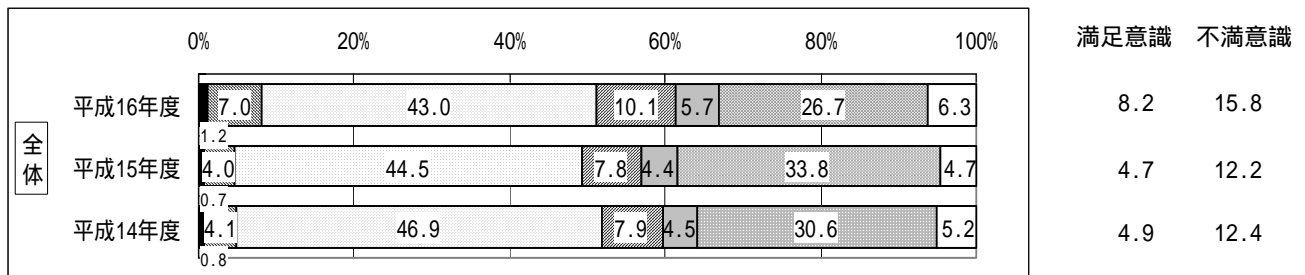
- ・ 年齢層別の不満意識は、40 歳代（25.7%）が最も高く、次いで 50 歳代（24.2%）の順となっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、伊勢志摩（37.0%）が最も高く、桑名・員弁（12.6%）が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 10.6 ポイント、15 年度と比べて 10.4 ポイントと大きく増加している。また、「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

29) 技術開発

平成 15 年度までの表現	科学技術の振興
平成 16 年度の表現	県内産業の発展のため、様々な分野での研究開発が進んでいること。



<平成 16 年度>

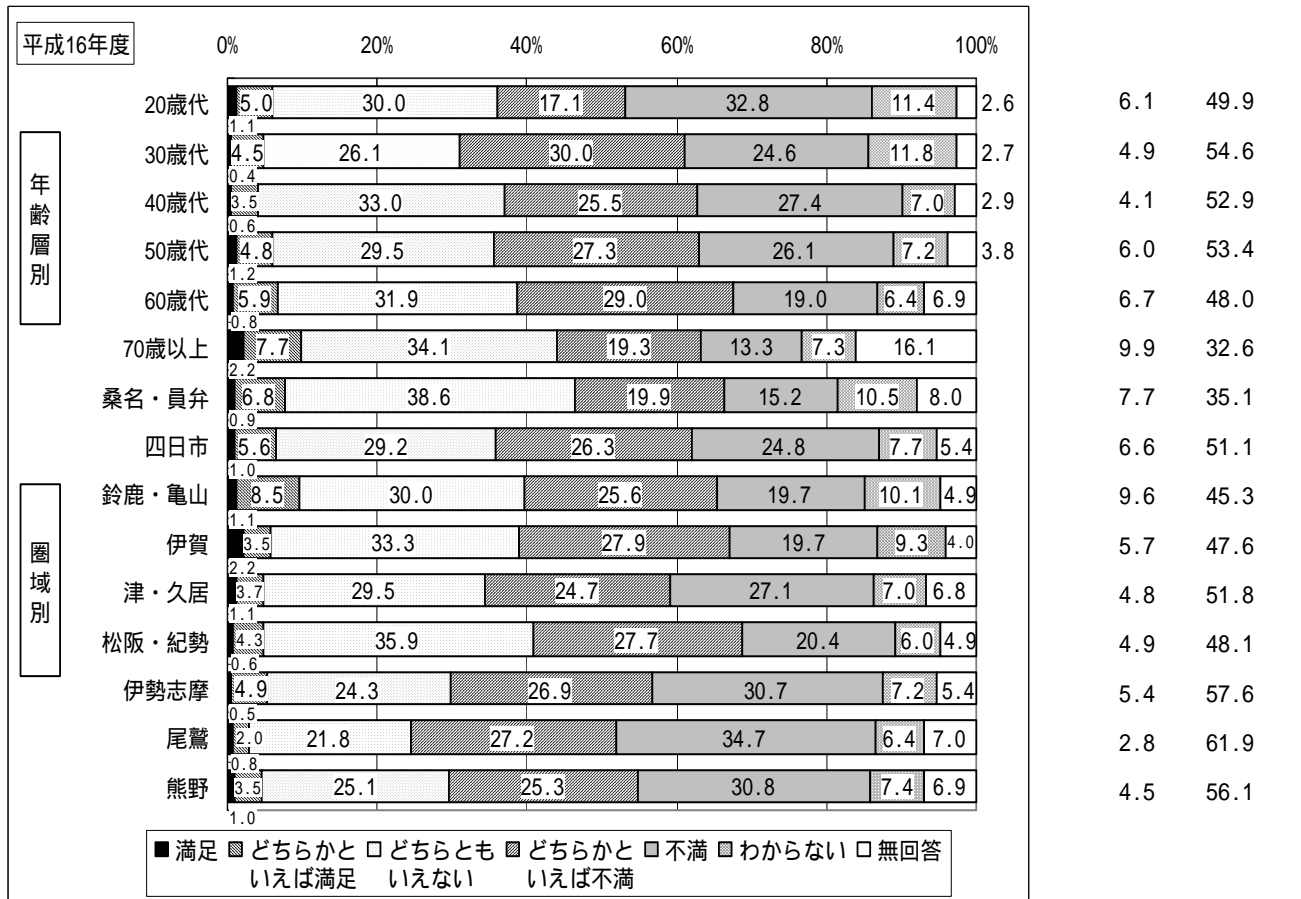
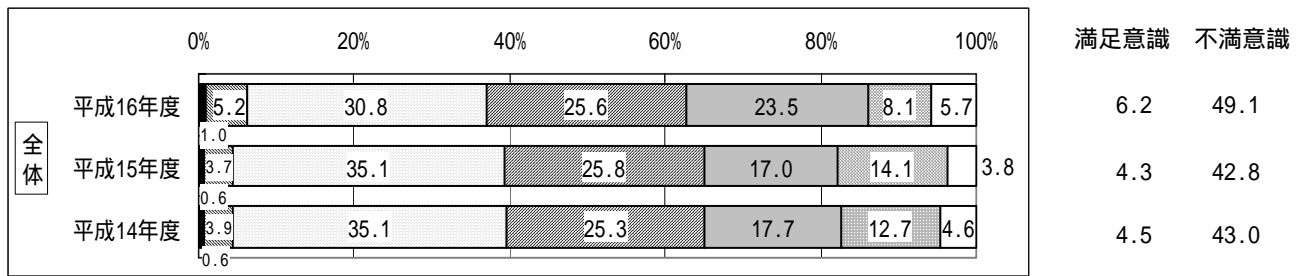
- ・ 全体では、「どちらともいえない」(43.0%)と「わからない」(26.7%)を合わせると69.7%と高くなっている。
- ・ 年齢層別では、70歳以上の満足意識(14.0%)が最も高く、不満意識(9.9%)は最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野(24.8%)が最も高く、桑名・員弁(11.9%)が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて3.3ポイント、15年度と比べて3.5ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を具体的に記述したことにより、県民にわかりやすく身近に感じられるようになったと考えられる。

30) 地域商工業

平成 15 年度までの表現	中小企業の支援や商店街づくりなど地域商工業の活発化
平成 16 年度の表現	地域の中小企業や商店街が活気に満ちていること。



<平成 16 年度>

- ・ 全体では、不満意識が 49.1% (第 2 位) と高くなっている。
- ・ 年齢層別の不満意識は、30 歳代 (54.6%) が最も高く、70 歳以上 (32.6%) が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲 (61.9%) が最も高く、桑名・員弁 (35.1%) が最も低くなっている。

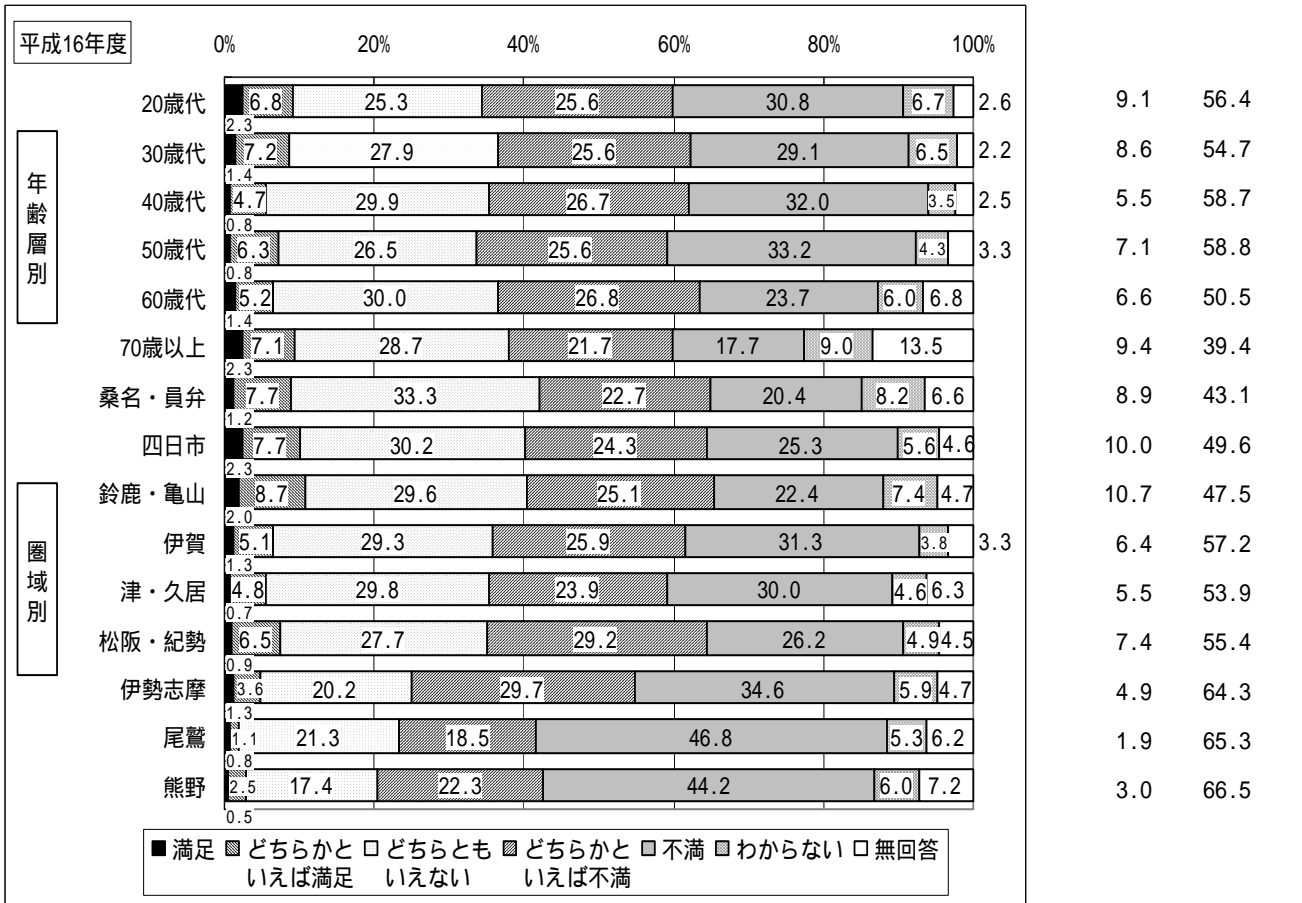
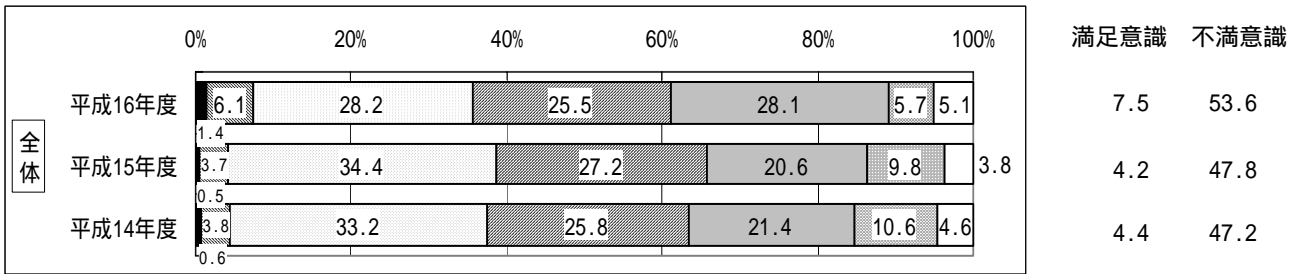
<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 1.7 ポイント、15 年度と比べて 1.9 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすく身近になったことが考えられる。



31) 雇用

平成 15 年度までの表現	働く場の確保と勤労者福祉の向上
平成 16 年度の表現	働く意欲のある人にいきいきと働ける場が確保されていること。



<平成 16 年度>

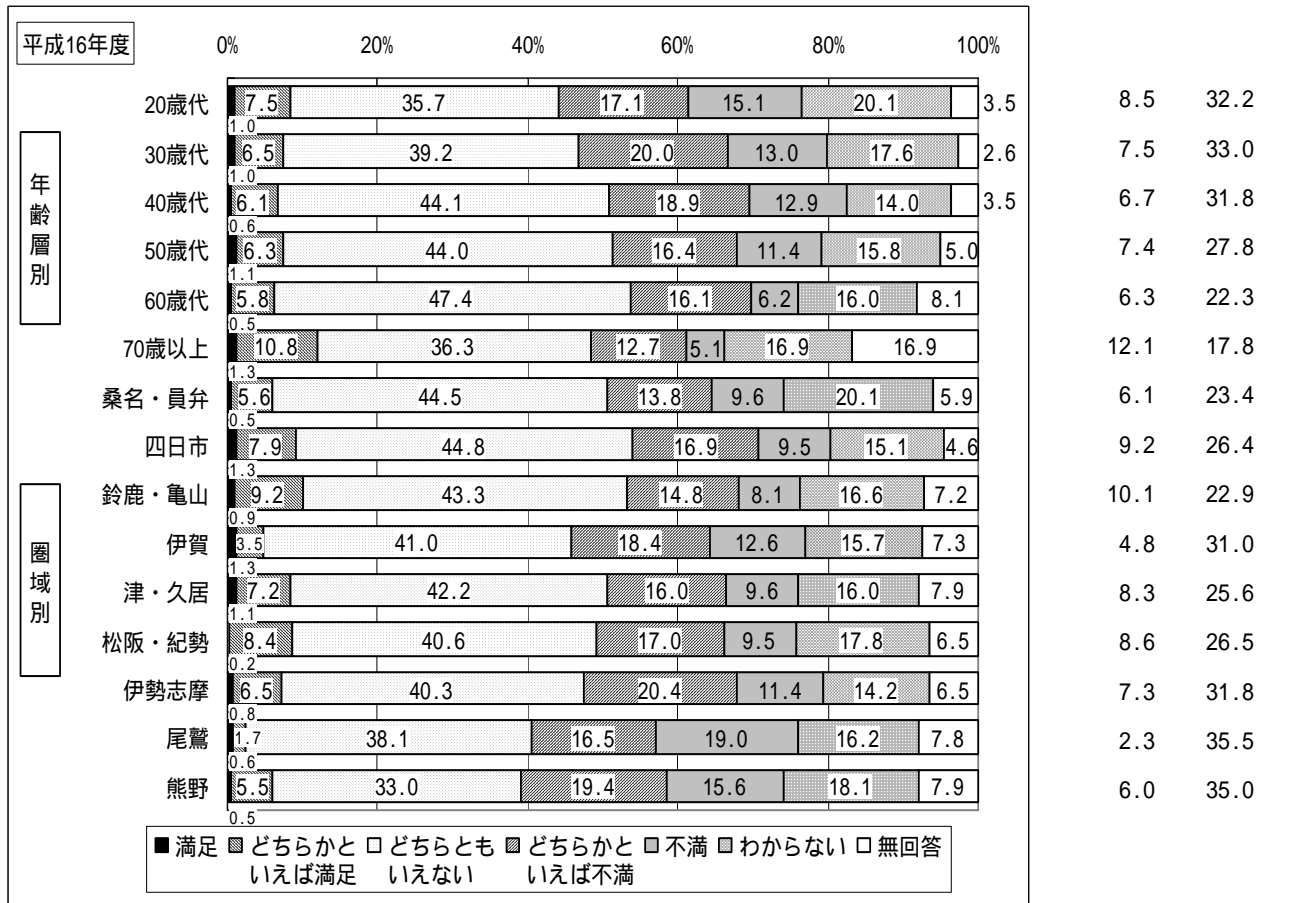
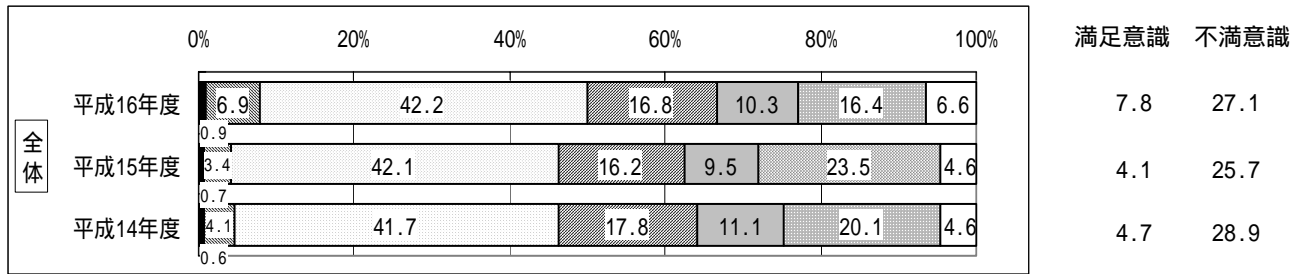
- ・ 全体では、不満意識が 53.6%（第 1 位）と最も高くなっている。
- ・ 年齢層別の不満意識は、60 歳代以下が 5 割を超え高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野（66.5%）、尾鷲（65.3%）、伊勢志摩（64.3%）で高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 3.1 ポイント、15 年度と比べて 3.3 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

32) 職業能力開発

平成 15 年度までの表現	社会の変化に対応した職業能力の開発訓練体制の充実
平成 16 年度の表現	社会の変化に対応した職業能力を身につける機会が確保されていること。



<平成 16 年度>

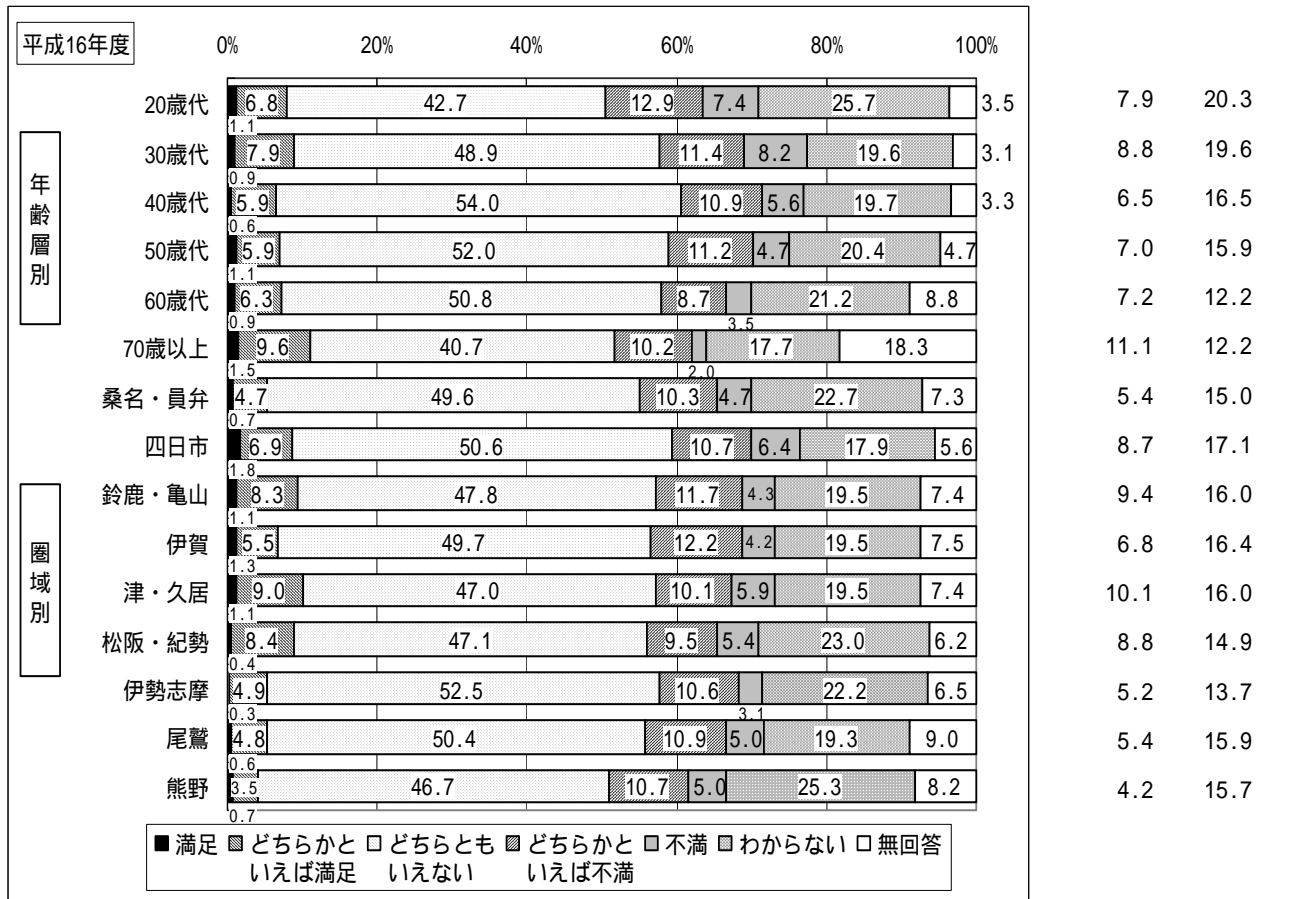
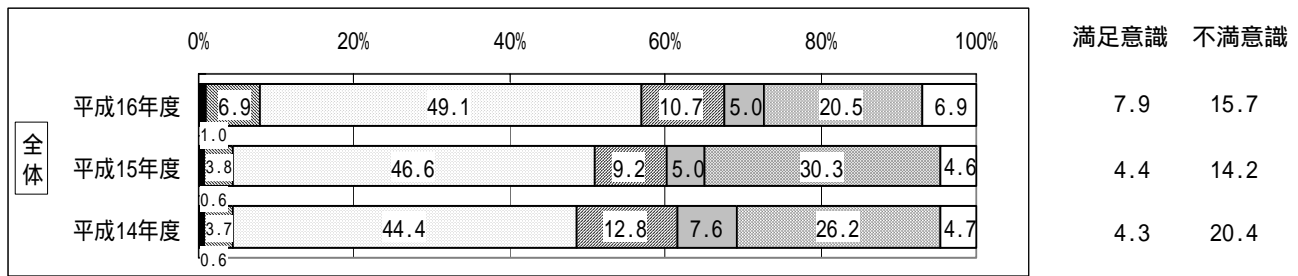
- ・ 年齢層別の不満意識は、30歳代をピークに年齢が上がるに従って低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲(35.5%)が最も高く、次いで熊野(35.0%)の順となっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて3.1ポイント、15年度と比べて3.7ポイント増加している。また、「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

33) 国際化

平成 15 年度までの表現	海外の学校との提携校の拡大など国際化社会に対応できる人材の育成
平成 16 年度の表現	様々な国の人々と互いに理解し合いながら、交流、共生できること。



<平成 16 年度>

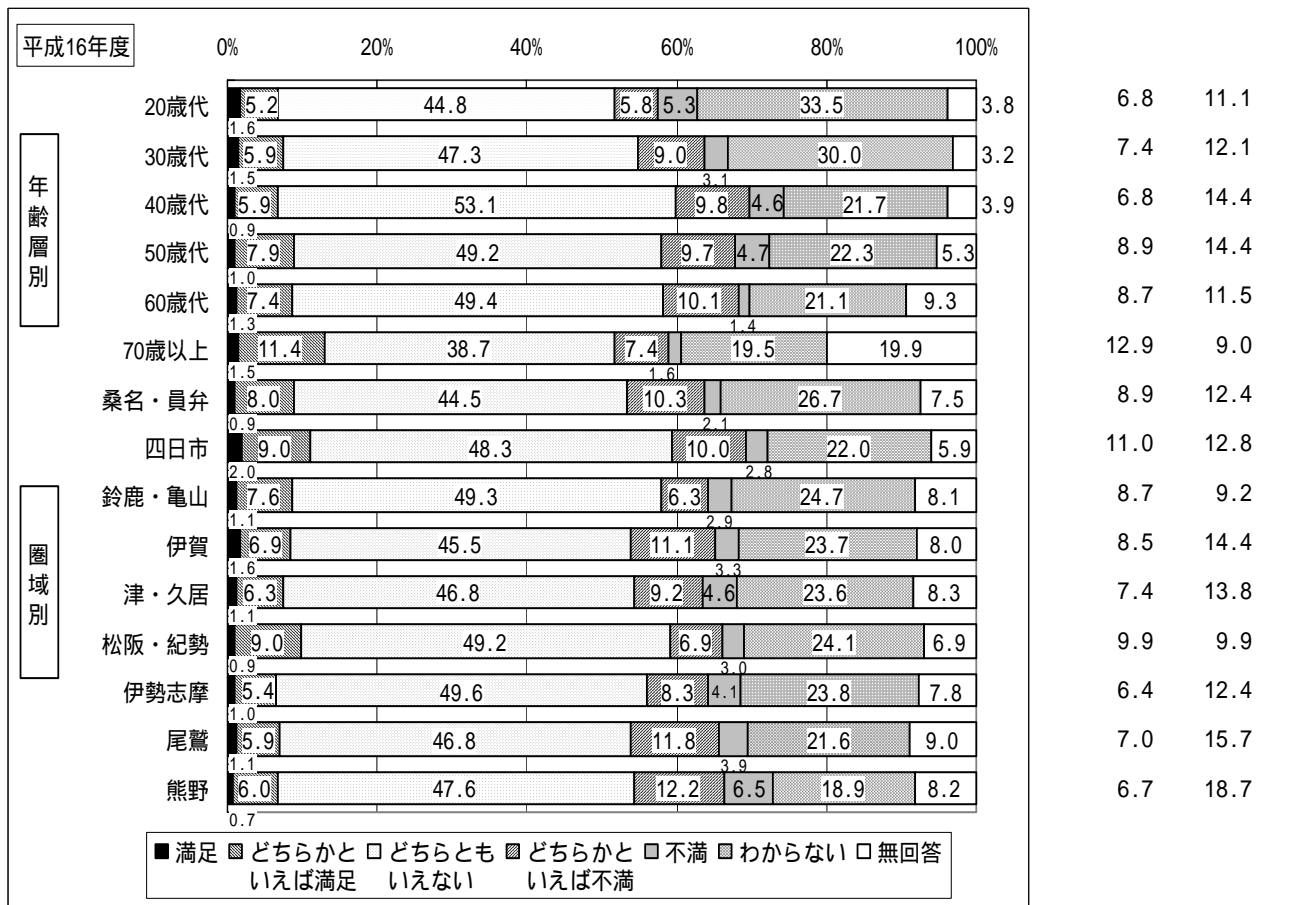
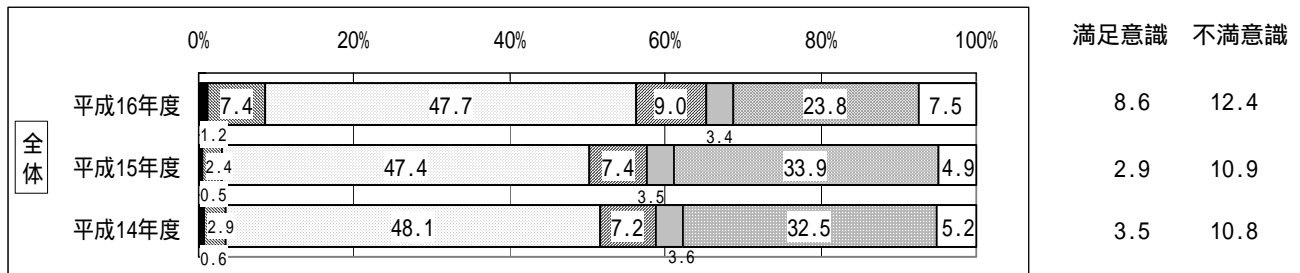
- ・ 全体では、「どちらともいえない」(49.1%)と「わからない」(20.5%)を合わせると69.6%と高くなっている。
- ・ 年齢層別では、不満意識は年齢が高くなるに従って低くなっている。
- ・ 圏域別による大きな意識の差はみられない。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて3.6ポイント、15年度と比べて3.5ポイント増加している。また、「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を人材育成のみを判断材料とした表現から、様々な国の人々との相互理解・交流、共生のような身近でイメージしやすい表現に変更したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

34) 広域交流・連携

平成 15 年度までの表現	県境を越えた児童生徒の受入れの弾力化など、他府県との共同事業の推進
平成 16 年度の表現	環境や防災など近隣府県等と共同で取り組むことが効果的な分野において、県境を越えた様々な交流・連携が行われていること。



<平成 16 年度>

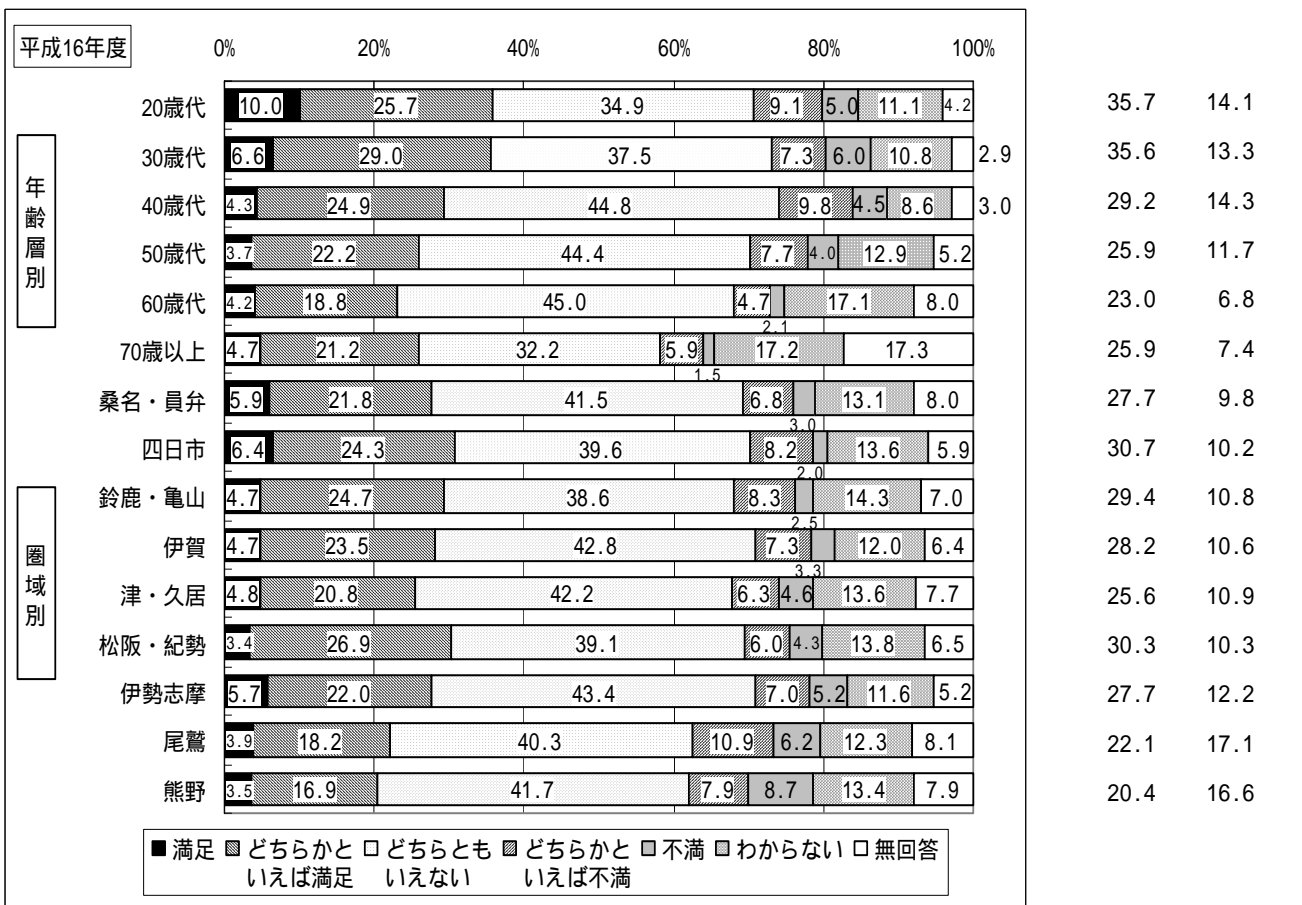
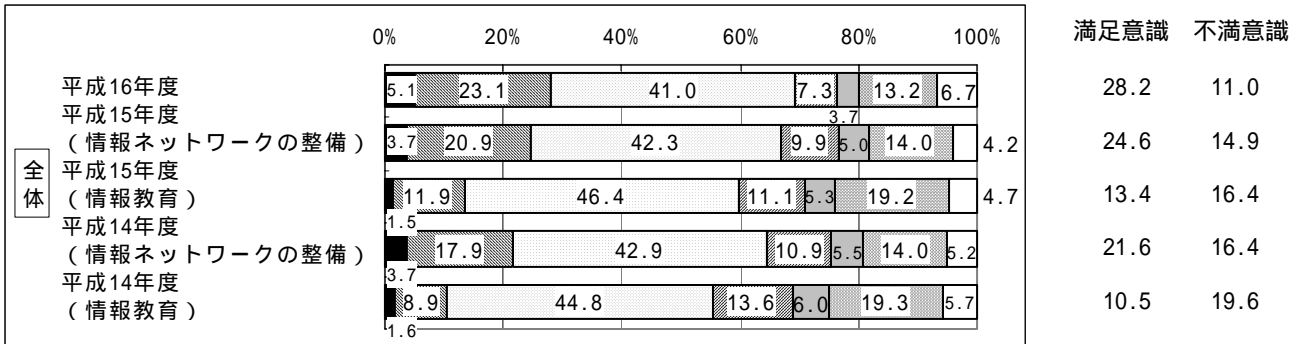
- ・ 全体では、「どちらともいえない」(47.7%)と「わからない」(23.8%)を合わせると71.5%と高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野(18.7%)が最も高く、鈴鹿・亀山(9.2%)が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて5.1ポイント、15年度と比べて5.7ポイント増加している。また、「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現中の例示を昨年までの特定の地域に限定した問題から、より広範囲な問題である環境や防災としたことで、身近な問題としてとらえられたことが考えられる。

35) 情報ネットワーク

平成 15 年度までの表現	ケーブルテレビの普及など情報ネットワークの整備
	インターネットなどの新しい情報手段に対応できるような情報教育の推進
平成 16 年度の表現 ( 統合 )	ケーブルテレビ網やインターネットなどを利用して様々な情報を得ることができること。



< 平成 16 年度 >

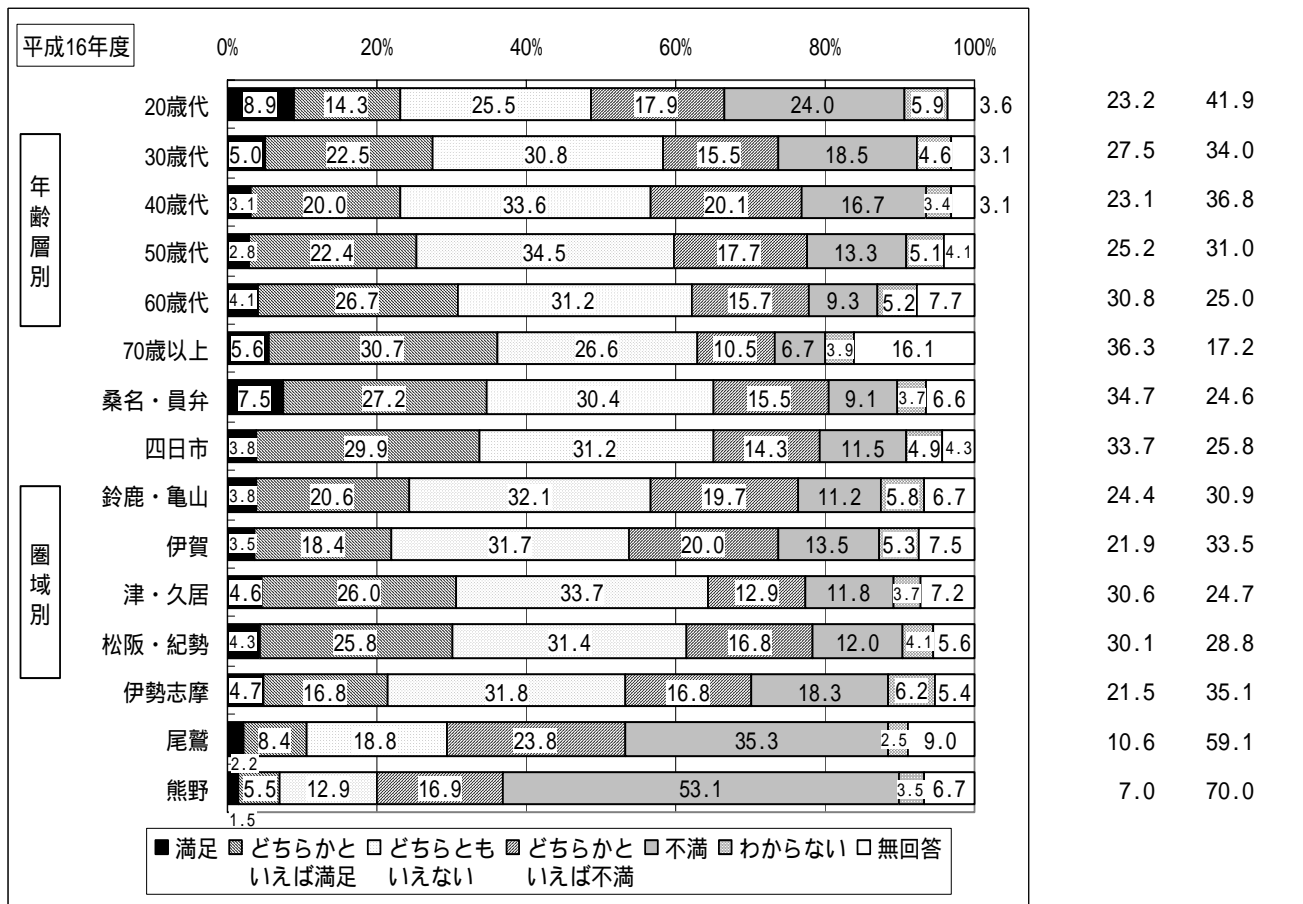
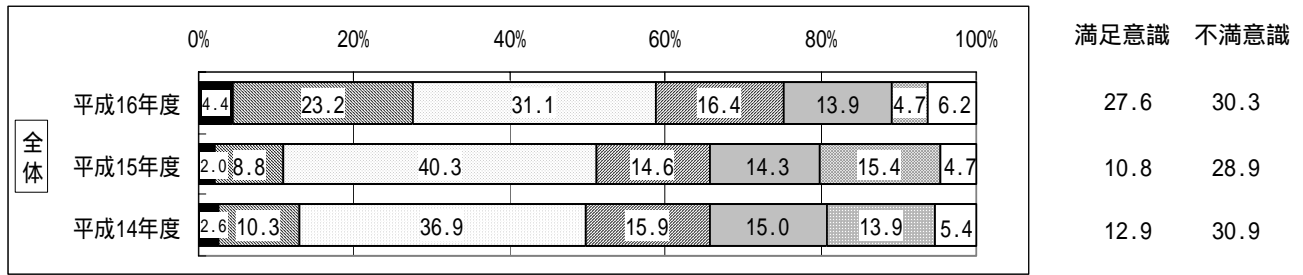
- ・ 年齢層別の満足意識は、20 歳代 ( 35.7% )、30 歳代 ( 35.6% ) が高くなっている。
- ・ 圏域別の満足意識は、四日市 ( 30.7% )、松阪・紀勢 ( 30.3% ) が高くなっている。

< 平成 14 年度・平成 15 年度との比較 >

- ・ 全体の満足意識は、14 年度の「情報ネットワークの整備」と比べて 6.6 ポイント、「情報教育」と比べて 17.7 ポイント、15 年度の「情報ネットワークの整備」と比べて 3.6 ポイント、「情報教育」と比べて 14.8 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

36) 高速交通網

平成 15 年度までの表現	空港、新幹線、高速道路など高速交通機関までおおむね 30 分で到達できる地域の拡大
平成 16 年度の表現	空港、新幹線、高速道路などの高速交通機関が利用しやすくなり、遠くの地域へ短時間で移動できること。



<平成 16 年度>

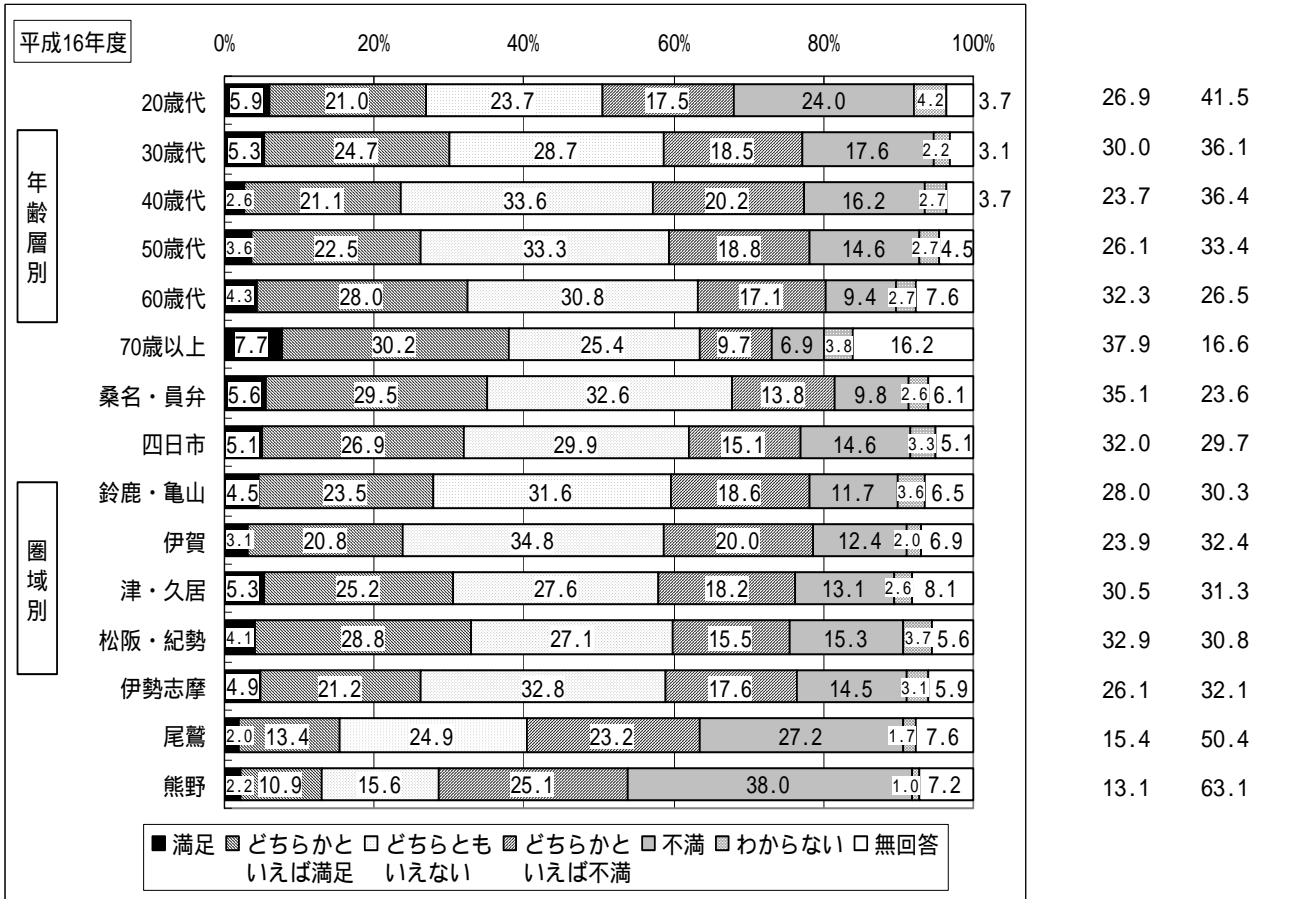
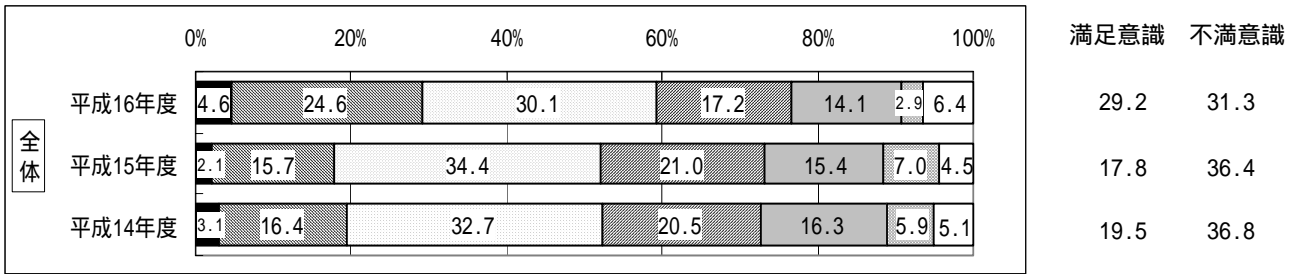
- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代 (41.9%) が最も高く、次いで 40 歳代 (36.8%) の順となっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野 (70.0%)、尾鷲 (59.1%) が特に高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 14.7 ポイント、15 年度と比べて 16.8 ポイントと大きく増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少しており、その要因として、調査票の表現を変更したことで設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

37) 道路の整備

平成 15 年度までの表現	国道や県道の改良・整備
平成 16 年度の表現	道路が整備され、快適に移動できること。



<平成 16 年度>

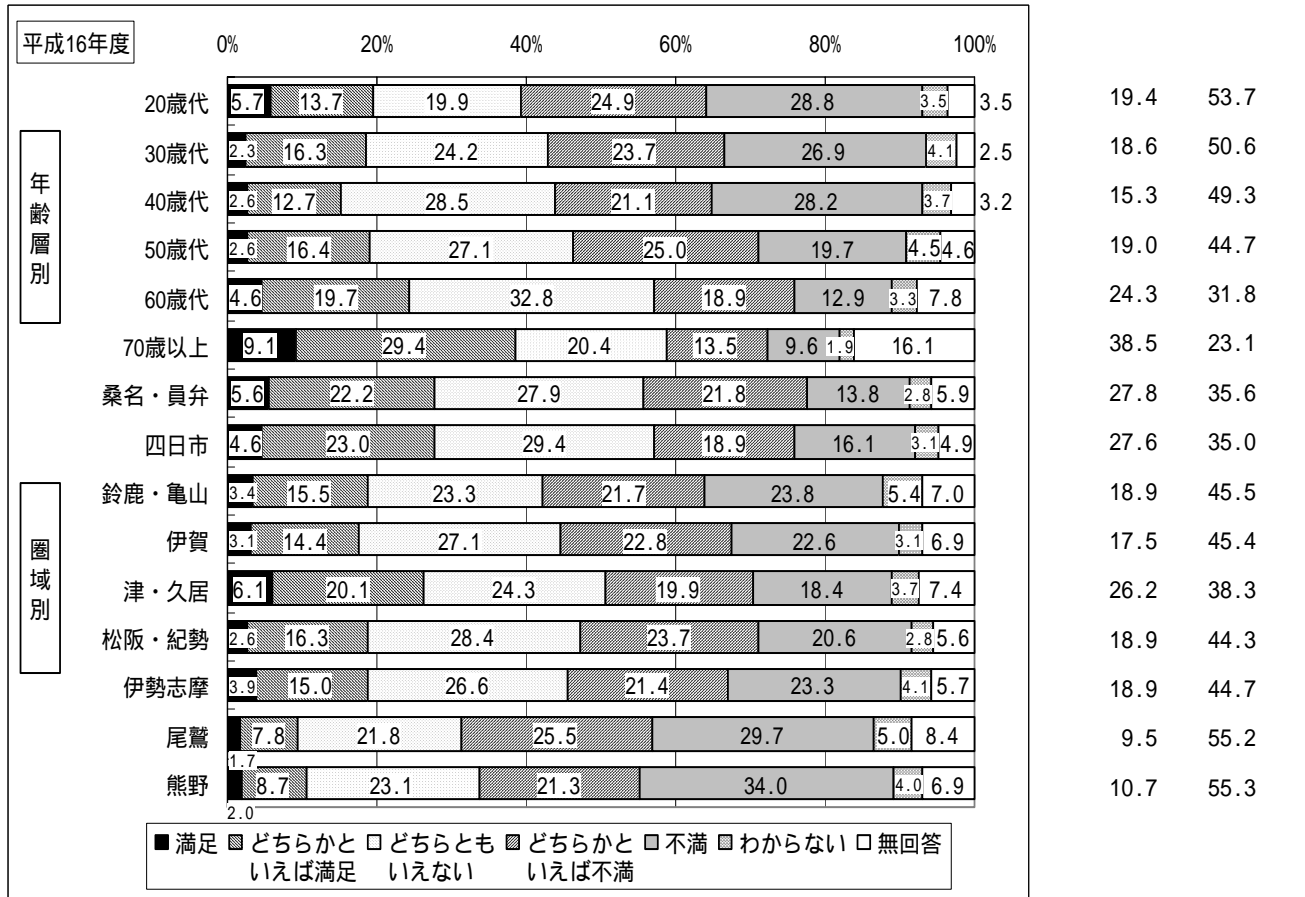
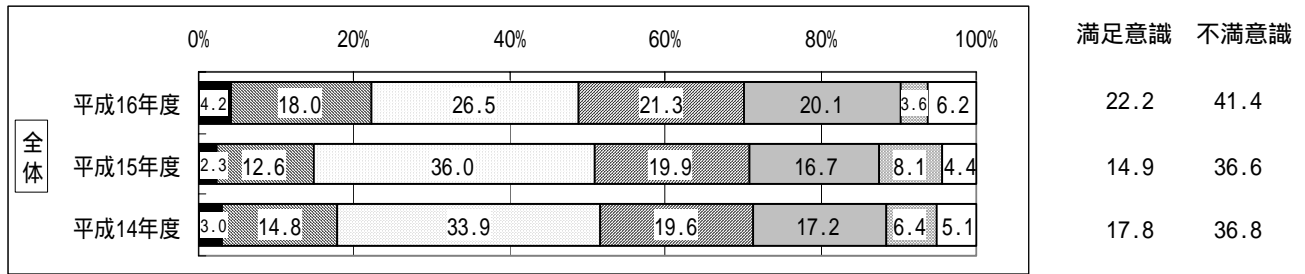
- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代（41.5%）が最も高くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野（63.1%）、尾鷲（50.4%）が特に高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 9.7 ポイント、15 年度と比べて 11.4 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

38) 公共交通機関

平成 15 年度までの表現	鉄道やバスなど公共交通機関の整備
平成 16 年度の表現	バス、鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと。



<平成 16 年度>

- ・ 年齢層別の不満意識は、20 歳代（53.7%）が最も高く、年齢が上がるに従って低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野（55.3%）、尾鷲（55.2%）が特に高くなっている。

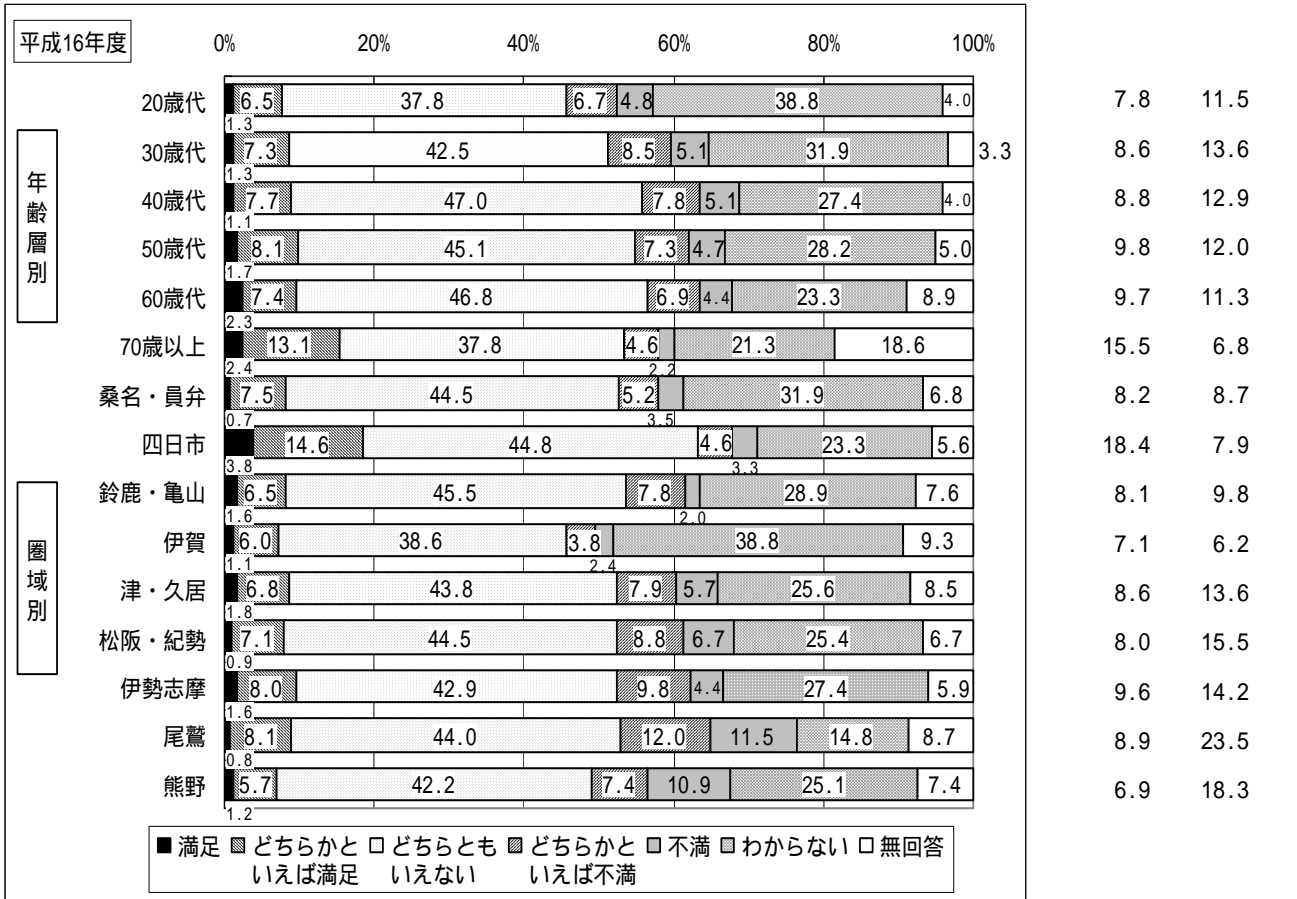
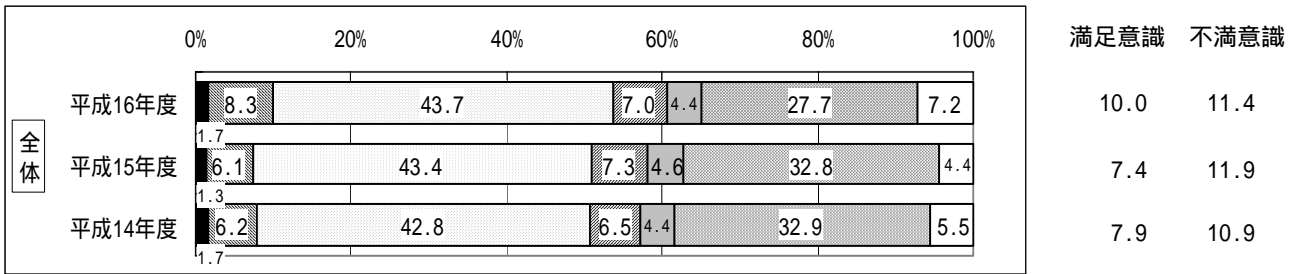
<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 4.4 ポイント、15 年度と比べて 7.3 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。



39) 港の整備

平成 15 年度までの表現	港湾の整備
平成 16 年度の表現	港が整備され、多くの船や人々が利用していること。



<平成 16 年度>

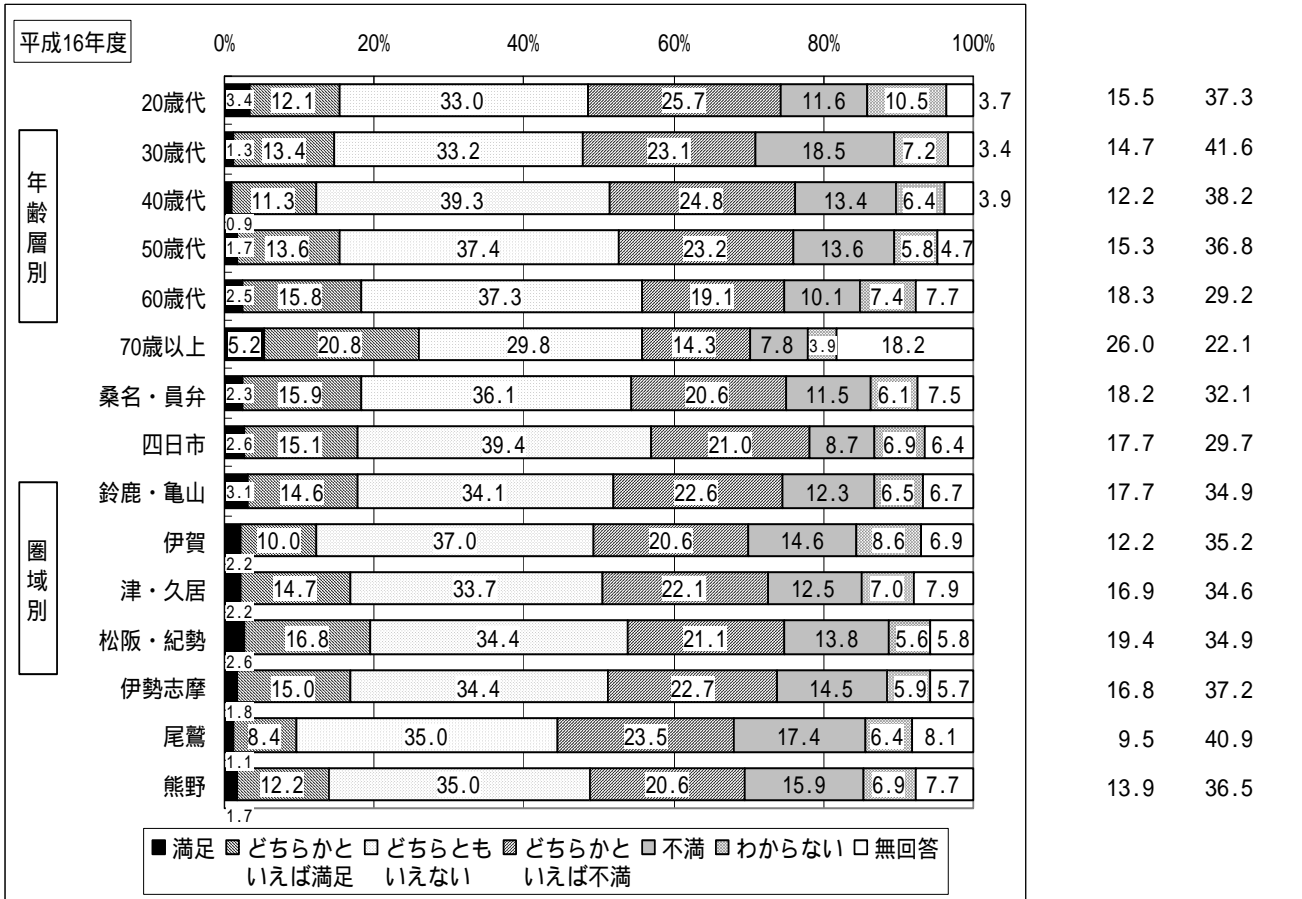
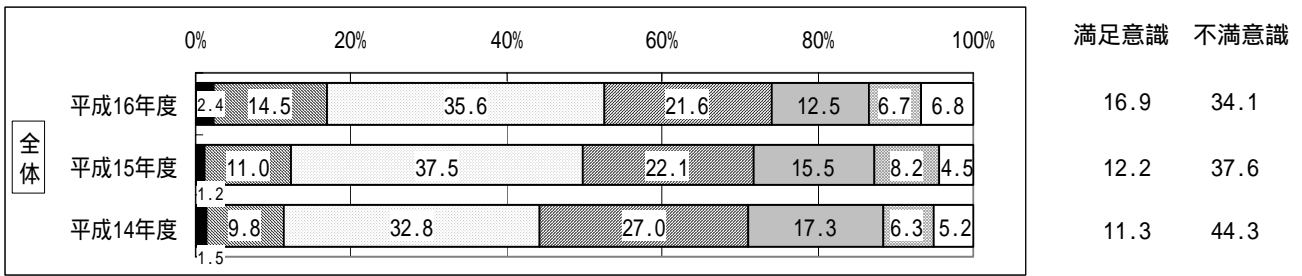
- ・ 全体では、「どちらともいえない」(43.7%)と「わからない」(27.7%)を合わせると 71.4%と高くなっている。
- ・ 年齢層別の不満意識は、30歳代(13.6%)が最も高く、70歳以上(6.8%)が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲(23.5%)が最も高く、伊賀(6.2%)が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて2.1ポイント、15年度と比べて2.6ポイント増加している。また、「わからない」は14年度、15年度より減少している。

40) 快適なまちづくり

平成 15 年度までの表現	公園や歩道、段差のない公共的施設など快適なまちづくり
平成 16 年度の表現	段差のない公共的施設、公園や歩道など、快適で暮らしやすいまちづくりが行われていること。



<平成 16 年度>

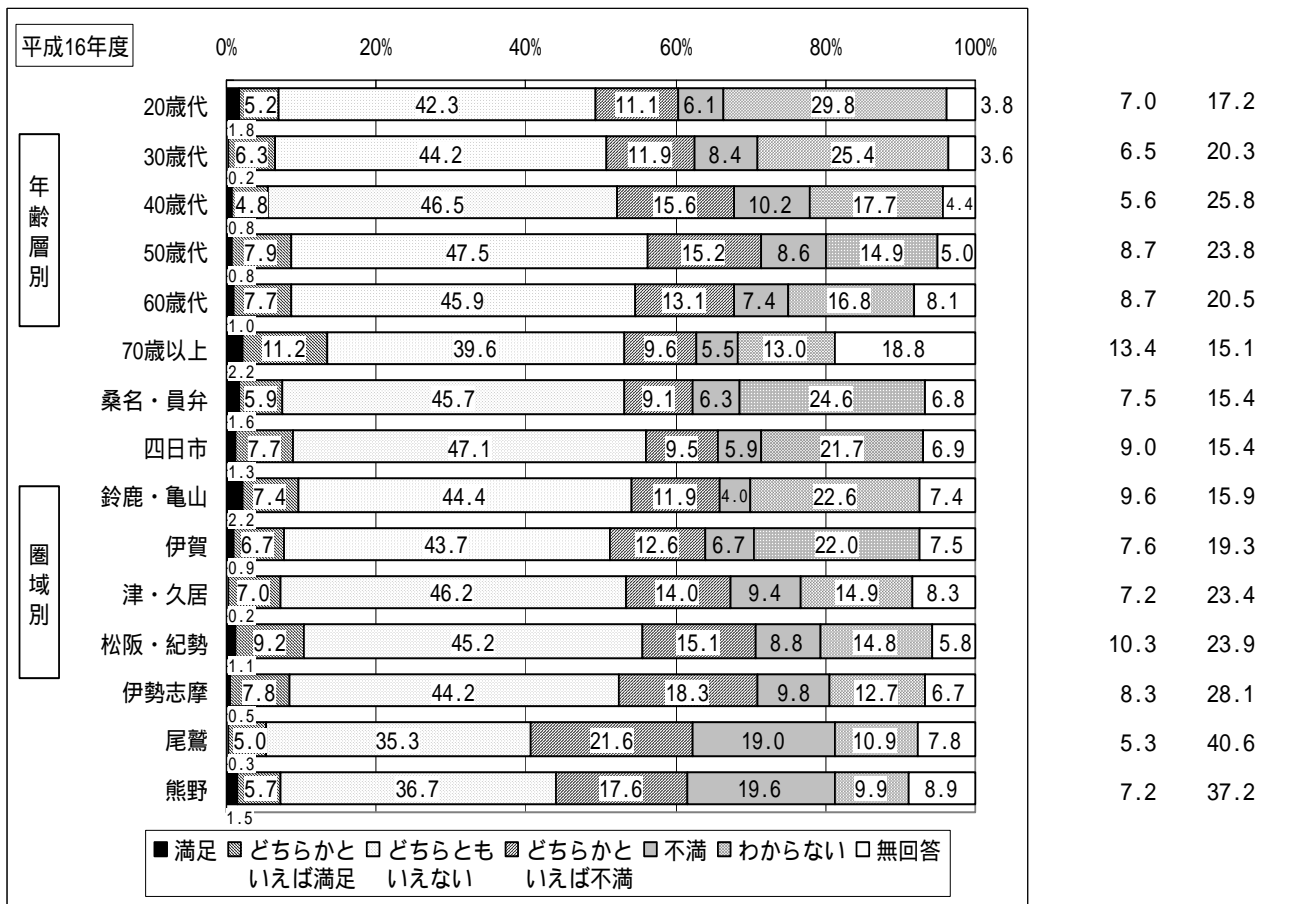
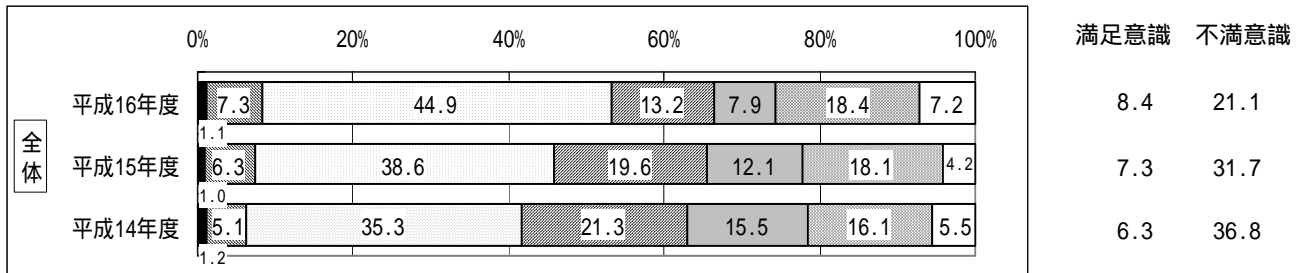
- ・ 年齢層別の不満足意識は、30 歳代 (41.6%) が最も高く、次いで 40 歳代 (38.2%) の順となっている。
- ・ 圏域別の不満足意識は、尾鷲 (40.9%) が最も高く、四日市 (29.7%) が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 5.6 ポイント、15 年度と比べて 4.7 ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は 15 年度より減少している。

41) 農山漁村づくり

平成 15 年度までの表現	道路、生活排水処理施設の整備など若者が定住する農山漁村づくり
平成 16 年度の表現	農山漁村の生活基盤が整備され、住民や訪れた人々にとって魅力がある地域になっていること。



<平成 16 年度>

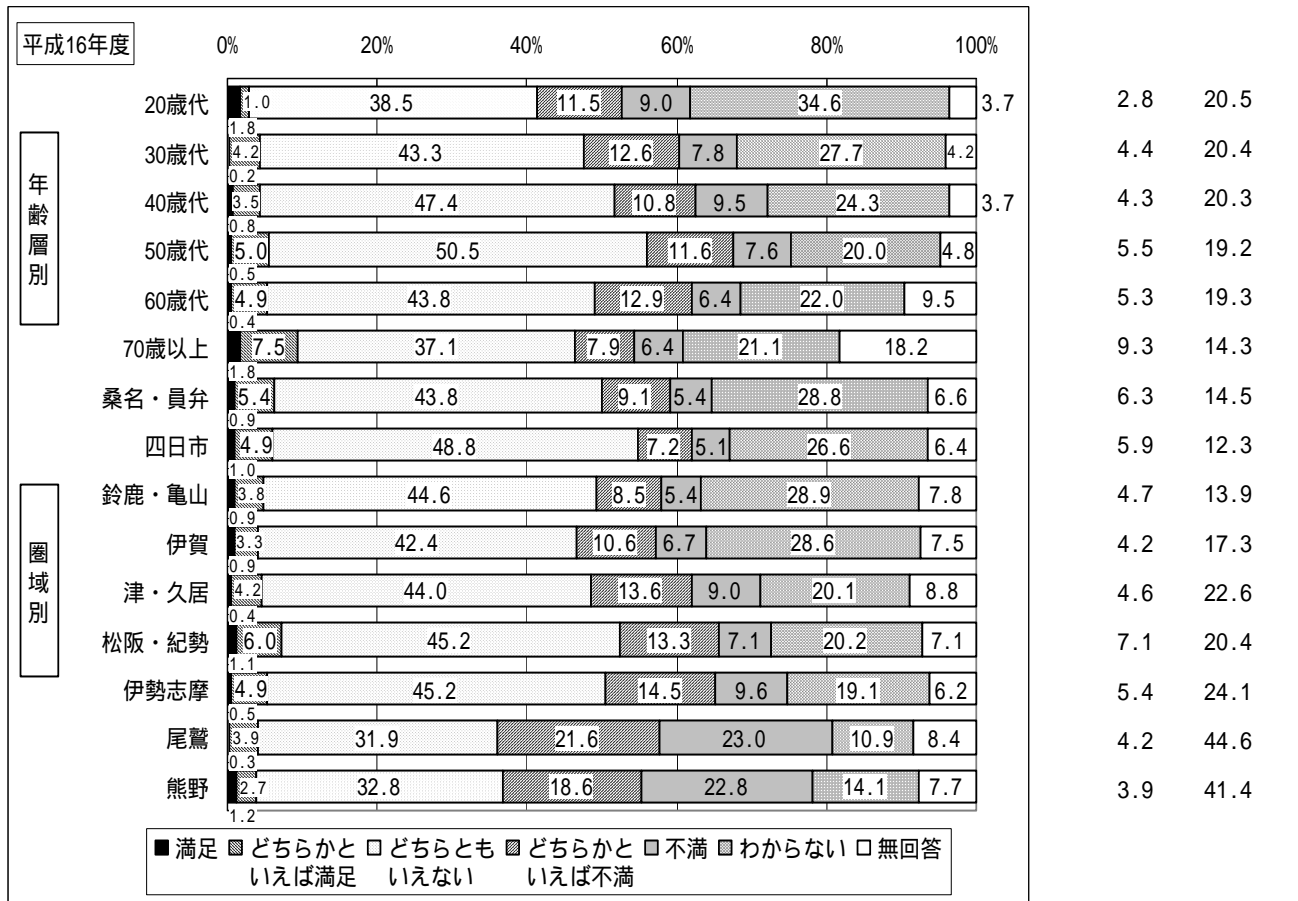
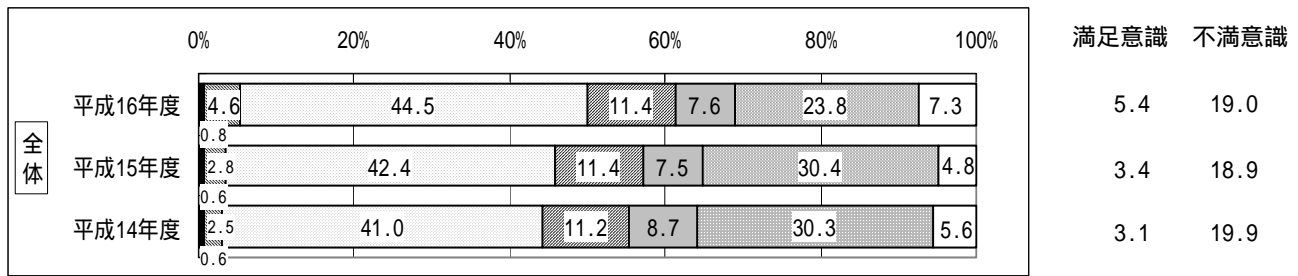
- ・ 年齢層別の不満意識は、40歳代（25.8%）が最も高く、70歳以上（15.1%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲（40.6%）、熊野（37.2%）が特に高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて2.1ポイント、15年度と比べて1.1ポイント増加している。また、「どちらともいえない」「わからない」は14年度、15年度より増加している。

42) 過疎地域等の振興

平成 15 年度までの表現	過疎地域や離島、半島地域の活性化
平成 16 年度の表現	過疎地域や離島等が活性化や地域おこしの取組を通じて魅力のある地域になっていること。



<平成 16 年度>

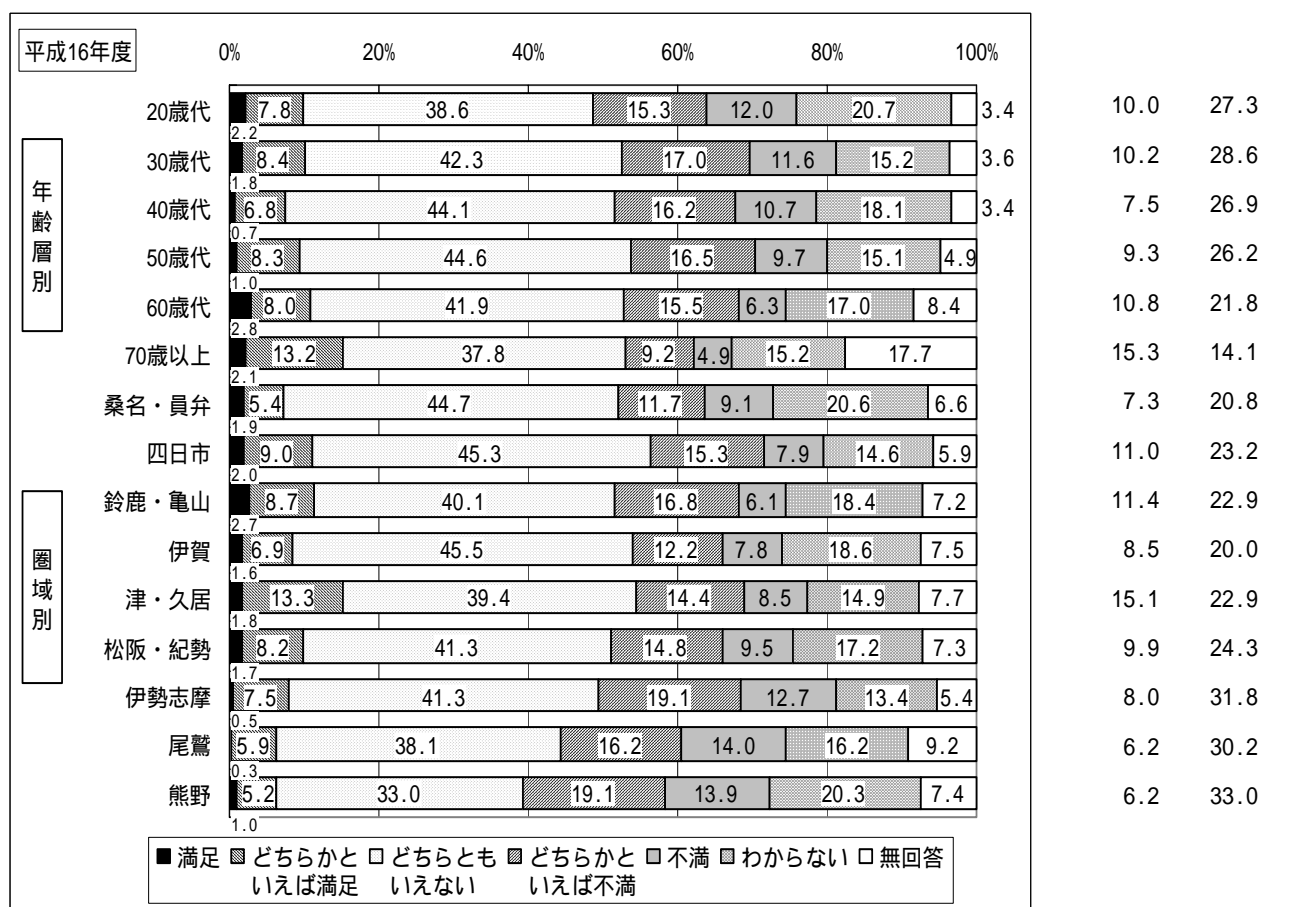
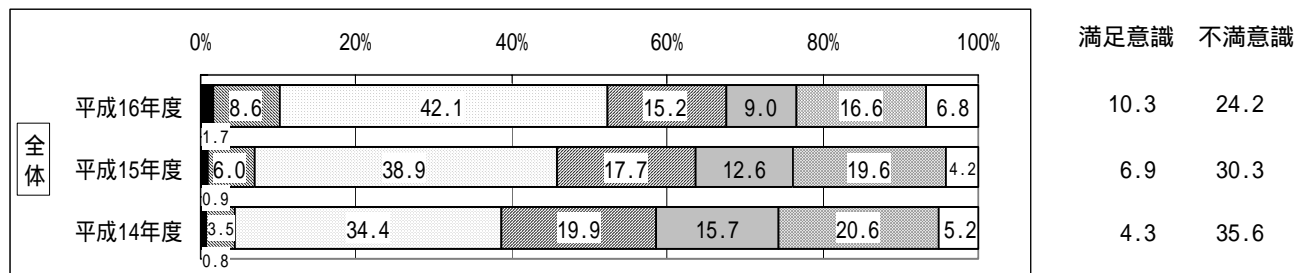
- ・ 年齢層別の不満意識は、70歳以上（14.3%）が低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、尾鷲（44.6%）、熊野（41.4%）が特に高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14年度と比べて2.3ポイント、15年度と比べて2.0ポイント増加している。また、「わからない」は14年度、15年度より減少しており、その要因として、調査票の表現に行政の取組結果の状態を例示したことにより、設問の意図がわかりやすくなったことが考えられる。

43) エネルギー

平成 15 年度までの表現	省エネルギー対策の推進、太陽光発電の普及など地球に優しいエネルギー対策
平成 16 年度の表現	省エネルギーの意識や、太陽光発電の普及など地球にやさしいエネルギー対策が進んでいること。



<平成 16 年度>

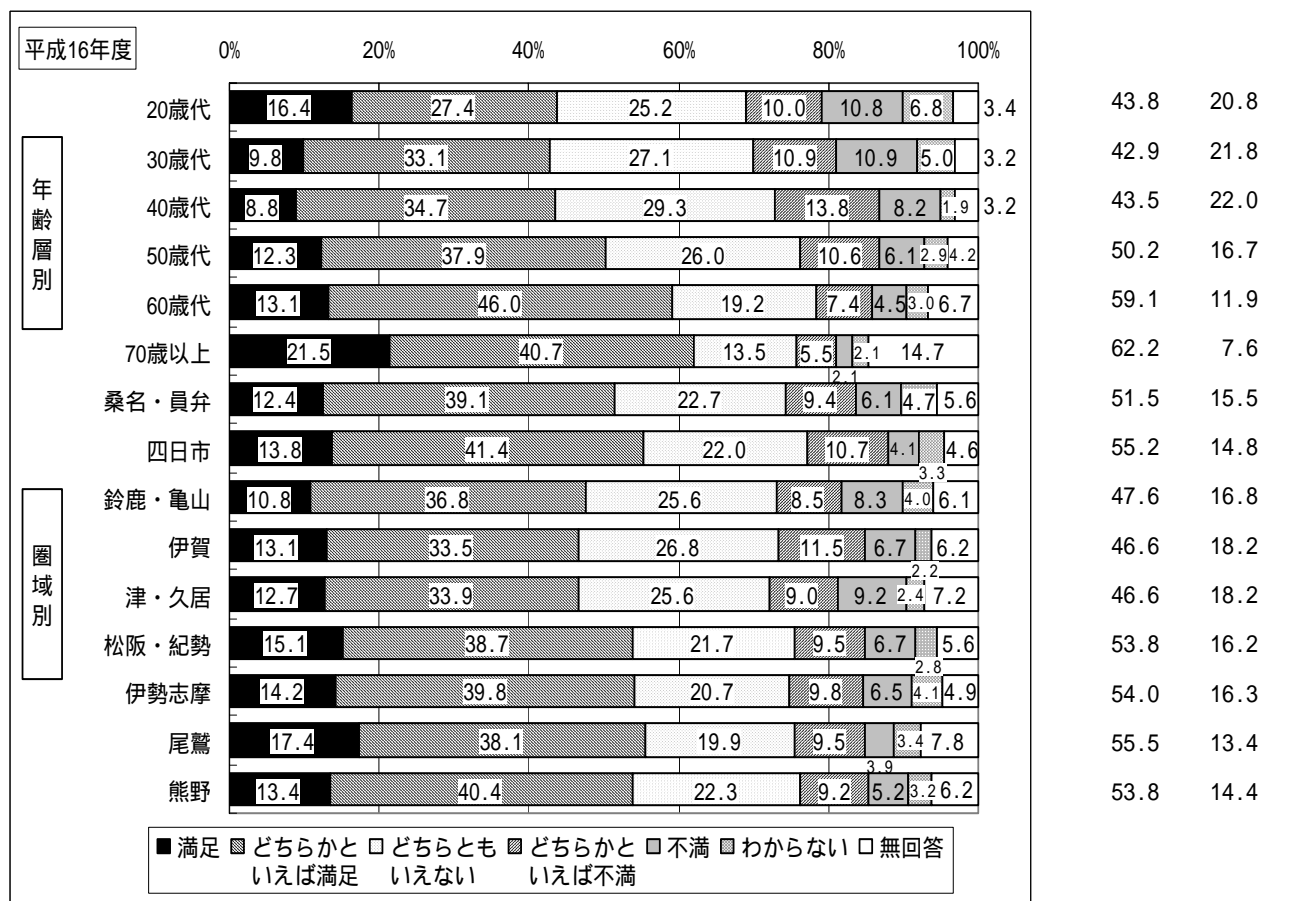
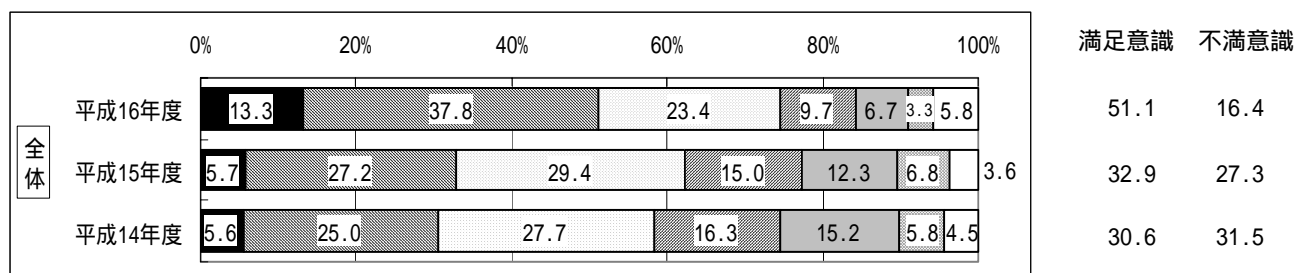
- ・ 年齢層別の不満意識は、30 歳代（28.6%）が最も高く、70 歳以上（14.1%）が最も低くなっている。
- ・ 圏域別の不満意識は、熊野（33.0%）、伊勢志摩（31.8%）、尾鷲（30.2%）が高くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 6.0 ポイント、15 年度と比べて 3.4 ポイント増加している。また、「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

44) 飲料水の供給

平成 15 年度までの表現	安心して飲める水の安定確保
平成 16 年度の表現	安心して飲める水が安定的に供給されること。



<平成 16 年度>

- ・ 全体では、満足意識が 51.1% (第 1 位) と最も高くなっている。
- ・ 年齢層別の満足意識は、70 歳以上 (62.2%) が最も高く、30 歳代 (42.9%) が最も低くなっている。

<平成 14 年度・平成 15 年度との比較>

- ・ 全体の満足意識は、14 年度と比べて 20.5 ポイント、15 年度と比べて 18.2 ポイントと大きく増加している。また、「わからない」は 14 年度、15 年度より減少している。

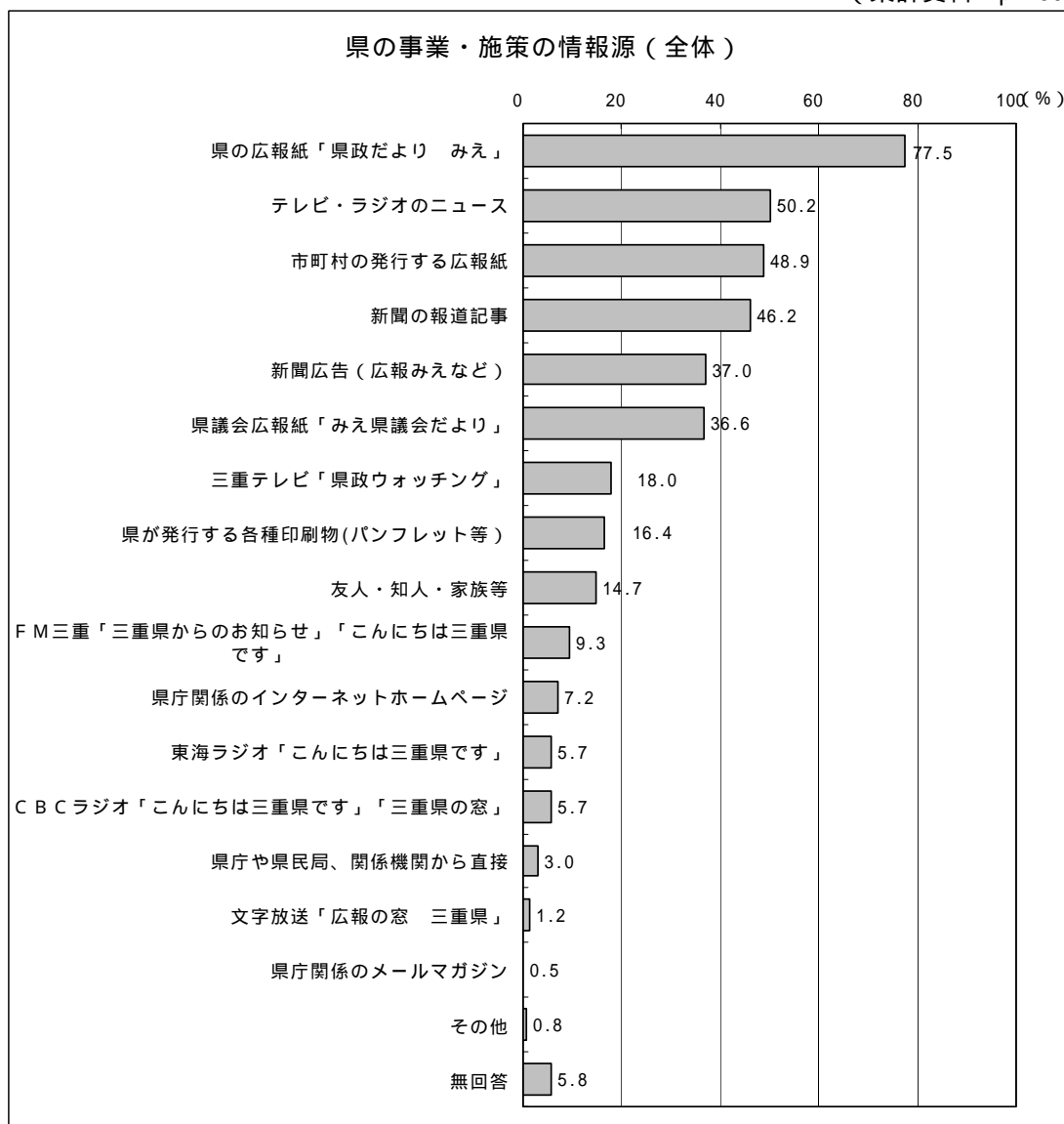
### 3. 広聴広報活動に関する質問

#### (1) 県の事業・施策の情報源

問3 - 1 あなたは、県が行っている施策や事業について、どこから情報を得ていますか。  
(はいくつでも)

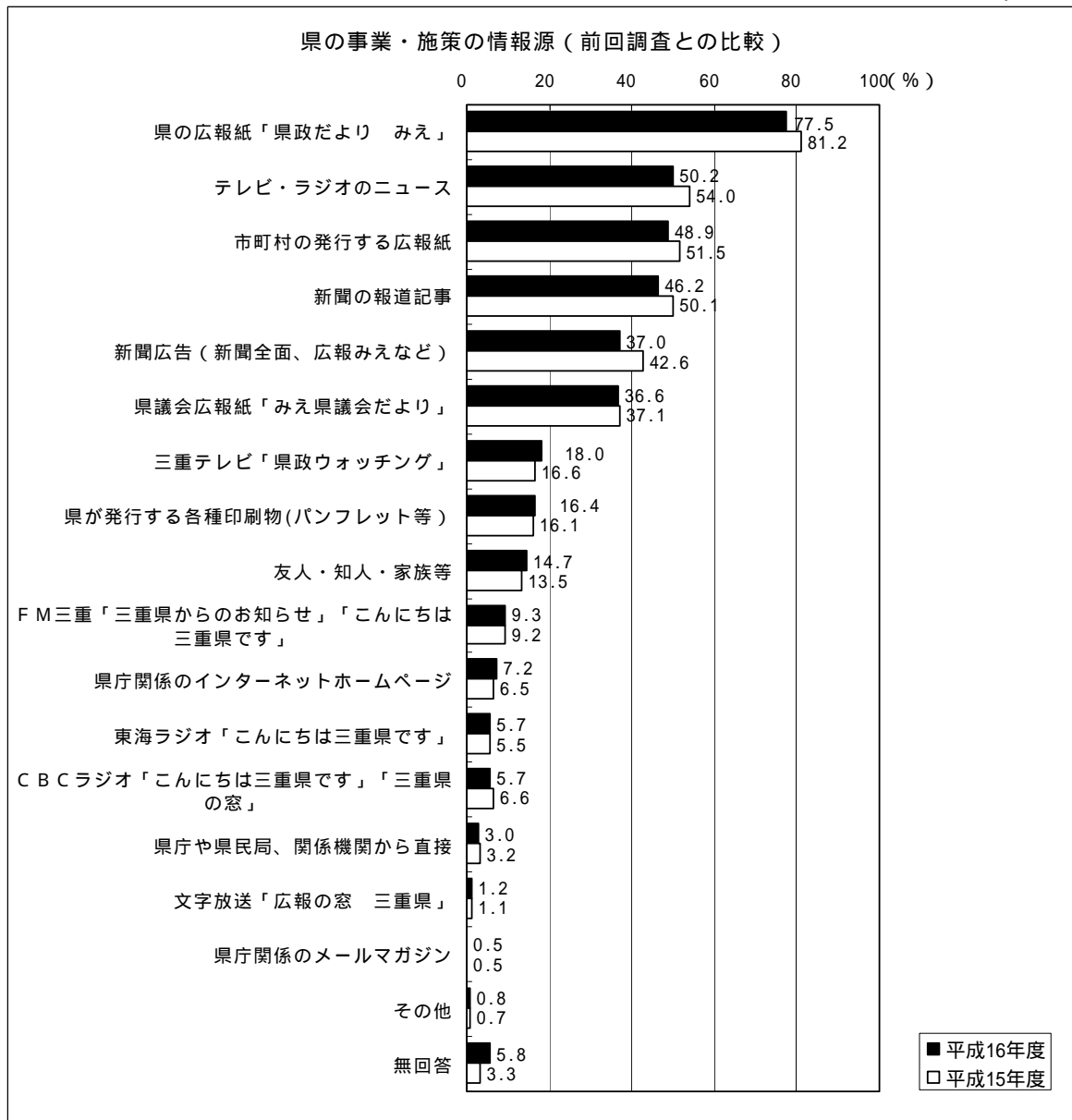
全 体

(集計資料 p.139)



#### 平成 16 年度

県が行っている施策や事業の情報源については、「県の広報紙『県政だより みえ』」と回答した人の割合が 77.5%と最も高くなっており、次いで「テレビ・ラジオのニュース」(50.2%)、「市町村の発行する広報紙」(48.9%)、「新聞の報道記事」(46.2%)の順となっている。



平成 15 年度と比べると、上位 5 項目の順位に変化はないものの、全体として減少傾向にあり、中でも「新聞広告（新聞全面、広報みえなど）」については 5.6 ポイント減少している。

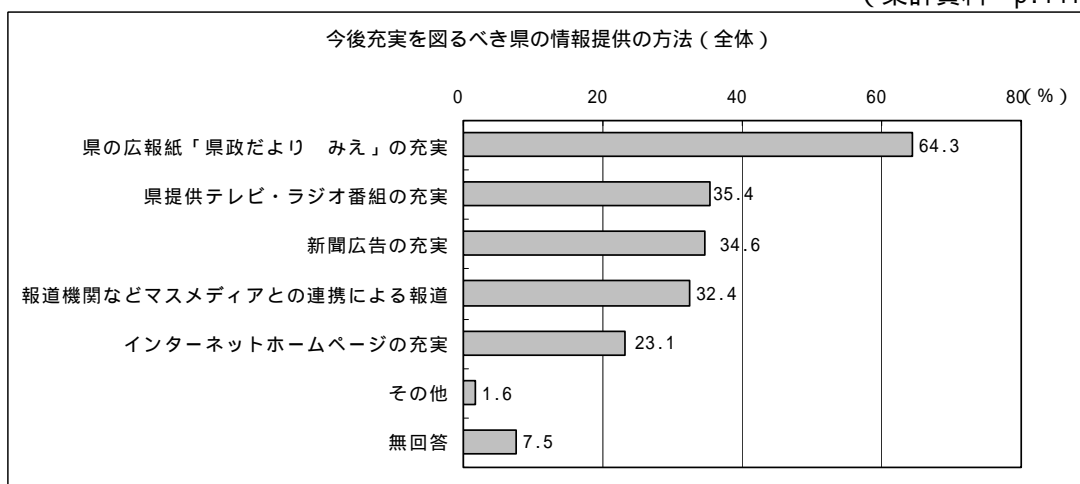


(2) 今後充実を図るべき県の情報をお知らせするための効果的な方法

問3 - 2 今後充実を図るべき県の情報提供の方法はどのような方法が良いとお考えでしょう。(はいいくつでも)

全 体

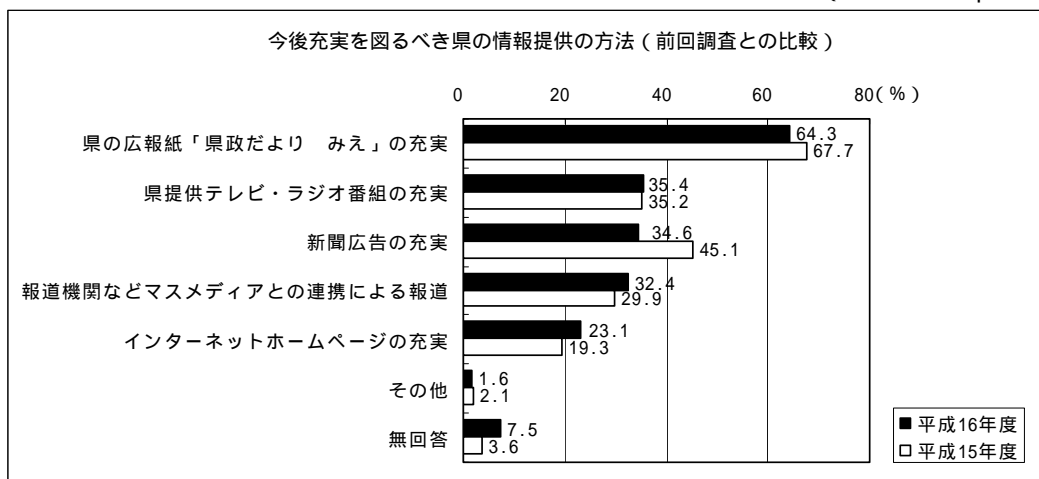
(集計資料 p.141)



平成16年度

効果的な情報提供の方法については、「県の広報紙『県政だより みえ』の充実」と回答した人の割合が64.3%と最も高くなっており、次いで「県提供テレビ・ラジオ番組の充実」(35.4%)、「新聞広告の充実」(34.6%)、「報道機関などマスメディアとの連携による報道」(32.4%)、「インターネットホームページの充実」(23.1%)の順となっている。

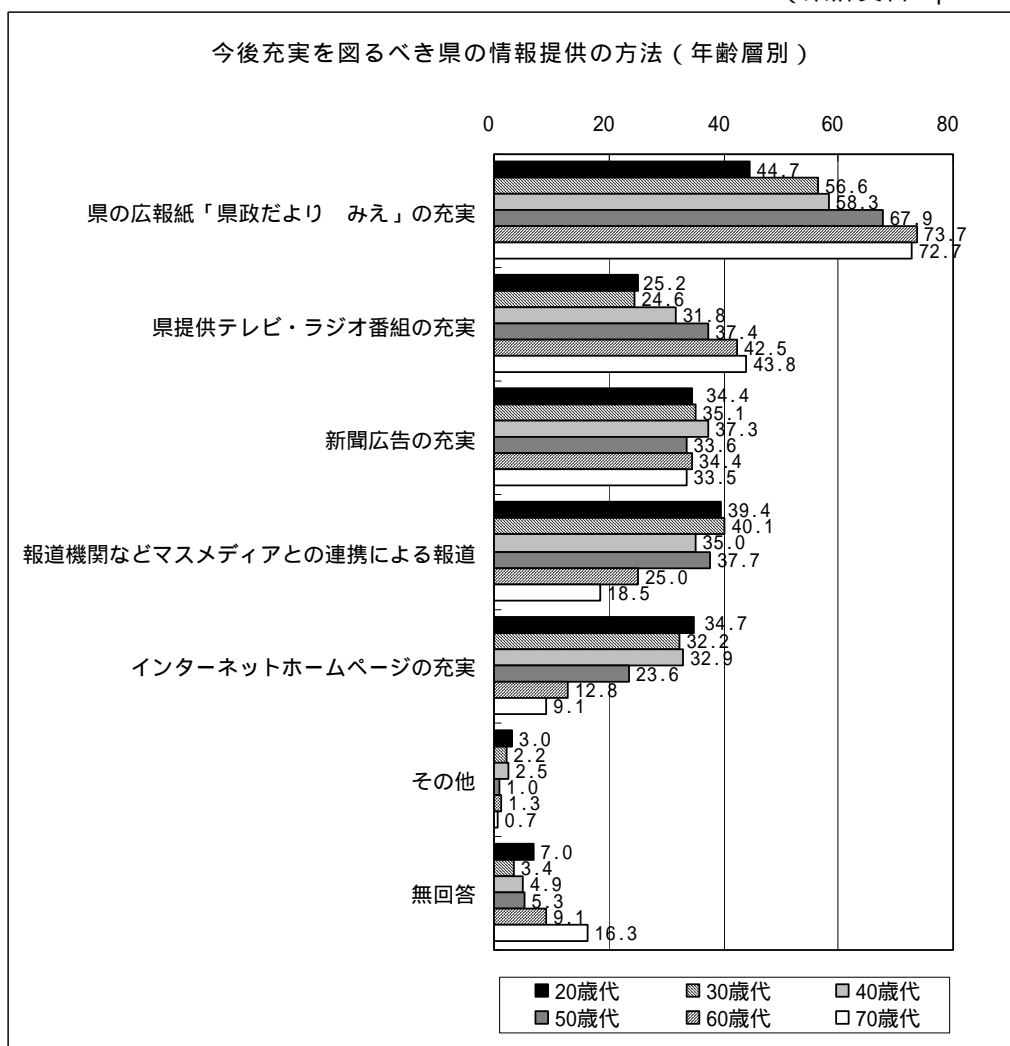
(集計資料 p.141)



## 年齢層別

平成 15 年度と比べて、「新聞広告の充実」と回答した人の割合が 10.5 ポイント減少している。

(集計資料 p.141)



## 平成 16 年度

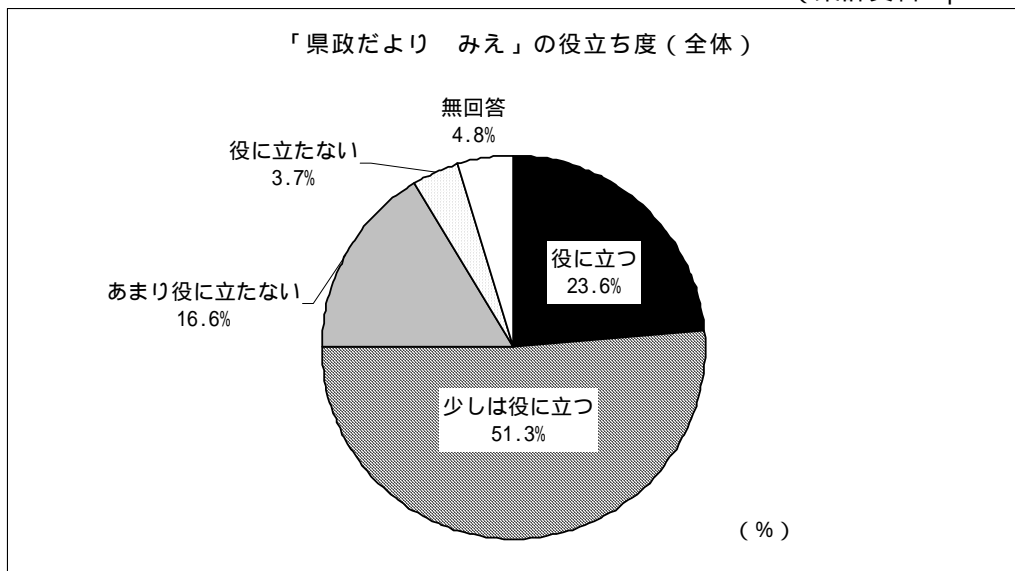
年齢層別にみると、「県の広報紙『県政だより みえ』の充実」「県提供テレビ・ラジオ番組の充実」と回答した人の割合は、年齢とともに高くなっているのに対し、「報道機関などマスメディアとの連携による報道」「インターネットホームページの充実」と回答した人の割合は、若い年齢層ほど高くなっている。

(3) 「県政だより みえ」の役立ち度

問3 - 3 「県政だより みえ」は、どの程度役に立つと思いますか。( は1つ)

全 体

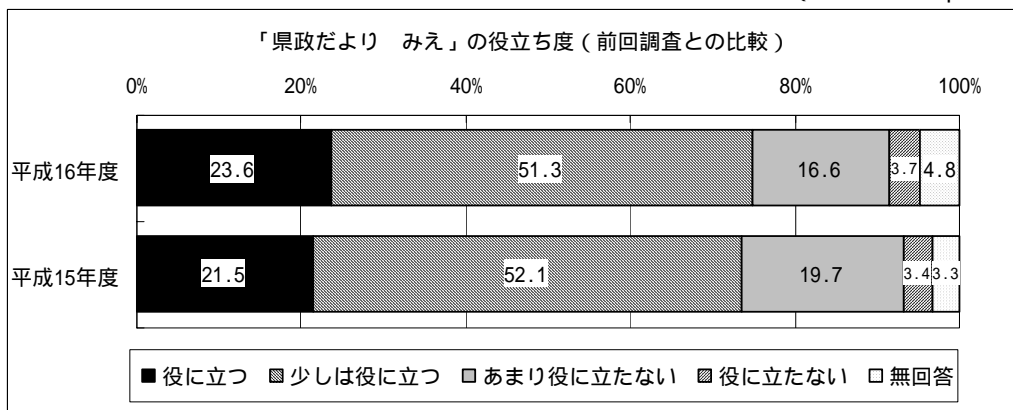
(集計資料 p.142)



平成 16 年度

『県政だより みえ』の役立ち度については、「少しは役に立つ」と回答した人の割合が 51.3% と最も高く、これに「役に立つ」(23.6%) を合わせると、“役立っている人” が約 7 割 (74.9%) を占めている。

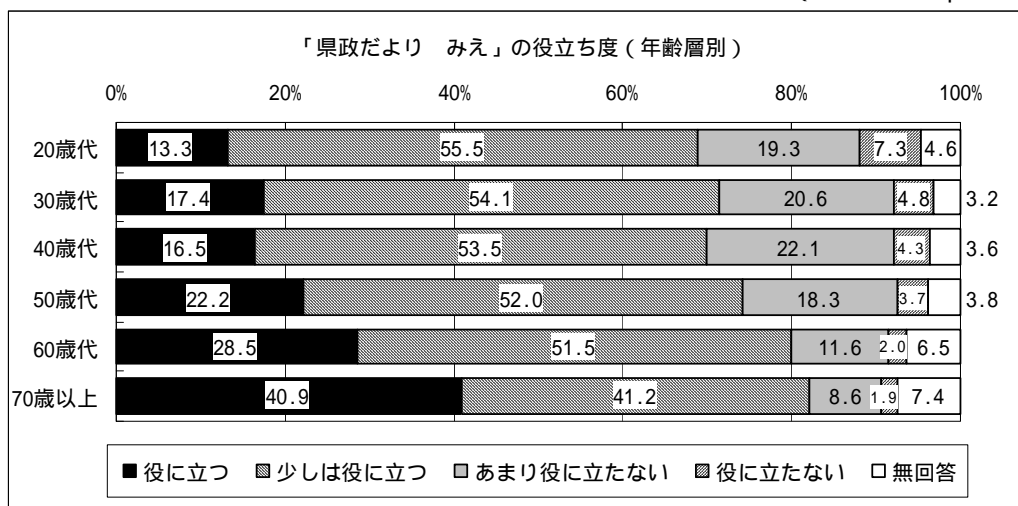
(集計資料 p.142)



平成 15 年度と比べると、特に大きな変化はみられない。

## 年齢層別

(集計資料 p.142)



年齢層別でみると、「役に立つ」と回答した人の割合は、年齢とともに高くなる傾向にあり、70歳以上では約4割を占めている。同様に“役立っている人”は60歳以上で8割を超えており、他の年齢層に比べて高くなっている。

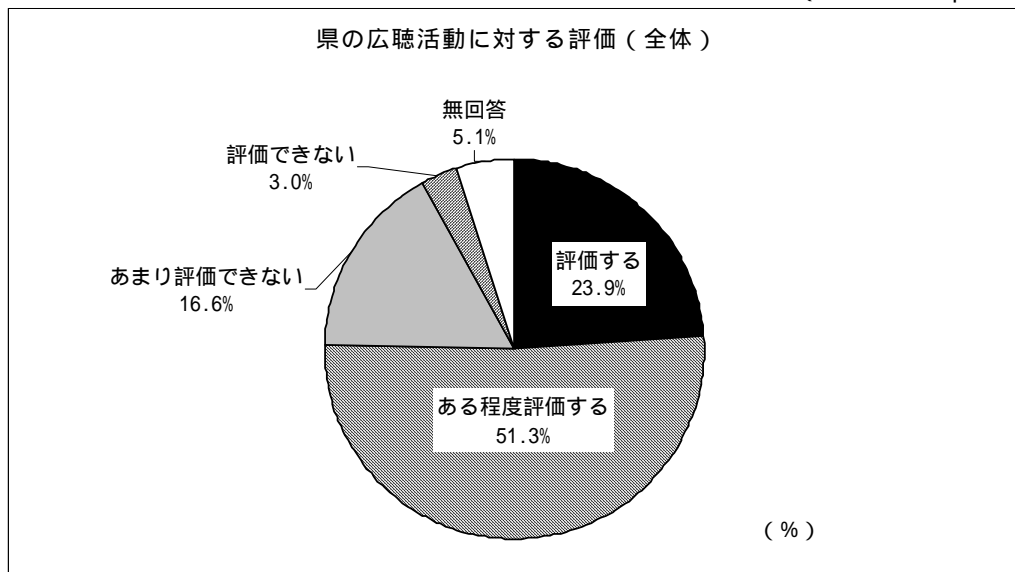
(4) 県の広聴活動に対する評価

問3 - 4 県は様々な機会を通じて、皆様のご意見をお聴きし、県政に反映するよう努めていますが、このような広聴活動についてどのように思いますか。

(は1つ)

全 体

(集計資料 p.143)



平成 16 年度

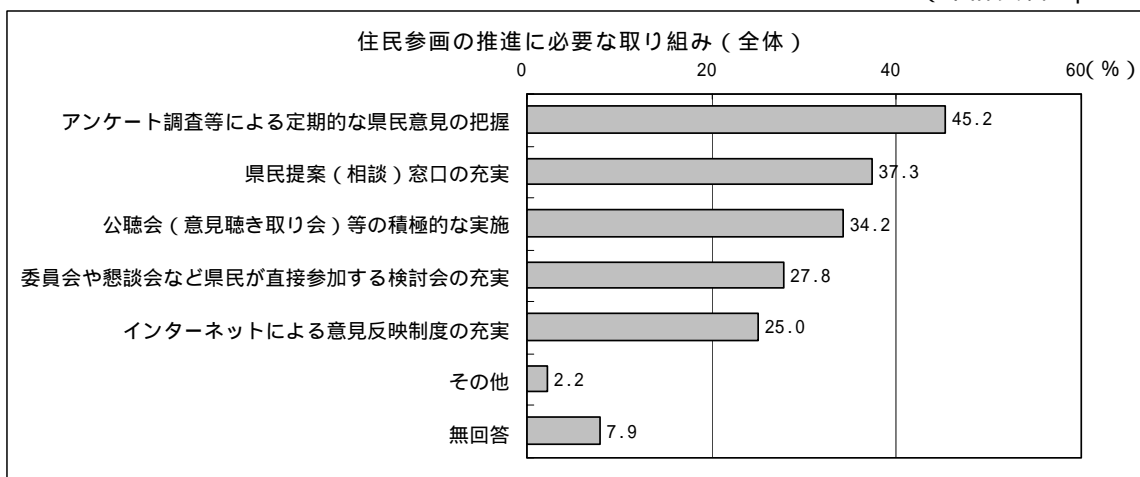
県の広聴活動に関する評価については、「ある程度評価する」と回答した人の割合が 51.3%と最も高く、これに「評価する」(23.9%)を合わせると、“評価している人”が約 8 割(75.2%)を占めている。

(5) 住民参画の推進に必要な取組

問3 - 5 県民の皆さんの意見や要望をより一層県政に反映させるためには、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(はいくつでも)

全 体

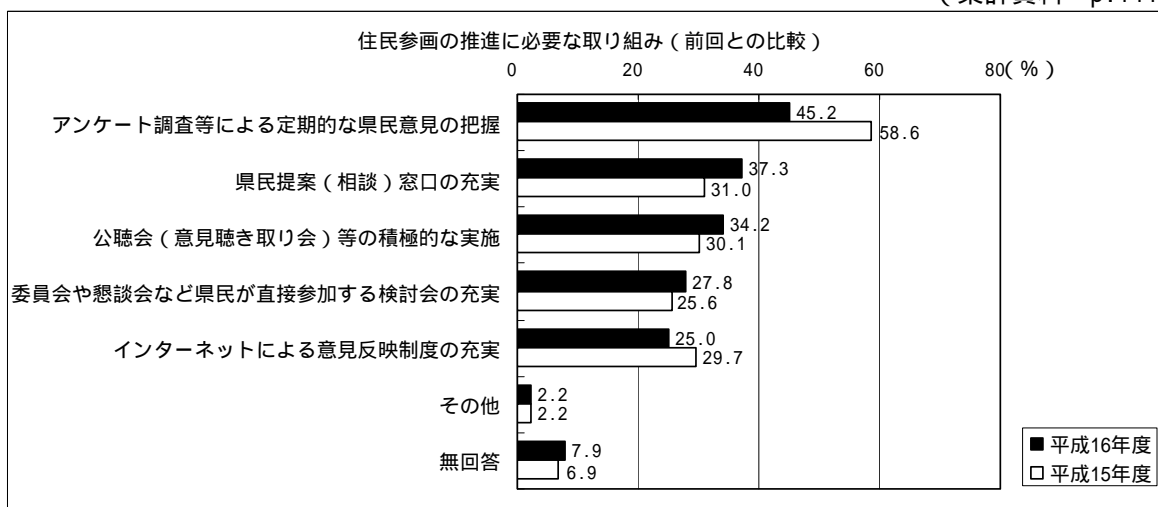
(集計資料 p.144)



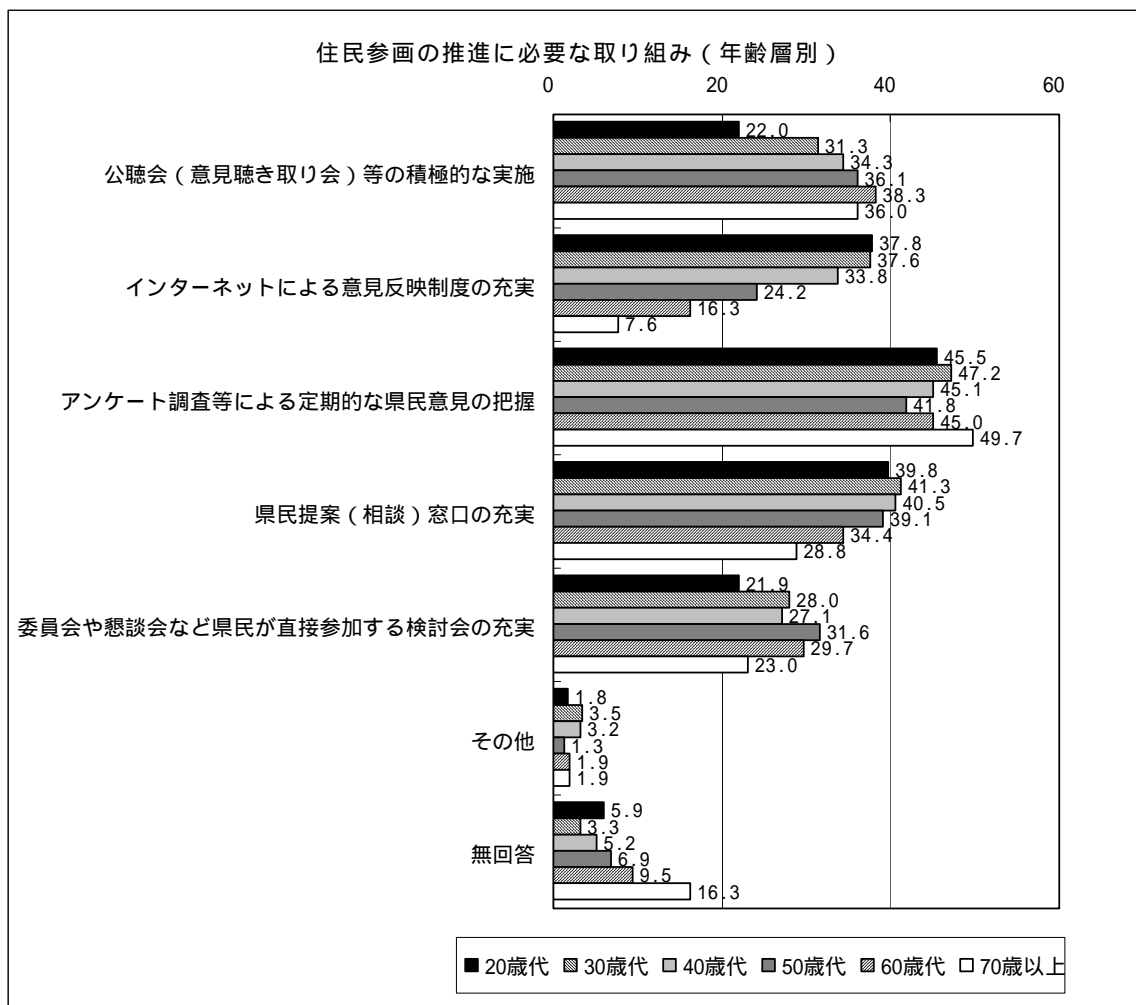
平成 16 年度

住民参画の推進に必要な取組については、「アンケート調査等による定期的な県民意見の把握」と回答した人の割合が45.2%と最も高くなっており、次いで「県民提案(相談)窓口の充実」(37.3%)、「公聴会(意見聴き取り会)等の積極的な実施」(34.2%)、「委員会や懇談会など県民が直接参加する検討会の充実」(27.8%)、「インターネットによる意見反映制度の充実」(25.0%)の順となっている。

(集計資料 p.144)



平成 15 年度と比べると、「アンケート調査等による定期的な県民意見の把握」と回答した人の割合は 13.4 ポイント減少しているのに対し、「県民提案(相談)窓口の充実」と回答した人の割合は 6.3 ポイント増加している。



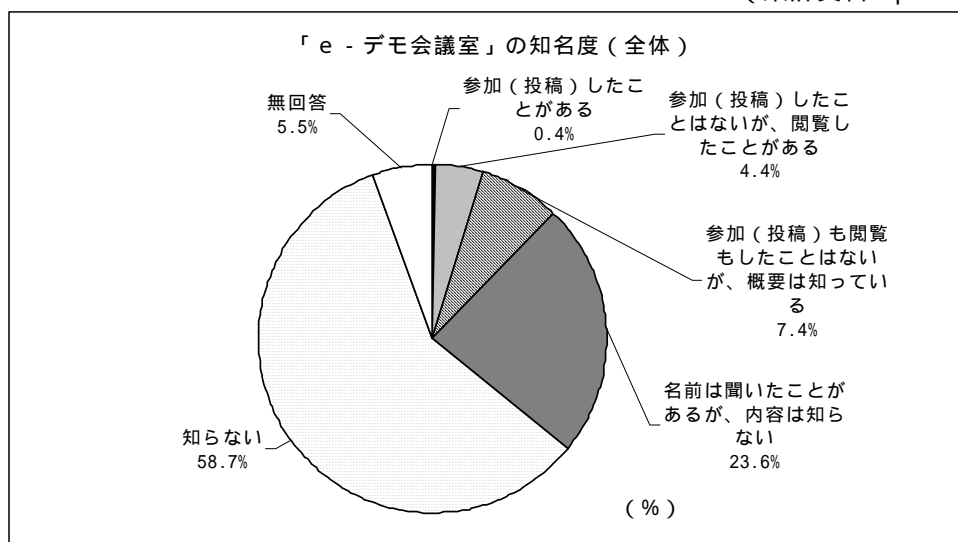
年齢層別でみると、「インターネットによる意見反映制度の充実」と回答した人の割合は、若い世代ほど高くなっており、20～30歳代では約4割を占めている。

(6)「e - デモ会議室」の知名度

問3 - 6 三重県がインターネットを活用して進めている「ネットで県民参画(e - デモ会議室)」<http://www.e-demo.pref.mie.jp/>の取組をご存じですか。( は1つ)

全 体

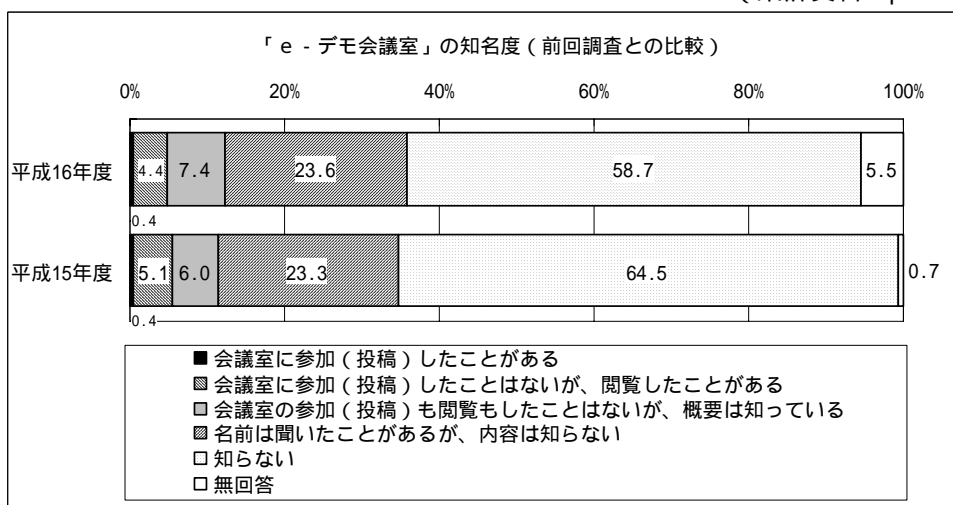
(集計資料 p.145)



平成16年度

県が開設している「e - デモ会議室」の認知度については、「知らない」と回答した人の割合が58.7%と最も高くなっている。一方、「会議室に参加(投稿)したことがある」(0.4%)、「参加(投稿)したことはないが、閲覧したことがある」(4.4%)、「参加(投稿)も閲覧もしたことはないが、概要は知っている」(7.4%)、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」(23.6%)などを合わせた“認知している人”の割合は約4割(35.8%)を占めている。

(集計資料 p.145)

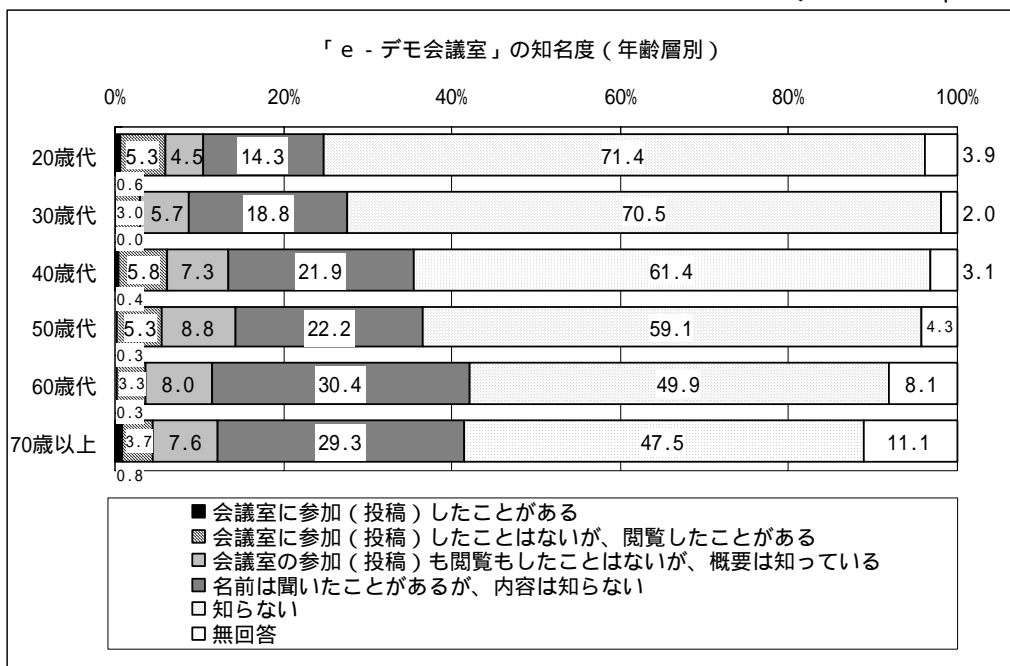


平成15年度と比べると、“認知している人”に変化はみられないものの、「知らない」と回答した人の割合は5.8ポイント減少している。



## 年齢層別

(集計資料 p.145)



### 平成 16 年度

年齢層別でみると、“認知している人”の割合は、年齢とともに高くなっており、60歳以上では4割を超えている。

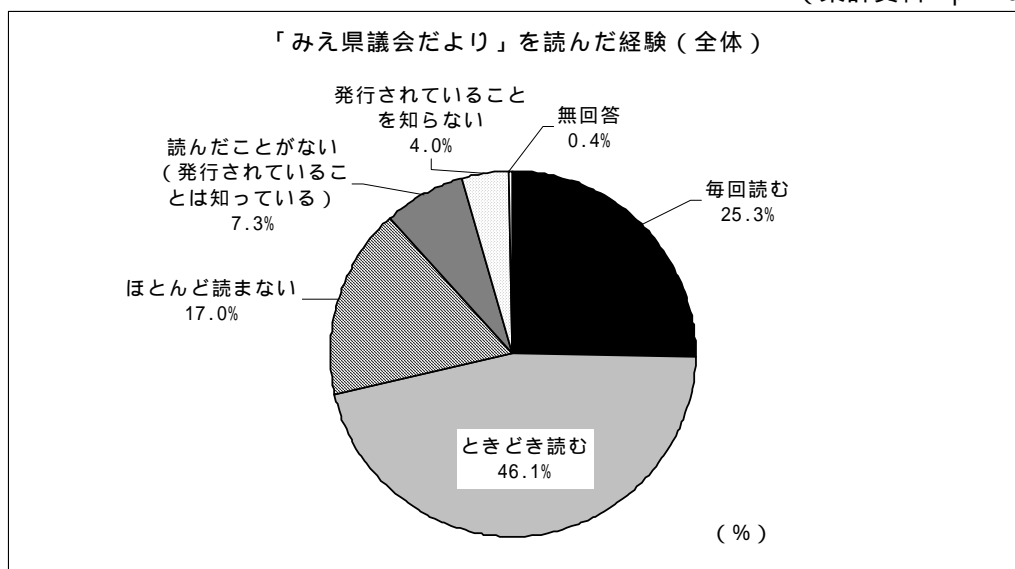
## 4 . 三重県議会に関する質問

### ( 1 ) 広報誌を読んだ経験

問 4 - 1 三重県議会の広報誌「みえ県議会だより」をお読みになったことはありますか。  
( はいいくつでも )

全 体

( 集計資料 p.146 )

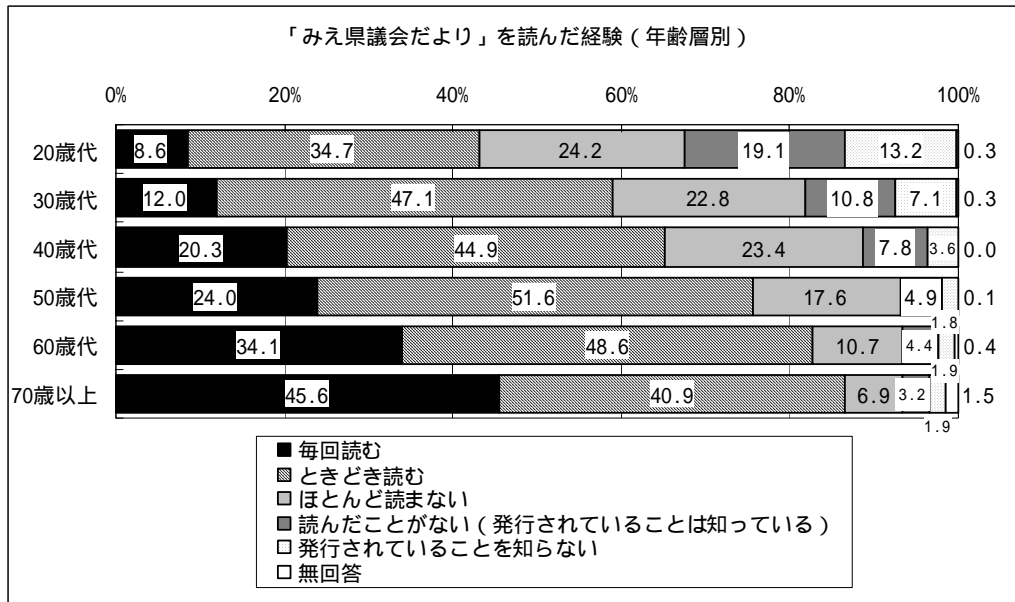


平成 16 年度

三重県議会の広報誌「みえ県議会だより」を読んだ経験については、「時々読む」と回答した人の割合が 46.1% と最も高く、これに「毎回読む」( 25.3% ) を合わせると、「読んでいる人」が約 7 割 ( 71.4% ) を占めている。

# 年齢層別

( 集計資料 p.146 )



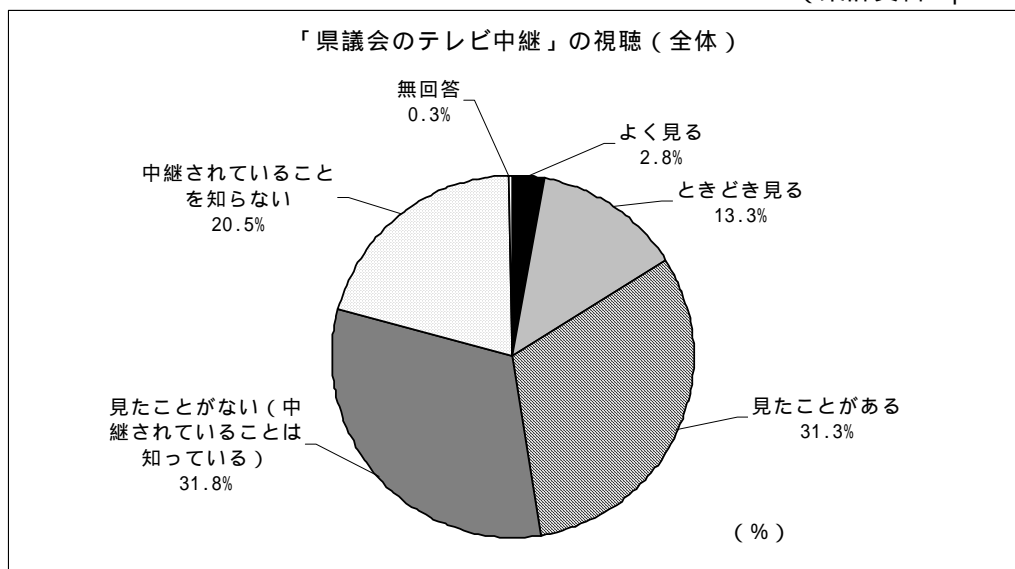
年齢層別でみると、“読んでいる人”は年齢とともに高くなっており、60歳以上では8割を超えている。

## (2) 県議会の視聴経験

問4 - 2 三重県議会は、開かれた議会をめざした取組として、平成13年6月から三重テレビ放送で代表・一般質問の模様をテレビ中継（生中継）していますが、この中継をご覧になったことがありますか。（はひとつ）

全 体

(集計資料 p.147)

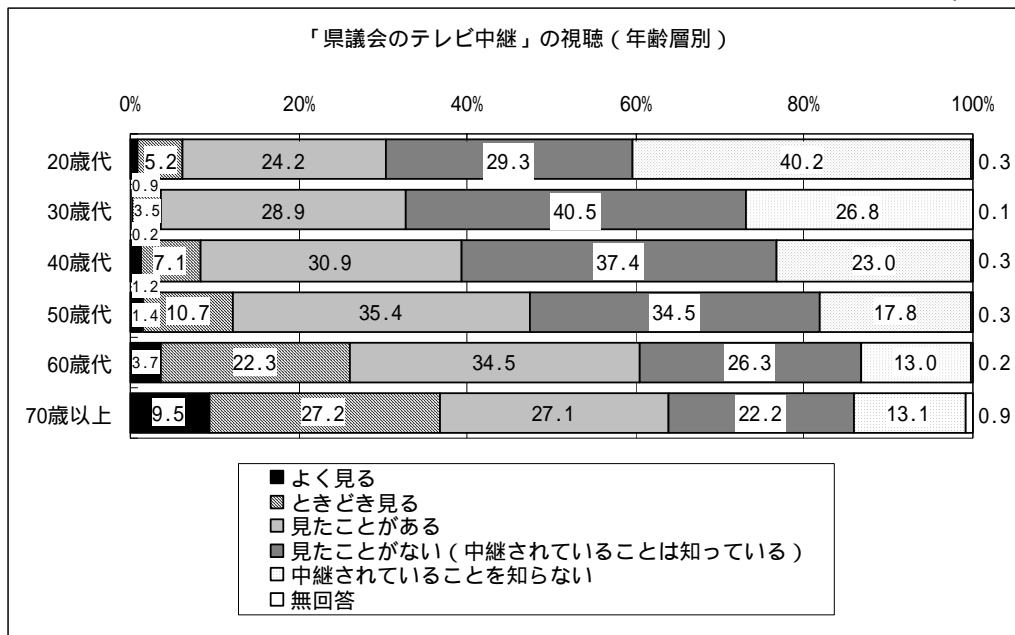


### 平成16年度

代表・一般質問のテレビ中継については、「見たことがある」と回答した人の割合が31.3%となっており、これに「よく見る」(2.8%)、「ときどき見る」(13.3%)を合わせると、“見た経験がある人”が約5割(47.4%)を占めている。一方、「見たことがない(中継されていることは知っている)」と回答した人は31.8%、「中継されていることを知らない」と回答した人は20.5%となっている。

## 年齢層別

(集計資料 p.147)



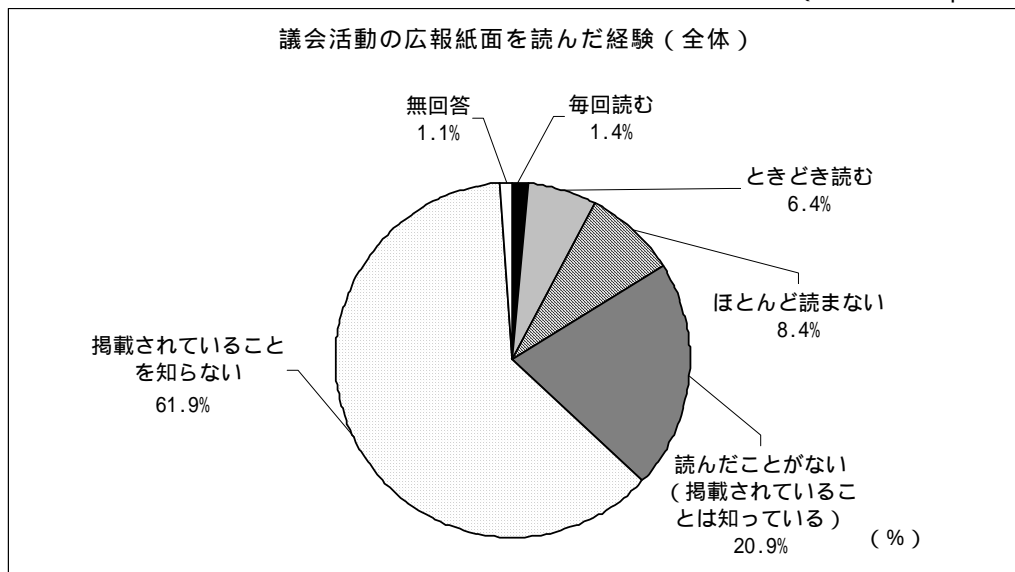
年齢層別でみると、“見た経験がある人”は、年齢とともに高くなっており、60歳以上では6割を超えている。

(3) 県議会の広報紙面を読んだ経験

問4 - 3 三重県議会では、2ヵ月に一度、議会活動の状況を特別企画広告として伊勢新聞に掲載していますが、この広報紙面をお読みになったことがありますか。  
( はひとつ )

全 体

( 集計資料 p.148 )



平成 16 年度

伊勢新聞に掲載されている議会活動の状況については、「掲載されていることを知らない」と回答した人の割合が61.9%と最も高くなっており、次いで「読んだことがない(掲載されていることは知っている)」(20.9%)、「ほとんど読まない」(8.4%)の順となっている。一方、読んだ経験がある人では「毎回読む」と回答した人が1.4%、「ときどき読む」と回答した人が6.4%となっている。